

法務総合研究所研究部報告

4

—非行少年の特質に関する研究—

はしがき	河 内 悠 紀...	i
要旨紹介	柳 俊 夫...	ii
少年鑑別所収容少年の特質	福 田 美喜子...	1
	浜 井 浩 一	
	遠 藤 隆 行	
非行少年の生活意識と価値観	福 田 美喜子...	85
	松 田 美智子	
	吉 田 研一郎	
	中 野 陽 子	
	浜 井 浩 一	
	遠 藤 隆 行	
	橋 本 三保子	
	中 島 富美子	
	田 中 一 哉	
	古 田 康 輔	

1 9 9 9

法務総合研究所

は し が き

法務総合研究所研究部が最近実施した研究調査の結果をとりまとめ、ここに研究部報告第4号を刊行する。

当研究部では、法務省管下の検察、矯正、更生保護等の各分野で豊富な実務経験を有する研究官及び研究官補が、その専門知識を活用し、総合的な立場から、刑事政策に関する実証的な調査研究を行い、従来は研究部紀要として、平成9年からは研究部報告として発表してきたところである。

研究部報告第4号として報告する調査研究は、「少年鑑別所収容少年の特質」及び「非行少年の生活意識と価値観」であり、前者は、最近10年間の少年鑑別所収容少年の特質を見たものであり、後者は、少年院在院者、少年鑑別所収容少年及び短期保護観察処分少年に対して行った生活意識や価値観に関するアンケート調査を集計分析したものである。

近年、少年非行が増加し、その凶悪化や非行少年の質的变化が社会的な論議を呼んでいるところであるが、本報告では、平成10年版犯罪白書において特集した「少年非行の動向と非行少年の処遇」の中で記述した上記の調査結果を、より深く、より広範に分析・検討して掲載している。

少年非行の動向や非行少年の特質に関しては、考察すべき要因が複雑多岐にわたっており、少年非行についての調査研究は、様々な角度から、分析・検討がなされなければならないが、これら二つの調査研究が、部内はもとより、関係各界において活用されることがあれば、幸いである。

なお、今回の調査研究の実施に当たり、御理解と御協力を賜った法務省矯正局及び保護局を始め、矯正施設、更生保護機関の関係各位にも、心からの謝意を表する次第である。

平成11年3月

法務総合研究所長

河 内 悠 紀

要 旨 紹 介

この研究部報告には、2編の報告が掲載されているが、その利用の参考のため、各報告の要旨を紹介する。

「少年鑑別所収容少年の特質」は、法務省矯正局の資料及び法務総合研究所の特別調査に基づき、昭和63年から平成9年までの最近10年間における少年鑑別所収容少年について、その特質を見たものである。

まず、少年鑑別所収容少年全体の特質の主なものは、次のとおりである。

- ① 少年の教育程度が高くなってきており、実父母率及び保護者の生活程度が中程度以上の者の比率が上昇し、親の養育態度や親への態度が好転している。
- ② その反面、家族間の交流不足や家庭の指導力欠如の比率が上昇し、家庭の基本的な機能の低下がうかがわれる。
- ③ 少年鑑別所に入所する前の問題行動の態様が変化しており、薬物使用がシンナーから覚せい剤へ移行し、常習者が増加しているほか、暴走行為、万引きなどの常習者も増加し、これらの行為に対する抵抗感が薄れてきている。
- ④ 在宅保護歴、保護施設歴のない者の比率が上昇している。

また、少年鑑別所への入所者数が多い非行（窃盗、道路交通法違反、傷害、恐喝、強盗、殺人、虞犯、毒劇法違反及び覚せい剤取締法違反）を取り上げ、非行名別又は男女別の特質を分析し、さらに、殺人及び強盗の凶悪事犯少年については、特別調査結果を中心に、その特質及び被害者の特質をも分析したが、これらの主な結果は、次のとおりである。

- ① 凶悪事犯少年の特質としては、いじめ加害・被害体験、家庭内暴力及び自殺未遂の経験者の比率は、殺人事犯少年の方が強盗事犯少年より高くなっている。
- ② 少年凶悪事犯の被害者の特質としては、殺人事犯では親族（内縁を含む。）が、強盗事犯では行きずりが、それぞれ被害者となることが最も多くなっている。犯行動機は、殺人事犯では憤まん・激情が、強盗事犯では金銭目的が、それぞれ最も多くなっている。

「非行少年の生活意識と価値観」は、現代の非行少年がどのような生活意識や価値観を持っているかを把握するとともに、過去における同種調査の結果との相違を明らかにし、また、非行性の深度との関係を考察することを目的として、①少年鑑別所在所少年、②少年院在院少年、③短期保護観察少年を対象として、意識調査を行ったものである。

まず、非行少年の意識の変化を分析するため、少年鑑別所在所少年を対象として、原則として男女別に前回調査結果との比較を行った結果、次のことが明らかとなった。

- ① 不信感、孤立感、無力感、被害感など、前回調査で指摘された非行少年の強い不適応感が、今回の調査ではやや軽減されてきている。
- ② 上記のとおり否定的な自己意識は薄らいできているが、今の自分の生き方に対する満足度は、特に男子では、前回よりむしろ低下している。
- ③ 家族についての受け止め方が好転し、非行少年を取り巻く身近な人間関係における家族のもつ意味が大きくなっていることがうかがえる。
- ④ 身近な人間関係の中で、友達・恋人等が依然として大きな意味をもっていることは変わらないが、

友達等との関係の持ち方や友達に対する意識が変化してきていることがうかがえる。

次に、非行性の深度による生活意識や価値観の相違を見るために、少年院在院少年と、非行性がそれほど進んでおらず、短期間の保護観察によって改善更生が期待できる者が対象とされている短期保護観察少年との比較を行った。その結果、次のことが明らかとなった。

- ① 非行性が進んでいる者の方が、今の自分の生き方、家庭生活及び友達づきあいについて満足とする者の比率が低く、自分に対する否定的意識が強い。
- ② 非行性が進んでいる者の方が、家族との交流が希薄となり、自分の親の養育態度に問題を感じる者の比率が高くなっている。親の自分に対する関心の希薄さに不満を感じている者が多い。
- ③ 友達関係では、特に男子で、非行性の深度が進むに従い、心理的にやや隔たりのある関係になる傾向が見られる。
- ④ 少年の身近な人間関係の焦点は、男女とも、非行性の深度が進むに従い、親、兄弟姉妹から同性・異性の友達、先輩へ、あるいは同性の友達・仲間から異性の友達・恋人、先輩へと移動していく傾向が見られる。
- ⑤ 非行性の進んでいる者の方が、同世代の少年の中に、付和雷同的で群れたがる傾向、せつな的で情緒的にも不安定な傾向等をかなり強く感じている。

これらの調査研究の結果が広く各方面で利用されることを希望する。

研究第一部長

柳 俊 夫

少年鑑別所収容少年の特質

研 究 官	福 田 美喜子
研 究 官	浜 井 浩 一
研 究 官	遠 藤 隆 行

目 次

第1	はじめに	5
第2	調査の目的	5
第3	調査の方法等	5
1	調査対象者	5
2	調査方法	5
第4	調査結果	6
1	少年鑑別所収容少年の特質	6
(1)	人員・非行名別人員	6
(2)	年齢・入所回数	8
(3)	職業等・教育程度	10
(4)	本件非行時の共犯関係・不良集団所属	10
(5)	問題行動歴	11
(6)	保護歴	18
(7)	家庭・家族関係	20
2	非行名別の特質	24
(1)	窃盗	24
(2)	道路交通法違反	27
(3)	傷害	30
(4)	恐喝	33
(5)	強盗	36
(6)	殺人	39
3	非行名別・男女別の特質	42
(1)	虞犯	42
(2)	毒劇法違反	46
(3)	覚せい剤取締法違反	49
4	非行名別特質の比較	53
(1)	年齢層	53
(2)	入所回数	54
(3)	職業等	55
(4)	教育程度	57
(5)	非行動機	58
(6)	共犯関係	59
(7)	不良集団所属	60
(8)	問題行動歴	61
(9)	在宅保護歴・保護施設歴	61
(10)	保護者等	63
(11)	親の養育態度	63

(12) 親への態度	65
(13) 現在の家族の問題	66
5 凶悪事犯少年の特別調査	67
(1) 凶悪事犯少年の特質	67
(2) 少年凶悪事犯の被害者の特質	70
(3) 凶悪事犯少年の被害者・本件非行への感情等	73
(4) 強盗事犯少年のその他の特質	73
第5 おわりに	75

第1 はじめに

昭和58年を第三のピークとする少年刑法犯検挙人員は、その後減少傾向にあったが、平成7年を境に増加に転じている。近年、少年非行が質的に変化してきていることが一部で指摘されているが、果たして、少年非行が質的变化を示しているのか、研究者や実務家のみならず、社会一般の関心が高まっているところである。

そこで、最近の非行少年の特質を明らかにし、少年非行について検討する資料を提供するため、昭和63年から平成9年までの10年間に少年鑑別所に収容された少年について、法務省矯正局の資料に基づき、分析・検討を加えることとする。

さらに、平成7年から9年までの3年間に、少年鑑別所に収容された凶悪事犯少年（殺人及び強盗をいう。以下同じ。）に関して、法務総合研究所が行った特別調査の結果についても併せて報告する。

第2 調査の目的

この調査の目的は、少年鑑別所に収容された少年について集計・分析することを通して、最近の非行少年の特質を明らかにし、少年非行が近年質的に変化してきているかどうかについて検討する資料を提供することにある。

第3 調査の方法等

1 調査対象者

この調査の対象者は、次の2種類から成っている。

- ① 昭和63年から平成9年までの10年間に、全国の少年鑑別所に収容されて資質鑑別を終了した少年15万3,602人。
- ② 平成7年から9年までの3年間に、凶悪事犯により全国の少年鑑別所に収容された少年のうち、資料の入手等の事情により調査可能であった者について法務総合研究所が実施した特別調査の対象となった2,315人。

なお、②の対象者の大部分は、①の対象者に含まれる。

2 調査方法

上記①に関しては、少年鑑別所において使用している鑑別統計カードの主要な項目について、法務省矯正局が集計した資料に基づき、再集計・分析を加えた。

上記②に関しては、法務総合研究所又は少年鑑別所の担当者により記入された、同研究所作成に係る「凶悪重大事犯少年調査票」（別添1）について集計・分析した。

第4 調査結果

1 少年鑑別所収容少年の特質

(1) 人員・非行名別人員

ア 人員

最近10年間に、全国の少年鑑別所に収容されて資質鑑別を終了した少年（以下「鑑別所収容少年」という。）は、合計15万3,602人（うち、男子13万2,154人、女子2万1,448人）であり、全体に占める女子の比率（女子比）は14.0となっている。

この10年間における鑑別所収容少年の男女別人員の推移は、表1のとおりである。平成元年以降おおむね減少傾向にあったが、7年を底に増加に転じており、また、女子比は、おおむね低下傾向にある。

表1 鑑別所収容少年の男女別人員

(昭和63年～平成9年の累計)				
年次	総数	男子	女子	女子比
累計	153,602	132,154	21,448	14.0
63年	18,016	15,226	2,790	15.5
元	17,015	14,403	2,612	15.4
2	16,133	13,767	2,366	14.7
3	16,220	13,775	2,445	15.1
4	15,568	13,331	2,237	14.4
5	14,037	12,189	1,848	13.2
6	13,401	11,605	1,796	13.4
7	13,174	11,424	1,750	13.3
8	14,085	12,371	1,714	12.2
9	15,953	14,063	1,890	11.8

イ 非行名別人員

この10年間の鑑別所収容少年の主な非行名について、その人員及び構成比の推移は表2のとおりである。非行名別人員は年次により順位の変動はあるが、累計して構成比を見ると、窃盗、道路交通法違反、傷害、虞犯、毒劇法違反、恐喝、覚せい剤取締法違反、強盗の順となっている（図1）。

また、鑑別所収容少年の主な非行について、この10年間を累計して、それぞれの女子比を見ると、虞犯（53.7％）が最も高く、次いで、覚せい剤取締法違反（49.5％）、売春防止法違反（27.6％）、毒劇法違反（23.4％）、詐欺・横領（16.0％）、殺人（14.5％）、放火（12.4％）、傷害（9.2％）、恐喝（7.9％）、暴行（5.8％）、窃盗（5.8％）、強盗（5.6％）の順となっており、非行により、男女の比率が大きく異なることが分かる。この女子比については、年次による変動はほとんど見られない。

表 2 鑑別所収容少年の非行名別人員及び構成比

(昭和 63 年～平成 9 年)

年 次	総 数	窃 盗	道 路 交通法	傷 害	虞 犯	毒劇法	恐 喝	覚せい剤 取締法	強 盗	強 姦	殺 人
累 計	153,602	49,309	18,991	18,364	14,375	11,462	10,121	8,047	4,656	2,702	490
	(100.0)	(32.1)	(12.4)	(12.0)	(9.4)	(7.5)	(6.6)	(5.2)	(3.0)	(1.8)	(0.3)
63 年	18,016	6,644	1,678	1,722	2,267	1,526	918	804	285	371	49
	(100.0)	(36.9)	(9.3)	(9.6)	(12.6)	(8.5)	(5.1)	(4.5)	(1.6)	(2.1)	(0.3)
元	17,015	5,769	1,824	1,771	2,283	1,524	856	677	258	360	98
	(100.0)	(33.9)	(10.7)	(10.4)	(13.4)	(9.0)	(5.0)	(4.0)	(1.5)	(2.1)	(0.6)
2	16,133	5,405	2,042	1,584	1,964	1,541	847	540	332	266	48
	(100.0)	(33.5)	(12.7)	(9.8)	(12.2)	(9.6)	(5.3)	(3.3)	(2.1)	(1.6)	(0.3)
3	16,220	5,271	2,033	1,815	1,706	1,727	806	700	331	250	44
	(100.0)	(32.5)	(12.5)	(11.2)	(10.5)	(10.6)	(5.0)	(4.3)	(2.0)	(1.5)	(0.3)
4	15,568	4,725	2,295	1,961	1,408	1,344	835	740	362	237	45
	(100.0)	(30.4)	(14.7)	(12.6)	(9.0)	(8.6)	(5.4)	(4.8)	(2.3)	(1.5)	(0.3)
5	14,037	4,717	1,885	1,665	1,022	944	829	764	391	227	48
	(100.0)	(33.6)	(13.4)	(11.9)	(7.3)	(6.7)	(5.9)	(5.4)	(2.8)	(1.6)	(0.3)
6	13,401	4,454	1,549	1,682	968	961	1,096	645	471	236	35
	(100.0)	(33.2)	(11.6)	(12.6)	(7.2)	(7.2)	(8.2)	(4.8)	(3.5)	(1.8)	(0.3)
7	13,174	4,075	1,606	1,772	946	756	1,173	838	438	231	35
	(100.0)	(30.9)	(12.2)	(13.5)	(7.2)	(5.7)	(8.9)	(6.4)	(3.3)	(1.8)	(0.3)
8	14,085	3,989	1,971	1,922	934	636	1,197	1,106	682	183	51
	(100.0)	(28.3)	(14.0)	(13.6)	(6.6)	(4.5)	(8.5)	(7.9)	(4.8)	(1.3)	(0.4)
9	15,953	4,260	2,108	2,470	877	503	1,564	1,233	1,106	341	37
	(100.0)	(26.7)	(13.2)	(15.5)	(5.5)	(3.2)	(9.8)	(7.7)	(6.9)	(2.1)	(0.2)

注 () 内は、構成比である。

図 1 は、総数及び男女別に非行名別構成比の推移を見たものである。

図 1 鑑別所収容少年の男女別非行名

(昭和 63 年～平成 9 年)

① 総数

	窃盗	道路交通法	傷害	虞犯	毒劇法	恐喝	強盗	その他
累 計	32.1	12.4	12.0	9.4	7.5	6.6	5.2	11.9
	覚せい剤							
昭和63	36.9	9.3	9.6	12.6	8.5	5.1	4.5	12.1
平成元	33.9	10.7	10.4	13.4	9.0	5.0	4.0	12.1
2	33.5	12.7	9.8	12.2	9.6	5.3	3.3	11.6
3	32.5	12.5	11.2	10.5	10.6	5.0	4.3	11.3
4	30.4	14.7	12.6	9.0	8.6	5.4	4.8	12.2
5	33.6	13.4	11.9	7.3	6.7	5.9	5.4	13.0
6	33.2	11.6	12.6	7.2	7.2	8.2	4.8	11.8
7	30.9	12.2	13.5	7.2	5.7	8.9	6.4	11.9
8	28.3	14.0	13.6	6.6	4.5	8.5	7.9	11.7
9	26.7	13.2	15.5	5.5	3.2	9.8	7.7	11.5

② 男子

	窃盗	道路交通法	傷害	恐喝	毒劇法	真犯	覚せい剤	その他
累 計	35.2	14.2	12.6	7.1	6.6	5.0	3.3	12.9
	強盗							
昭和63	41.2	10.9	10.3	5.5	7.9	6.2		13.4
平成元	37.7	12.5	11.3	5.4	8.3	7.4		13.4
2	36.9	14.6	10.6	5.6	8.7	6.5		12.8
3	36.1	14.6	11.9	5.3	9.6	5.7		12.3
4	33.5	17.0	13.2	5.6	7.4	4.9		13.3
5	36.3	15.2	12.2	6.3	5.9	4.3	3.0	13.6
6	36.1	13.2	13.0	8.9	6.0	3.7	3.9	12.5
7	33.6	13.8	14.1	9.5	5.0	3.8	3.6	12.8
8	30.5	15.8	14.3	9.1	4.0	3.8	5.4	12.5
9	28.6	14.8	16.1	10.2	3.2	7.5	4.6	12.4

③ 女子

	真犯	覚せい剤	窃盗	毒劇法	傷害	恐喝	その他
累 計	36.0	18.6	13.3	12.5	7.9	3.7	6.8
	強盗						
昭和63	47.4	13.5	13.3	11.7	5.5		4.9
平成元	46.9	12.2	13.1	12.6	5.7	3.0	5.7
2	45.1	11.7	13.7	12.6	5.2	3.0	5.9
3	37.5	16.2	12.2	16.6	7.0	2.9	6.6
4	34.0	17.3	11.4	16.0	9.1	3.8	7.1
5	27.2	20.0	15.8	12.2	9.9	3.2	10.3
6	29.9	18.9	14.8	14.4	9.5	3.3	8.0
7	29.0	23.4	13.3	10.6	9.4	5.3	7.8
8	26.8	30.8	12.9	7.9	9.0	4.0	7.5
9	22.5	31.0	12.8	6.2	11.2	7.1	6.2

非行名は、男女により違いが大きく、男子では比率の低下はあっても窃盗が常に1位を占めているのに対し、女子の1位は平成8年以降真犯から覚せい剤取締法違反に変化している。

(2) 年齢・入所回数

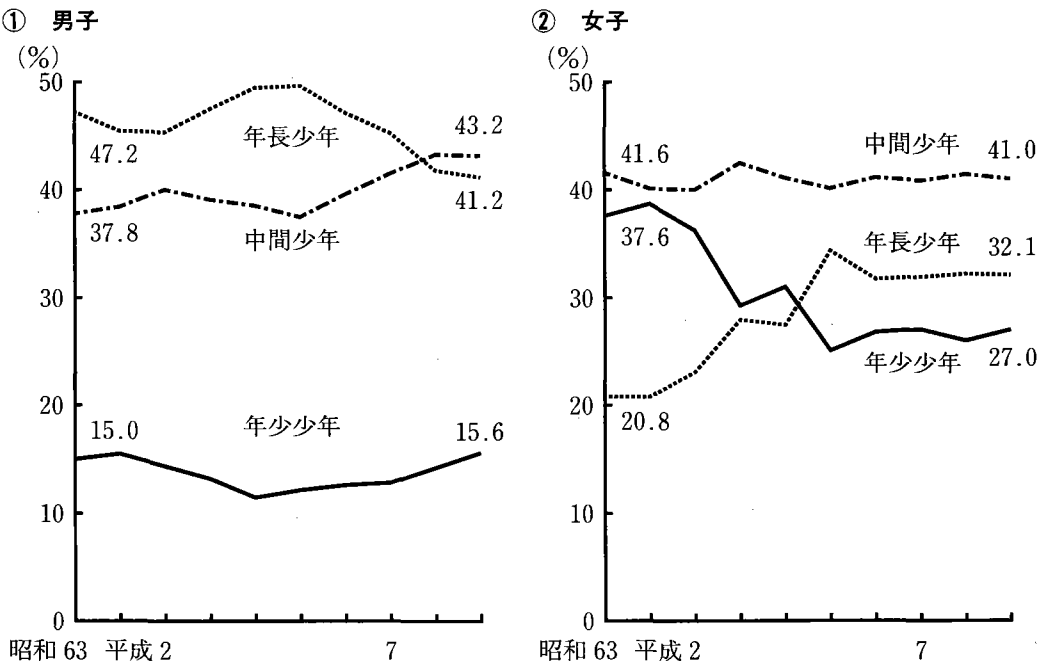
ア 年齢層

鑑別所収容少年について、この10年間を累計して、年齢層別に見ると、男子は年長少年(46.1%)、中間少年(40.0%)、年少少年(13.9%)の順、女子は中間少年(41.1%)、年少少年(31.4%)、年長少年(27.6%)の順となっている(年少少年には14歳未満の者を、年長少年には20歳以上の者を、それぞれ含む。以下同じ。)

また、年齢層別構成比の推移を男女別に見ると、図2のとおりである。男子では、年長少年の比率の低下と中間少年の比率の上昇が、女子では、年少少年の比率の低下と年長少年の比率の上昇が、それぞれ見られる。

図 2 鑑別所収容少年の男女別年齢層

(昭和 63 年～平成 9 年)



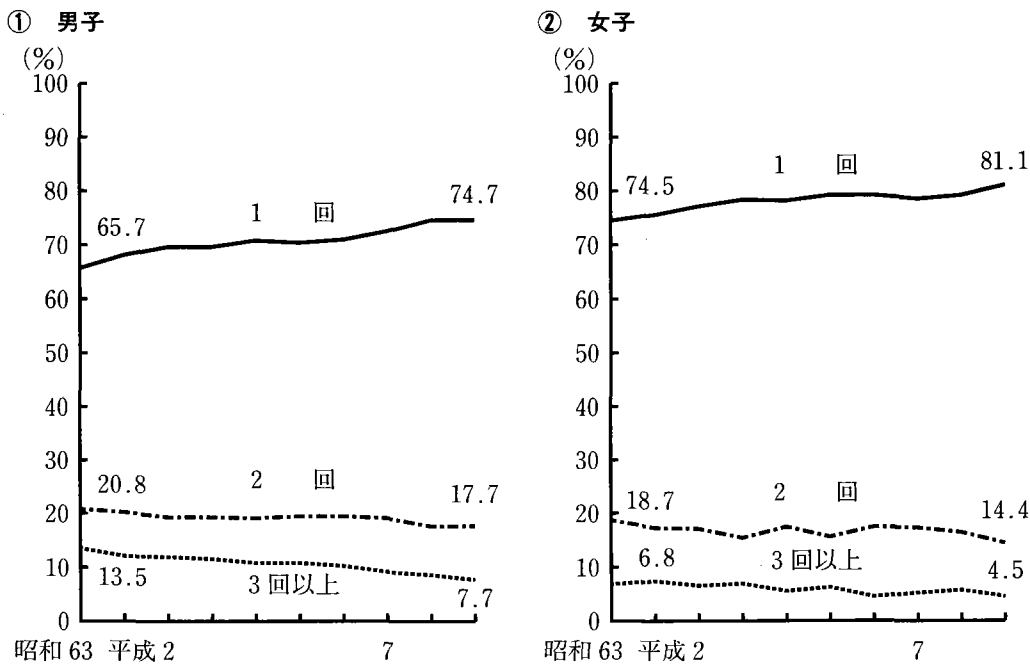
注 不明を除く。

イ 入所回数

図 3 は、鑑別所収容少年の入所回数別構成比の推移を男女別に見たものである。

図 3 鑑別所収容少年の男女別入所回数

(昭和 63 年～平成 9 年)



注 不明を除く。

入所回数が初回の者の比率は、男子では 60 % 台から 70 % 台、女子では 70 % 台から 80 % 台で推移し、男女共に緩やかな上昇を示している。一方、2 回以上の者の比率が男女共に低下している。

(3) 職業等・教育程度

ア 職業等

鑑別所収容少年について、この 10 年間を累計して、非行時の職業等を見ると、何らかの職業に就いている有職が 41.6 %、無職が 40.6 % とほぼ同数を占め、学生・生徒が 17.8 % となっている。これを男女別に見ると、男子では有職 (45.2 %) が最も多く、次いで、無職 (38.8 %)、学生・生徒 (15.9 %) の順、女子では無職 (51.7 %) が最も多く、次いで、学生・生徒 (29.2 %)、有職 (19.1 %) の順となっており、学生・生徒の比率は、女子の方が高い。10 年間の推移については、総数、男女共に顕著な変動は見られない。

イ 教育程度

鑑別所収容少年について、この 10 年間を累計して、その教育程度を見ると、中学卒業 (44.7 %) が最も多く、次いで、高校中退 (30.7 %)、中学在学 (11.2 %)、高校在学 (8.1 %)、高校卒業 (4.8 %) の順となっている。男女別には、順位は同じであるものの、比率が異なり、中学卒業 (男子 45.8 %、女子 37.6 %)、高校中退 (同 31.2 %、28.0 %)、中学在学 (同 9.3 %、22.7 %)、高校在学 (同 8.2 %、7.4 %)、高校卒業 (同 4.9 %、3.6 %) となっており、女子は中学在学が男子よりも多くなっている。

さらに、昭和 63 年と平成 9 年の教育程度を男女別に見ると、昭和 63 年は、男子では中学卒業 (51.1 %) が最も多く、次いで、高校中退 (27.8 %)、中学在学 (10.6 %)、高校在学 (5.7 %)、高校卒業 (4.2 %) の順、女子では中学卒業 (39.3 %) が最も多く、次いで、中学在学 (29.0 %)、高校中退 (24.6 %)、高校在学 (4.6 %)、高校卒業 (1.9 %) の順となっていたが、平成 9 年は、男子では高校中退 (35.4 %) が最も多く、次いで、中学卒業 (35.0 %)、高校在学 (13.3 %)、中学在学 (9.8 %)、高校卒業 (5.7 %) の順、女子では高校中退 (32.4 %) が最も多く、次いで、中学卒業 (30.3 %)、中学在学 (17.7 %)、高校在学 (13.1 %)、高校卒業 (5.5 %) の順となっている。男女共に、この 10 年間で教育程度が高くなっていることが分かる。

(4) 本件非行時の共犯関係・不良集団所属

ア 共犯関係

鑑別所収容少年について、この 10 年間を累計して、本件非行時の共犯者数 (自分を含めての数である。以下同じ。) を見ると、共犯者のいない単独 (34.8 %) が最も多く、次いで、2 人 (22.4 %)、5 人以上 (15.6 %)、3 人 (13.0 %)、4 人 (8.4 %)、不特定多数 (5.9 %) の順となっている。

これを男女別に見ると、男子では、単独 (33.4 %)、2 人 (21.1 %)、5 人以上 (16.9 %)、3 人 (13.5 %)、4 人 (8.7 %)、不特定多数 (6.5 %) の順、女子では、単独 (43.8 %)、2 人 (30.5 %)、3 人 (9.6 %)、5 人以上 (7.4 %)、4 人 (6.5 %)、不特定多数 (2.2 %) の順となっている。

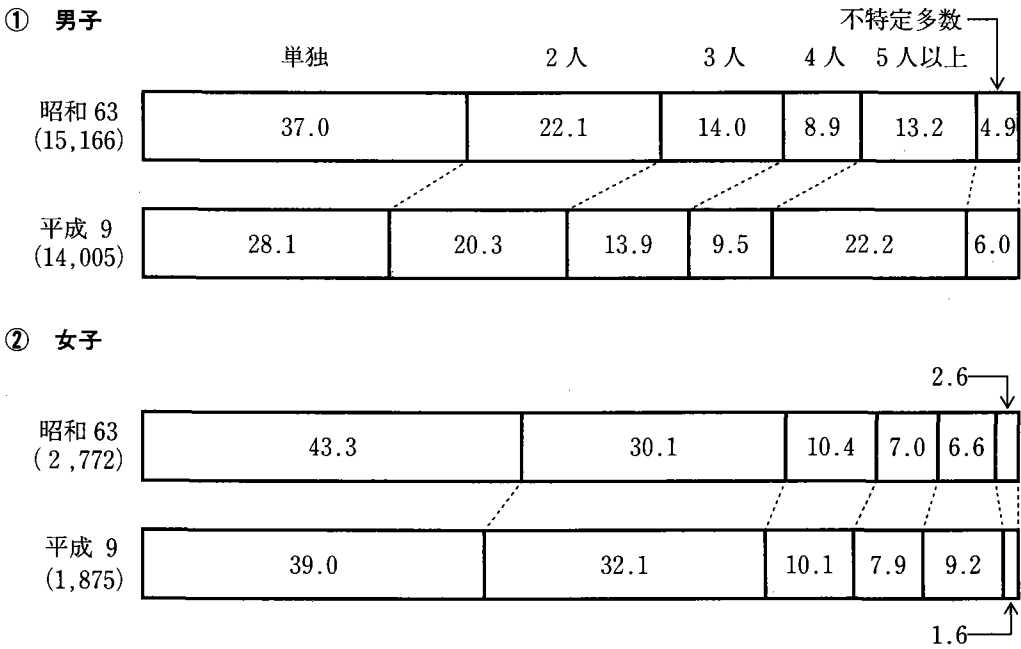
図 4 は、昭和 63 年と平成 9 年について、本件非行時の共犯者数を男女別に見たものである。

男女とも、いずれの年次も共犯者のいない単独が最も多いが、その比率は男女共に低下し、共犯者のいる者の比率が上昇している。また、男子の方が共犯者のいる者の占める比率が高く、しかも、その比率が大きく上昇しており、特に、共犯者数が 5 人以上の比率は 13.2 % から 22.2 % へと上昇している。

さらに、共犯者のいる者について、この 10 年間を累計して、共犯者との関係を男女別に見ると、男女共に、地域仲間 (男子 35.3 %、女子 24.3 %) が最も多く、次いで、男子では暴走族 (16.2 %)、学校仲間 (6.3 %) の順、女子では愛人 (10.6 %)、学校仲間 (7.1 %) の順となっている。

図 4 鑑別所収容少年の男女別共犯者数

(昭和 63 年・平成 9 年)



注 1 () 内は、実数である。
2 不明を除く。

イ 不良集団所属

鑑別所収容少年について、この 10 年間を累計して、不良集団への所属を見ると、不良集団に所属していない者 (46.6 %) が最も多く、次いで、地域不良集団 (23.4 %), 暴走族 (19.9 %), 不良学生・生徒集団 (5.8 %) の順となっている。これを男女別に見ると、男子では、不良集団に所属していない者が 44.8 % と 4 割を超えているが、他方、所属している者の所属不良集団については、地域不良集団 (23.1 %), 暴走族 (22.1 %) が多い。また、女子では、不良集団に所属していない者が 57.4 % と 5 割を超えており、一方、不良集団に所属している者の所属不良集団については、地域不良集団 (24.8 %) が多い。

(5) 問題行動歴

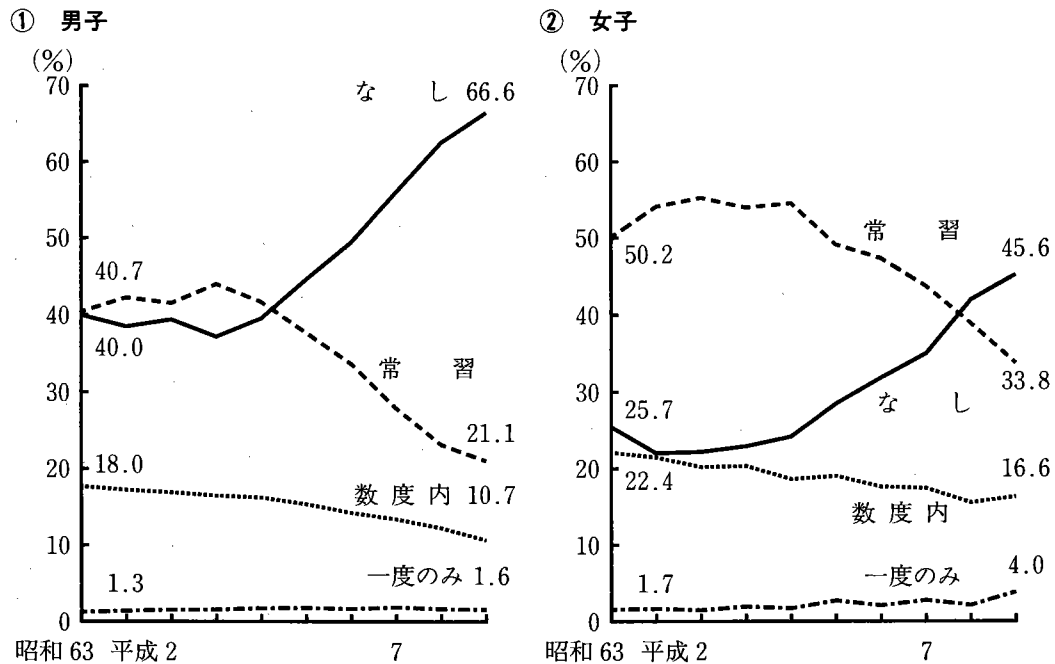
少年鑑別所に入所する前の問題行動について、毒劇物使用、覚せい剤使用、喫煙、飲酒、無免許運転、暴走行為、家出、万引き、文身、性経験の 10 項目を取り上げ、文身、性経験を除いた 8 項目については、経験の程度により、経験のない者 (以下「なし」という。), 1 度のみ経験したことのある者 (以下「1 度のみ」という。), 数度内経験したことのある者 (以下「数度内」という。), 経験が常習となっている者 (以下「常習」という。) に、文身については、文身のない者 (以下「なし」という。), いたずら程度の文身がある者 (以下「いたずら程度」という。), 本格的な文身がある者 (以下「本格的」という。) に、性経験については、性経験の有無により、「あり」、「なし」に、それぞれ分類した上、この 10 年間の推移を男女別に見ることとする。

ア 毒劇物使用

図 5 は、毒劇物使用経験者の推移を男女別に見たものである。毒劇物については、男女により経験の程度が異なっており、「常習」は女子の方が多い。また、男子は平成 7 年以降、「なし」が 5 割を超えている。

図5 鑑別所収容少年の男女別問題行動歴（毒劇物）

(昭和63年～平成9年)



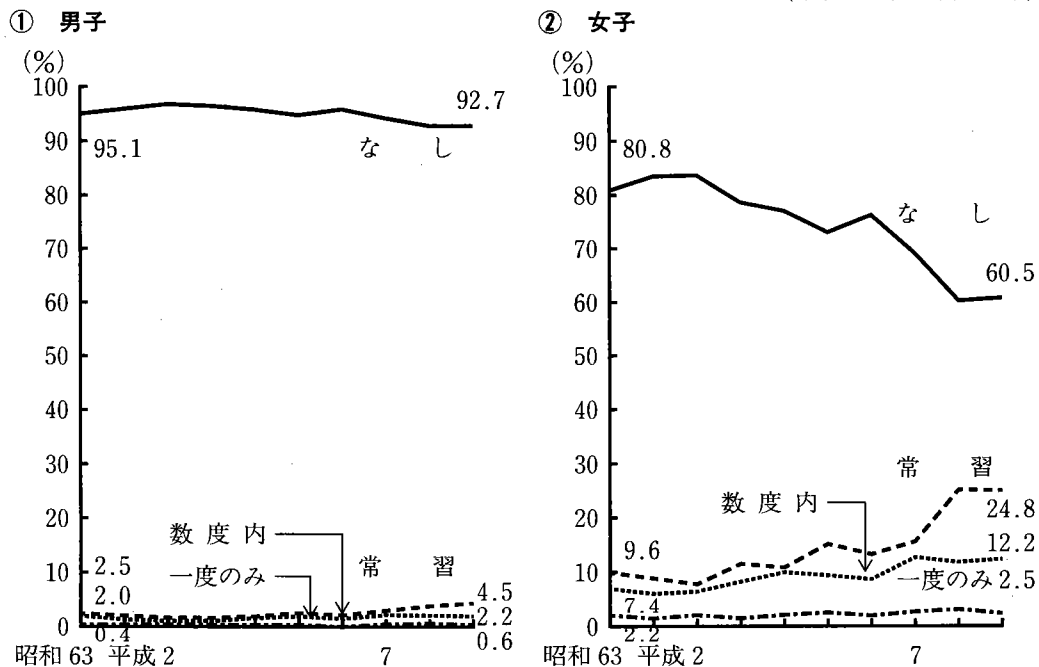
注 不明を除く。

イ 覚せい剤使用

図6は、覚せい剤使用経験者の推移を男女別に見たものである。

図6 鑑別所収容少年の男女別問題行動歴（覚せい剤）

(昭和63年～平成9年)

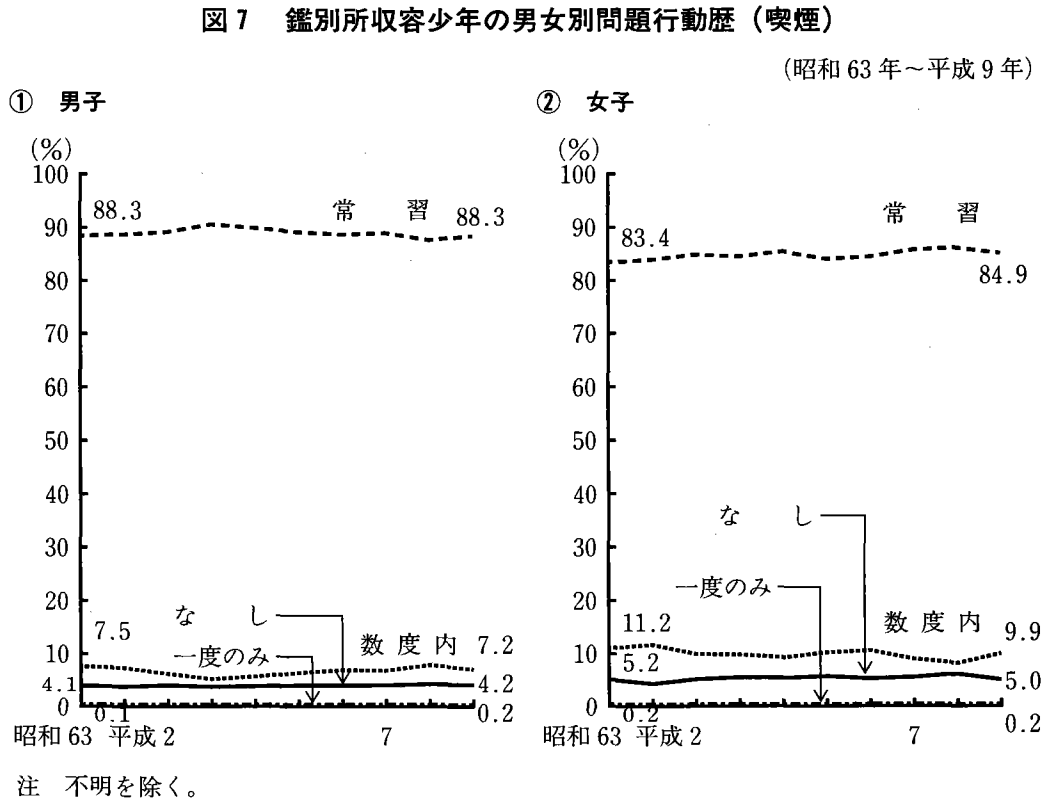


注 不明を除く。

覚せい剤については、男子は、「なし」が常に 90 %を超えているものの、その比率はごく緩やかな低下傾向が認められる。女子の「なし」は、低下傾向が顕著であり、一方、使用している者の中では、「常習」が上昇している。

ウ 喫煙

図 7 は、喫煙経験者の推移を男女別に見たものである。



喫煙については、女子の「常習」の比率がわずかに男子より低いものの、男女差及び経験者の推移に変化は見られない。喫煙経験のない者は、5 %前後であり、しかも、常習者がほぼ 85 %である。

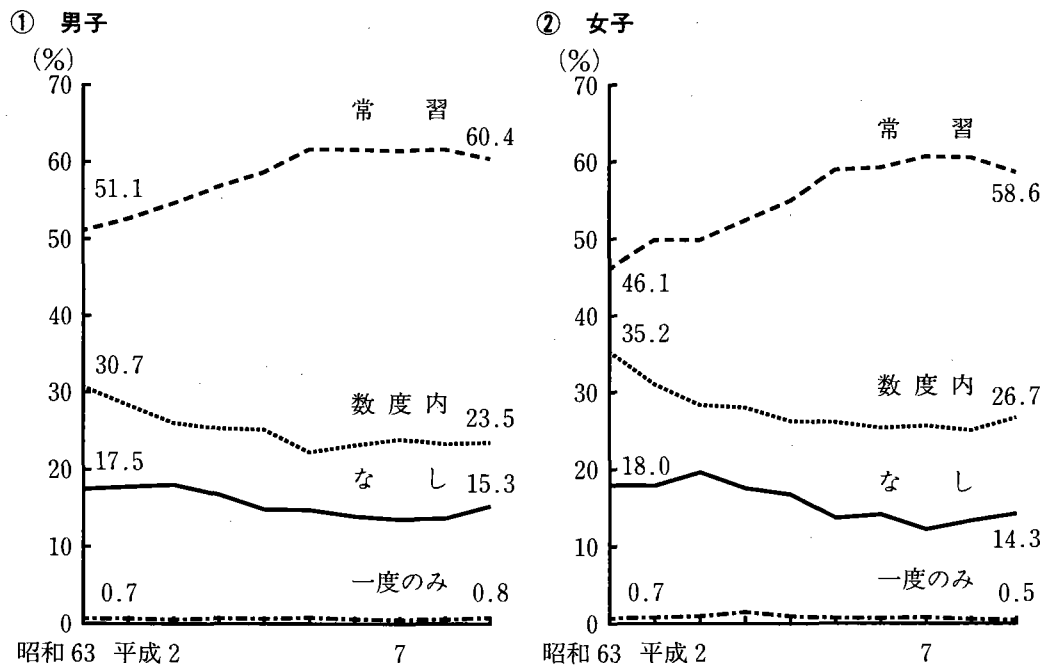
エ 飲酒

図 8 は、飲酒経験者の推移を男女別に見たものである。

飲酒については、「常習」の比率が男子においてやや高いほかは、男女間で大きな差はない。男女共に、「なし」がわずかながら低下傾向を示しており、また、「数度内」も低下している。一方、「常習」は、50 %前後から 60 %前後へと上昇している。

図8 鑑別所収容少年の男女別問題行動歴（飲酒）

(昭和63年～平成9年)



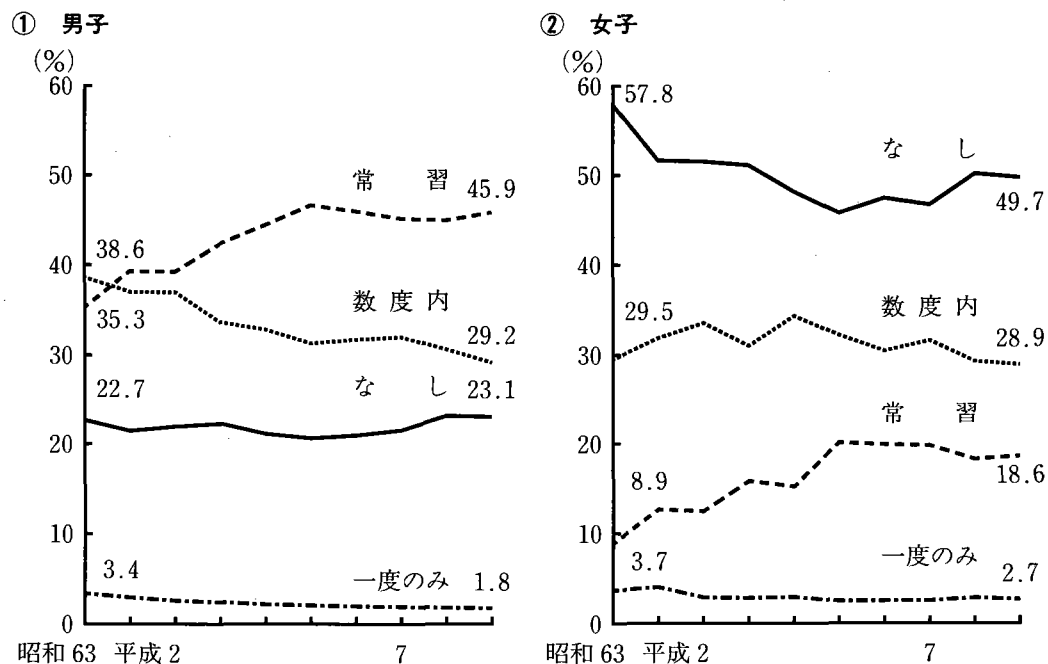
注 不明を除く。

オ 無免許運転

図9は、無免許運転経験者の推移を男女別に見たものである。

図9 鑑別所収容少年の男女別問題行動歴（無免許運転）

(昭和63年～平成9年)



注 不明を除く。

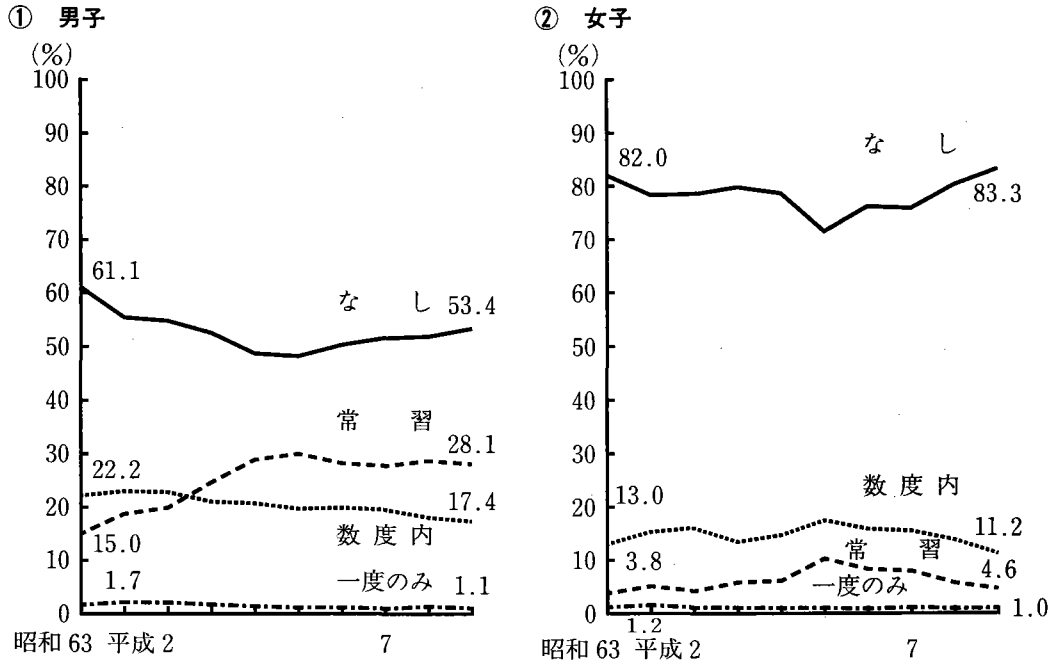
無免許運転経験については、男女差が大きく、「なし」は、男子では20％台で横ばいとなっているのに対し、女子では50％前後で低下傾向にある。一方、「常習」は、男子で30％台から40％台に、女子で10％前後から約20％に、それぞれ上昇している。

カ 暴走行為

図10は、暴走行為経験者の推移を男女別に見たものである。

図10 鑑別所収容少年の男女別問題行動歴（暴走行為）

(昭和63年～平成9年)



注 不明を除く。

暴走行為経験については、男女差が認められ、「なし」は、男子で50％前後、女子で80％前後を、それぞれ推移している。また、男子では「数度内」の低下傾向と「常習」の上昇傾向が見られる。

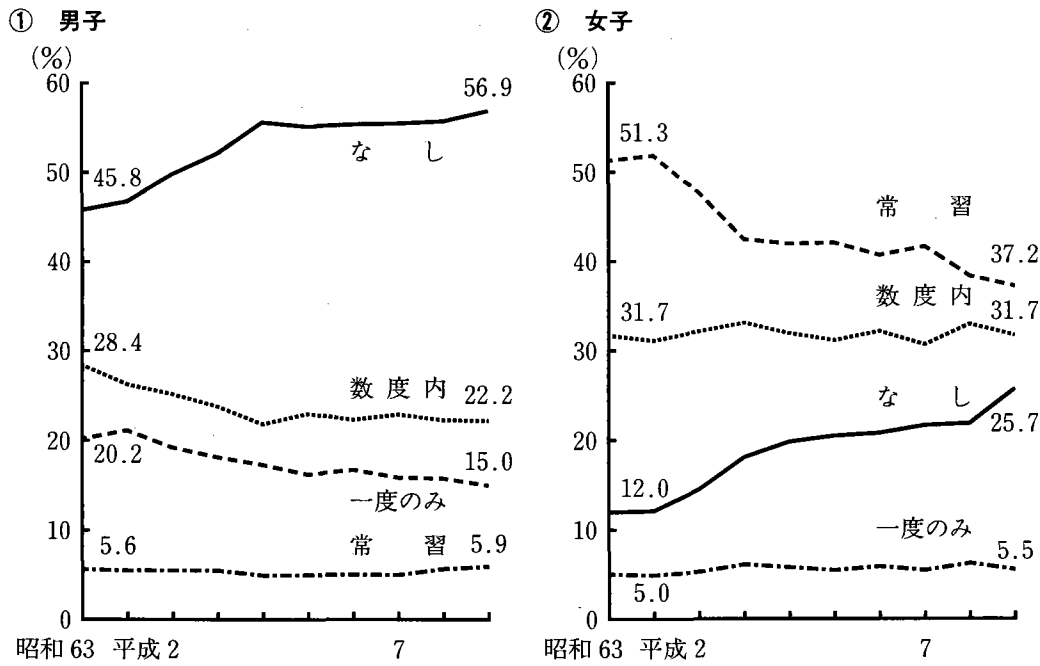
キ 家出

図11は、家出経験者の推移を男女別に見たものである。

家出経験者の占める比率は、男子に比べて女子が圧倒的に高くなっている。また、家出経験者について見ると、その比率には男女差があるものの、その推移は男女共にほぼ同じ傾向を示しており、「なし」が男子で40％台から50％台に、女子で10％台から20％台に、それぞれ上昇する一方、「常習」が男子で20％台から15％前後に、女子で50％台から30％台に、それぞれ低下している。

図11 鑑別所収容少年の男女別問題行動歴（家出）

(昭和63年～平成9年)



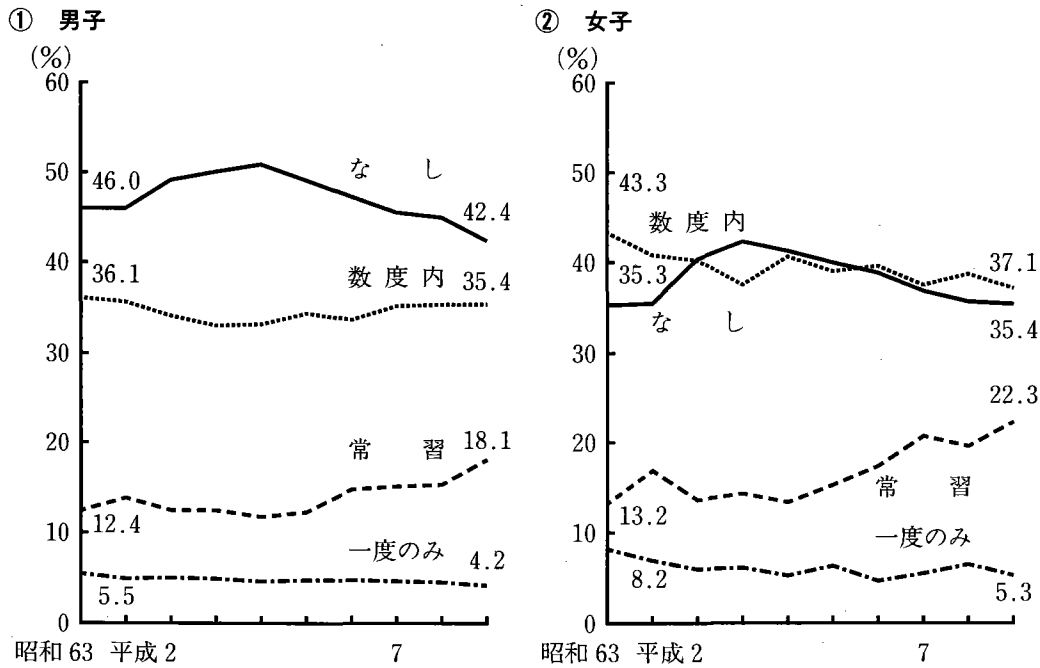
注 不明を除く。

ク 万引き

図12は、万引き経験者の推移を男女別に見たものである。

図12 鑑別所収容少年の男女別問題行動歴（万引き）

(昭和63年～平成9年)



注 不明を除く。

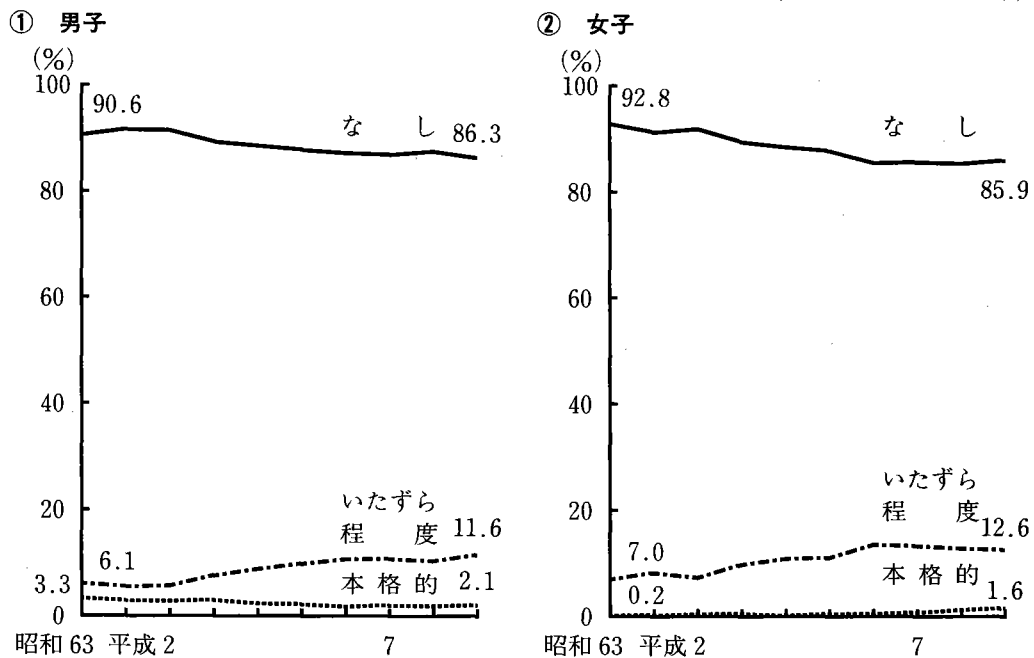
万引き経験者の占める比率は、女子の方が高くなっており、「常習」は、男女共に上昇しているが、女子の上昇の程度がより大きくなっている。

ケ 文身

図 13 は、文身経験者の推移を男女別に見たものである。

図13 鑑別所収容少年の男女別問題行動歴（文身）

(昭和 63 年～平成 9 年)



注 不明を除く。

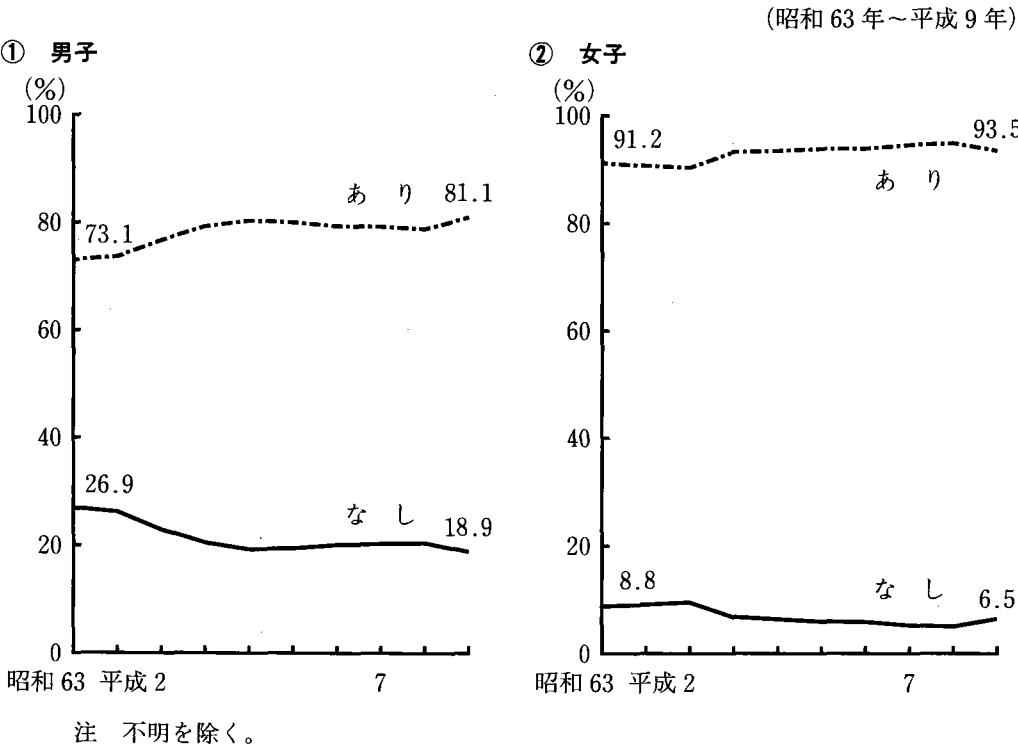
文身については、男女差はさほど大きくないが、「本格的」の比率が男子でやや高くなっている。また、男女共に「いたずら程度」の比率が緩やかに上昇しているが、その比率は女子の方がわずかに高くなっている。

コ 性経験

図 14 は、性経験者の推移を男女別に見たものである。

性経験「あり」の者の占める比率は、女子が一貫して 90 % を超える高い比率を示しており、また、男女共に緩やかな上昇傾向を示している。

図14 鑑別所収容少年の男女別問題行動歴（性経験）



(6) 保護歴

ア 在宅保護歴

表3は、鑑別所収容少年の在宅保護歴について、在宅保護歴のない者及び各在宅保護歴を有する者の比率の推移を男女別に見たものである。

10年間を累計すると、警察補導歴のある者の比率が、男子で80.0％、女子で75.7％と最も高くなっており、次いで、男女共に不処分・審判不開始、保護観察（一般）の順となっている。在宅保護歴のない者の比率は、男子が9.4％、女子が17.2％であり、在宅保護歴のない者の比率及び児童相談所に係属（「児相係属」という。以下同じ。）した者の比率が、女子において高くなっているほかは、すべて男子の方が、比率が高くなっている。

表3 鑑別所少年の男女別在宅保護歴

(昭和63年～平成9年)

① 男子											
在宅保護歴	累計	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
なし	9.4	5.6	5.9	6.4	7.3	8.5	9.7	10.4	11.7	14.2	15.2
警察補導	80.0	85.1	84.9	83.8	83.2	81.3	78.9	77.3	76.5	73.9	73.1
児相係属	11.2	13.9	12.8	12.3	11.7	10.4	10.8	10.9	10.5	9.3	9.1
不処分・審判不開始	31.8	38.8	38.2	36.3	34.8	33.2	30.9	29.3	26.3	24.3	22.5
保護観察（交通短期）	6.9	7.0	6.5	6.7	7.4	8.6	7.4	7.1	6.3	6.4	5.3
保護観察（交通）	3.1	3.2	2.9	2.8	3.1	3.6	3.6	3.1	2.7	2.8	2.7
保護観察（一般）	29.0	33.4	32.1	30.9	30.2	29.2	28.3	28.4	26.7	24.8	24.7
その他	0.5	0.3	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	0.6	0.5	0.4	0.5

② 女子

在 宅 保 護 歴	累計	63 年	元年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
な し	17.2	12.6	11.3	12.4	14.6	16.4	17.2	19.8	22.1	25.7	27.6
警 察 補 導	75.7	81.5	82.8	80.8	78.9	76.2	74.4	72.2	69.8	65.9	65.4
児 相 係 属	13.8	16.6	14.4	15.3	12.4	14.1	13.8	12.8	13.7	12.5	10.4
不処分・審判不開始	17.2	20.3	19.5	19.8	19.9	18.0	17.4	14.9	13.7	13.0	10.5
保護観察(交通短期)	1.6	1.1	1.0	1.5	1.6	1.7	3.2	1.4	1.9	1.8	1.4
保護観察(交通)	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.8	0.9	0.4	0.2	0.2	0.4
保護観察(一般)	16.5	19.0	18.1	17.5	17.4	17.2	16.3	15.1	15.1	13.9	12.4
そ の 他	0.5	0.3	0.9	0.3	0.3	0.8	0.6	0.3	0.3	0.4	0.4

注 1 数値は、各項目に該当する者の比率である。

2 重複計上による。

10 年間の推移を見ると、男女共に在宅保護歴のない者の比率が上昇する一方、各在宅保護歴については、該当者の比率がおおむね低下している。

イ 保護施設歴

表 4 は、鑑別所収容少年の保護施設歴について、保護施設歴のない者及び各保護施設歴を有する者の比率の推移を男女別に見たものである。

表 4 鑑別所収容少年の男女別保護施設歴

(昭和 63 年～平成 9 年)

① 男子

保 護 施 設 歴	累計	63 年	元年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
な し	84.6	81.3	82.6	83.6	84.3	85.2	84.5	85.0	85.3	87.1	87.9
養 護 施 設	1.6	1.7	1.8	1.8	1.4	1.5	1.5	1.7	1.7	1.7	1.3
教 護 院	5.5	6.1	6.3	5.9	5.5	5.1	5.2	5.8	5.2	4.9	4.3
初等少年院(一般短期)	1.1	1.4	1.2	1.4	1.2	1.0	1.1	1.0	0.8	0.6	0.7
初等少年院(長期)	2.8	4.1	3.5	3.1	3.1	2.6	2.7	2.4	2.5	2.0	2.0
中等少年院(一般短期)	2.8	3.3	3.0	2.8	2.9	2.8	2.9	2.7	2.6	2.3	2.5
中等少年院(長期)	4.7	6.5	5.8	5.2	4.9	4.2	4.9	4.4	4.0	3.5	2.9
特 別 少 年 院	0.1	0.3	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
医 療 少 年 院	0.3	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2

② 女子

保 護 施 設 歴	累計	63 年	元年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年
な し	89.6	87.2	88.2	89.0	89.7	90.6	89.9	90.2	89.3	90.8	92.6
養 護 施 設	2.0	2.7	2.6	2.2	1.4	1.8	1.6	1.9	2.3	1.3	1.3
教 護 院	4.8	4.9	5.3	4.8	5.0	4.2	4.6	4.5	6.0	4.6	3.6
初等少年院(一般短期)	0.8	1.1	0.7	0.7	0.8	0.8	0.5	0.7	0.6	0.9	0.6
初等少年院(長期)	1.1	2.0	1.6	1.7	0.8	1.0	0.6	0.8	0.7	0.9	0.6
中等少年院(一般短期)	1.0	1.0	1.2	1.1	0.9	1.0	1.2	0.7	0.7	0.9	0.6
中等少年院(長期)	1.8	2.0	2.2	1.9	1.9	1.2	2.3	1.6	1.4	1.4	1.6
特 別 少 年 院	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
医 療 少 年 院	0.4	0.5	0.7	0.4	0.3	0.2	0.3	0.6	0.5	0.2	0.2

注 1 数値は、各項目に該当する者の比率である。

2 重複計上による。

10 年間を累計すると、保護施設歴のある者については、男女共に教護院(平成 10 年 4 月施行された児童福祉法の一部改正により、児童自立支援施設と改称された。)の比率が最も高く、次いで、男子が中等少年院(長期)、中等少年院(一般短期)及び初等少年院(長期)の順、女子が養護施設(前記児童福祉

法の一部改正により、児童養護施設と改称された。)となっており、その他の保護施設歴の該当者の占める比率は、いずれも2%未満にとどまっている。一方、保護施設歴のない者の比率は、男女共に80%を超えている。

10年間の推移を見ると、男女共に保護施設歴のない者の比率が上昇する一方、各保護施設歴のある者の比率が、それぞれおおむね低下している。

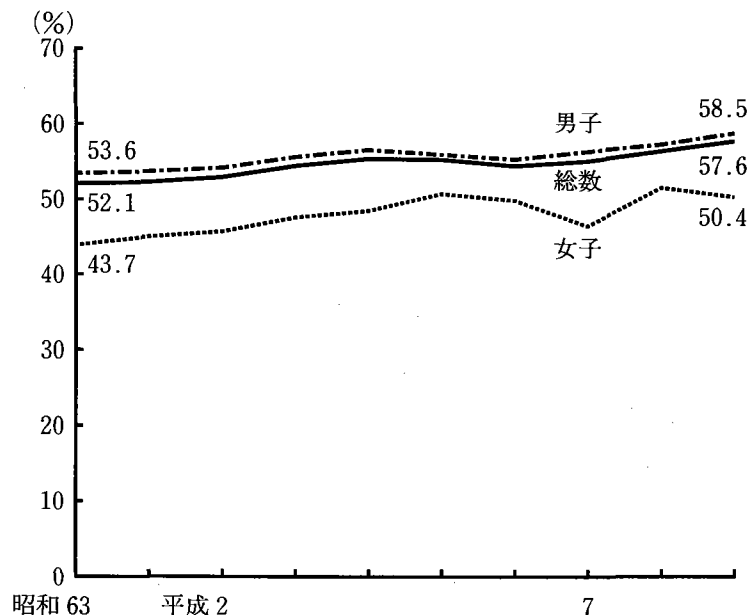
(7) 家庭・家族関係

ア 保護者

図15は、鑑別所収容少年の保護者が実父母である比率（以下「実父母率」という。）の推移を男女別に見たものである。

図15 鑑別所収容少年の男女別実父母率

(昭和63年～平成9年)



注 「実父母率」は、不明を除く総数に対する保護者が実父母である者の比率である。

実父母率は、女子において常に男子を下回り、男子は50%台、女子は40%台から50%台で推移しているが、男女ともおおむね緩やかな上昇傾向にある。

なお、保護者の生活程度が中程度以上である者は、昭和63年には78.9%であったが、平成9年には87.6%となっている。

イ 養育態度

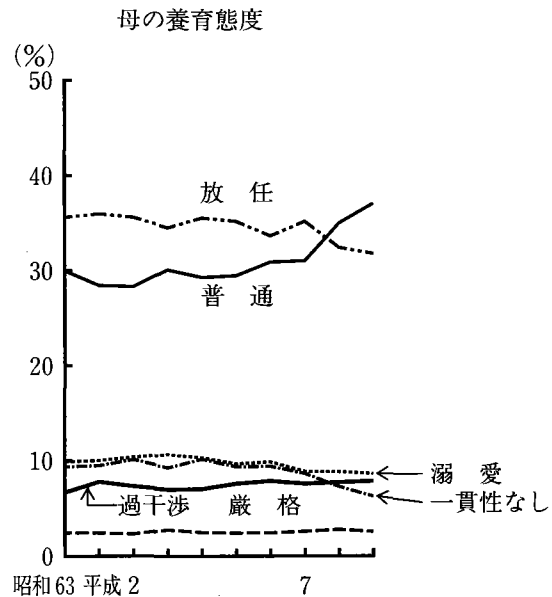
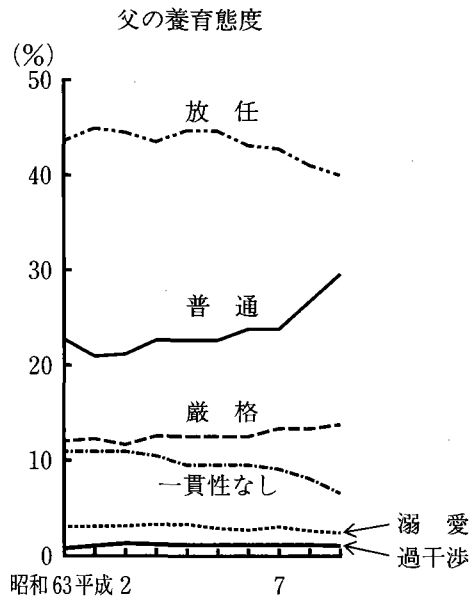
図16は、鑑別担当者が鑑別資料に基づいて判定した親の養育態度について、主要なものの推移を男女別に見たものである。

父母いずれの養育態度も、男女共に放任の比率が最も高いが、この10年間で低下傾向にあり、一方、普通の比率が上昇傾向にある。特に、男子に対する母の養育態度は、平成8年・9年と普通の比率が放任の比率を上回っている。また、父親の方が母親よりも放任の比率が高くなっている。

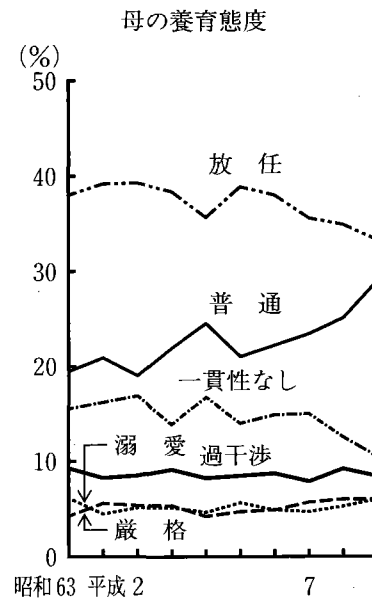
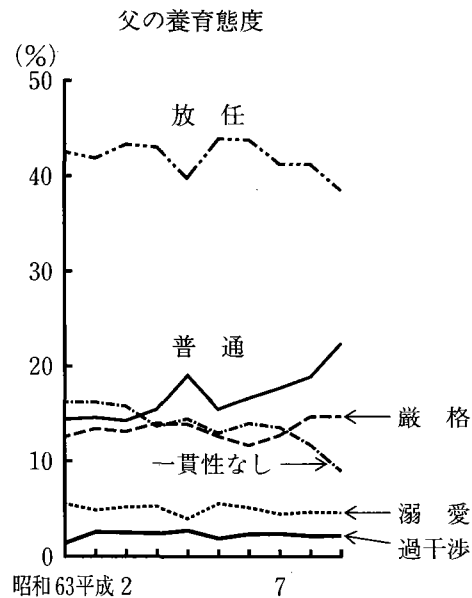
図16 鑑別所収容少年の男女別親の養育態度

(昭和63年～平成9年)

① 男子



② 女子



注 該当なし及び不明を除く総数に対する構成比である。

ウ 親への態度

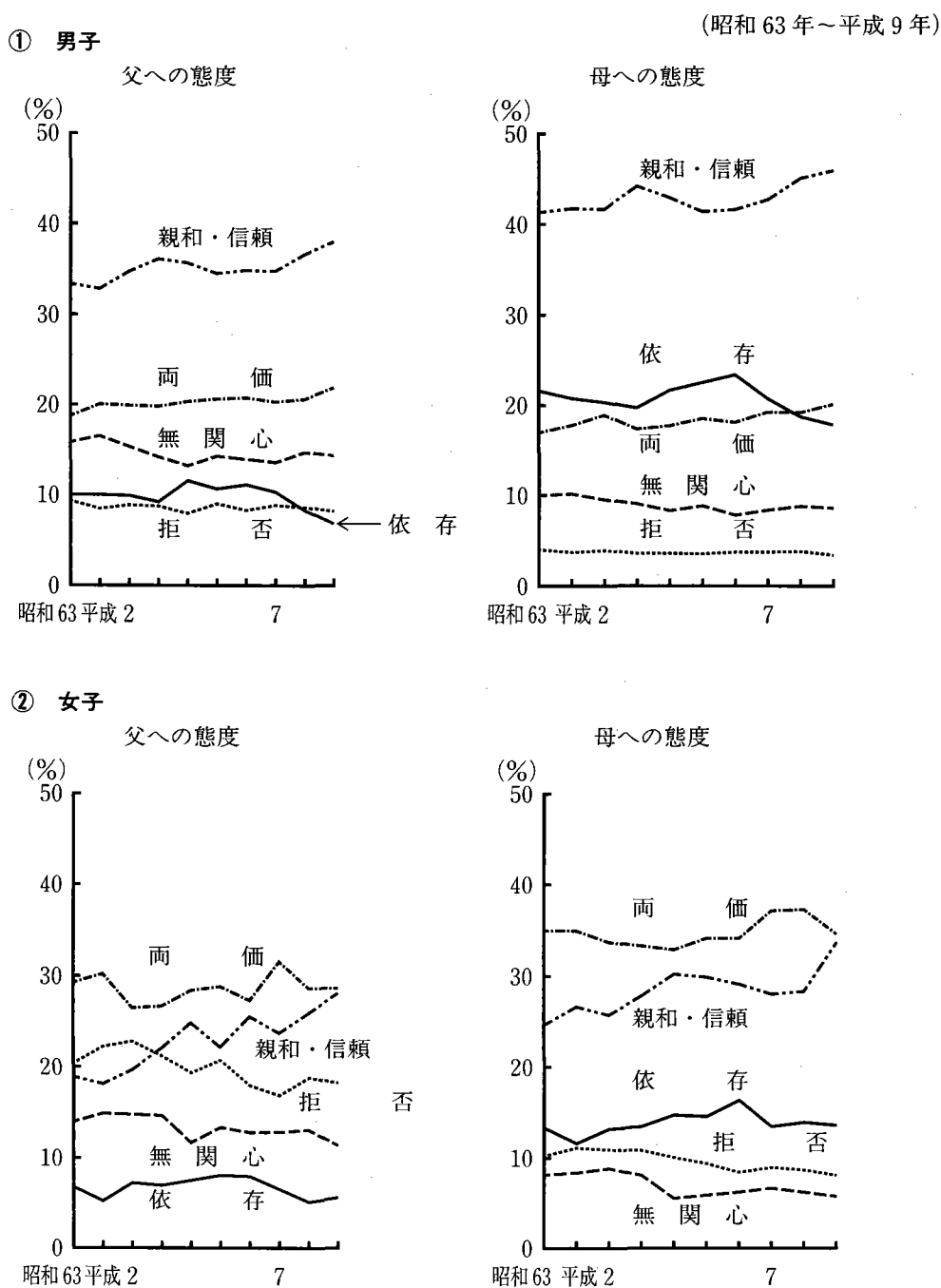
図17は、鑑別担当者が鑑別資料に基づいて判定した少年の親への態度について、主要なものの推移を男女別に見たものである。

親への態度は、父母いずれに対しても、男子で親和・信頼、女子で両価（一人に対して、相反する二つの感情や態度、特に愛憎が同時に生じること。）が、それぞれ最も比率が高い。親への態度は男女で異なっており、また父親への態度と母親への態度にも相違がある。特に女子では、父親への態度で、拒否が男子に比べて、また母親に対するよりも高い比率を示しており、父親との関係に問題がより大きいこ

とがうかがわれる。

10年間の推移を見ると、男女共に、父母いずれに対しても、親和・信頼が上昇しており、親への態度がおおむね好転していることがうかがえる。

図 17 鑑別所収容少年の男女別親への態度



注 該当なし及び不明を除く総数に対する構成比である。

エ 現在の家族の問題

表 5 は、鑑別の結果、少年の現在の家族に問題があるとして、鑑別担当者が評定（重複選択）した項目のうち主要なものについて見たものである。

表 5 鑑別所収容少年の男女別現在の家族の問題

(昭和 63 年～平成 9 年)

① 総数

家族の問題	累計	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
な し	8.9	9.0	8.4	8.3	8.8	8.5	8.7	9.0	8.8	9.2	10.2
離 婚	21.1	21.3	21.7	22.3	22.3	21.1	20.4	19.8	21.7	20.5	19.6
崩 壊 ・ 離 散	6.0	6.5	7.2	6.3	5.9	5.9	5.3	5.9	5.7	5.6	5.1
し っ け 不 足	31.1	32.9	36.0	32.9	32.7	31.6	31.0	31.0	29.0	27.9	24.7
経 済 的 困 窮	6.3	7.8	7.7	6.2	6.1	5.6	5.9	6.0	6.2	6.0	5.2
父 母 間 葛 藤	8.4	9.1	9.8	8.3	8.7	8.2	8.6	8.5	7.9	7.5	6.9
家 族 間 不 和	6.3	6.6	7.4	6.0	6.2	5.5	6.2	6.7	6.2	6.6	6.0
父母のしっけの不一致	7.2	7.4	8.5	7.3	8.1	6.7	8.1	7.5	6.8	6.1	5.0
本 人 を 疎 外	12.0	11.7	12.1	12.0	11.3	10.7	11.8	11.8	14.0	13.1	12.0
交 流 不 足	41.3	37.8	39.6	40.2	39.9	40.5	42.7	41.5	43.7	44.6	44.2
指 導 力 欠 如	53.8	50.4	55.6	55.0	53.1	54.3	55.4	52.7	53.2	54.1	55.0

② 男子

家族の問題	累計	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
な し	9.6	10.0	9.2	9.0	9.5	9.2	9.3	9.5	9.4	9.8	10.8
離 婚	20.4	20.4	20.9	21.6	21.6	20.6	19.9	19.4	21.0	20.0	18.8
崩 壊 ・ 離 散	5.7	6.3	6.9	6.0	5.7	5.6	5.0	5.8	5.4	5.4	4.9
し っ け 不 足	31.3	33.0	36.0	32.8	33.2	32.4	31.1	31.5	29.3	28.3	24.8
経 済 的 困 窮	6.3	7.7	7.6	6.2	6.2	5.6	5.7	6.0	6.2	6.0	5.1
父 母 間 葛 藤	7.8	8.4	9.2	7.7	8.2	7.6	7.8	8.0	7.4	6.8	6.5
家 族 間 不 和	5.6	5.8	6.5	5.1	5.4	5.0	5.6	6.1	5.5	5.9	5.4
父母のしっけの不一致	7.0	7.4	8.1	7.1	7.9	6.7	7.9	7.4	6.5	6.0	4.9
本 人 を 疎 外	10.9	10.2	10.8	10.7	10.2	9.6	10.8	10.9	12.7	12.1	11.1
交 流 不 足	40.2	36.3	38.2	38.8	38.6	39.4	41.9	40.8	42.6	43.7	43.4
指 導 力 欠 如	53.9	49.8	55.3	55.1	53.2	54.6	55.6	53.3	53.3	54.1	55.1

③ 女子

家族の問題	累計	63年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
な し	4.5	3.6	3.9	3.9	5.1	4.5	4.5	5.5	4.6	4.6	5.8
離 婚	25.2	26.4	26.1	26.4	26.1	24.2	23.5	22.1	26.1	23.6	25.6
崩 壊 ・ 離 散	7.5	7.7	9.0	7.6	6.9	7.6	7.2	6.2	7.7	7.4	7.1
し っ け 不 足	29.6	32.5	35.9	33.3	30.2	26.6	29.9	27.1	26.6	25.3	23.8
経 済 的 困 窮	6.6	8.5	8.2	6.2	5.5	5.6	6.8	5.7	6.3	6.0	6.0
父 母 間 葛 藤	12.2	12.8	13.4	12.0	11.5	11.6	13.6	11.9	11.5	12.5	10.3
家 族 間 不 和	10.8	10.9	12.7	11.2	10.3	9.1	10.2	10.4	10.6	11.0	10.8
父母のしっけの不一致	8.3	7.8	10.3	8.9	9.2	6.9	9.3	8.3	8.5	7.1	6.1
本 人 を 疎 外	19.1	20.0	19.5	19.7	17.6	17.3	18.0	17.8	22.7	20.4	19.0
交 流 不 足	47.9	46.1	47.1	47.8	46.9	46.8	47.5	46.2	51.0	51.3	49.7
指 導 力 欠 如	53.4	53.5	57.0	54.4	52.5	52.3	53.5	49.3	52.4	54.0	53.9

注 1 数値は、各項目に該当する者の比率である。

2 重複計上による。

いずれの年次でも、男女共に指導力欠如の比率が50%前後を占めていて最も高く、次いで、交流不足、しっけ不足となっている。女子では、男子より該当者の比率が高い項目が多く、家族に問題を抱えている者が多いといえる。また、各項目の比率では、しっけ不足がおおむね低下している一方、交流不足の比率が上昇傾向にある。

2 非行名別の特質

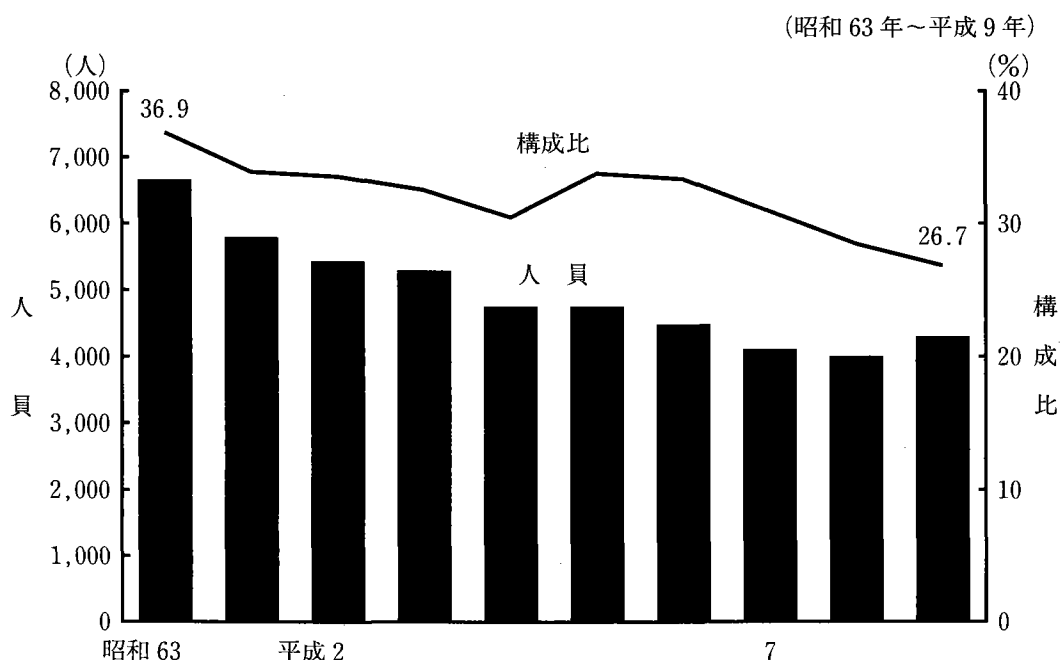
次に、鑑別所収容少年について、少年鑑別所への入所人員の多い非行(窃盗、道路交通法違反、傷害、恐喝)及び最近注目されている凶悪事犯(強盗、殺人)に焦点を当てて、非行名別の特質を見ることとする。

(1) 窃盗

ア 人員・年齢等

鑑別所収容少年のうち、非行名が窃盗である少年(以下「窃盗少年」という。)の人員及び全体に占める構成比の推移は、図18のとおりである。

図18 窃盗少年の人員及び構成比



窃盗少年の人員は平成8年まで減少し、9年には増加したものの、全体に占める構成比はおおむね低下しており、昭和63年には、全体の36.9%を占めていたが、平成9年には26.7%となっている。女子比は、5%台から6%台で推移しており、男子が圧倒の多数を占めている。

この10年間を累計して、窃盗少年の年齢を見ると、18歳(22.9%)が最も多く、次いで、17歳(22.1%)、19歳(21.8%)、16歳(18.4%)、15歳(9.7%)、14歳(5.0%)の順となっており、これを年齢層別に見ると、年長少年(44.7%)、中間少年(40.5%)、年少少年(14.8%)の順となっている。10年間の年齢層別人員の推移を見ると、中間少年・年少少年の上昇傾向と年長少年の低下傾向が認められる。

入所回数については、入所回数が初回の者が昭和63年の63.9%から平成9年の72.3%へと上昇している。

イ 職業等・教育程度

この10年間を累計して、窃盗少年の職業等を見ると、無職が49.2%、有職が36.4%、学生・生徒が14.4%となっており、この比率は、10年間ほとんど変化していない。

この10年間を累計して、教育程度を見ると、中学卒業(49.1%)が最も多く、以下、高校中退(29.6%)、中学在学(9.4%)、高校在学(6.3%)、高校卒業(5.0%)の順となっている。また、10年間の推

移を見ると、中学卒業の低下傾向が認められる。

ウ 非行動機

窃盗少年の非行動機について累計して見ると、「お金や物が欲しくて」(49.6%)が最も多く、以下、「乗りたくて」(18.5%)、「誘われて、その気になって」(10.6%)、「遊び」(8.9%)、「うさ晴らし」(2.7%)となっており、ほぼ半数が利欲を動機とするものである。ちなみに、窃盗のうち、自動車・オートバイ盗が全体のほぼ3割前後(年次により22.3%から32.4%の間で推移)を占めており、動機の「乗りたくて」はこの乗物盗によるものと思われる。

10年間の推移を見ると、1位の「お金や物が欲しくて」、2位の「乗りたくて」及び5位の「うさ晴らし」の順位には全く変化がなく、平成元年・2年に3位の「誘われて、その気になって」と4位の「遊び」が一時入れ替わったのみである。

エ 共犯関係

本件非行時の共犯者数について累計して見ると、単独(32.0%)が最も多く、以下、2人(30.7%)、3人(18.0%)、4人(10.4%)、5人以上(8.5%)、不特定多数(0.5%)の順となっている。

10年間の推移を見ると、平成4年まで単独が1位であったものの、5年以降2人が1位となり、単独が2位となったが、3位以下の順位には変動がない。また、共犯者のいる者について、共犯者との関係を累計して見ると、いずれの年次も地域仲間が最も多く、半数近くを占めている。

オ 不良集団所属

窃盗少年の不良集団所属について累計して見ると、不良集団に所属していない者が55.8%を占めており、所属している者の所属不良集団は、地域不良集団が27.3%、暴走族が9.9%、不良学生・生徒集団が4.9%、暴力団が1.5%となっている。

10年間の推移を見ると、不良集団に所属していない者が、各年次とも50%から60%を占めている。不良集団に所属している者の所属不良集団については、暴走族の比率の上昇と暴力団の比率の低下が認められる。

カ 問題行動歴

窃盗少年の問題行動歴について累計して見ると、経験者の占める比率は、毒劇物が50.4%(総数では55.3%)、覚せい剤が2.1%(同7.6%)、喫煙が94.8%(同95.7%)、飲酒が81.8%(同84.1%)、家出が58.5%(同52.2%)、無免許運転が78.4%(同74.3%)、暴走行為が35.8%(同43.3%)、万引きが62.1%(同54.2%)、文身が8.5%(同11.1%)、性経験が74.8%(同80.2%)となっており、総数より比率が高いのは、家出、無免許運転及び万引きである。

10年間の推移を見ると、毒劇物と家出の低下傾向が認められる。

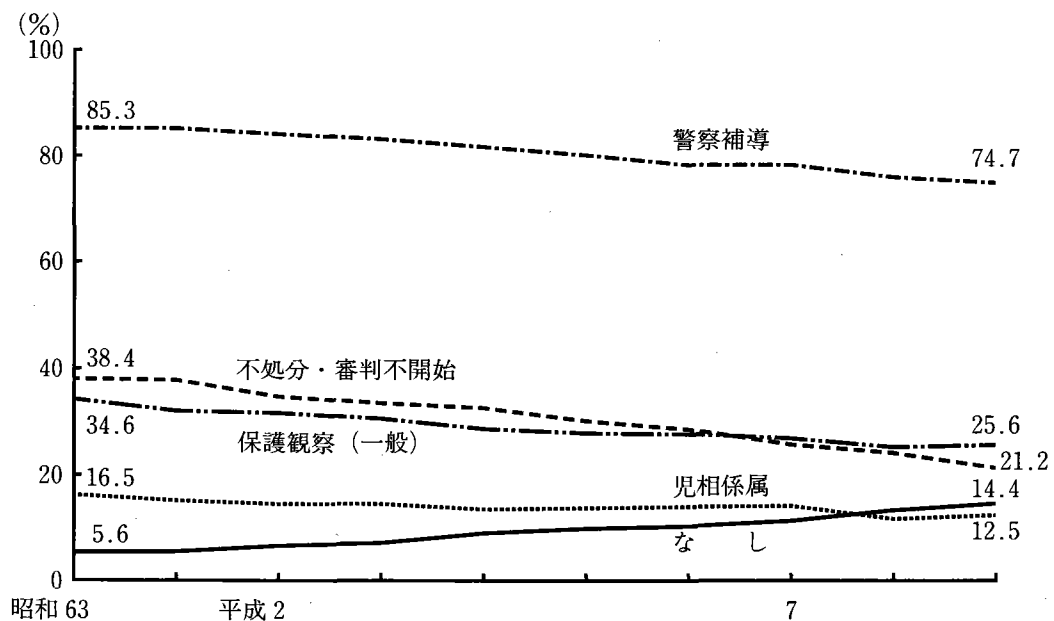
キ 在宅保護歴

窃盗少年の在宅保護歴について累計して見ると、保護歴のない者の占める比率が9.0%であり、警察補導歴のある者が81.2%、児相係属歴のある者が14.3%、不処分・審判不開始歴のある者が31.5%、保護観察(一般)歴のある者が29.6%となっている。

図19は、窃盗少年の在宅保護歴について、10年間の推移を見たものである。在宅保護歴のない者の比率が上昇する一方、各在宅保護歴のある者の比率がおおむね低下している。

図19 窃盗少年の在宅保護歴

(昭和 63 年～平成 9 年)



注 重複計上による。

ク 保護施設歴

窃盗少年の保護施設歴について累計して見ると、保護施設歴のない者の比率が79.8%と総数よりも低くなっている。また、教護院歴のある者が7.5%、中等少年院歴のある者が6.3%、初等少年院歴のある者が4.0%、中等少年院（一般短期）歴のある者が2.8%となっており、これらを含めた施設歴のある者の占める比率は、総数よりも高くなっている。

10年間の推移を見ると、保護施設歴のない者の比率が低下し、保護施設歴のある者の比率が上昇している。

ケ 保護者等

この10年間の推移を累計して、窃盗少年の実父母率を見ると、50.6%となっており、総数（54.4%）よりも低くなっている。10年間の推移を見ると、実父母率は、ごく緩やかに上昇している。

保護者の生活程度が中程度以上の者について累計して見ると、80.6%となっており、総数（84.3%）よりも低くなっている。10年間の推移を見ると、緩やかな上昇傾向にある。

コ 親の養育態度

窃盗少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任（44.8%）が最も多く、以下、普通（20.7%）、厳格（13.0%）、一貫性なし（10.4%）、拒否（3.5%）の順であり、普通の比率がやや低いほかは、総数と大きな差異はない。母では、放任（37.5%）が最も多く、以下、普通（28.0%）、一貫性なし（9.6%）、溺愛（8.5%）、過干渉（7.3%）の順であり、総数に比べていずれも普通の比率がやや低く、放任の比率がやや高くなっている。

父母共に、10年間この順位に大きな変動はないが、普通の比率がわずかに上昇している。

サ 親への態度

窃盗少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、親和・信頼（29.8%）が最も多く、以下、両価（21.7%）、無関心（15.7%）、拒否（10.8%）、依存（9.8%）の順となっており、親和・

信頼の比率が低い以外は、総数と大きな差異はない。母に対しては、親和・信頼（38.0％）が最も多く、以下、両価（20.8％）、依存（20.7％）、無関心（10.0％）、拒否（4.9％）の順となっており、総数と比べて、親和・信頼の比率がやや低くなっている。

10年間この順位に大きな変動はないが、父母いずれに対しても、親和・信頼の比率が緩やかに上昇している。

シ 現在の家族の問題

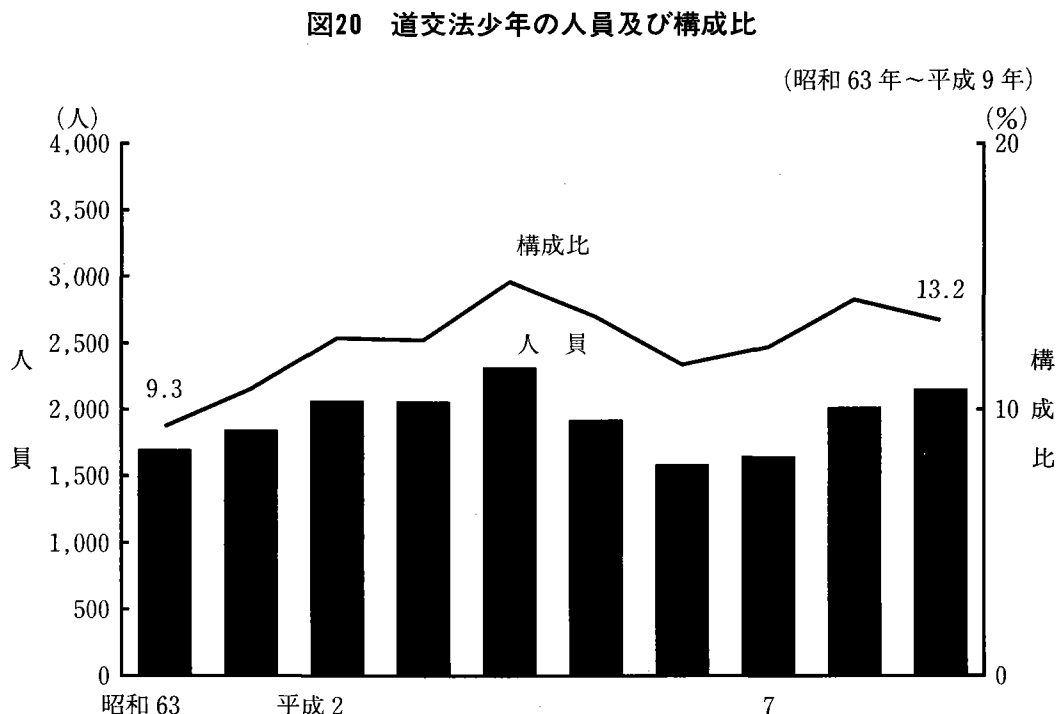
窃盗少年の現在の家族の問題について累計して見ると、該当者の比率が最も高いのは、指導力欠如が54.0％（総数が53.8％）で、以下、交流不足43.7％（同41.3％）、しつけ不足32.8％（同31.1％）、離婚22.7％（同21.1％）、本人を疎外14.0％（同12.0％）の順となっており、いずれも総数と比べて、窃盗少年の方が高い比率を示している。一方、家族に問題がない者の比率は7.6％（同8.9％）となっている。

10年間の推移を見ると、交流不足の比率が上昇しているほかは、顕著な変化は見られない。

(2) 道路交通法違反

ア 人員・年齢等

鑑別所収容少年のうち、非行名が道路交通法違反である少年（以下「道交法少年」という。）の人員及び総数に占める構成比の推移は、図20のとおりである。



道交法少年の人員は、平成4年まではおおむね増加し、その後いったん減少したが、7年からは再度増加している。総数に占める構成比は、昭和63年の9.3％から平成9年の13.2％へとおおむね上昇傾向を示している。女子比は、1％前後で推移しており、男子がほとんどを占めている。

道交法少年の年齢について累計して見ると、17歳（35.7％）が最も多く、以下、18歳（29.0％）、19歳（17.4％）、16歳（15.7％）の順となっており、これを年齢層別に見ると、中間少年（51.3％）、年長少年（46.4％）、年少少年（2.2％）の順となっている。

10年間の年齢層別人員の推移を見ると、中間少年の上昇傾向と年長少年の低下傾向が見られる。

入所回数については、初回の者の比率が74%台から79%台で推移しており、大きな変動は見られない。

イ 職業等・教育程度

道交法少年の職業等について累計して見ると、有職が68.4%、無職が24.3%、学生・生徒が7.3%となっている。10年間の推移を見ると、有職が平成4年の75.0%まで上昇した後低下傾向を示す一方、無職の比率は4年の19.9%を底として上昇傾向を示しており、学生・生徒の比率は10%未満で推移している。

教育程度について累計して見ると、中学卒業(47.9%)、高校中退(37.7%)、高校在学(9.2%)、高校卒業(4.4%)の順となっており、中学在学(0.6%)は少ない。10年間の推移を見ると、中学卒業の比率の低下と高校中退の比率の上昇が見られる。

ウ 非行動機

道交法少年の非行動機について累計して見ると、「乗りたくて」(32.2%)が最も多く、以下、「目立ちたくて」(20.5%)、「遊び」(19.6%)、「誘われて、その気になって」(9.7%)、「うさ晴らし」(5.4%)の順となっている。

10年間の推移を見ると、2位の「目立ちたくて」と3位の「遊び」が年次により順位が入れ替わっているほかは、他の順位には変化が見られない。

エ 共犯関係

道交法少年の本件非行時の共犯者数について累計して見ると、5人以上(37.9%)と不特定多数(35.1%)が多くなっており、単独(22.1%)がこれらに次いでいる。

10年間の推移を見ると、5人以上の比率の大幅な上昇と単独の比率の低下、さらに不特定多数がほぼ一貫して3分の1を占めている。

共犯者のいる者について、共犯者との関係を累計して見ると、暴走族が7割を超え、しかもその比率はおおむね上昇傾向を示している。

オ 不良集団所属

道交法少年の不良集団所属について累計して見ると、不良集団に所属していない者が17.4%、暴走族に所属している者が73.0%である。不良集団に所属していない者の比率は、昭和63年の27.0%から平成2年以降の19%未満へとおおむね低下している。一方、暴走族に所属している者の比率は上昇傾向を示しており、昭和63年58.8%、平成元年65.1%、2年以降70%台となっている。

カ 問題行動歴

道交法少年の問題行動歴について累計して見ると、経験者の占める比率は、毒劇物が52.9%、覚せい剤が1.0%、喫煙が97.8%、飲酒が86.9%、家出が31.2%、無免許運転が90.2%、暴走行為が89.7%、万引きが42.0%、文身が11.0%、性経験が89.6%となっており、総数より比率が高いのは、喫煙、飲酒、無免許運転、暴走行為及び性経験である。

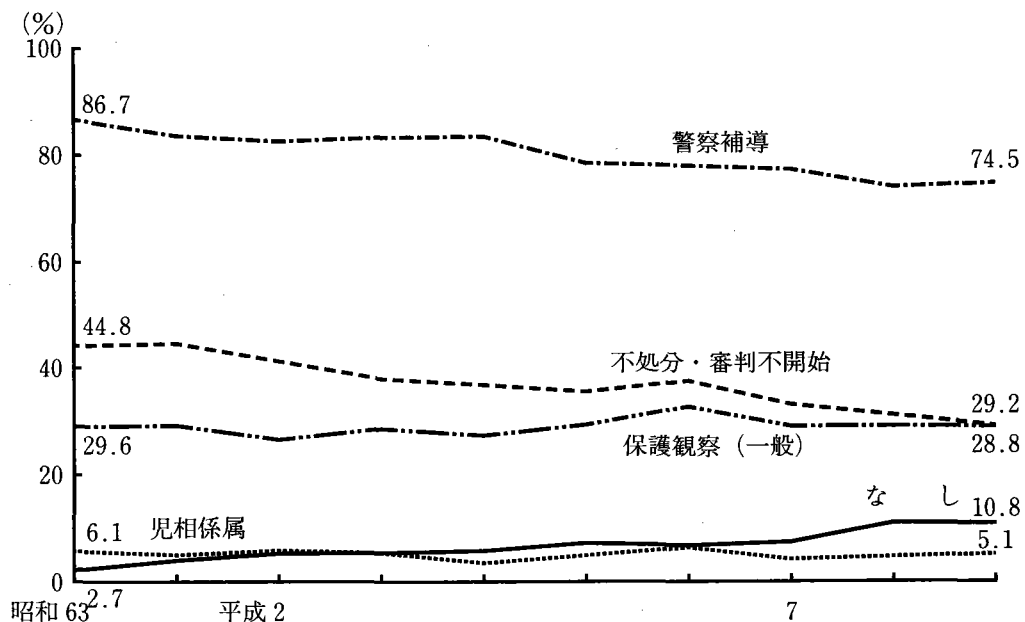
キ 在宅保護歴

道交法少年の在宅保護歴について累計して見ると、保護歴のない者が6.8%、警察補導歴のある者が80.3%、児相係属歴のある者が5.1%、不処分・審判不開始歴のある者が37.2%、保護観察(一般)歴のある者が29.0%となっており、児相係属歴を除き、各保護歴のある者の占める比率は、いずれも総数より高くなっている。なお、交通短期保護観察及び保護観察歴のある者の比率も、総数の2倍を超えている。

図 21 は、道交法少年の在宅保護歴について、10 年間の推移を見たものである。在宅保護歴のない者の比率が上昇する一方、保護施設歴のある者の比率は、保護観察（一般）を除き、おおむね低下している。

図21 道交法少年の在宅保護歴

(昭和 63 年～平成 9 年)



注 重複計上による。

ク 保護施設歴

道交法少年の保護施設歴について累計して見ると、保護施設歴のない者の占める比率が 89.4 % と圧倒的に高く、次いで、中等少年院（一般短期）歴のある者が 2.5 %，教護院歴のある者が 2.2 % となっており、その他は 2.0 % 以下である。保護施設歴のある者は、いずれもおおむね総数より低い比率を示しており、この 10 年間で顕著な変動は見られない。一方、保護施設歴のない者は、この 10 年間で 90 % 前後で推移している。

ケ 保護者等

この 10 年間で累計して、道交法少年の実父母率を見ると、63.2 % とかなり高くなっており、この 10 年間でこの比率に大きな変化はない。

保護者の生活程度が中程度以上の者を累計して見ると、89.9 % となっており、これもこの 10 年間で 90 % 前後で推移しており、大きな変動はない。

コ 親の養育態度

道交法少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任 (44.1 %) が最も多く、以下、普通 (27.8 %)，厳格 (10.0 %)，一貫性なし (8.8 %)，溺愛 (3.7 %) の順であり、総数に比べて普通の比率が高くなっている。母では、普通 (35.2 %) が最も多く、以下、放任 (32.9 %)，溺愛 (11.1 %)，一貫性なし (8.1 %)，過干渉 (7.1 %) の順であり、やはり総数に比べて普通の比率が高くなっている。

10 年間の推移を見ると、父母共に普通の比率が上昇している。

サ 親への態度

道交法少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、親和・信頼 (42.9 %)，両価 (17.7 %)，無関心 (13.5 %)，依存 (10.3 %)，拒否 (6.1 %) の順、母に対しては、親和・信頼 (50.3 %)，依

存(20.5%)、両価(14.0%)、無関心(7.5%)、対等・友人(4.2%)の順であり、父母いずれに対しても、親和・信頼の比率が非常に高くなっており、この傾向は、10年間を通して一貫している。

シ 現在の家族の問題

道交法少年につき、現在の家族の問題について累計して見ると、該当者の比率が総数より高いのは、しつけ不足(道交法が32.8%、総数が31.1%)、指導力欠如(同56.9%、53.8%)、家族に問題がない者(同11.2%、8.9%)である。

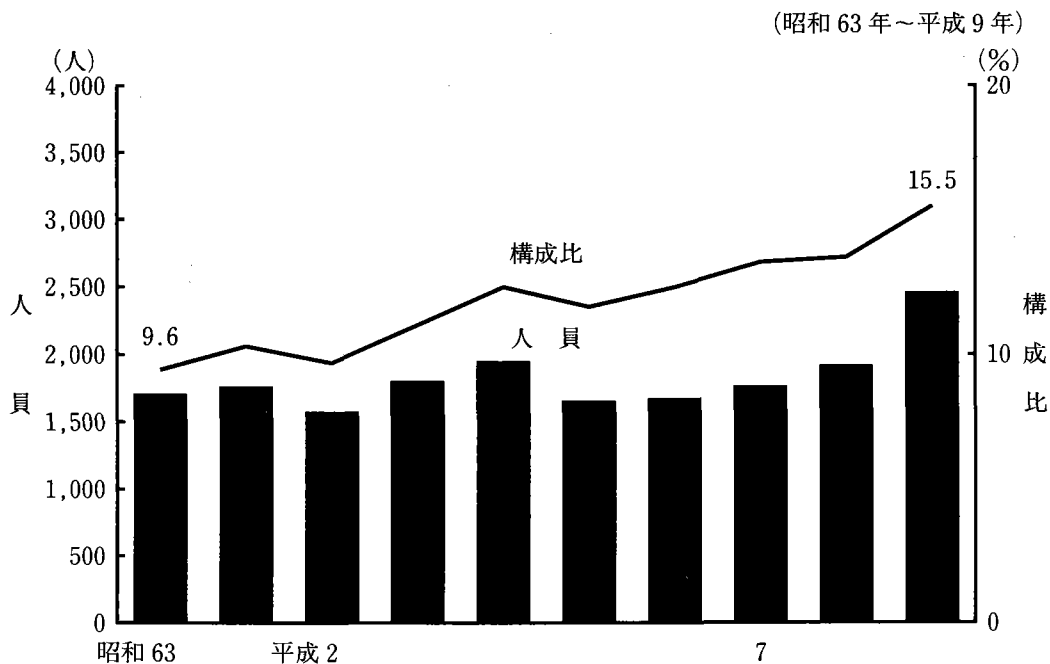
10年間の推移を見ると、交流不足、指導力欠如の比率が上昇し、家族に問題がない者の比率がおおむね低下している。

(3) 傷害

ア 人員・年齢等

鑑別所収容少年のうち、非行名が傷害である少年(以下「傷害少年」という。)の人員及び総数に占める構成比の推移は、図22のとおりである。

図22 傷害少年の人員及び構成比



傷害少年の人員及び構成比は、増加・上昇傾向を示しており、また、女子比は、おおむね10%前後で推移している。

傷害少年の年齢について累計して見ると、18歳(23.0%)が最も多く、以下、19歳(21.3%)、17歳(21.2%)、16歳(16.4%)、15歳(11.3%)、14歳(6.6%)の順となっており、これを年齢層別に見ると、年長少年(44.4%)、中間少年(37.7%)、年少少年(17.9%)の順となっている。

10年間の推移を見ると、中間少年の上昇傾向と年長少年の平成5年以降における低下傾向が認められる。

入所回数について累計して見ると、入所回数が初回の者の比率は74.9%であり、この10年間で緩やかに上昇している。

イ 職業等・教育程度

傷害少年の職業等について累計して見ると、有職が48.6%、無職が31.6%、学生・生徒が19.8%と

なっている。10 年間では、学生・生徒の比率が平成 4 年を底に、それ以降上昇傾向にあるほかは、大きな変化は見られない。

教育程度について累計して見ると、中学卒業 (40.9 %)、高校中退 (32.5 %)、中学在学 (13.1 %)、高校在学 (8.5 %)、高校卒業 (4.6 %) の順となっている。10 年間の推移を見ると、中学卒業の比率の低下と高校中退・在学の比率の上昇が見られる。

ウ 非行動機

傷害少年の非行動機について累計して見ると、「かっとなって」(57.7 %)が最も多く、以下、「突っ張り」(12.1 %),「誘われて、その気になって」(8.7 %),「うさ晴らし」(6.2 %),「目立ちたくて」(2.5 %) の順となっている。

10 年間の推移では、平成 6 年までは「お金や物が欲しくて」が 5 位を占めていたが、ここ 3 年、「目立ちたくて」が 5 位に入っている。

エ 共犯関係

傷害少年の本件非行時の共犯者数について累計して見ると、5 人以上 (28.4 %) が最も多く、以下、単独 (21.9 %), 2 人 (18.1 %), 3 人 (15.8 %), 4 人 (12.2 %), 不特定多数 (3.6 %) の順となっており、この順位・比率に 10 年間で大きな変動はない。

共犯者のいる者について、共犯者との関係を累計して見ると、地域仲間(39.1 %), 暴走族(17.5 %), 学校仲間 (10.2 %) の順であり、暴力団は 4.2 %にとどまっている。10 年間では順位に変化はないが、地域仲間の比率が上昇している。

オ 不良集団所属

傷害少年の不良集団所属について累計して見ると、不良集団に所属している者の比率は 35.9 %であり、一方、不良集団に所属している者の所属不良集団については、地域不良集団(23.5 %), 暴走族(23.4 %), 不良学生・生徒集団 (9.8 %), 暴力団 (5.9 %) の順となっている。

この 10 年間では、不良集団に所属していない者及び地域不良集団に所属している者の比率が上昇している。

カ 問題行動歴

傷害少年の問題行動歴について累計して見ると、経験者の占める比率は、毒劇物が 47.8 %, 覚せい剤が 2.3 %, 喫煙が 97.0 %, 飲酒が 86.5 %, 家出が 41.4 %, 無免許運転が 74.3 %, 暴走行為が 45.6 %, 万引きが 47.6 %, 文身が 14.4 %, 性経験が 81.2 %となっており、総数より比率が高いのは、喫煙、飲酒、暴走行為、文身及び性経験である。

10 年間の推移を見ると、毒劇物、家出の低下傾向が見られる。

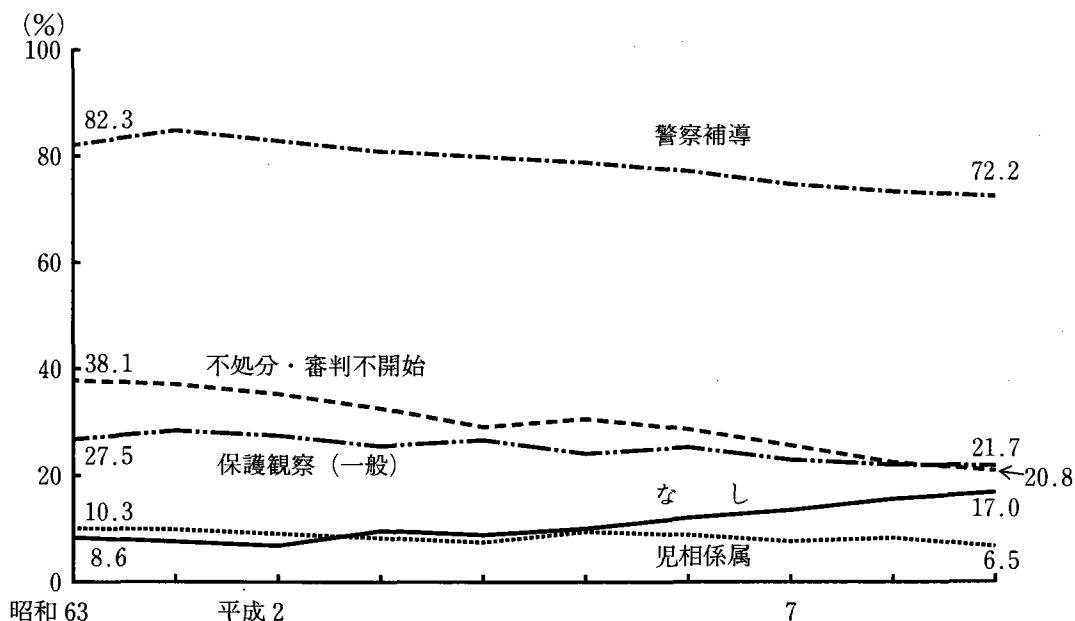
キ 在宅保護歴

傷害少年の在宅保護歴について累計して見ると、保護歴のない者の比率が 11.4 %となっており、総数よりも高い。一方、警察補導歴のある者は 78.4 %, 児相係属歴のある者は 8.6 %, 不処分・審判不開始歴のある者は 29.9 %, 保護観察（一般）歴のある者は 25.2 %となっており、不処分・審判不開始歴を除き、各在宅保護歴のある者の比率は、いずれも総数より低くなっている。

図 23 は、傷害少年の在宅保護歴について、この 10 年間の推移を見たものである。在宅保護歴のない者の比率が上昇する一方、各在宅保護歴のある者の比率はおおむね低下している。

図23 傷害少年の在宅保護歴

(昭和63年～平成9年)



注 重複計上による。

ク 保護施設歴

傷害少年の保護施設歴について累計して見ると、保護施設歴のない者の占める比率が89.0%と圧倒的に高く、次いで、教護院歴のある者が3.2%、中等少年院歴のある者が2.7%、中等少年院(一般短期)歴のある者が2.2%となっており、その他は2.0%未満である。保護施設歴のある者の占める比率は、いずれも総数より低くなっており、10年間で顕著な変動は見られない。また、保護施設歴のない者は、この10年間90%前後で推移している。

ケ 保護者等

この10年間で累計して、傷害少年の実父母率を見ると、58.2%となっており、総数よりも高くなっている。また、この10年間で緩やかな上昇傾向にある。

保護者の生活程度が中程度以上の者について累計して見ると、87.5%と総数(84.3%)よりも高くなっており、これも、この10年間で緩やかな上昇傾向を示している。

コ 親の養育態度

傷害少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任(41.2%)が最も多く、以下、普通(25.8%)、厳格(13.1%)、一貫性なし(9.7%)、溺愛(3.3%)の順であり、総数に比べて普通の比率が高くなっている。母では、普通(33.4%)が最も多く、以下、放任(32.6%)、溺愛(10.5%)、一貫性なし(8.6%)、過干渉(7.7%)の順であり、やはり総数に比べて普通の比率が高い。

10年間の推移を見ると、父母共に普通の比率が上昇している。

サ 親への態度

傷害少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、親和・信頼(39.1%)、両価(19.5%)、無関心(13.2%)、依存(8.7%)、拒否(7.9%)の順、母に対しては、親和・信頼(47.1%)、依存(18.5%)、両価(17.0%)、無関心(7.8%)、対等・友人(4.4%)の順であり、父母いずれに対しても親和・信頼が高くなっており、この傾向は、10年間を通じて、一貫している。

シ 現在の家族の問題

傷害少年につき、現在の家族の問題について累計して見ると、該当者の比率が総数より高いのは、家族に問題がない者（傷害が11.4％、総数が8.9％）のみである。

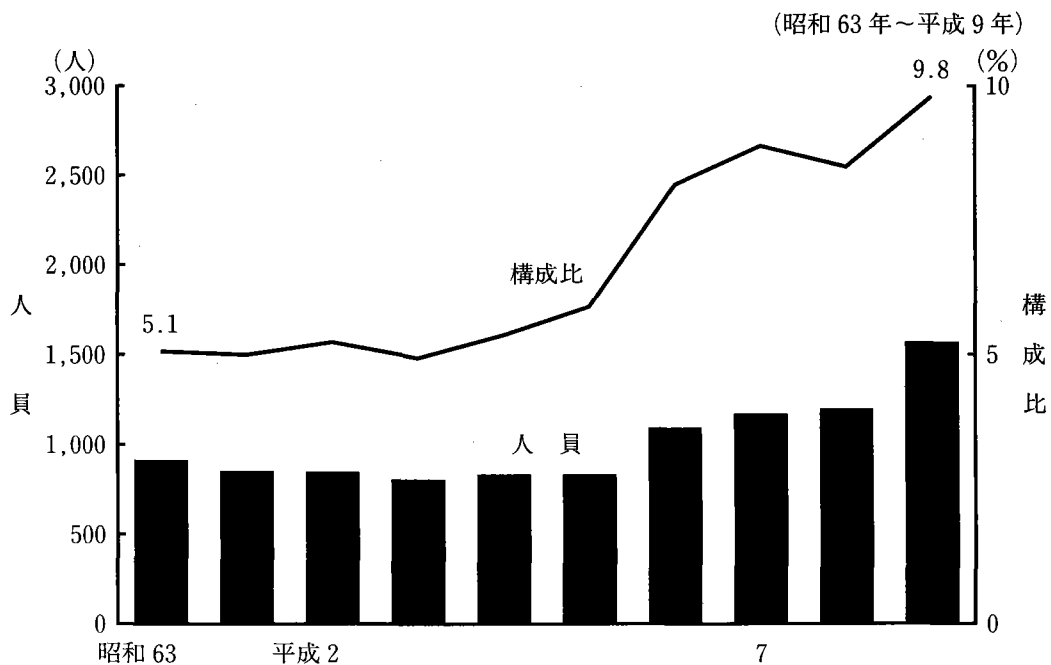
10年間の推移を見ると、交流不足の比率が上昇し、しつけ不足の比率がおおむね低下している。

（4）恐喝

ア 人員・年齢等

鑑別所収容少年のうち、非行名が恐喝である少年（以下「恐喝少年」という。）の人員及び総数に占める構成比の推移は、図24のとおりである。

図24 恐喝少年の人員及び構成比



恐喝少年の人員は、平成6年以降増加し、総数に占める構成比も、おおむね上昇している。女子比は、平成4年の10.1％まで上昇した後、5％台から8％台で推移している。

恐喝少年の年齢について累計して見ると、16歳(22.3％)が最も多く、以下、17歳(22.1％)、18歳(20.5％)、19歳(19.5％)、15歳(11.4％)、14歳(4.2％)の順となっており、これを年齢層別に見ると、中間少年(44.4％)、年長少年(40.0％)、年少少年(15.6％)の順となっている。

この10年間の推移を見ると、平成5年以降中間少年が上昇傾向を示しており、また、6年以降年長少年が30％台で推移している。

入所回数について累計して見ると、入所回数が初回の者の比率は72.0％であり、この10年間で緩やかに上昇している。

イ 職業等・教育程度

恐喝少年の職業等について累計して見ると、無職が47.8％、有職が34.0％、学生・生徒が18.3％となっている。10年間では、無職の緩やかな低下傾向が見られる。

教育程度について累計して見ると、中学卒業(42.3％)、高校中退(33.0％)、高校在学(11.8％)、中学在学(8.6％)、高校卒業(3.9％)の順となっている。10年間では、中学卒業の比率の低下と高校中退・在学の比率の上昇が見られる。

ウ 非行動機

恐喝少年の非行動機について累計して見ると、「お金や物が欲しくて」(56.2%)が最も多く、以下、「かっとなって」(10.8%)、「誘われて、その気になって」(10.7%)、「うさ晴らし」(6.0%)、「突っ張り」(5.6%)の順となっている。

10年間の推移では、「お金や物が欲しくて」が一貫して1位を占めているが、他の順位については多少の変動が見られる。

エ 共犯関係

恐喝少年の本件非行時の共犯者数について累計して見ると、2人(32.2%)が最も多く、以下、単独(22.2%)、3人(21.9%)、4人(12.6%)、5人以上(10.7%)、不特定多数(0.3%)の順となっており、この10年間で、2人が一貫して1位を占めているが、2位と3位、4位と5位が、年次により入れ替わっている。また、単独の比率の緩やかな低下と、5人以上の比率の上昇傾向が認められる。

共犯者のいる者について、共犯者との関係を累計して見ると、地域仲間(49.4%)、学校仲間(10.2%)、暴力団(5.0%)、暴走族(3.6%)の順となっており、この10年間では、地域仲間が一貫して1位を占めており、しかもその比率が上昇しているのに対し、共犯者がいない者の比率は低下傾向にある。

オ 不良集団所属

恐喝少年の不良集団所属について累計して見ると、不良集団に所属している者は47.6%と半数に近く、一方、不良集団に所属している者の所属不良集団については、地域不良集団(28.1%)、暴走族(9.8%)、暴力団(7.1%)、不良学生・生徒集団(6.0%)の順となっている。

この10年間では、不良集団に所属していない者の比率が上昇している。

カ 問題行動歴

恐喝少年の問題行動歴を累計して見ると、経験者の占める比率は、毒劇物が46.1%、覚せい剤が3.2%、喫煙が97.5%、飲酒が86.1%、家出が51.2%、無免許運転が72.6%、暴走行為が36.2%、万引きが54.3%、文身が13.6%、性経験が81.3%となっており、総数より比率が高いのは、喫煙、飲酒、万引き、文身及び性経験である。

この10年間の推移では、毒劇物、家出の低下傾向が見られる。

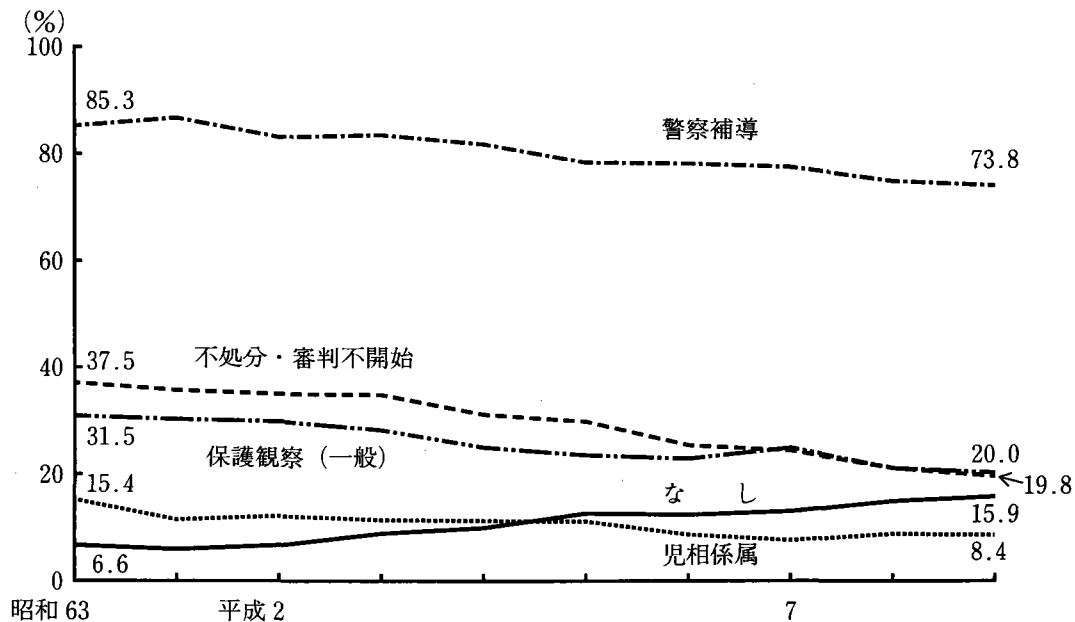
キ 在宅保護歴

恐喝少年の在宅保護歴について累計して見ると、保護歴のない者の比率が11.3%となっており、総数よりも高い。一方、警察補導歴のある者は79.5%、児相係属歴のある者は10.3%、不処分・審判不開始歴のある者は28.4%、保護観察(一般)歴のある者は25.2%となっており、警察補導歴を除き、各在宅保護歴のある者の占める比率は、いずれも総数より低くなっている。

図25は、恐喝少年の在宅保護歴について、この10年間の推移を見たものである。在宅保護歴のない者の比率が上昇する一方、各在宅保護歴のある者の比率はおおむね低下している。

図25 恐喝少年の在宅保護歴

(昭和 63 年～平成 9 年)



注 重複計上による。

ク 保護施設歴

恐喝少年の保護施設歴について累計して見ると、保護施設歴のない者の占める比率が84.3%であり、次いで、中等少年院歴のある者が4.7%、教護院歴のある者が4.6%、初等少年院歴のある者が2.9%、中等少年院（一般短期）歴のある者が2.7%となっており、その他は2.0%未満である。

各保護施設歴のある者の占める比率は、10年間では顕著な変動は見られない。また、保護施設歴のない者の占める比率は、この10年間で緩やかな上昇傾向を示している。

ケ 保護者等

この10年間で累計して、恐喝少年の実父母率を見ると、55.9%と総数よりもいくぶん高く、10年間では緩やかな上昇傾向にある。

保護者の生活程度が中程度以上の者について累計して見ると、85.0%となっており、この10年間の推移を見ると、平成4年までは緩やかな上昇傾向にあったが、5年以降は80%台後半で推移している。

コ 親の養育態度

恐喝少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任(42.4%)が最も多く、以下、普通(23.4%)、厳格(13.6%)、一貫性なし(9.7%)、溺愛(3.0%)の順であり、母では、放任(34.2%)が最も多く、以下、普通(31.0%)、一貫性なし(9.3%)、溺愛(9.2%)、過干渉(7.5%)の順であり、総数に比べて普通の比率が高い。父母共に放任が最も多いが、この10年間では、父母とも普通の比率が上昇しており、また、母では、年次により普通と放任が入れ替わっている。

サ 親への態度

恐喝少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、親和・信頼(34.3%)、両価(21.6%)、無関心(14.7%)、拒否(9.2%)、依存(8.7%)の順、母に対しては、親和・信頼(42.8%)、両価(19.7%)、依存(19.2%)、無関心(8.9%)、拒否(3.9%)の順であり、この傾向は、10年間を通じて一貫している。また、父母いずれに対しても、1位は10年間一貫して親和・信頼が占めており、しかもその

比率は上昇している。

シ 現在の家族の問題

恐喝少年につき、現在の家族の問題について累計して見ると、該当者の比率が総数より高いのは、家族に問題がない者（恐喝が9.4％、総数が8.9％）のみである。

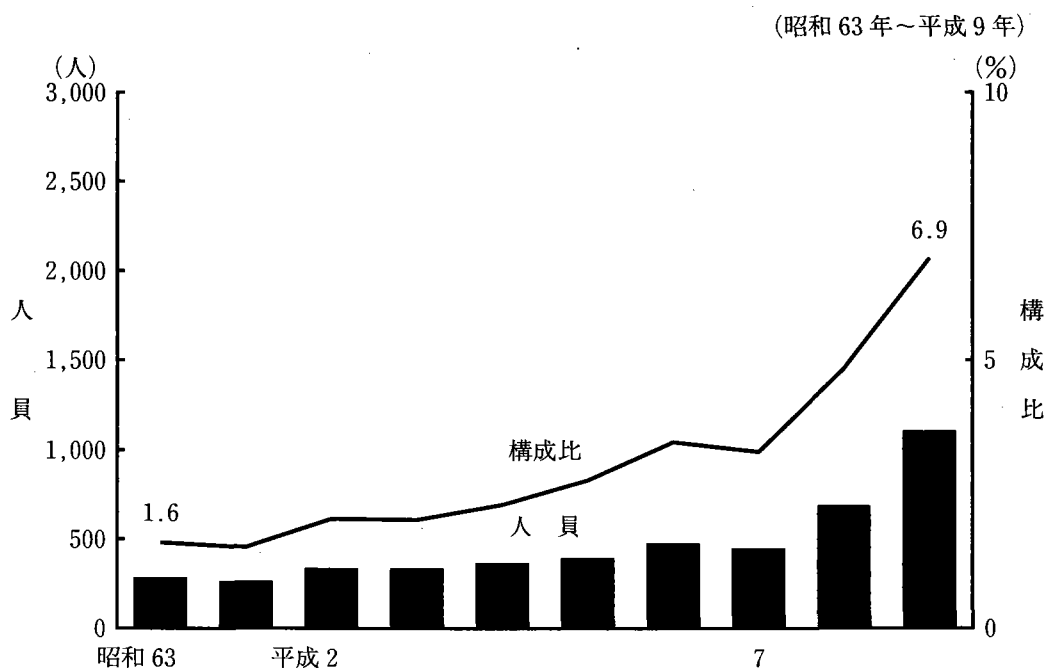
この10年間の推移を見ると、交流不足の比率が上昇する一方、しつけ不足の比率がおおむね低下している。

(5) 強盗

ア 人員・年齢等

鑑別所収容少年のうち、非行名が強盗である少年（以下「強盗少年」という。）の人員及び総数に占める構成比の推移は、図26のとおりである。

図26 強盗少年の人員及び構成比



強盗少年の人員は、平成4年以降増加し、総数に占める構成比も、同年以降おおむね上昇している。女子比は、2％台から8％台で推移しているが、4年には8.6％に達している。

強盗少年の年齢について累計して見ると、17歳(25.6％)が最も多く、以下、16歳(22.1％)、18歳(22.0％)、19歳(15.7％)、15歳(11.1％)、14歳(3.4％)の順である。これを年齢層別に見ると、中間少年(47.8％)、年長少年(37.8％)、年少少年(14.5％)の順となっている。年齢層別構成比の推移を見ると、年少少年及び中間少年の比率がおおむね上昇し、年長少年の比率が低下する傾向が認められる。

入所回数について累計して見ると、入所回数が初回の者の比率は75.5％であり、平成8年まではおおむね上昇しているが、9年には低下している。

イ 職業等・教育程度

強盗少年の職業等について累計して見ると、無職(40.9％)が最も多く、以下、有職(33.2％)、学生・生徒(25.9％)の順となっており、学生・生徒の比率は、平成3年までは低下傾向にあったが、6年以降上昇傾向にある。

教育程度について累計して見ると、中学卒業（33.7％）、高校中退（30.3％）、高校在学（22.0％）、中学在学（6.6％）、高校卒業（6.6％）の順となっている。この10年間では、中学卒業の比率の低下傾向と高校中退・在学の比率の上昇傾向が見られる。

ウ 非行動機

強盗少年の非行動機について累計して見ると、「お金や物が欲しくて」（47.1％）が最も多く、以下、「誘われて、その気になって」（15.6％）、「かっとなって」（9.6％）、「うさ晴らし」（8.0％）、「突っ張り」（4.4％）の順となっている。10年間の推移では、「お金や物が欲しくて」が一貫して1位を占めているが、その比率は低下しており、また、2位以下の動機については、多少の変動が見られる。

エ 共犯関係

強盗少年の本件非行時の共犯者数について累計して見ると、5人以上（28.4％）が最も多く、以下、2人（19.6％）、4人（19.0％）、3人（19.0％）、単独（13.0％）、不特定多数（0.9％）の順である。10年間では5人以上が、平成2年以降、7年の2位を除いて、一貫して1位を占めているが、2位以下については一定の傾向は認められない。

共犯者のいる者について、共犯者との関係を累計して見ると、地域仲間（57.0％）、学校仲間（11.4％）、暴走族（7.7％）の順である。この10年間、地域仲間が1位を占めており、しかもその比率が上昇しているのに対し、共犯者のいない者の比率が低下している。

オ 不良集団所属

強盗少年の不良集団所属について累計して見ると、不良集団に所属している者の比率は51.4％と半数を超えており、一方、不良集団に所属している者の所属不良集団については、地域不良集団（28.8％）、暴走族（12.3％）、不良学生・生徒集団（4.1％）、暴力団（2.6％）の順となっている。

この10年間では、不良集団に所属していない者の比率は低下している。

カ 問題行動歴

強盗少年の問題行動歴について累計して見ると、経験者の占める比率は、毒劇物が36.3％、覚せい剤が2.8％、喫煙が94.5％、飲酒が84.5％、家出が42.4％、無免許運転が64.6％、暴走行為が31.4％、万引きが52.7％、文身が9.4％、性経験が76.4％となっており、総数より比率が高いのは、飲酒のみである。

この10年間の推移では、毒劇物、家出の低下傾向が見られる。

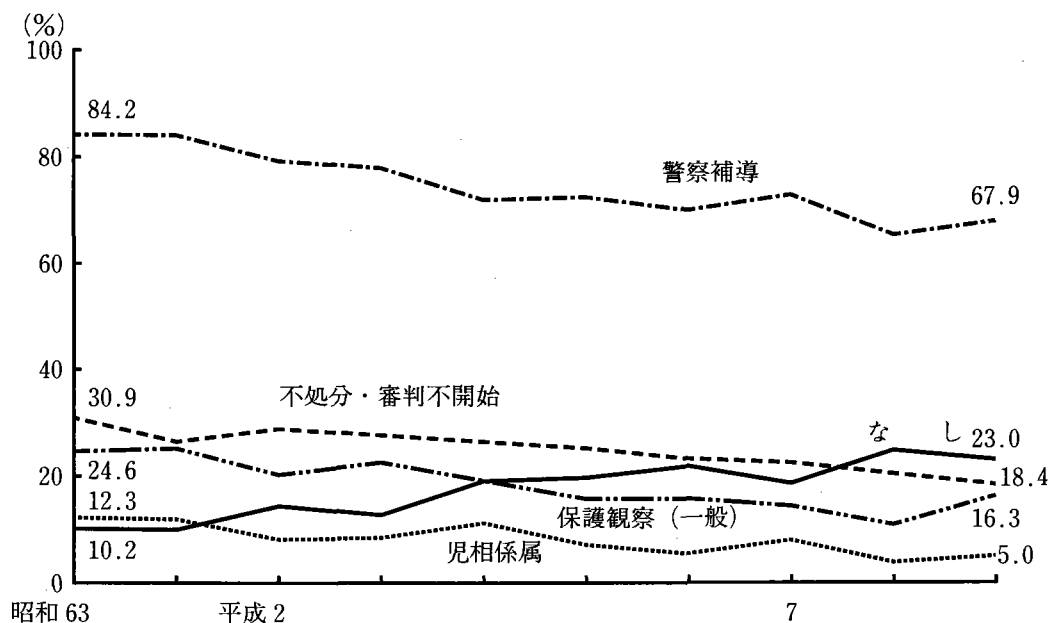
キ 在宅保護歴

強盗少年の在宅保護歴について累計して見ると、保護歴のない者の占める比率が19.4％となっており、総数よりも高い。一方、警察補導歴のある者は72.4％、児相係属歴のある者は7.1％、不処分・審判不開始歴のある者は23.4％、保護観察（一般）歴のある者は17.2％となっており、いずれも総数より低い比率を示している。

図27は、強盗少年の在宅保護歴について、この10年間の推移を見たものである。在宅保護歴のない者の比率が上昇する一方、各在宅保護歴のある者の比率はおおむね低下している。

図27 強盗少年の在宅保護歴

(昭和63年～平成9年)



注 重複計上による。

ク 保護施設歴

強盗少年の保護施設歴について累計して見ると、保護施設歴のない者の占める比率が87.5%であり、次いで、中等少年院歴のある者は4.1%、教護院歴のある者は3.7%、初等少年院歴のある者は2.6%となっており、その他は2.0%以下である。

この10年間では、保護施設歴のある者の比率がわずかに低下し、保護施設歴のない者の比率が上昇している。

ケ 保護者等

この10年間で累計して、強盗少年の実父母率を見ると、59.7%と総数よりも高くなっており、また、10年間では、おおむね上昇傾向にある。

保護者の生活程度が中程度以上の者について累計して見ると、88.0%であり、この10年間ではおおむね上昇傾向にある。

コ 親の養育態度

強盗少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任(39.0%)が最も多く、以下、普通(28.8%)、厳格(13.7%)、一貫性なし(8.0%)、溺愛(2.4%)の順であり、総数に比べて普通の比率が高い。母では、普通(35.8%)が最も多く、以下、放任(30.2%)、溺愛(8.9%)、一貫性なし(8.3%)、過干渉(8.2%)の順であり、やはり総数に比べて普通(総数では2位)の比率が高い。

この10年間の推移を見ると、父では大きな変動がないのに対し、母では、放任の低下と普通の上昇が見られ、昭和63年以降1位であった放任が、平成4年から普通に入れ替わっている。

サ 親への態度

強盗少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、親和・信頼(39.1%)、両価(20.4%)、無関心(13.7%)、依存(8.6%)、拒否(7.6%)の順であり、母に対しては、親和・信頼(45.8%)、依存(19.6%)、両価(18.0%)、無関心(8.4%)、拒否(3.7%)の順である。父母いずれに対しても、

1 位は 10 年間一貫して親和・信頼であり、しかも、母に対しての比率は上昇しているが、2 位以下は年次により変化が見られる。

シ 現在の家族の問題

強盗少年につき、現在の家族の問題について累計して見ると、該当者の比率が総数より高いのは、家族に問題がない者（強盗が 11.6 %，総数が 8.9 %）と家族間不和（同 6.4 %，6.3 %）である。

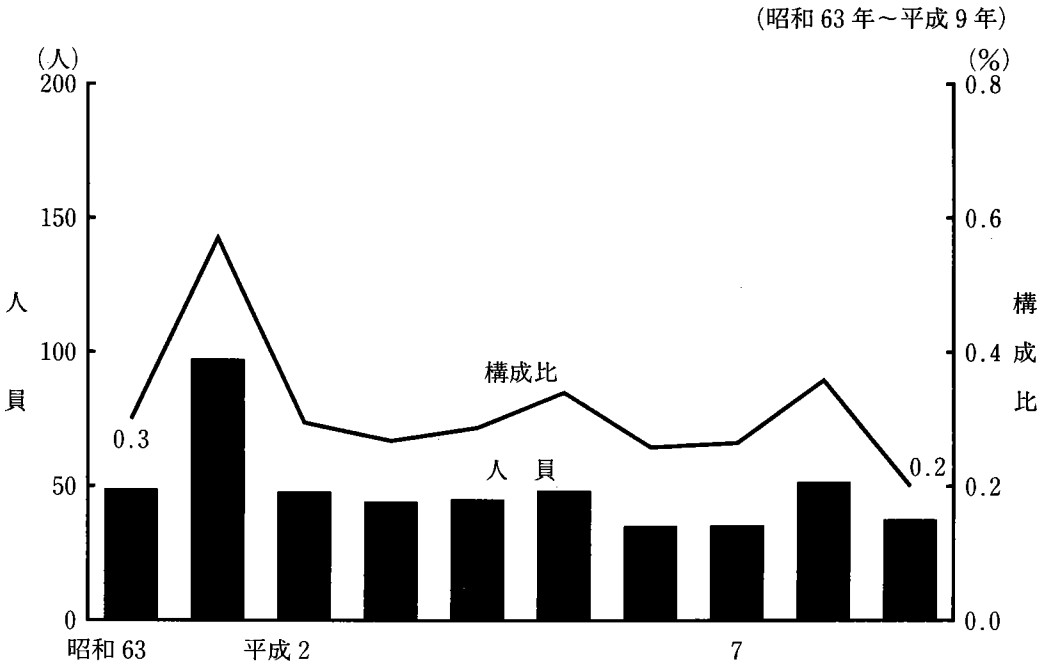
この 10 年間の推移を見ると、大きな変動はない。

(6) 殺人

ア 人員・年齢等

鑑別所収容少年のうち、非行名が殺人である少年（以下「殺人少年」という。）の人員及び総数に占める構成比の推移は、図 28 のとおりである。

図28 殺人少年の人員及び構成比



殺人少年の人員は、平成元年の 98 人を除いて、35 人から 51 人の間で推移し、総数に占める構成比も、同年の 0.6 %を除き、0.2 %から 0.4 %の間で一定している。女子比は、平成 4 年の 24.4 %を除き、20 %未満で推移している。

殺人少年の年齢について累計して見ると、19 歳 (29.4 %) が最も多く、以下、18 歳 (25.5 %), 17 歳 (21.6 %), 16 歳 (11.6 %), 15 歳 (8.8 %), 14 歳 (2.4 %) の順である。これを年齢層別に見ると、年長少年 (55.0 %), 中間少年 (33.3 %), 年少少年 (11.7 %) の順となっている。年齢層別構成比の推移を見ると、年次による差が大きいものの、一貫して年長少年の比率が最も高い。

入所回数について累計して見ると、入所回数が初回の者の比率は 72.4 %であり、昭和 63 年の 61.2 %から平成 9 年の 81.1 %までばらついており、一定の傾向は見られない。

イ 職業等・教育程度

殺人少年の職業等について累計して見ると、有職 (39.8 %) が最も多く、以下、無職 (37.0 %), 学生・生徒 (23.2 %) の順となっている。この比率には、年次による差が大きい。

教育程度について累計して見ると、中学卒業 (38.6 %), 高校中退 (27.6 %), 高校在学 (16.3 %),

高校卒業(8.2%), 中学在学(6.6%)の順となっている。この10年間では、大きな変化は見られない。

ウ 非行動機

殺人少年の非行動機について累計して見ると、「かっとなって」(43.5%)が最も多く、以下、「誘われて、その気になって」(11.9%)、「反発したくなって」(5.2%)、「いやなことから逃げたくて」(4.0%)、「お金や物が欲しくて」(2.7%)の順となっている。

この10年間の推移では、平成元年(「誘われて、その気になって」が1位)を除き、「かっとなって」が一貫して1位である。

エ 共犯関係

殺人少年の本件非行時の共犯者数について累計して見ると、単独(65.6%)が最も多く、以下、5人以上(16.5%)、2人(9.3%)、4人(4.9%)、3人(2.7%)、不特定多数(1.0%)の順である。単独は、平成元年(5人以上が1位)を除き、10年間一貫して1位である。

共犯者のいる者について、共犯者との関係を累計して見ると、暴走族(12.4%)、地域仲間(6.2%)、暴力団(6.0%)の順である。ほとんどの年次において、単独犯行が多いため、共犯については特定の傾向は見られない。

オ 不良集団所属

殺人少年の不良集団所属について累計して見ると、不良集団に所属していない者が63.6%と圧倒的に多く、一方、不良集団に所属している者の所属不良集団については、暴走族(13.8%)、暴力団(11.0%)、地域不良集団(7.6%)の順となっている。

この10年間では、不良集団に所属していない者の比率は、平成元年を除き、60%台から70%台となっている。

カ 問題行動歴

殺人少年の問題行動歴について累計して見ると、経験者の占める比率は、毒劇物が36.4%、覚せい剤が5.2%、喫煙が83.1%、飲酒が74.6%、家出が37.7%、無免許運転が49.8%、暴走行為が29.7%、万引きが36.5%、文身が13.1%、性経験が72.8%となっており、総数より比率が高いのは、文身のみである。

この10年間の推移では、毒劇物の低下傾向が見られる。

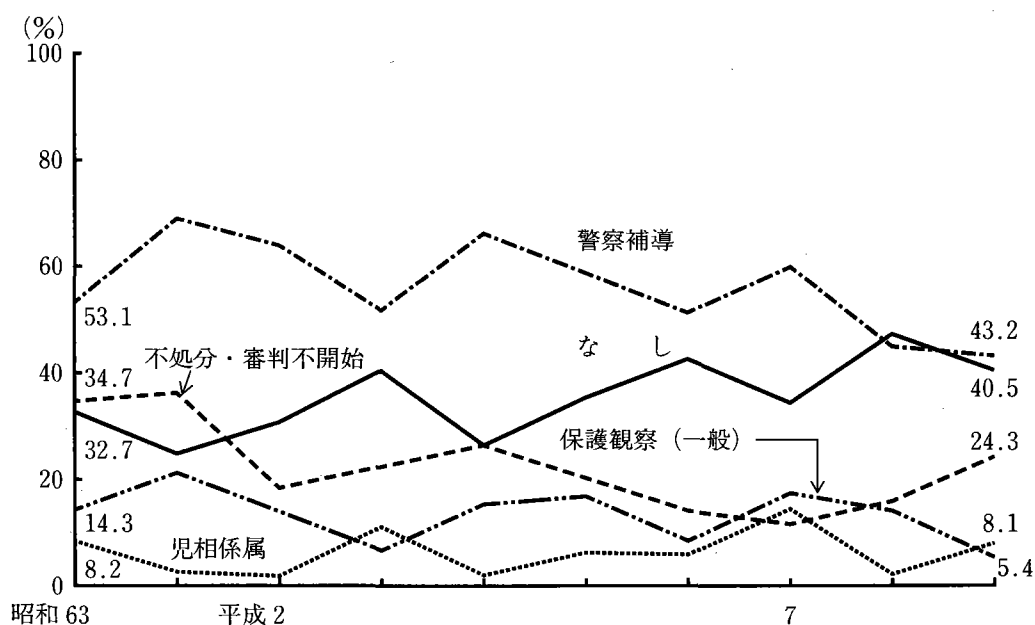
キ 在宅保護歴

殺人少年の在宅保護歴について累計して見ると、保護歴のない者の占める比率が34.5%であり、総数よりも高い。一方、警察補導歴のある者は58.0%、児相係属歴のある者は5.7%、不処分・審判不開始歴のある者は24.5%、保護観察(一般)歴のある者は14.5%となっており、各在宅保護歴は、いずれも総数より低い比率となっている。

図29は、殺人少年の在宅保護歴について、この10年間の推移を見たものであり、特定の傾向は見られない。

図29 殺人少年の在宅保護歴

(昭和63年～平成9年)



注 重複計上による。

ク 保護施設歴

殺人少年の保護施設歴について累計して見ると、保護施設歴のない者の占める比率が88.4%であり、次いで、中等少年院歴のある者が4.1%、初等少年院歴のある者が3.1%、教護院歴のある者が2.9%となっており、その他は2.0%未満である。

この10年間では、保護施設歴のある者の比率がほぼ80%を超え、ほとんどの年次で90%に近い比率となっている。

ケ 保護者等

この10年間で累計して、殺人少年の実父母率を見ると、55.8%と総数よりやや高くなっている。

保護者の生活程度が中程度以上の者について累計して見ると、80.3%であり、総数より低い。

コ 親の養育態度

殺人少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任(43.3%)が最も多く、以下、普通(22.2%)、厳格(12.8%)、一貫性なし(8.3%)、溺愛(4.7%)の順である。母では、放任(29.2%)が最も多く、以下、普通(27.6%)、溺愛(12.4%)、一貫性なし(10.6%)、過干渉(7.4%)の順である。

この10年間を見ると、父では1位、2位は変動がないのに対し、母では、年次による順位の変動が大きい。

サ 親への態度

殺人少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、親和・信頼(31.0%)、両価(19.9%)、無関心(15.4%)、拒否(10.9%)、依存(7.7%)の順であり、母に対しては、親和・信頼(36.3%)、両価(22.8%)、依存(14.9%)、無関心(10.1%)、拒否(6.7%)の順である。父母いずれに対しても、この10年間では、1位は、ほとんどの年次で親和・信頼であるが、2位以下は年次により変動が見られる。

シ 現在の家族の問題

殺人少年につき、現在の家族の問題について累計して見ると、該当者の比率が総数より高いのは、崩壊・離散（殺人が7.8％、総数が6.0％）、経済的困窮（同6.9％、6.3％）、父母間葛藤（同12.9％、8.4％）、父母のしつけの不一致（同9.6％、7.2％）、交流不足（同43.5％、41.3％）、家族に問題がない者（同10.4％、8.9％）である。

この10年間の推移を見ると、各項目とも年次による変動が大きい。

3 非行名別・男女別の特徴

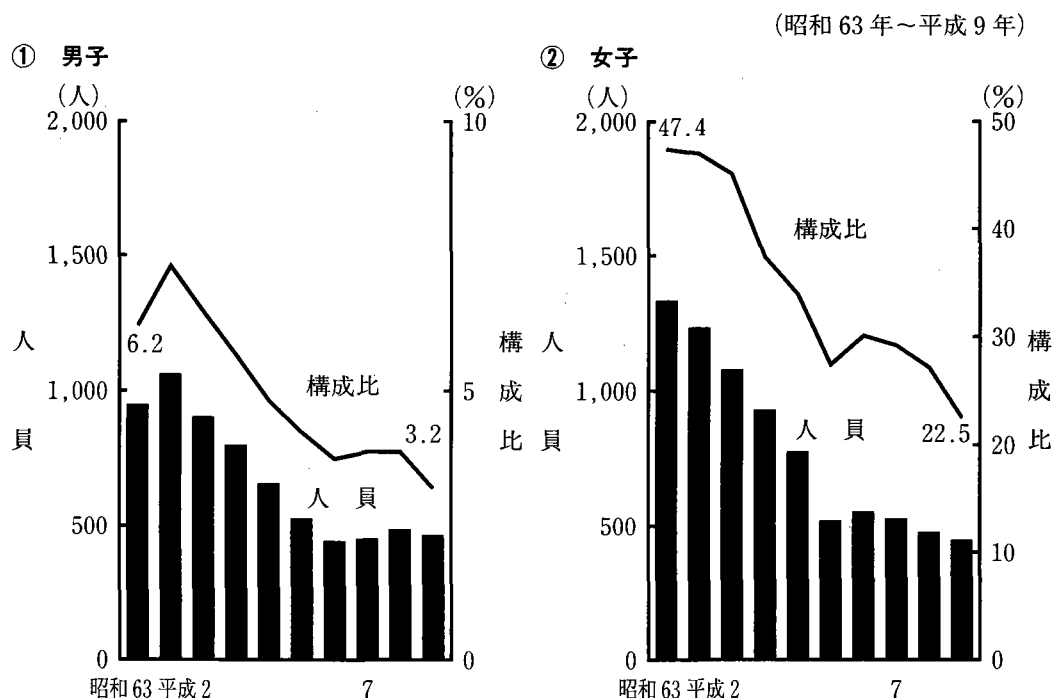
図2に示したように、鑑別所収容少年の非行名は男女によりかなり異なる。したがって、ここでは女子比の高い非行、すなわち、虞犯、毒劇法違反、覚せい剤取締法違反の特質について男女別に見ることとする。

(1) 虞犯

ア 人員・年齢等

鑑別所収容少年のうち、非行名が虞犯である少年（以下「虞犯少年」という。）の男女別人員及び総数に占める構成比の推移は、図30のとおりである。

図30 虞犯少年の男女別人員及び構成比



虞犯少年の人員及び構成比は、減少・低下傾向を示しており、女子比も平成7年以降低下し、50％前後で推移している。

虞犯少年の年齢について累計して見ると、男子では14歳（30.3％）が最も多く、以下、15歳（24.8％）、16歳（14.4％）、17歳（12.7％）、18歳（7.9％）、19歳（5.0％）の順である。これを年齢層別に見ると、年少少年（59.5％）、中間少年（27.1％）、年長少年（13.4％）の順となっている。この10年間の推移では、年少少年の比率の上昇傾向と年長少年の比率の低下傾向が見られる。同じく、女子では15歳（28.8％）が最も多く、以下、14歳（25.3％）、16歳（22.4％）、17歳（16.0％）、18歳（4.6％）、

19歳(1.5%)の順であり、年齢層別には、年少少年(55.4%)、中間少年(38.4%)、年長少年(6.1%)の順となっている。10年間の推移では、大きな変化はなく、年少少年の比率が常に50%を超えている。

入所回数について累計して見ると、入所回数が初回の者の比率は、男子が68.0%、女子が79.1%であり、この10年間では、男子が70%前後、女子が80%前後で推移している。

イ 職業等・教育程度

虞犯少年の職業等について累計して見ると、男女共に学生・生徒(男子54.1%、女子50.1%)が最も多く、以下、無職(同34.8%、42.1%)、有職(同11.1%、7.8%)の順となっている。男子では、学生・生徒の比率が上昇傾向にある。

教育程度について累計して見ると、男女共に中学在学(男子50.8%、女子43.3%)、中学卒業(同31.5%、29.3%)、高校中退(同13.2%、19.3%)、高校在学(同3.7%、7.3%)、高校卒業(同0.4%、0.5%)の順となっている。この10年間では、男子の中学在学の比率がおおむね上昇しているが、女子には変動は見られない。

ウ 非行動機

虞犯少年の非行動機について累計して見ると、男女共に「遊び」(男子29.9%、女子39.4%)が最も多く、以下、「いやなことから逃げたくて」(同12.3%、13.4%)、「うき晴らし」(同10.5%、8.7%)の順であるが、4位が、男子で「かっとなって」(6.1%)、女子で「反発したくなって」(8.2%)、5位が男女共に「お金や物が欲しくて」(男子5.7%、女子4.5%)となっている。

この10年間の推移では、男女共に「遊び」が一貫して1位である。

エ 共犯関係

虞犯少年の本件非行時の共犯者数について累計して見ると、男女共に単独(男子78.9%、女子77.8%)が最も多く、次いで、2人(同7.2%、11.5%)となっているが、3位以下は、男子が3人(4.0%)、5人以上(3.8%)、不特定多数(3.6%)、4人(2.5%)、女子が不特定多数(4.0%)、3人(3.1%)、5人以上(2.3%)、4人(1.3%)となっている。

この10年間を見ると、男女共に単独が一貫して1位を占めており、しかもその比率は緩やかに上昇している。

共犯者のいる者について、共犯者との関係を累計して見ると、男女共に地域仲間(男子9.0%、女子8.8%)、学校仲間(同6.9%、6.3%)の順であり、10年間では変化は見られない。

オ 不良集団所属

虞犯少年の不良集団所属について累計して見ると、不良集団に所属していない者の比率は、男子で43.4%、女子で55.6%であり、一方、不良集団に所属している者の所属不良集団については、男子が不良学生・生徒集団(22.8%)、地域不良集団(21.6%)、暴走族(6.5%)の順、女子が地域不良集団(23.4%)、不良学生・生徒集団(13.8%)、暴走族(4.1%)の順となっている。男子では不良学生・生徒集団と地域不良集団が、年次により1位と2位が入れ替わっているのに対し、女子では一貫して地域不良集団が1位を占めている。

カ 問題行動歴

虞犯少年の問題行動歴について累計して見ると、経験者の占める比率は、男子では毒劇物が59.2%、覚せい剤が2.2%、喫煙が94.4%、飲酒が73.9%、家出が77.5%、無免許運転が76.0%、暴走行為が32.2%、万引きが64.8%、文身が9.0%、性経験が50.0%となっており、男子総数より比率が高いのは、毒劇物、家出及び万引きである。この10年間の推移では、毒劇物の比率の低下、暴走行為の比率

の緩やかな上昇及び平成6年以降の万引きの比率の上昇が見られる。

女子では、毒劇物が66.5%，覚せい剤が9.7%，喫煙が93.9%，飲酒が81.5%，家出が94.4%，無免許運転が43.1%，暴走行為が18.4%，万引きが63.0%，文身が9.2%，性経験が91.4%となっており、女子総数より比率が高いのは、家出及び万引きである。この10年間の推移では、毒劇物の比率の低下と覚せい剤の比率の緩やかな上昇が見られる。

経験者の占める比率が男子の方が高いのは、喫煙、無免許運転、暴走行為及び万引きであり、その他は女子の方が高くなっている。

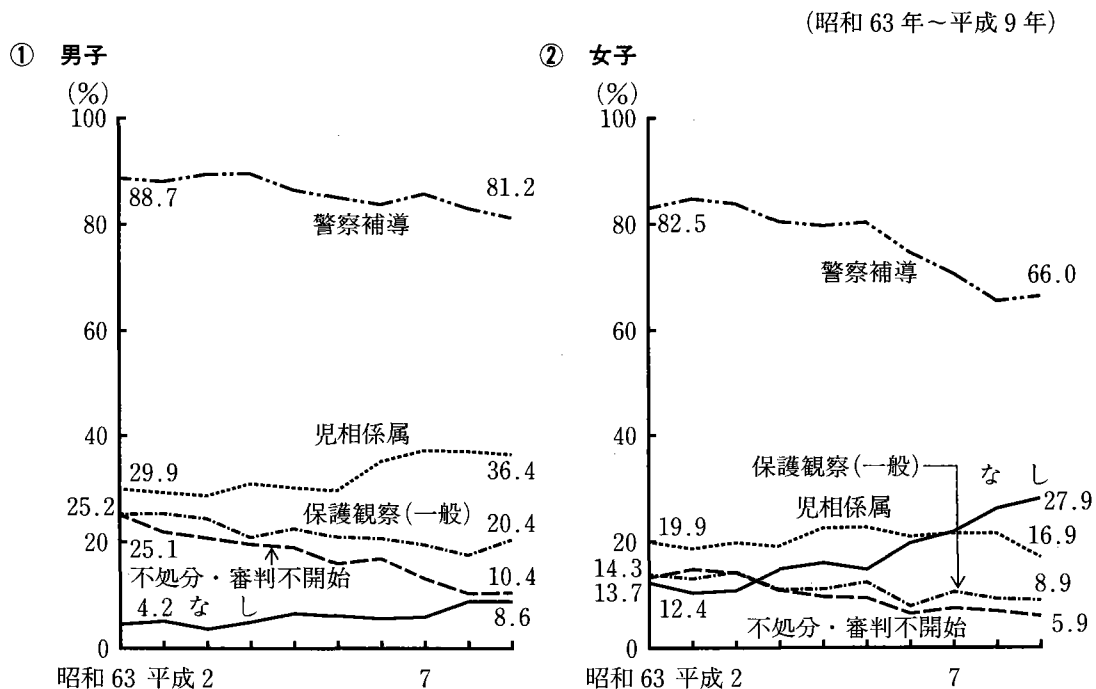
キ 在宅保護歴

虞犯少年の在宅保護歴について累計して見ると、男子では保護歴のない者の占める比率が5.4%であり、男子総数よりも低い。一方、警察補導歴のある者は86.7%，児相係属歴のある者は31.2%，不処分・審判不開始歴のある者は18.4%，保護観察（一般）歴のある者は22.1%となっており、警察補導歴のある者及び児相係属歴のある者の比率が、いずれも男子総数より高くなっている。

女子では在宅保護歴のない者の占める比率が15.3%であり、女子総数よりも低い。一方、警察補導歴のある者は78.7%，児相係属歴のある者は19.9%，不処分・審判不開始歴のある者は11.0%，保護観察（一般）歴のある者は11.9%となっており、男子と同様に、警察補導歴のある者及び児相係属歴のある者の比率が、いずれも女子総数より高くなっている。

図31は、虞犯少年の在宅保護歴について、この10年間の推移を男女別に見たものである。男子では、在宅保護歴のない者及び児相係属歴のある者の比率が上昇し、そのほかは低下している。女子では、在宅保護歴のない者の比率が平成6年以降上昇しているが、そのほかは低下している。

図31 虞犯少年の男女別在宅保護歴



注 重複計上による。

ク 保護施設歴

虞犯少年の保護施設歴について累計して見ると、男子では保護施設歴のない者の占める比率が78.1%

であり、次いで、教護院歴のある者が13.1％、養護施設歴のある者が3.5％、初等少年院歴のある者が2.7％、中等少年院歴のある者が2.6％となっており、その他は2.0％未満である。女子では保護施設歴のない者の占める比率が89.1％であり、次いで、教護院歴のある者が5.7％、養護施設歴のある者が2.8％となっており、その他は1.0％以下である。この10年間の推移では、男子の教護院歴のある者の占める比率が緩やかに上昇している。

ケ 保護者等

この10年間を累計して、虞犯少年の実父母率を見ると、男子が42.1％、女子が43.7％であり、それぞれ、男子総数（55.6％）及び女子総数（47.5％）よりかなり低い。また、この10年間を見ても、男女ともほとんど変動がない。

保護者の生活程度が中程度以上の者について累計して見ると、男子が76.9％、女子が79.0％であり、それぞれ、男子総数（84.6％）及び女子総数（82.3％）より低い。この10年間では、男女共に小幅の上下を繰り返している。

コ 親の養育態度

男子虞犯少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任（44.1％）が最も多く、以下、厳格（16.1％）、一貫性なし（14.2％）、普通（12.8％）、拒否（5.2％）の順である。母では、放任（38.6％）が最も多く、以下、普通（19.4％）、一貫性なし（13.4％）、溺愛（9.2％）、過干渉（8.2％）の順である。10年間を見ると、父母共に1位には変動がない。

女子虞犯少年の親の養育態度を累計して見ると、父では、放任（40.3％）が最も多く、以下、一貫性なし（15.6％）、厳格（14.9％）、普通（13.2％）、拒否（5.0％）の順である。母では、放任（35.5％）が最も多く、以下、普通（18.4％）、一貫性なし（16.8％）、過干渉（10.5％）、厳格（5.8％）の順である。10年間を見ると、父母共に1位には変動がない。

サ 親への態度

男子虞犯少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、両価（24.9％）、親和・信頼（19.3％）、無関心（15.4％）、拒否（14.7％）、依存（9.9％）の順であり、母に対しては、両価（28.5％）、親和・信頼（25.0％）、依存（21.7％）、無関心（9.2％）、拒否（7.4％）の順である。父母いずれに対しても、10年間1位は、ほとんどの年次で両価である。

女子虞犯少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、両価（29.9％）、拒否（25.9％）、親和・信頼（15.0％）、無関心（13.5％）、依存（5.3％）の順であり、母に対しては、両価（39.5％）、親和・信頼（19.5％）、拒否（13.7％）、依存（11.9％）、無関心（7.6％）の順である。この10年間、両価が、父に対してはほとんどの年次で、また、母に対しては一貫して、1位を占めている。

シ 現在の家族の問題

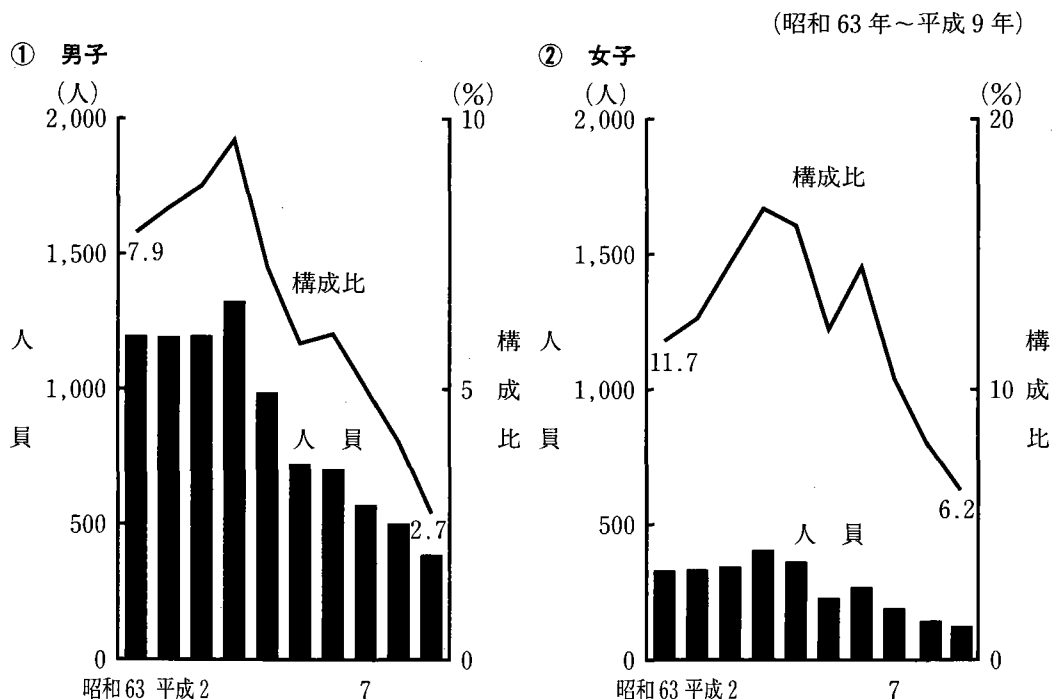
虞犯少年につき、現在の家族の問題について累計して見ると、離婚が男子26.8％、女子27.3％、崩壊・離散が同10.1％、8.8％、しつけ不足が同37.5％、32.4％、経済的困窮が同8.4％、7.4％、父母間葛藤が同10.3％、13.3％、家族間不和が同8.0％、12.2％、父母のしつけの不一致が共に9.6％、本人を疎外が同18.3％、22.8％、交流不足が同45.1％、50.6％、指導力不足が同59.5％、53.8％、家族に問題がない者が同2.8％、2.5％となっており、家族に問題がある者の比率は、男女共にすべての項目において総数より高くなっており、一方、家族に問題のない者の比率は低くなっている。男女共に家庭に問題がある者が多く、この10年間の推移を見ると、各項目に大きな変動はない。

(2) 毒劇法違反

ア 人員・年齢等

鑑別所収容少年のうち、非行名が毒劇法違反である少年（以下「毒劇法少年」という。）の男女別人員及び総数に占める構成比の推移は、図 32 のとおりである。

図32 毒劇法少年の男女別人員及び構成比



毒劇法少年の男女別人員及び構成比は、平成 4 年以降減少・低下傾向を示しており、女子比はおおむね 20 % 台前半で推移している。

毒劇法少年の年齢について累計して見ると、男子では 17 歳 (24.1 %) が最も多く、以下、18 歳 (24.0 %), 19 歳 (22.2 %), 16 歳 (19.8 %), 15 歳 (7.4 %), 14 歳 (2.4 %) の順である。これを年齢層別に見ると、年長少年 (46.3 %), 中間少年 (43.9 %), 年少少年 (9.9 %) の順となっている。10 年間の推移については、平成元年から 4 年まで中間少年が、それ以外は年長少年が、それぞれ最も多くなっている。

一方、女子毒劇法少年の年齢は、16 歳 (30.1 %) が最も多く、以下、17 歳 (24.3 %), 18 歳 (15.0 %), 15 歳 (14.5 %), 19 歳 (9.8 %), 14 歳 (6.3 %) の順である。これを年齢層別に見ると、中間少年 (54.4 %), 年長少年 (24.8 %), 年少少年 (20.8 %) の順となっている。10 年間の推移については、中間少年が一貫して 5 割を超えて推移している。

入所回数について累計して見ると、入所回数が初回の者の比率は男子が 62.0 %, 女子が 73.7 % であり、この 10 年間では、男子が緩やかな上昇傾向を示しており、また、女子がおおむね上昇傾向を示している。

イ 職業等・教育程度

毒劇法少年の職業等について累計して見ると、男子では有職 (49.6 %) が最も多く、以下、無職 (41.3 %), 学生・生徒 (9.1 %) の順、女子では無職 (57.9 %) が最も多く、以下、有職 (24.5 %), 学生・生徒 (17.6 %) の順となっている。男子では 10 年間この順位が変わっていないが、女子では無職が一貫

して1位であるものの、学生・生徒が2位を占めている年次もある。

教育程度について累計して見ると、男女共に中学卒業(男子 56.1 %, 女子 48.6 %), 高校中退(同 30.7 %, 30.4 %), 中学在学(同 5.5 %, 12.2 %), 高校在学(同 5.2 %, 7.1 %), 高校卒業(同 2.3 %, 1.5 %) の順となっている。10 年間では、平成 8 年以降男子の中学卒業の比率の低下と高校中退の比率の上昇が見られるが、女子はほとんど変わらない。

ウ 非行動機

毒劇法少年の非行動機について累計して見ると、男女共に「うさ晴らし」(男子 30.1 %, 女子 27.3 %) が最も多く、以下、「遊び」(同 22.7 %, 26.4 %), 「なんとなく」(同 11.3 %, 12.1 %), 「いやなことから逃げたくて」(同 11.3 %, 11.9 %), 「誘われて、その気になって」(同 8.0 %, 10.1 %) の順である。

10 年間では、男子は1位が「うさ晴らし」、2位が「遊び」でほぼ一貫しているのに対し、女子は1位が「遊び」から「うさ晴らし」に変わっている。

エ 共犯関係

毒劇法少年の本件非行時の共犯者数について累計して見ると、男子では単独 (43.4 %) が最も多く、次いで、2 人 (27.0 %), 3 人 (14.6 %), 4 人 (8.7 %), 5 人以上 (5.5 %) の順となっているが、女子では2 人 (39.9 %) が最も多く、以下、単独 (29.3 %), 3 人 (15.0 %), 4 人 (9.3 %), 5 人以上 (5.5 %) の順となっている。

10 年間を見ると、男子では順位が変わらないものの、単独の比率が上昇しているのに対し、女子では2 人が平成 8 年までは1位を占めているが、その間単独の比率が上昇し、平成 9 年には2 人を抜いて1位になっている。

共犯者のいる者について、共犯者との関係を累計して見ると、男女共に地域仲間(男子 42.2 %, 女子 46.4 %) が最も多くなっているが、その比率は10 年間で低下している。

オ 不良集団所属

毒劇法少年の不良集団所属について、累計して見ると、不良集団に所属していない者の比率は、男子が 47.2 %, 女子が 52.6 % であり、一方、不良集団に所属している者の所属不良集団については、男子が地域不良集団 (35.2 %), 暴走族 (10.2 %), 不良学生・生徒集団 (3.9 %), の順、女子が地域不良集団 (37.0 %), 不良学生・生徒集団 (5.8 %), 暴走族 (3.4 %) の順となっている。

10 年間の推移では、男子で暴走族の占める比率の上昇傾向が見られる。

カ 問題行動歴

毒劇法少年の問題行動歴について累計して見ると、経験者の占める比率は、男子では毒劇物が 99.3 %, 覚せい剤が 1.8 %, 喫煙が 99.1 %, 飲酒が 87.6 %, 家出が 48.0 %, 無免許運転が 79.7 %, 暴走行為が 41.9 %, 万引きが 51.0 %, 文身が 11.1 %, 性経験が 84.0 % となっており、男子総数より比率が高いのは、毒劇物、喫煙、飲酒、家出、無免許運転及び性経験である。10 年間の推移では、万引きの比率の上昇と文身の比率の緩やかな上昇が見られる。

女子では、毒劇物が 99.6 %, 覚せい剤が 6.2 %, 喫煙が 98.0 %, 飲酒が 86.0 %, 家出が 74.1 %, 無免許運転が 57.6 %, 暴走行為が 22.1 %, 万引きが 59.9 %, 文身が 11.4 %, 性経験が 94.0 % となっており、女子総数より比率が高いのは、毒劇物、喫煙、飲酒、無免許運転、暴走行為、文身及び性経験である。10 年間の推移では、ほとんど変化が見られない。

経験者の占める比率が男子の方が高いのは、喫煙、飲酒、無免許運転及び暴走行為であり、そのほかは女子の方が高くなっている。

キ 在宅保護歴

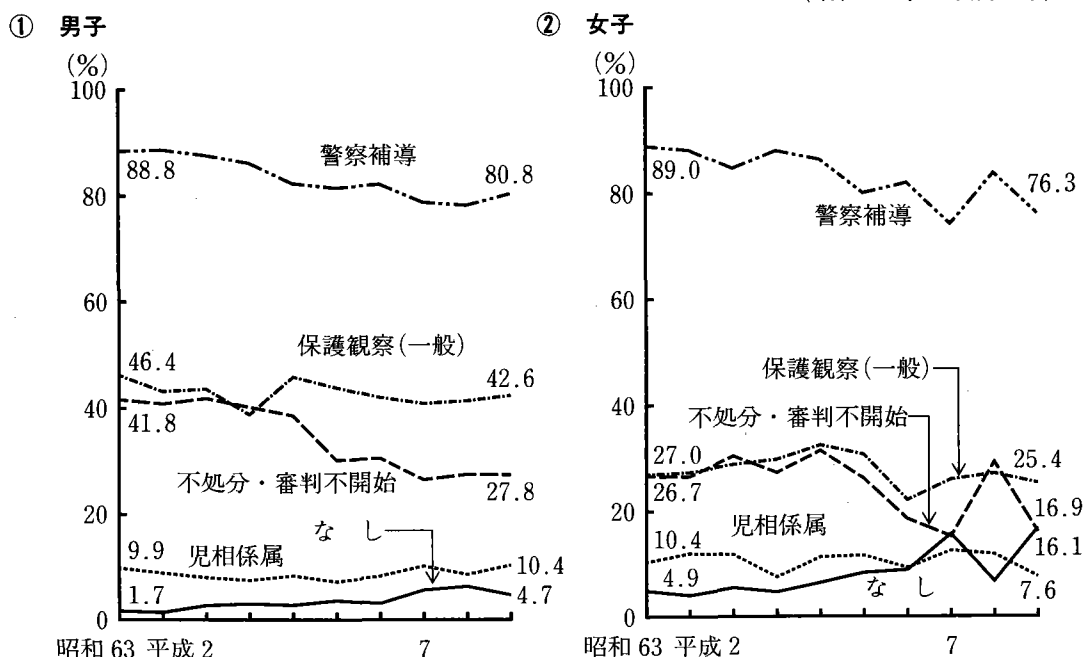
毒劇法少年の在宅保護歴について累計して見ると、男子では在宅保護歴のない者の占める比率が2.9%であり、男子総数よりも低い。一方、警察補導歴のある者は85.1%，児相係属歴のある者は8.5%，不処分・審判不開始歴のある者は37.1%，保護観察（一般）歴のある者は43.3%となっており、警察補導歴のある者、不処分・審判不開始歴のある者及び保護観察（一般）歴のある者の比率が、いずれも男子総数より高くなっている。

女子では在宅保護歴のない者の占める比率が7.1%であり、女子総数よりも低い。一方、警察補導歴のある者は84.6%，児相係属歴のある者は10.6%，不処分・審判不開始歴のある者は26.1%，保護観察（一般）歴のある者は28.2%となっており、男子と同様に、警察補導歴のある者、不処分・審判不開始歴のある者及び保護観察（一般）歴のある者の比率が、いずれも女子総数より高くなっている。

図33は、毒劇法少年の在宅保護歴について、この10年間の推移を男女別に見たものである。男子では、在宅保護歴のない者の比率が上昇傾向を示す一方、警察補導歴のある者及び不処分・審判不開始歴のある者の比率が低下傾向を示している。女子では、在宅保護歴のない者の比率が上昇傾向を示している。

図33 毒劇法少年の男女別在宅保護歴

(昭和63年～平成9年)



注 重複計上による。

ク 保護施設歴

毒劇法少年の保護施設歴について累計して見ると、男子では保護施設歴のない者の占める比率が83.6%であり、次いで、中等少年院歴のある者が4.4%，教護院歴のある者が4.3%，中等少年院（一般短期）歴のある者が3.8%，初等少年院歴のある者が2.5%となっており、その他は2.0%未満である。

女子では保護施設歴のない者の占める比率が90.2%であり、次いで、教護院歴のある者が4.2%となっており、その他は2.0%未満である。10年間の推移では、男女共に顕著な変化は見られない。

ケ 保護者等

この10年間を累計して、毒劇法少年の実父母率を見ると、男子が55.9％、女子が49.0％となっており、男子総数（55.6％）及び女子総数（47.5％）と大きな相違はない。また、10年間を見ても、男女とも大きな変動はない。

保護者の生活程度が中程度以上の者について累計して見ると、男女共に86.4％であり、男子総数（84.6％）及び女子総数（82.3％）より高い。また、10年間では、ほとんど変化はない。

コ 親の養育態度

男子毒劇法少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任（45.5％）が最も多く、以下、普通（22.1％）、厳格（12.3％）、一貫性なし（10.0％）、溺愛（3.1％）の順である。母では、放任（36.1％）が最も多く、以下、普通（29.5％）、一貫性なし（9.7％）、溺愛（9.2％）、過干渉（7.9％）の順である。10年間を見ると、平成9年に母で普通が1位である以外は、父母共に1位の放任には変動がない。

女子毒劇法少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任（44.5％）が最も多く、以下、普通（16.0％）、一貫性なし（13.8％）、厳格（12.3％）、溺愛（4.2％）の順である。母では、放任（38.8％）が最も多く、以下、普通（23.8％）、一貫性なし（14.0％）、過干渉（7.7％）、厳格（4.9％）の順である。10年間を見ると、父では1位に変動がないものの、母では平成9年に普通が1位となっている。

サ 親への態度

男子毒劇法少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、親和・信頼（33.7％）、両価（20.5％）、無関心（14.4％）、依存（11.4％）、拒否（8.2％）の順であり、母に対しては、親和・信頼（40.6％）、依存（22.7％）、両価（19.1％）、無関心（8.5％）、拒否（3.4％）の順である。父母いずれに対しても、10年間1位は変わらない。

女子毒劇法少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、両価（27.8％）、親和・信頼（25.2％）、拒否（16.3％）、無関心（13.8％）、依存（8.3％）の順であり、母に対しては、親和・信頼（32.6％）、両価（31.7％）、依存（16.2％）、拒否（6.5％）、無関心（5.8％）の順である。10年間、父母いずれに対しても、年次により両価と親和・信頼とが1位、2位を分け合っている。

シ 現在の家族の問題

毒劇法少年につき、現在の家族の問題について累計して見ると、該当者の占める比率が総数より高いのは、男子では離婚（20.9％）、父母間葛藤（8.3％）、家族間不和（5.7％）、指導力欠如（54.0％）であり、女子では離婚（27.2％）、指導力欠如（53.7％）である。一方、家族に問題がない者の比率は、男子では男子総数より低く、女子では女子総数より高くなっている。

10年間の推移を見ると、男女共にしつけ不足の比率の低下傾向及び交流不足の比率の上昇傾向が、また、男子で指導力欠如の比率の上昇傾向が見られる。

(3) 覚せい剤取締法違反

ア 人員・年齢等

鑑別所収容少年のうち、非行名が覚せい剤取締法違反である少年（以下「覚せい剤少年」という。）の男女別人員及び総数に占める構成比の推移は、図34のとおりである。

覚せい剤少年の人員及び構成比は、平成3年以降おおむね増加・上昇を示しており、女子比はおおむね50％前後で推移している。

覚せい剤少年の年齢について累計して見ると、男子では19歳（50.4％）が最も多く、以下、18歳（29.2％）、17歳（14.0％）、16歳（4.8％）、15歳（1.2％）、14歳（0.3％）の順である。これを年齢層別に

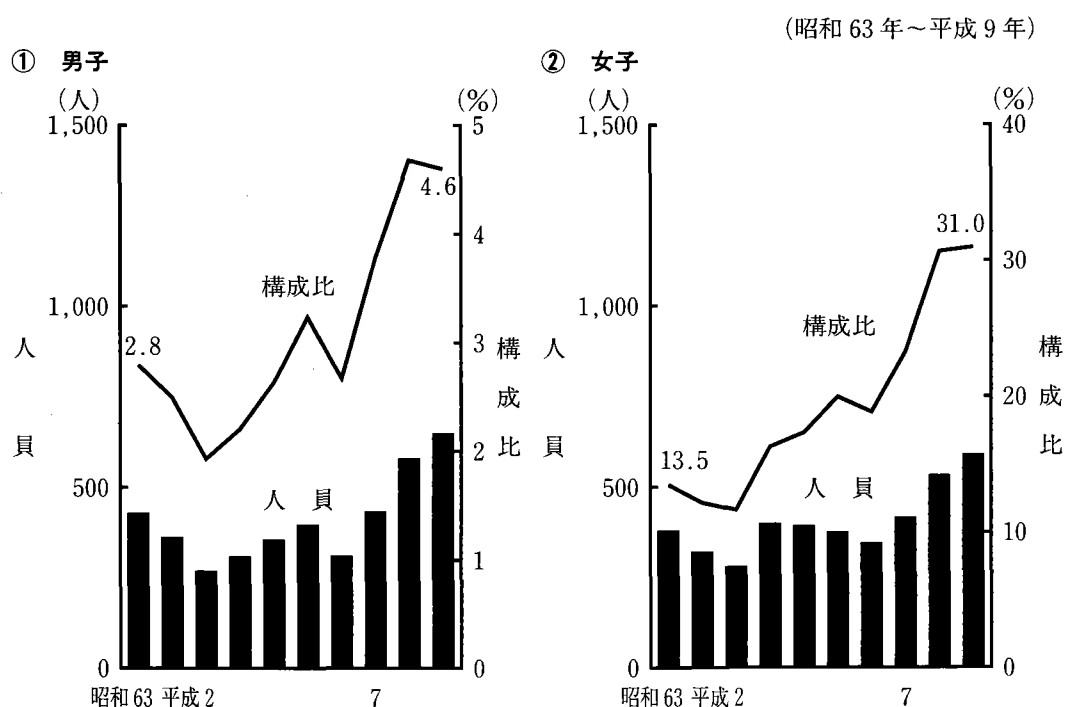
見ると、年長少年（79.7％）、中間少年（18.8％）、年少少年（1.5％）の順となっている。

10年間の推移については、年長少年が、いずれの年次も圧倒的多数を占めてはいるが、平成8年以降年長少年の比率の低下傾向と中間少年の比率の上昇傾向が見られる。

一方、女子覚せい剤少年の年齢は、19歳（32.7％）が最も多く、以下、18歳（29.6％）、17歳（20.4％）、16歳（12.3％）、15歳（3.9％）、14歳（1.0％）の順である。これを年齢層別に見ると、年長少年（62.4％）、中間少年（32.7％）、年少少年（4.9％）の順となっている。10年間の推移については、年長少年が一貫して多い。

入所回数について累計して見ると、入所回数が初回の者の比率は、男子が60.9％、女子が72.7％であり、この10年間では、男女共に上昇傾向を示している。

図34 覚せい剤少年の男女別人員及び構成比



イ 職業等・教育程度

覚せい剤少年の職業等について累計して見ると、男子では有職（50.0％）が最も多く、以下、無職（45.1％）、学生・生徒（4.8％）の順、女子では無職（59.8％）が最も多く、以下、有職（31.0％）、学生・生徒（9.2％）の順となっている。10年間の推移では、男女共に学生・生徒の比率の上昇傾向が見られる。

教育程度について累計して見ると、男女共に中学卒業（男子50.7％、女子42.9％）、高校中退（同36.3％、38.2％）、高校卒業（同6.1％、7.9％）、高校在学（同5.2％、7.9％）、中学在学（同0.7％、1.9％）の順となっている。10年間では、男子で中学卒業の比率の低下と高校中退・高校在学の比率の上昇、女子で中学卒業の比率の低下と高校在学の比率の上昇とが見られる。

ウ 非行動機

覚せい剤少年の非行動機について累計して見ると、男女共に「好奇心」（男子31.2％、女子27.8％）が最も多いが、以下の順は異なり、男子では「うさ晴らし」（19.3％）、「遊び」（12.4％）、「誘われて、その気になって」（10.1％）、「いやなことから逃げたくて」（7.0％）の順、女子では「誘われて、その

気になって」(20.1%)、「うき晴らし」(14.6%)、「いやなことから逃げたくて」(9.2%)「遊び」(8.4%)の順となっている。

10年間の推移では、男女共に1位、2位はほぼ一貫しているものの、「好奇心」の比率の低下と「うき晴らし」の比率の上昇が見られる。

エ 共犯関係

覚せい剤少年の本件非行時の共犯者数について累計して見ると、男子では単独(45.3%)が最も多く、次いで、2人(32.6%)、3人(12.8%)、4人(5.6%)、5人以上(3.0%)の順となっているが、女子では2人(60.1%)が最も多く、以下、単独(23.0%)、3人(9.5%)、4人(4.7%)、5人以上(1.9%)の順となっている。

10年間の推移を見ると、男子では順位が変わらないものの、単独の比率が上昇しており、また、女子も2人が一貫して1位ではあるが、単独の比率が上昇している。

共犯者のいる者について、共犯者との関係を累計して見ると、男子では地域仲間(31.4%)が最も多いが、その比率は10年間で低下している。一方、女子では愛人(26.3%)、地域仲間(18.3%)の順であるが、愛人の比率は平成8年以降低下している。

オ 不良集団所属

覚せい剤少年の不良集団所属について、累計して見ると、不良集団に所属していない者の比率は、男子が50.8%、女子が71.0%であり、一方、不良集団に所属している者の所属不良集団については、地域不良集団(男子24.3%、女子19.3%)、暴力団(同11.9%、5.2%)、暴走族(同10.4%、2.3%)の順となっている。

10年間の推移については、男女共に不良集団に所属していない者の比率の上昇と暴力団の比率の低下傾向が認められる。

カ 問題行動歴

覚せい剤少年の問題行動歴について、累計して見ると、経験者の占める比率は、男子では毒劇物が76.4%、覚せい剤が96.6%、喫煙が99.2%、飲酒が92.9%、家出が45.5%、無免許運転が77.3%、暴走行為が48.4%、万引きが48.9%、文身が24.4%、性経験が96.3%となっており、男子総数より比率が高いのは、毒劇物、覚せい剤、喫煙、飲酒、暴走行為、文身及び性経験である。10年間の推移では、毒劇物の比率の低下が見られる。

女子では、毒劇物が75.1%、覚せい剤が98.0%、喫煙が96.9%、飲酒が89.8%、家出が73.5%、無免許運転が45.7%、暴走行為が19.3%、万引きが56.1%、文身が14.0%、性経験が98.8%となっており、女子総数より比率が高いのは、毒劇物、覚せい剤、喫煙、飲酒、文身及び性経験である。10年間の推移では、毒劇物及び暴走行為の比率の低下傾向が見られる。

経験者の占める比率が男子の方が高いのは、毒劇物、喫煙、飲酒、無免許運転、暴走行為及び文身であり、その他は女子の方が高くなっている。

キ 在宅保護歴

覚せい剤少年の在宅保護歴について累計して見ると、男子では在宅保護歴のない者の占める比率が9.7%であり、男子総数よりもわずかに高い。一方、警察補導歴のある者は76.7%、児相係属歴のある者は7.1%、不処分・審判不開始歴のある者は35.3%、保護観察(一般)歴のある者は37.9%となっており、不処分・審判不開始歴のある者及び保護観察(一般)歴のある者の比率が、それぞれ男子総数より高くなっている。

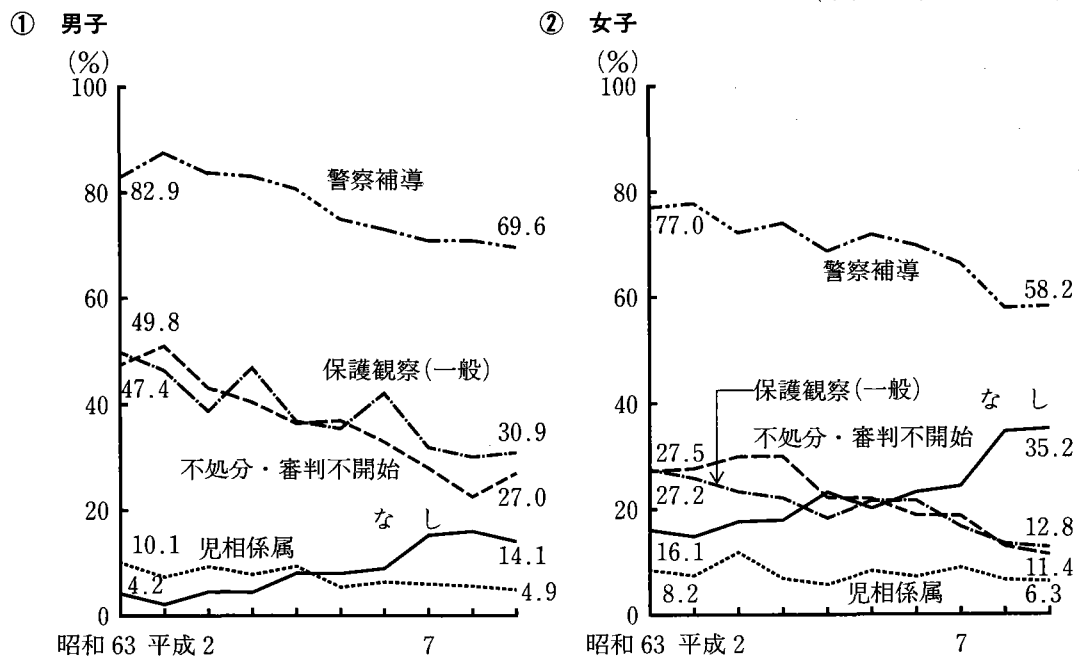
女子では在宅保護歴のない者の占める比率が24.3%であり、女子総数よりも高い。一方、警察補導歴

のある者は 68.1 %，児相係属歴のある者は 7.6 %，不処分・審判不開始歴のある者は 21.1 %，保護観察（一般）歴のある者は 19.6 % となっており，男子と同様に，不処分・審判不開始歴のある者及び保護観察（一般）歴のある者の比率が，いずれも女子総数より高くなっている。

図 35 は，覚せい剤少年の在宅保護歴について，この 10 年間の推移を男女別に見たものである。男女共に，在宅保護歴のない者の比率が上昇し，各在宅保護歴のある者の比率がおおむね低下傾向を示している。

図 35 覚せい剤少年の男女別在宅保護歴

(昭和 63 年～平成 9 年)



注 重複計上による。

ク 保護施設歴

覚せい剤少年の保護施設歴について累計して見ると，男子では保護施設歴のない者の占める比率が 79.6 % であり，次いで，中等少年院歴のある者が 7.8 %，中等少年院（一般短期）歴のある者が 5.0 %，教護院歴のある者が 4.4 %，初等少年院歴のある者が 3.6 % となっており，その他は 2.0 % 未満である。女子では保護施設歴のない者の占める比率が 86.3 % であり，次いで，教護院歴のある者が 4.6 %，中等少年院歴のある者が 4.1 %，初等少年院歴のある者が 2.1 % となっており，その他は 2.0 % 未満である。

10 年間の推移では，男女共に保護施設歴のない者の占める比率が上昇し，各保護施設歴のある者の比率はおおむね低下している。

ケ 保護者等

この 10 年間を累計して，覚せい剤少年の実父母率を見ると，男子が 55.7 %，女子が 52.2 % であり，女子は女子総数 (47.5 %) より高くなっている。10 年間では，男子の実父母率が緩やかに上昇している。

保護者の生活程度が中程度以上の者について累計して見ると，男子が 88.7 % と男子総数 (84.6 %) よりも高く，また，女子も 86.1 % と女子総数 (82.3 %) より高くなっている。10 年間では，男女共にほとんど変化はない。

コ 親の養育態度

男子覚せい剤少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任（45.4％）が最も多く、以下、普通（23.0％）、厳格（11.7％）、一貫性なし（8.9％）、溺愛（3.4％）の順である。母では、放任（36.4％）が最も多く、以下、普通（29.8％）、溺愛（10.6％）、一貫性なし（9.3％）、過干渉（6.2％）の順である。10年間を見ると、父では1位に変動はないものの、普通の比率が上昇し、一方、母では平成8年以降普通が1位、放任が2位となっている。

女子覚せい剤少年の親の養育態度について累計して見ると、父では、放任（43.1％）が最も多く、以下、普通（19.2％）、一貫性なし（12.0％）、厳格（11.9％）、溺愛（5.2％）の順である。母では、放任（37.6％）が最も多く、以下、普通（24.2％）、一貫性なし（12.8％）、過干渉（7.8％）、溺愛（5.7％）の順である。10年間を見ると、父母共に1位に変動がないものの、母では普通の比率が上昇傾向にある。

サ 親への態度

男子覚せい剤少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、親和・信頼（34.7％）、両価（23.1％）、無関心（15.6％）、依存（9.2％）、拒否（7.5％）の順であり、母に対しては、親和・信頼（42.0％）、依存（19.8％）、両価（19.0％）、無関心（10.2％）、対等・友人（4.3％）の順である。父母いずれに対しても、ほとんどの年次において10年間1位は変わらないが、親和・信頼の比率が上昇傾向にある。

女子覚せい剤少年の親への態度について累計して見ると、父に対しては、両価（28.7％）、親和・信頼（27.9％）、拒否（15.1％）、無関心（13.1％）、依存（7.3％）の順であり、母に対しては、親和・信頼（32.8％）、両価（32.5％）、依存（14.1％）、拒否（7.7％）、無関心（6.5％）の順である。10年間の推移を見ると、父に対しては、親和・信頼の比率が上昇し、平成6年以降1位となり、母に対しては、年次により両価と親和・信頼とが1位・2位を分け合っている。

シ 現在の家族の問題

覚せい剤少年につき、現在の家族の問題について累計して見ると、該当者の比率が総数より高いのは、男子では崩壊・離散（6.2％）、本人を疎外（11.5％）、交流不足（42.5％）、指導力欠如（55.7％）であり、女子では指導力欠如（53.6％）である。一方、家族に問題がない者の比率は、男子（9.2％）では男子総数より低く、女子（6.2％）では女子総数より高くなっている。

10年間の推移を見ると、男女共に大きな変動はない。

4 非行名別特質の比較

上記で分析した非行名別の特質について、非行間の差異が明確ないくつかの項目を列挙し、比較してみる。ここでは、10年間の累計した数値を使用する。

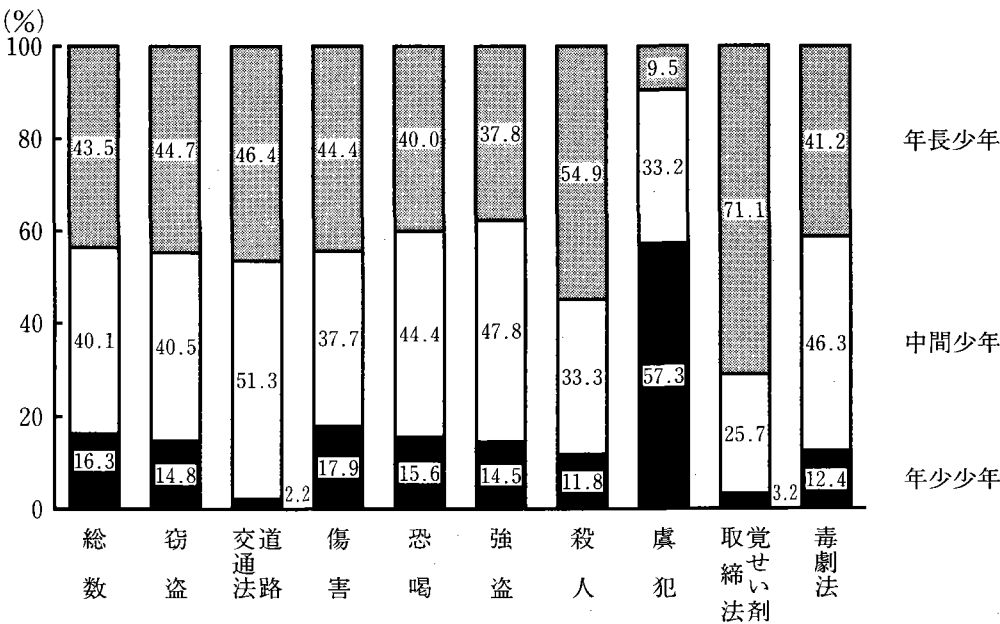
(1) 年齢層

非行名別に年齢層別構成比を見ると、図36のとおりである。

非行名別に見ると、年少少年の構成比が高いのは虞犯、中間少年の構成比が高いのは道路交通法違反、強盗及び毒劇法違反、年長少年の構成比が高いのは殺人及び覚せい剤取締法違反である。また、年齢層別構成比が総数と同様となっているものは、窃盗、傷害及び恐喝である。

図36 鑑別所収容少年の非行名別年齢層

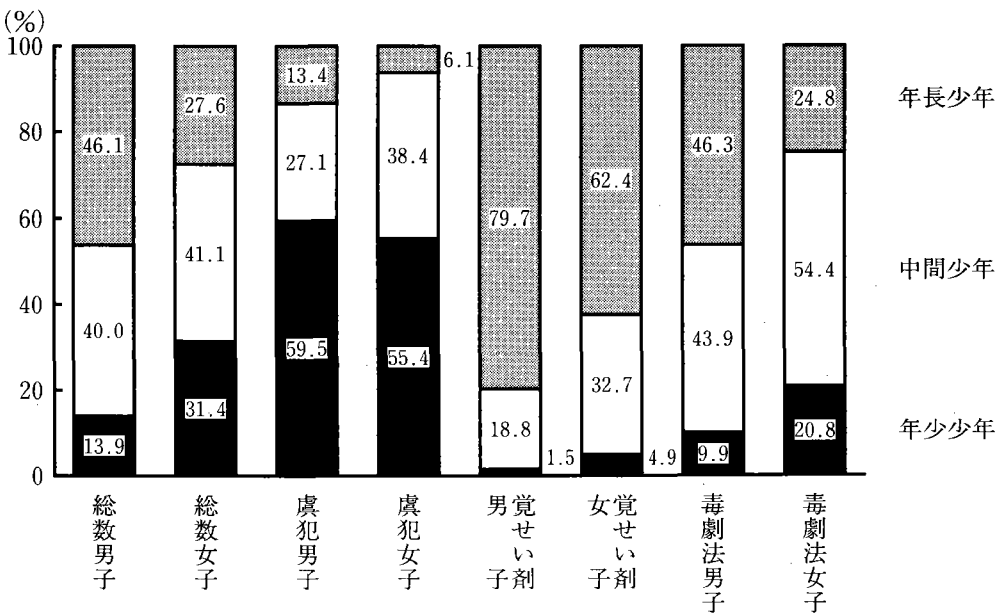
(昭和 63 年～平成 9 年の累計)



男女別に年齢層別構成比を見ると、図 37 のとおりである。男女共に、虞犯は年少少年が 5 割を超えており、覚せい剤取締法違反は年長少年が圧倒的に多く、一方、毒劇法違反は男子で中間少年と年長少年、女子で中間少年が多くなっている。

図37 鑑別所収容少年の男女別年齢層

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

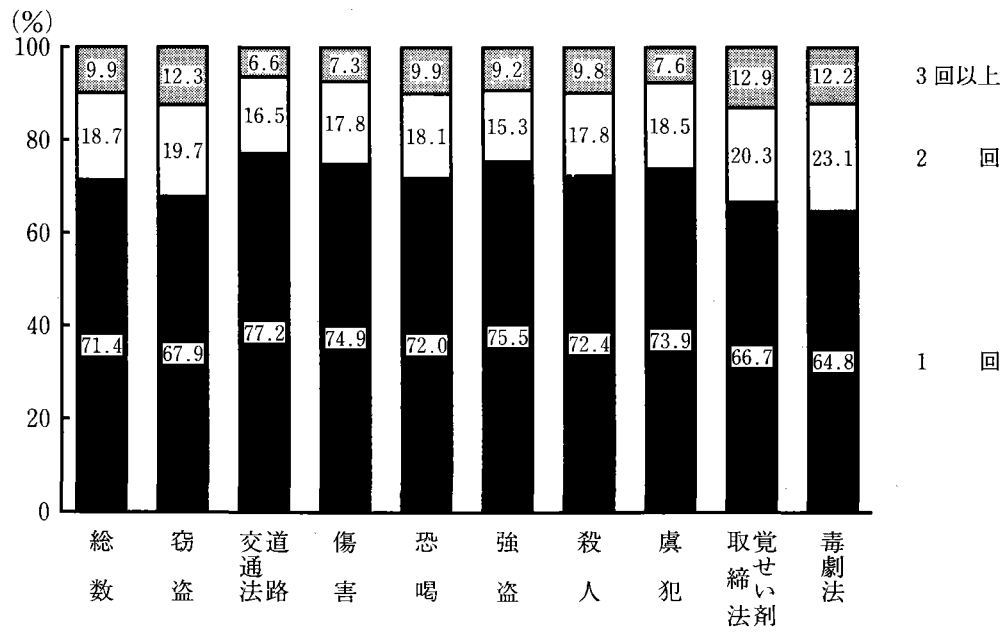


(2) 入所回数

図 38 は、非行名別に入所回数を見たものである。入所回数が初回の者が多いのは、道路交通法違反、強盗及び傷害であり、毒劇法違反、覚せい剤取締法違反及び窃盗は初回入所者が少ない。

図38 鑑別所収容少年の非行名別入所回数

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

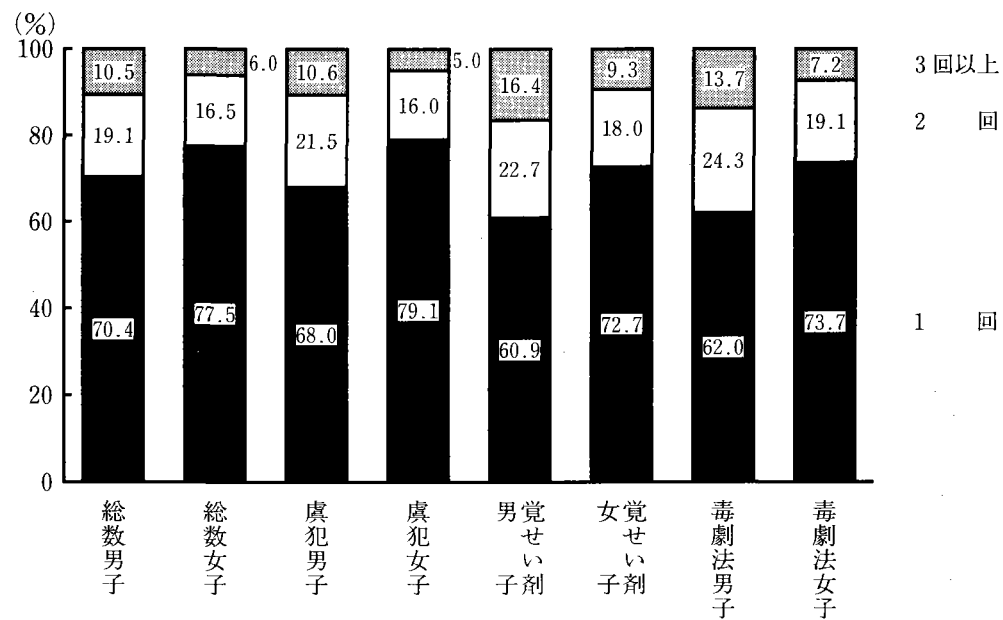


注 不明を除く。

図 39 は、男女別に入所回数を見たものである。いずれも、女子の方が初回入所者が多くなっている。

図39 鑑別所収容少年の男女別入所回数

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)



注 不明を除く。

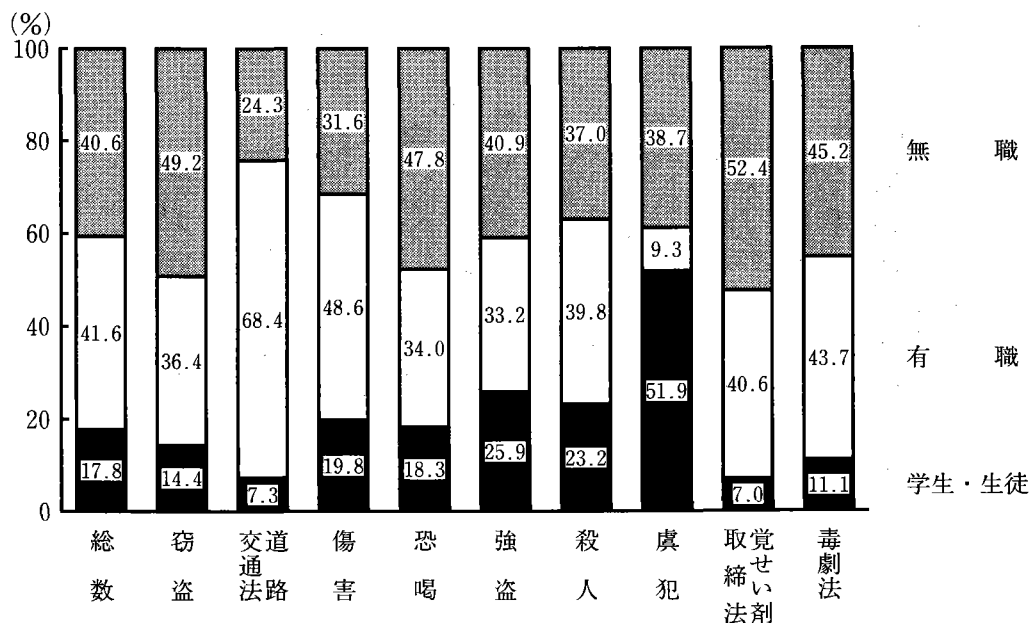
(3) 職業等

図 40 は、非行名別に職業等を見たものである。学生・生徒の比率が高いのは、虞犯であるが、強盗及び殺人も学生・生徒が比較的多くなっている。一方、有職が多いのは、道路交通法違反及び傷害であり、

無職が多いのは、覚せい剤取締法違反、窃盗及び恐喝である。

図40 鑑別所収容少年の非行名別職業等

(昭和63年～平成9年の累計)

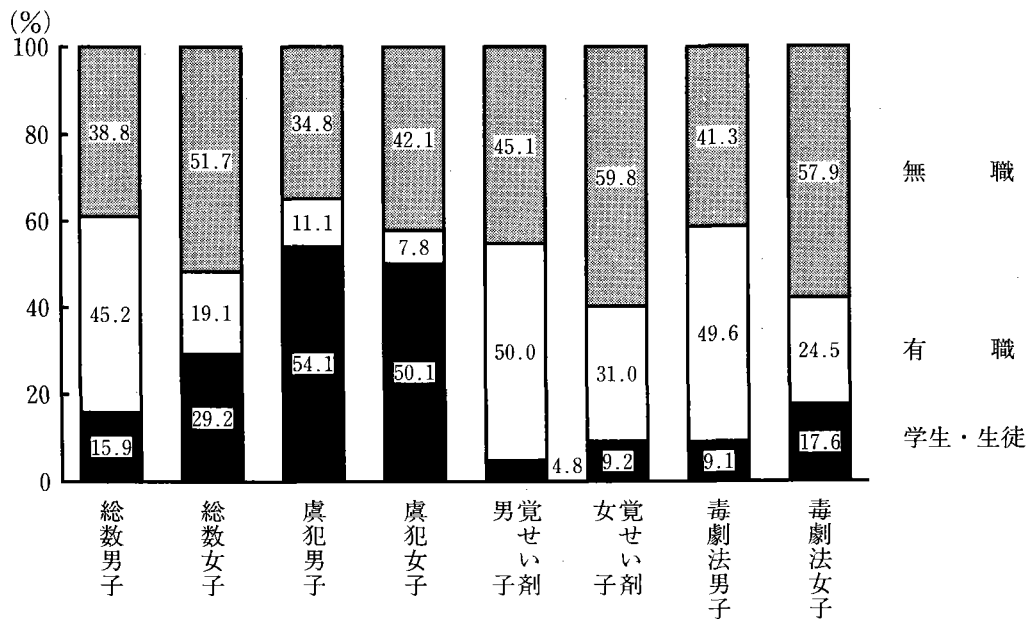


注 不明を除く。

図41は、職業等について、男女別に見たものである。覚せい剤取締法違反及び毒劇法違反では、女子は無職が多いのに対し、男子は有職が多い。

図41 鑑別所収容少年の男女別職業等

(昭和63年～平成9年の累計)

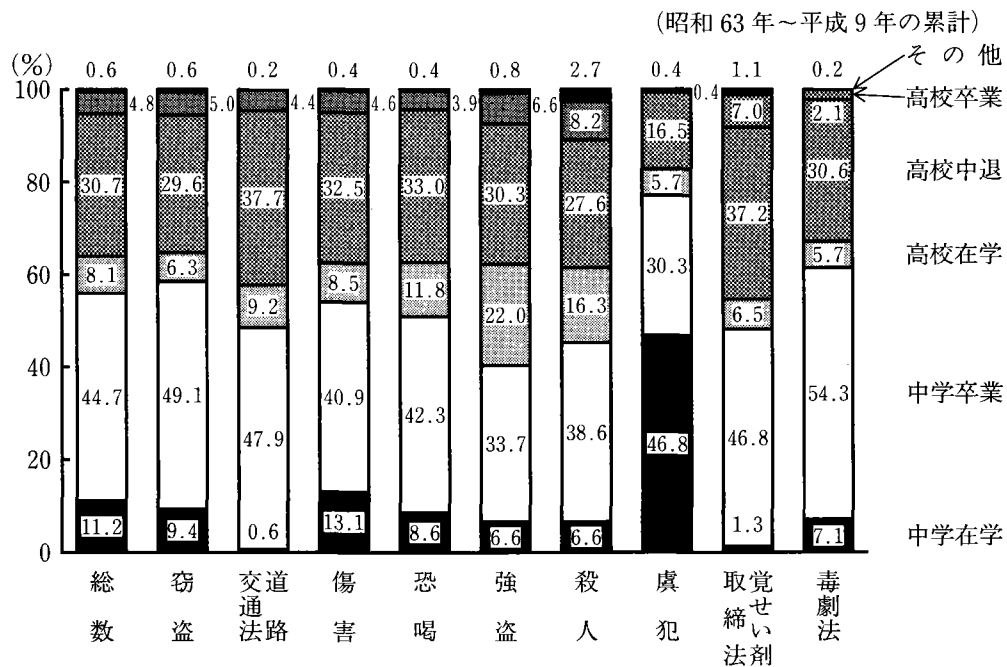


注 不明を除く。

(4) 教育程度

図 42 は、非行名別に教育程度を見たものである。真犯では中学在学、強盗及び殺人では高校在学の比率が、それぞれ高くなっている。

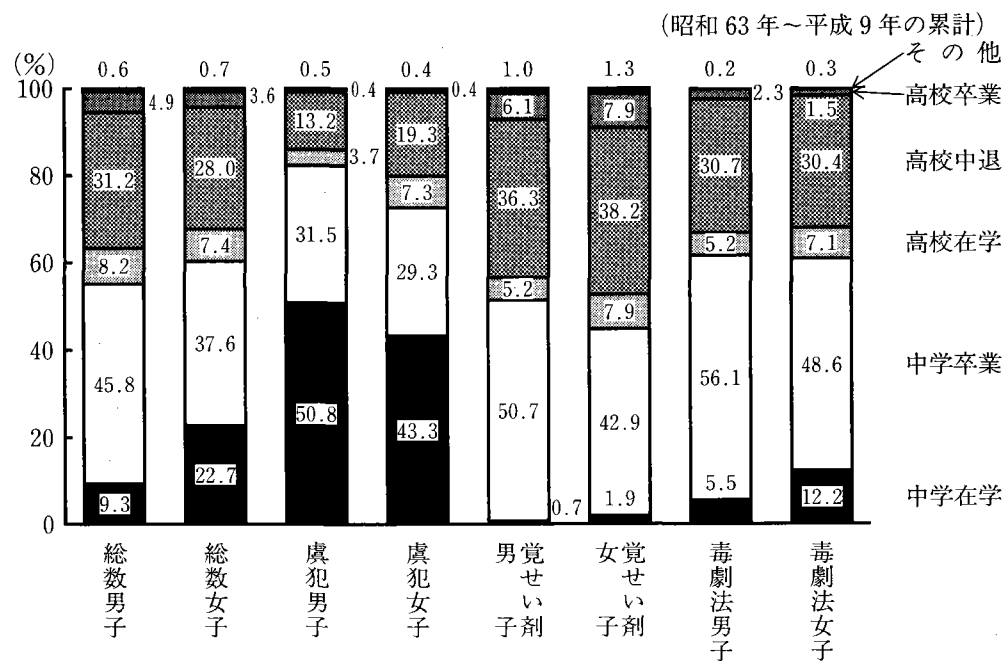
図42 鑑別所収容少年の非行名別教育程度



注 不明を除く。

図 43 は、教育程度を男女別に見たものである。男女間で大きな差は見られない。

図43 鑑別所収容少年の男女別教育程度



注 不明を除く。

(5) 非行動機

表 6 は、非行名別の動機を見たものである。

表 6 鑑別所収容少年の非行名別動機

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

非 行 名	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
窃 盗	お金や物が欲しくて 49.6	乗りたくて 18.5	誘われて、その気になって 10.6	遊び 8.9	うさ晴らし 2.7
道路交通法	乗りたくて 32.2	目立ちたくて 20.5	遊び 19.6	誘われて、その気になって 9.7	うさ晴らし 5.4
傷 害	かっとなって 57.7	突張り 12.1	誘われて、その気になって 8.7	うさ晴らし 6.2	目立ちたくて 2.5
恐 喝	お金が物が欲しくて 56.2	かっとなって 10.8	誘われて、その気になって 10.7	うさ晴らし 6.0	突張り 5.6
強 盗	お金や物が欲しくて 47.1	誘われて、その気になって 15.6	かっとなって 9.6	うさ晴らし 8.0	突張り 4.4
殺 人	かっとなって 43.5	誘われて、その気になって 11.9	反発したくなくて 5.2	いやなことから逃げたくて 4.0	お金や物が欲しくて 2.7
虞 犯	遊び 35.1	いやなことから逃げたくて 12.9	うさ晴らし 9.5	反発したくなくて 6.6	お金や物が欲しくて 5.1
男 子	遊び 29.9	いやなことから逃げたくて 12.3	うさ晴らし 10.5	かっとなって 6.1	お金や物が欲しくて 5.7
女 子	遊び 39.4	いやなことから逃げたくて 13.4	うさ晴らし 8.7	反発したくなくて 8.2	お金や物が欲しくて 4.5
覚せい剤 取締法	好奇心 29.5	うさ晴らし 17.0	誘われて、その気になって 15.1	遊び 10.4	いやなことから逃げたくて 8.1
男 子	好奇心 31.2	うさ晴らし 19.3	遊び 12.4	誘われて、その気になって 10.1	いやなことから逃げたくて 7.0
女 子	好奇心 27.8	誘われて、その気になって 20.1	うさ晴らし 14.6	いやなことから逃げたくて 9.2	遊び 8.4
毒 劇 法	うさ晴らし 29.5	遊び 23.5	なんとなく 11.5	いやなことから逃げたくて 11.4	誘われて、その気になって 8.5
男 子	うさ晴らし 30.1	遊び 22.7	なんとなく 11.3	いやなことから逃げたくて 11.3	誘われて、その気になって 8.0
女 子	うさ晴らし 27.3	遊び 26.4	なんとなく 12.1	いやなことから逃げたくて 11.9	誘われて、その気になって 10.1

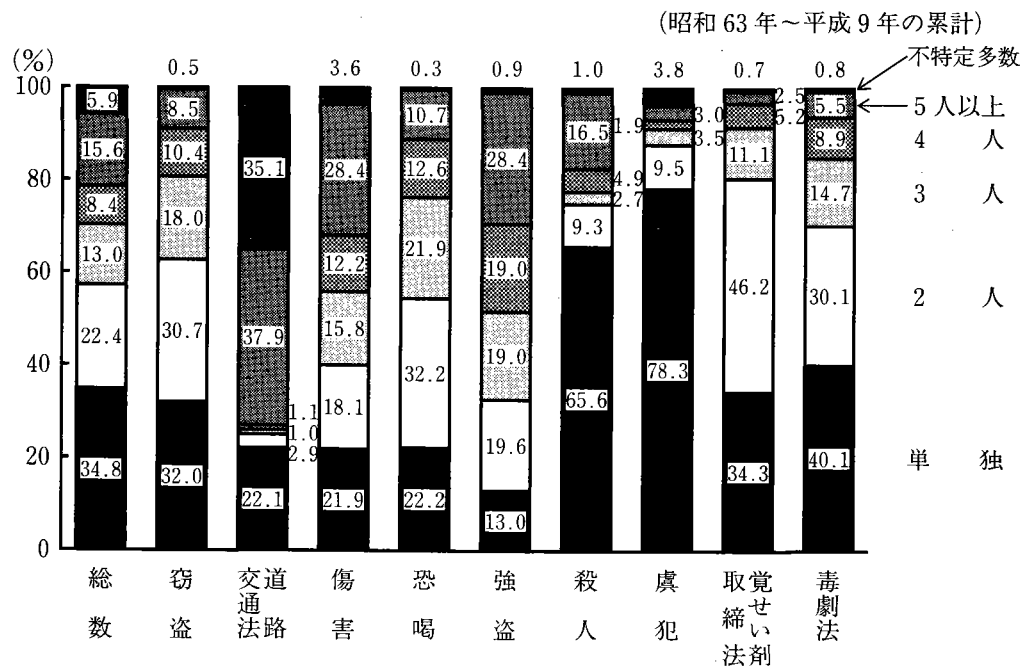
注 1 数値は、構成比である。
2 動機なし及び不明を除く。

動機の1位を占めているのが金銭・物欲（「お金や物が欲しくて」）であるのは、恐喝、窃盗及び強盗であり、激情（「かっとなって」）であるのは、傷害及び殺人である。また、強盗及び殺人では、誘いに乗って行為に及んだ者（「誘われて、その気になって」）も比較的多いことが分かる。薬物非行でも、覚せい剤取締法違反と毒劇法違反の動機は異なっている。

(6) 共犯関係

図44は、非行名別に共犯者数を見たものである。単独が多いのは、虞犯及び殺人であり、2人が多いのは、覚せい剤取締法違反、恐喝及び窃盗である。5人以上は、道路交通法違反及び強盗で多く、また、道路交通法違反では不特定多数も多くなっている。

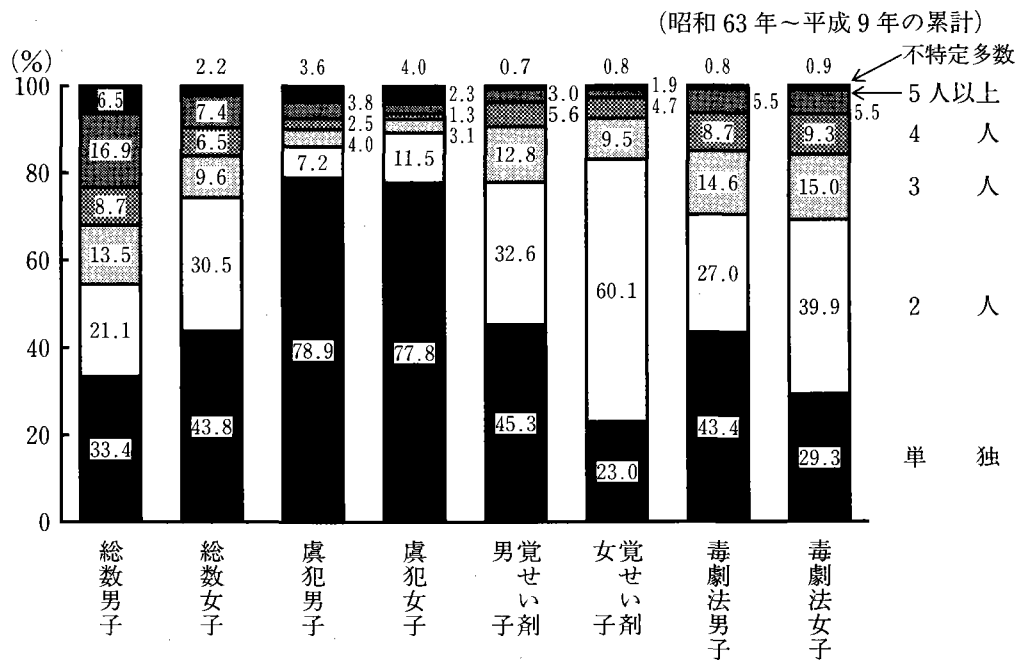
図44 鑑別所収容少年の非行名別共犯者数



注 不明を除く。

図45は、男女別に共犯者数を見たものであるが、女子覚せい剤少年では2人が多く、女子毒劇法少年においても同様の傾向が見られる。

図45 鑑別所収容少年の男女別共犯者数

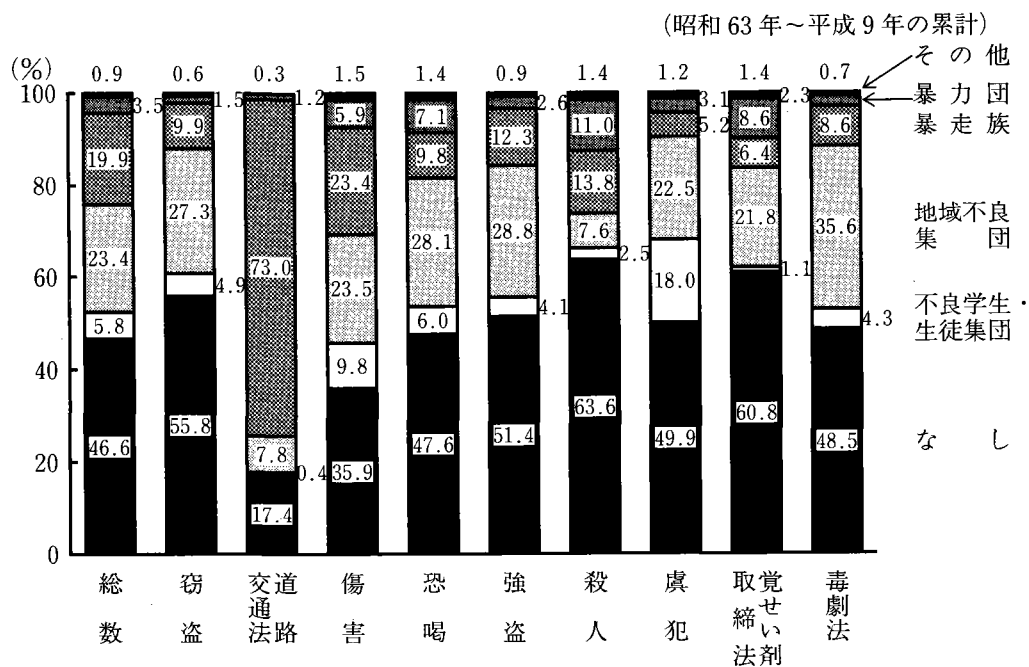


注 不明を除く。

(7) 不良集団所属

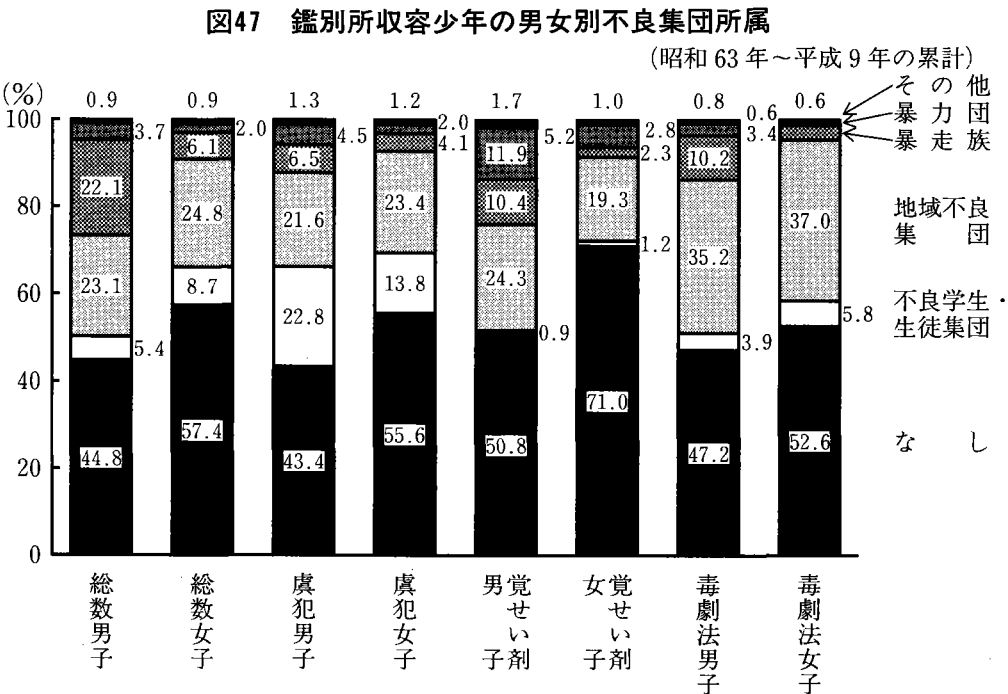
図46は、非行名別に不良集団所属を見たものである。不良集団に所属していない者が多いのは、殺人、覚せい剤取締法違反及び窃盗であり、不良集団に所属していた者の所属不良集団については、恐喝、強盗及び毒劇法違反では地域不良集団が、道路交通法違反では暴走族が、それぞれ多くなっている。

図46 鑑別所収容少年の非行名別不良集団所属



注 不明を除く。

図 47 は、不良集団所属について男女別に見たものである。女子では、不良集団に所属していない者の比率が高くなっており、また、覚せい剤取締法違反では、不良集団に所属していない者の比率に男女差が大きい。



注 不明を除く。

(8) 問題行動歴

表 7 は、非行名別に問題行動歴を見たものである。非行により、問題行動歴が異なることが分かる。

表 7 鑑別所収容少年の非行名別問題行動歴

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

非 行 名	毒劇物	覚せい剤	喫 煙	飲 酒	無免許運転	暴走行為	家 出	万引き	文 身	性経験
窃 盗	50.4	2.1	94.8	81.8	78.4	35.8	58.5	62.1	8.5	74.8
道 路 交 通 法	52.9	1.0	97.8	86.9	90.2	89.7	31.2	42.0	11.0	89.6
傷 害	47.8	2.3	97.0	86.5	74.3	45.6	41.4	47.6	14.4	81.2
恐 喝	46.1	3.2	97.5	86.1	72.6	36.2	51.2	54.3	13.6	81.3
強 盗	36.3	2.8	94.5	84.5	64.6	31.4	42.4	52.7	9.4	76.4
殺 人	36.4	5.2	83.1	74.6	49.8	29.7	37.7	36.5	13.1	72.8
虞 犯	63.2	6.2	94.2	78.0	58.3	24.7	86.6	63.8	9.1	72.3
覚せい剤取締法	75.8	97.3	98.0	91.3	61.6	34.0	59.4	52.5	19.2	97.5
毒 劇 法	99.3	2.8	98.8	87.3	74.5	37.3	54.1	53.1	11.2	86.3

注 1 数値は、経験のある者の比率である。
2 不明を除く。

(9) 在宅保護歴・保護施設歴

表 8 は、非行名別に在宅保護歴・保護施設歴のうちの主なものを見たものである。在宅保護歴がない者の比率が高いのは、殺人、強盗及び覚せい剤取締法違反であり、比率が低いのは、毒劇法違反である。保護施設歴がない者の比率が高いのは、道路交通法違反、傷害、殺人及び強盗であり、比率が低いのは窃盗である。

表 8 鑑別所収容少年の非行名別在宅保護歴・保護施設歴

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

① 在宅保護歴

在宅保護歴	窃盗	道路交通法	傷害	恐喝	強盗	殺人	虞犯	覚せい剤取締法	毒劇法
なし	9.0	6.8	11.4	11.3	19.4	34.5	10.7	16.9	3.9
警察補導	81.2	80.3	78.4	79.5	72.4	58.0	82.4	72.5	85.0
児相係属	14.3	5.1	8.6	10.3	7.1	5.7	25.1	7.3	9.0
不処分・審判不開始	31.5	37.2	29.9	28.4	23.4	24.5	14.5	28.2	34.5
保護観察(交通短期)	5.3	13.0	6.6	5.2	3.9	5.1	1.0	5.5	4.9
保護観察(交通)	2.0	6.9	2.9	2.0	1.1	2.2	0.5	2.3	2.0
保護観察(一般)	29.6	29.0	25.2	25.2	17.2	14.5	16.6	28.8	39.7
その他	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.6	0.4	0.4	0.3

② 保護施設歴

保護施設歴	窃盗	道路交通法	傷害	恐喝	強盗	殺人	虞犯	覚せい剤取締法	毒劇法
なし	79.8	89.4	89.0	84.3	87.5	88.4	84.0	82.9	85.2
養護施設	2.4	0.5	0.9	1.6	0.9	1.6	3.1	1.1	1.1
教護院	7.5	2.2	3.2	4.6	3.7	2.9	9.1	4.5	4.3
初等少年院(一般短期)	1.3	0.7	0.8	1.2	1.0	0.6	0.7	1.4	1.2
初等少年院(長期)	4.0	1.2	1.6	2.9	2.6	3.1	1.8	2.9	2.1
中等少年院(一般短期)	2.8	2.5	2.2	2.7	2.0	1.2	1.0	3.3	3.4
中等少年院(長期)	6.3	2.0	2.7	4.7	4.1	4.1	1.7	6.0	3.7
特別少年院	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.0	0.2	0.0
医療少年院	0.4	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.7	0.3

注 1 数値は、各項目に該当する者の比率である。
2 重複計上による。

表 9 は、男女別に在宅保護歴・保護施設歴のうちの主なものを見たものである。在宅保護歴のない者の比率が高いのは、女子覚せい剤少年であり、比率が低いのは、男子・女子毒劇法少年，男子虞犯少年である。保護施設歴のない者については、比率が高いのは女子毒劇法少年，比率が低いのは男子虞犯少年・男子毒劇法少年である。

表 9 鑑別所収容少年の男女別在宅保護歴・保護施設歴

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

① 在宅保護歴

在宅保護歴	虞犯		覚せい剤取締法		毒劇法	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
なし	5.4	15.3	9.7	24.3	2.9	7.1
警察補導	86.7	78.7	76.7	68.1	85.1	84.6
児相係属	31.2	19.9	7.1	7.6	8.5	10.6
不処分・審判不開始	18.4	11.0	35.3	21.1	37.1	26.1
保護観察(交通短期)	1.6	0.4	8.4	2.6	5.8	1.7
保護観察(交通)	0.9	0.1	3.9	0.7	2.4	0.4
保護観察(一般)	22.1	11.9	37.9	19.6	43.3	28.2
その他	0.4	0.4	0.4	0.4	0.2	0.4

② 保護施設歴

保 護 施 設 歴	虞 犯		覚せい剤取締法		毒 劇 法	
	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子
な し	78.1	89.1	79.6	86.3	83.6	90.2
養 護 施 設	3.5	2.8	1.1	1.1	1.1	1.2
教 護 院	13.1	5.7	4.4	4.6	4.3	4.2
初等少年院(一般短期)	1.1	0.4	1.6	1.2	1.3	0.8
初等少年院(長 期)	2.7	1.0	3.6	2.1	2.5	0.9
中等少年院(一般短期)	1.5	0.5	5.0	1.5	3.8	1.9
中等少年院(長 期)	2.6	1.0	7.8	4.1	4.4	1.4
特 別 少 年 院	0.0	-	0.4	0.0	0.0	0.0
医 療 少 年 院	0.4	0.3	0.6	0.9	0.3	0.2

注 1 数値は、各項目に該当する者の比率である。
2 重複計上による。

(10) 保護者等

表 10 は、非行名別に実父母率と保護者の生計が中程度以上の者の比率を見たものである。いずれも、窃盗及び虞犯において比率が低くなっており、特に、虞犯男子の比率が低い。

表 10 鑑別所収容少年の非行名別実父母率等

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

非 行 名	実 父 母 率	生 計 が 中 程 度 以上の者の比率
窃 盗	50.6	80.6
道 路 交 通 法	63.2	89.9
傷 害	58.2	87.5
恐 喝	55.9	85.0
強 盗	59.7	88.0
殺 人	55.8	80.3
虞 犯	43.0	78.0
男 子	42.1	76.9
女 子	43.7	79.0
覚せい剤取締法	54.0	87.4
男 子	55.7	88.7
女 子	52.2	86.1
毒 劇 法	54.3	86.4
男 子	55.9	86.4
女 子	49.0	86.4

注 1 数値は、総数に対する比率である。
2 該当なし及び不明を除く。

(11) 親の養育態度

親の養育態度について、表 11 は非行名別に、表 12 は男女別に、それぞれ見たものである。強盗、道路交通法違反及び傷害では普通が多いが、虞犯では普通が極端に少ない。

表 11 鑑別所収容少年の非行名別親の養育態度

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

① 父の養育態度

養育態度		窃盗	道路交通法	傷害	恐喝	強盗	殺人	虞犯	覚せい剤取締法	毒劇法
普通	放任	20.7	27.8	25.8	23.4	28.8	22.2	13.0	21.1	20.7
放	任	44.8	44.1	41.2	42.4	39.0	43.3	42.1	44.3	45.3
拒	否	3.5	1.4	2.1	2.6	2.3	3.3	5.1	3.1	2.7
厳	格	13.0	10.0	13.1	13.6	13.7	12.8	15.4	11.8	12.3
過	干渉	1.2	0.9	1.0	1.3	1.3	0.7	2.0	1.3	1.5
期	待過剰	1.3	1.6	1.8	1.8	2.1	1.4	0.8	1.4	1.1
溺	愛	2.9	3.7	3.3	3.0	2.4	4.7	3.5	4.3	3.4
一貫性なし		10.4	8.8	9.7	9.7	8.0	8.3	15.0	10.4	10.9
その他		2.1	1.6	2.0	2.1	2.5	3.3	3.2	2.3	2.2

② 母の養育態度

養育態度		窃盗	道路交通法	傷害	恐喝	強盗	殺人	虞犯	覚せい剤取締法	毒劇法
普通	放任	28.0	35.2	33.4	31.0	35.8	27.6	18.9	27.0	28.2
放	任	37.5	32.9	32.6	34.2	30.2	29.2	36.9	37.0	36.7
拒	否	2.8	0.6	1.3	1.9	1.9	2.9	4.4	2.3	2.0
厳	格	2.8	1.8	2.4	3.2	2.8	3.4	4.8	3.6	3.2
過	干渉	7.3	7.1	7.7	7.5	8.2	7.4	9.5	7.0	7.9
期	待過剰	1.6	1.9	2.0	2.2	2.6	2.7	1.3	2.2	1.4
溺	愛	8.5	11.1	10.5	9.2	8.9	12.4	6.4	8.1	8.3
一貫性なし		9.6	8.1	8.6	9.3	8.3	10.6	15.2	11.0	10.7
その他		1.8	1.2	1.5	1.6	1.4	3.8	2.6	1.7	1.6

注 1 数値は、構成比である。
2 該当なし及び不明を除く。

表 12 鑑別所収容少年の男女別親の養育態度

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

① 父の養育態度

養育態度	虞犯		覚せい剤取締法		毒劇法	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
普通	12.8	13.2	23.0	19.2	22.1	16.0
放	44.1	40.3	45.4	43.1	45.5	44.5
拒	5.2	5.0	2.7	3.5	2.5	3.2
厳	16.1	14.9	11.7	11.9	12.3	12.3
過	1.3	2.5	1.0	1.6	1.2	2.6
期	0.9	0.7	1.9	1.0	1.3	0.8
溺	2.6	4.3	3.4	5.2	3.1	4.2
一貫性なし	14.2	15.6	8.9	12.0	10.0	13.8
その他	2.8	3.5	2.0	2.6	2.0	2.6

② 母の養育態度

養育態度	虞 犯		覚せい剤取締法		毒 劇 法	
	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子
普 通	19.4	18.4	29.8	24.2	29.5	23.8
放 任	38.6	35.5	36.4	37.6	36.1	38.8
拒 否	3.8	5.0	1.6	3.0	1.7	2.7
厳 格	3.6	5.8	2.2	5.0	2.7	4.9
過 干 渉	8.2	10.5	6.2	7.8	7.9	7.7
期 待 過 剰	1.4	1.1	2.4	2.0	1.5	1.1
溺 愛	9.2	4.1	10.6	5.7	9.2	5.1
一 貫 性 な し	13.4	16.8	9.3	12.8	9.7	14.0
そ の 他	2.5	2.7	1.6	1.9	1.5	2.0

注 1 数値は、構成比である。

2 該当なし及び不明を除く。

(12) 親への態度

親への態度について、表 13 は非行名別に、表 14 は男女別に、それぞれ見たものである。道路交通法違反及び強盗では、父母に対する親和・信頼の比率が高いが、虞犯では低い。

表 13 鑑別所収容少年の非行名別親への態度

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

① 父への態度

態 度	窃 盗	道 路 交通法	傷 害	恐 喝	強 盗	殺 人	虞 犯	覚 せい 剤 取締法	毒劇法
親和・信頼	29.8	42.9	39.1	34.3	39.1	31.0	17.0	31.4	31.8
依 存	9.8	10.3	8.7	8.7	8.6	7.7	6.9	8.3	10.7
無 関 心	15.7	13.5	13.2	14.7	13.7	15.4	14.4	14.4	14.3
拒 否	10.8	6.1	7.9	9.2	7.6	10.9	20.7	11.2	10.1
攻撃・反抗	1.4	1.0	1.5	1.6	1.4	5.0	3.8	1.1	1.9
畏怖・恐怖	7.3	4.6	5.9	6.7	6.6	6.2	7.0	4.0	5.5
対等・友人	1.9	3.0	2.9	2.2	1.5	2.7	1.1	2.4	2.2
両 価	21.7	17.7	19.5	21.6	20.4	19.9	27.6	25.8	22.2
そ の 他	1.4	1.0	1.4	1.1	1.2	1.2	1.6	1.4	1.4

② 母への態度

態 度	窃 盗	道 路 交通法	傷 害	恐 喝	強 盗	殺 人	虞 犯	覚 せい 剤 取締法	毒劇法
親和・信頼	38.0	50.3	47.1	42.8	45.8	36.3	22.0	37.4	38.7
依 存	20.7	20.5	18.5	19.2	19.6	14.9	16.4	16.9	21.1
無 関 心	10.0	7.5	7.8	8.9	8.4	10.1	8.3	8.3	7.9
拒 否	4.9	2.2	3.3	3.9	3.7	6.7	10.8	5.5	4.1
攻撃・反抗	0.9	0.6	0.9	1.0	0.7	3.4	3.6	0.8	1.6
畏怖・恐怖	0.5	0.1	0.1	0.3	0.4	0.7	0.5	0.1	0.3
対等・友人	3.1	4.2	4.4	3.5	2.6	3.9	2.8	4.4	3.4
両 価	20.8	14.0	17.0	19.7	18.0	22.8	34.5	25.7	22.1
そ の 他	1.0	0.6	0.9	0.7	0.8	1.1	1.0	0.9	0.8

注 1 数値は、構成比である。

2 該当なし及び不明を除く。

表 14 鑑別所収容少年の男女別親への態度

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

① 父への態度

態 度	虞 犯		覚せい剤取締法		毒 劇 法	
	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子
親和・信頼	19.3	15.0	34.7	27.9	33.7	25.2
依 存	8.7	5.3	9.2	7.3	11.4	8.3
無 関 心	15.4	13.5	15.6	13.1	14.4	13.8
拒 否	14.7	25.9	7.5	15.1	8.2	16.3
攻撃・反抗	4.0	3.6	1.1	1.0	1.8	2.2
畏怖・恐怖	9.9	4.4	4.8	3.1	6.1	3.5
対等・友人	1.5	0.8	2.7	2.1	2.4	1.6
両 価	24.9	29.9	23.1	28.7	20.5	27.8
そ の 他	1.6	1.6	1.2	1.6	1.5	1.3

② 母への態度

態 度	虞 犯		覚せい剤取締法		毒 劇 法	
	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子
親和・信頼	25.0	19.5	42.0	32.8	40.6	32.6
依 存	21.7	11.9	19.8	14.1	22.7	16.2
無 関 心	9.2	7.6	10.2	6.5	8.5	5.8
拒 否	7.4	13.7	3.2	7.7	3.4	6.5
攻撃・反抗	3.5	3.6	0.5	1.1	1.4	2.1
畏怖・恐怖	0.7	0.4	0.2	0.1	0.4	0.2
対等・友人	2.8	2.8	4.3	4.4	3.1	4.2
両 価	28.5	39.5	19.0	32.5	19.1	31.7
そ の 他	1.2	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8

注 1 数値は、構成比である。
2 該当なし及び不明を除く。

(13) 現在の家族の問題

現在の家族の問題について、表 15 は非行名別に、表 16 は男女別に、それぞれ見たものである。

表 15 鑑別所収容少年の非行名別現在の家族の問題

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

家 族 の 問 題	窃 盗	道 路 交通法	傷 害	恐 喝	強 盗	殺 人	虞 犯	覚 せい 剤 取締法	毒 劇 法
な し	7.6	11.2	11.4	9.4	11.6	10.4	2.6	7.7	7.5
離 婚	22.7	17.4	19.2	20.4	18.3	18.0	27.0	20.4	22.4
崩 壊 ・ 離 散	7.1	3.1	4.8	5.3	5.2	7.8	9.4	6.5	5.6
し っ け 不 足	32.8	32.8	29.5	30.2	24.7	23.9	34.7	27.1	29.7
経 済 的 困 窮	8.3	3.8	4.9	6.3	5.6	6.9	7.9	4.7	4.6
父 母 間 葛 藤	8.4	6.6	7.6	7.9	8.0	12.9	11.9	9.3	9.0
家 族 間 不 和	6.4	4.3	5.4	6.2	6.4	9.8	10.3	7.6	6.7
父母のしっけの不一致	7.5	6.2	6.4	6.9	6.1	9.6	9.6	6.7	7.1
本 人 を 疎 外	14.0	5.6	8.6	11.0	10.9	11.2	20.7	15.2	11.5
交 流 不 足	43.7	35.6	37.5	41.3	40.9	43.5	48.1	45.1	40.2
指 導 力 欠 如	54.0	56.9	53.2	52.8	51.2	43.7	56.4	54.7	54.0

注 1 数値は、各項目に該当する者の比率である。
2 重複計上による。

強盗，傷害，道路交通法違反及び殺人は，家族に問題がない者の比率が比較的高いが，一方，真犯は家族に問題がある者の比率が男女とも高い。さらに，殺人は，問題を抱えている者の比率も比較的高くなっている。

表 16 鑑別所収容少年の男女別現在の家族の問題

(昭和 63 年～平成 9 年の累計)

家 族 の 問 題	真 犯		覚せい剤取締法		毒 劇 法	
	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子
な し	2.8	2.5	9.2	6.2	8.3	4.9
離 婚	26.8	27.3	19.1	21.6	20.9	27.2
崩 壊 ・ 離 散	10.1	8.8	6.2	6.8	5.4	6.2
し つ け 不 足	37.5	32.4	28.5	25.6	30.1	28.4
経 済 的 困 窮	8.4	7.4	4.6	4.9	4.6	4.7
父 母 間 葛 藤	10.3	13.3	7.2	11.4	8.3	11.5
家 族 間 不 和	8.0	12.2	5.5	9.7	5.7	10.1
父母のしつけの不一致	9.6	9.6	6.4	7.0	6.9	7.9
本 人 を 疎 外	18.3	22.8	11.5	19.0	10.4	15.2
交 流 不 足	45.1	50.6	42.5	47.7	38.7	44.9
指 導 力 欠 如	59.5	53.8	55.7	53.6	54.0	53.7

注 1 数値は，各項目に該当する者の比率である。

2 重複計上による。

5 凶悪事犯少年の特別調査

ここでは，法務総合研究所が行った凶悪事犯少年についての特別調査結果を紹介する。

この特別調査は，平成 7 年から 9 年までの 3 年間に，全国の少年鑑別所に収容された少年のうち，非行名が殺人の少年 133 人及び強盗の少年 2,397 人について，資料収集が可能であった殺人の少年 117 人（うち，男子 97 人，女子 20 人）及び強盗の少年 2,198 人（うち，男子 2,102 人，女子 96 人）を対象とした。

なお，これまでの対象者と区別するため，調査対象となった殺人の少年 117 人を「殺人事犯少年」，強盗の少年 2,198 人を「強盗事犯少年」と呼び，特に断りのない限り，3 年間を累計した数値を使用している。

(1) 凶悪事犯少年の特質

ア 人員・年齢等

表 17 は，調査対象者の非行名別人員を見たものである。殺人事犯では未遂が半数を超えている。

表 17 凶悪事犯少年の非行名別人員

(平成 7 年～9 年の累計)

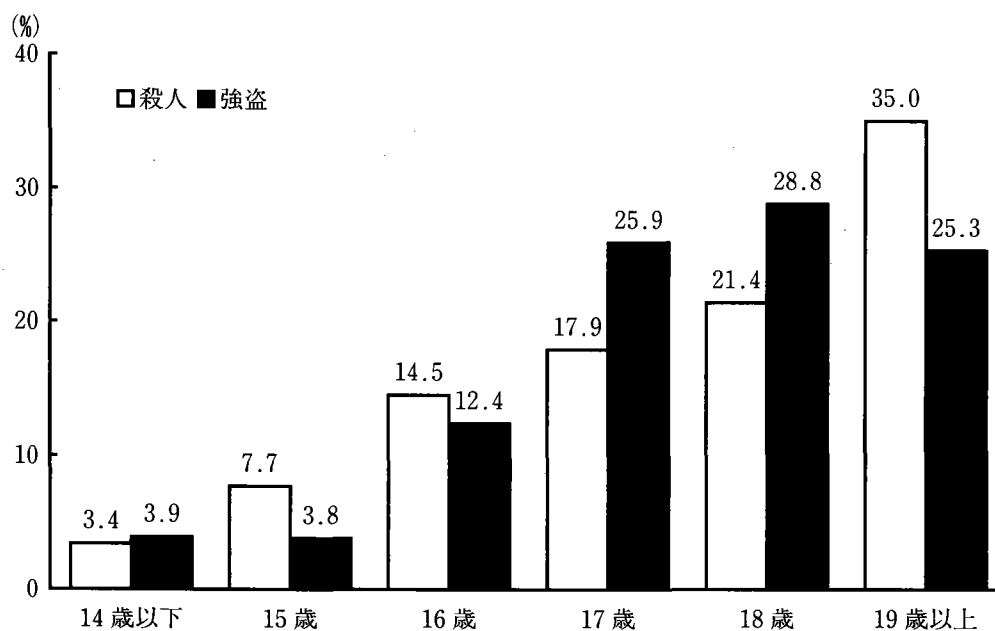
非 行 名	男 子	女 子
総 数	2,199	116
殺人計	97 (100.0)	20 (100.0)
殺人	40 (41.2)	13 (65.0)
殺人・殺人未遂	6 (6.2)	-
殺人未遂	51 (52.6)	7 (35.0)
強盗計	2,102 (100.0)	96 (100.0)
強盗	670 (31.9)	40 (41.7)
強盗致死傷	1,395 (66.4)	56 (58.3)
強盗強姦	37 (1.8)	-

注 () 内は，構成比である。

図 48 は、年齢別構成比を見たものである。殺人事犯少年では、19 歳以上が最も多く、以下、年齢が低くなるにつれ比率も低下している。強盗事犯少年では、18 歳、17 歳、19 歳以上の順となっている。

図 48 凶悪事犯少年の年齢

(平成 7 年～9 年の累計)



イ 逮捕歴・同種事犯歴

初めて逮捕されたときの年齢は、表 18 のとおりである。逮捕歴のない者は、殺人事犯少年で 50 %，強盗事犯少年で 40 %を、それぞれ超えている。

表 18 逮捕歴

(平成 7 年～9 年の累計)

逮捕時年齢		殺人	強盗
総数		117 (100.0)	2,176 (100.0)
なし		62 (53.0)	886 (40.7)
8 歳		1 (0.9)	1 (0.0)
9 歳		1 (0.9)	1 (0.0)
10 歳		—	6 (0.3)
11 歳		1 (0.9)	5 (0.2)
12 歳		—	34 (1.6)
13 歳		4 (3.4)	116 (5.3)
14 歳		16 (13.7)	346 (15.9)
15 歳		5 (4.3)	319 (14.7)
16 歳		13 (11.1)	246 (11.3)
17 歳		10 (8.5)	130 (6.0)
18 歳		2 (1.7)	61 (2.8)
19 歳		2 (1.7)	25 (1.1)

注 1 不詳を除く。

2 () 内は、構成比である。

なお、警察補導の有無にかかわらず、万引き・無免許等の非行があった者は、殺人事犯少年で58.6%、強盗事犯少年で81.2%である。

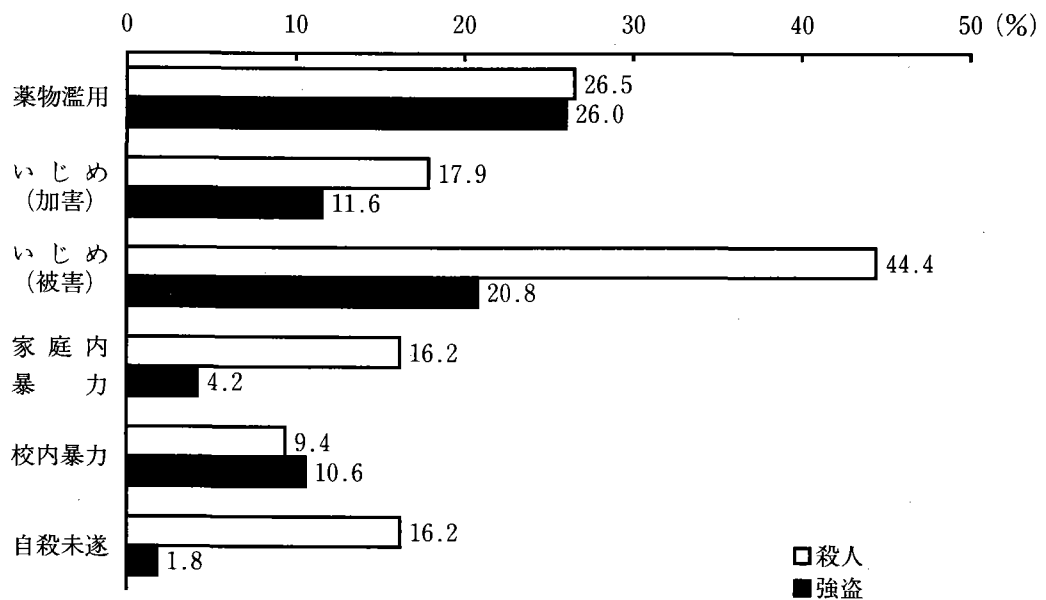
また、本件以前に同種事犯を行ったことがあるかについては、同種事犯のない者は、殺人事犯少年で98.3%、強盗事犯少年で96.3%であり、過去に同種事犯を行っていない者がほとんどである。

ウ 薬物濫用等の経験

図49は、過去に経験した薬物濫用等について見たものである。

図49 薬物濫用等の経験者の比率

(平成7年～9年の累計)



注 1 不詳を含む総数に対する経験者の比率である。

2 「薬物」とは、有機溶剤、覚せい剤、大麻、コカイン、睡眠薬等である。

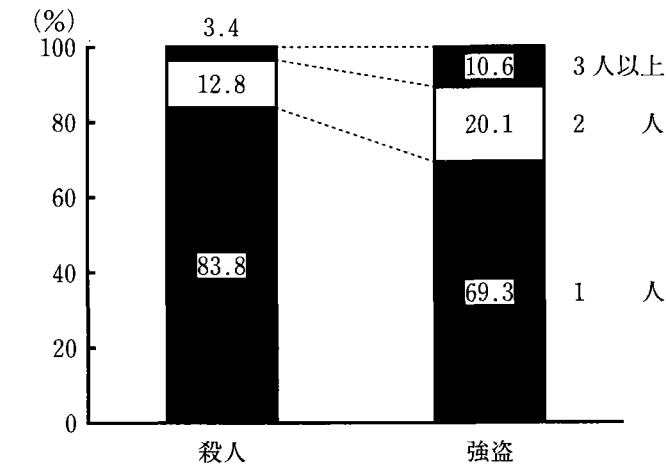
経験者の比率を見ると、殺人事犯少年では、いじめ加害・被害体験、家庭内暴力及び自殺未遂が強盗事犯少年より高くなっているが、特に、いじめ被害体験が44.4%と高くなっている。

エ 被害者数

図50は、本件非行について、加害者1人につき何人の被害者がいるかを見たものである。いずれも、被害者1人が最も多くなっているが、強盗事犯少年の方が、被害者が複数の者が多い。

なお、最も多いのは、殺人事犯少年で被害者4人、強盗事犯少年で11人となっている。また、被害者数は、殺人事犯少年117人に対し延べ142人、強盗事犯少年2,198人に対し延べ3,270人となっている。

図50 加害者1人当たりの被害者数
(平成7年～9年の累計)



注 () 内は、構成比である。

(2) 少年凶悪事犯の被害者の特質

ア 被害者の男女別年齢層

殺人事犯及び強盗事犯の被害者（被害者延べ人員である。殺人事犯で142人，強盗事犯で3,270人）について，男女別年齢層を見たものが，表19である。

表19 被害者の男女別年齢層

(平成7年～9年の累計)

年 齢 層	殺 人		強 盗	
	男子被害者	女子被害者	男子被害者	女子被害者
総 数	102 (100.0)	40 (100.0)	2,948 (100.0)	299 (100.0)
10 歳 未 満	8 (7.8)	6 (15.0)	8 (0.3)	-
10 ～ 19 歳	46 (45.1)	8 (20.0)	1,319 (44.7)	83 (27.8)
20 ～ 29 歳	25 (24.5)	4 (10.0)	1,069 (36.3)	98 (32.8)
30 ～ 39 歳	6 (5.9)	3 (7.5)	123 (4.2)	15 (5.0)
40 ～ 49 歳	8 (7.8)	9 (22.5)	119 (4.0)	27 (9.0)
50 ～ 59 歳	4 (3.9)	4 (10.0)	71 (2.4)	22 (7.4)
60 ～ 69 歳	1 (1.0)	3 (7.5)	38 (1.3)	14 (4.7)
70 歳 以 上	2 (2.0)	3 (7.5)	23 (0.8)	19 (6.4)
不 詳	2 (2.0)	-	178 (6.0)	21 (7.0)

注 1 強盗については被害者の性別不詳23名を除く。

2 () 内は，構成比である。

殺人事犯では，男子被害者は10歳代が最も多く，次いで20歳代となっており，女子被害者は40歳代が最も多く，次いで10歳代となっている。

強盗事犯では，男子被害者は10歳代，20歳代の順，女子被害者は20歳代，10歳代の順となっており，加害者と同年代の比較的若い世代の被害者が多くなっている。

イ 被害者との関係・面識

被害者との関係を見ると，殺人事犯では，内縁を含めた親族（30.0％）が最も多く，以下，行きずり（20.0％），遊び仲間・同じ学校の生徒（各7.1％），他の学校の生徒・共犯者の知人（各5.0％）の順，

強盗事犯では、行きずり（84.1％）が最も多く、以下、共犯者の知人（2.8％）、他の学校の生徒（1.1％）の順となっている。

被害者との面識については、表 20 のとおりである。殺人事犯では面識のある者が、強盗事犯では面識のない者が、それぞれ圧倒的に多くなっている。

表 20 被害者に対する面識

（平成 7 年～ 9 年の累計）

面識の有無・程度	殺 人	強 盗
総 数	142 (100.0)	3,270 (100.0)
面 識 な し	36 (25.4)	2,937 (89.8)
面 識 あ り	100 (70.4)	209 (6.4)
顔か名前を知っている程度	21 (14.8)	132 (4.0)
よく知っている	79 (55.6)	77 (2.4)
不 詳	6 (4.2)	124 (3.8)

注 （ ）内は、構成比である。

ウ 主たる被害場所

主たる被害の場所については、殺人事犯では道路上（26.1％）が最も多く、次いで、被害者宅・加害者宅（24.6％）、被害者宅（12.7％）の順となっている。強盗事犯では、道路上（58.9％）が最も多く、次いで、駐車場（13.2％）、広場・公園（8.2％）の順となっている。

エ 動機と計画性

表 21 は、犯行の主たる動機を見たものである。殺人事犯では、憤まん・激情が、強盗事犯では、金銭目的が、それぞれ最も多くなっている。

表 21 犯行の主たる動機別被害者数

（平成 7 年～ 9 年の累計）

動 機	殺 人	強 盗
総 数	142 (100.0)	3,270 (100.0)
報復・えん恨	20 (14.1)	75 (2.3)
憤まん・激情	72 (50.7)	458 (14.0)
痴情・性的動機	6 (4.2)	57 (1.7)
金 銭 目 的	3 (2.1)	2,286 (69.9)
犯 行 隠 滅	8 (5.6)	34 (1.0)
そ の 他	29 (20.4)	296 (9.1)
不 詳	4 (2.8)	64 (2.0)

注 （ ）内は、構成比である。

犯行の計画性を見ると、殺人事犯で計画性のない者（65.7％）が、強盗事犯で計画性のある者（61.2％）が、それぞれ多くなっている。

オ 凶器と犯行の方法

表 22 は、凶器の準備状況を、また、表 23 は、主たる犯行の方法を、それぞれ見たものである。

凶器については、殺人事犯では凶器を使用した者が、強盗事犯では凶器を使用しなかった者が、それぞれ多い。

主たる犯行の方法については、殺人事犯では刃物で刺す・切るが、強盗事犯では手けんで殴る・足げり等するが、それぞれ最も多い。

表 22 凶器の準備状況

(平成 7 年～9 年の累計)

凶器の準備状況	殺 人	強 盗
総 数	142 (100.0)	3,270 (100.0)
凶 器 な し	19 (13.4)	1,922 (58.8)
た また ま 携 行	51 (35.9)	395 (12.1)
現 場 調 達	28 (19.7)	150 (4.6)
凶器を特に準備	39 (27.5)	628 (19.2)
不 詳	5 (3.5)	175 (5.4)

注 () 内は、構成比である。

表 23 主たる犯行の方法

(平成 7 年～9 年の累計)

凶器の準備状況	殺 人	強 盗
総 数	142 (100.0)	3,270 (100.0)
刃物で刺す・切る	79 (55.6)	41 (1.3)
物 で 殴 る	16 (11.3)	548 (16.8)
首 を 絞 め る	15 (10.6)	16 (0.5)
自動車等でひく	9 (6.3)	7 (0.2)
手で殴る・足げり等する	8 (5.6)	2,228 (68.1)
そ の 他	15 (10.6)	410 (12.5)
不 詳	—	20 (0.6)

注 () 内は、構成比である。

カ 傷害の程度

被害者の身体被害の有無及び程度を見ると、表 24 のとおりである。殺人事犯では死亡者が 50 % を超え、強盗事犯では 7 日から 1 か月未満が 50 % を超えている。

表 24 被害者の身体被害の有無及び程度

(平成 7 年～9 年の累計)

身体被害	殺 人	強 盗
総 数	142 (100.0)	3,270 (100.0)
な し	1 (0.7)	488 (14.9)
あ り	137 (96.5)	2,304 (70.5)
死 亡	73 (51.4)	3 (0.1)
1 か月以上	28 (19.7)	332 (10.2)
7 日～1 月	35 (24.6)	1,699 (52.0)
6 日以下	1 (0.7)	270 (8.3)
不 詳	4 (2.8)	478 (14.6)

注 () 内は、構成比である。

(3) 凶悪事犯少年の被害者・本件非行への感情等

凶悪事犯の加害者の、被害者や本件非行に対する感情は、鑑別の段階で必ずしも十分に把握されているわけではないので、特別調査においても不詳が多い結果となっている。

ア 責任の所在の認知

表 25 は、加害者の本件非行に対する感情を見たものである。殺人事犯では半数近くが自分の方が悪いと考えているものの、被害者が悪いと考えている者も少なくない。一方、強盗事犯では自分の方が悪いと考えている者は殺人事犯よりはやや多く、かつ、被害者が悪いと考える者は少ない。

表 25 本件非行に対する加害者の感情

		(平成 7 年～ 9 年の累計)	
身 体 被 害		殺 人	強 盗
総 数		142 (100.0)	3,270 (100.0)
自 分 の 方 が 悪 い		67 (47.2)	1,750 (53.5)
自分も被害者も五分五分		16 (11.3)	144 (4.4)
被 害 者 が 悪 い		23 (16.2)	60 (1.8)
不 詳		36 (25.4)	1,316 (40.2)

注 () 内は、構成比である。

イ 慰謝等の措置・示談

表 26 は、加害者の家族又は本人が、被害者又は遺族に対して行った慰謝等の措置を見たものである。殺人事犯では半数が不詳、なしが 27.5 % である。一方、強盗事犯ではほとんどが不詳であり、謝罪や被害弁償はごく少数にとどまっている。

表 26 慰謝等の措置

		(平成 7 年～ 9 年の累計)	
措 置		殺 人	強 盗
総 数		142 (100.0)	3,270 (100.0)
な し		39 (27.5)	170 (5.2)
見 舞 ・ 謝 罪		13 (9.2)	151 (4.6)
被 害 弁 償		5 (3.5)	77 (2.4)
謝 罪 の 手 紙		9 (6.3)	12 (0.4)
そ の 他		5 (3.5)	31 (0.9)
不 詳		71 (50.0)	2,829 (86.5)

注 () 内は、構成比である。

なお、示談については、殺人事犯で 50 % 以上、強盗事犯で 90 % 以上が不詳であり、成立しているものは少数にとどまっている。

(4) 強盗事犯少年のその他の特質

ア 不良集団所属と凶器

表 27 は、強盗事犯少年における不良集団所属と凶器について見たものである。

不良集団所属の有無にかかわらず、犯行時に凶器を使用しなかった者が最も多いが、暴走族では、犯

行のために特に凶器を準備した者が他に比べてかなり多く、凶器を使用しなかった者とほとんどその比率に差はない。また、暴走族及び暴力団では、凶器をたまたま所持していて、それを使用した者の比率が比較的高くなっている。

表 27 不良集団所属と凶器

(平成 7 年～ 9 年の累計)						
不 良 集 団		総 数	凶器なし	犯行のため準備	現場調達	たまたま所持
総 数		3,058	1,898	622	146	392
		(100.0)	(62.1)	(20.3)	(4.8)	(12.8)
な し		1,487	980	256	64	187
		(100.0)	(65.9)	(17.2)	(4.3)	(12.6)
不良生徒・学生集団		154	97	30	10	17
		(100.0)	(63.0)	(19.5)	(6.5)	(11.0)
地 域 不 良 集 団		885	594	147	52	92
		(100.0)	(67.1)	(16.6)	(5.9)	(10.4)
暴 走 族		482	191	185	19	87
		(100.0)	(39.6)	(38.4)	(3.9)	(18.0)
暴 力 団		50	36	4	1	9
		(100.0)	(72.0)	(8.0)	(2.0)	(18.0)

注 1 不詳を除く。
2 () 内は、構成比である。

イ 逮捕歴と非行の有無

強盗事犯少年のうち、本件で初めて逮捕された者は 40.7 % であるが、その 7 割以上が警察に補導されてはいないものの、万引きや無免許等の非行を行っている。

ウ 犯行場所と被害者の年齢層

強盗事犯の犯行場所と被害者の年齢層を見ると、いずれの年齢層でも道路上で被害を受けることが最も多いが、30 歳代以下と 40 歳代・50 歳代を比べると、後者の比率が前者よりも高い。また、道路上に次いで、60 歳以上では被害者宅、30 歳代以下では駐車場が、それぞれ高くなっている。

エ 被害者との面識の有無等と責任の所在の認知

表 28 は、被害者との面識の有無と責任の所在の認知について見たものである。

表 28 被害者との面識の有無と責任の所在の認知

(平成 7 年～ 9 年の累計)				
被害者との面識	総 数	自分が悪い	五分五分	被害者が悪い
総 数	1,929 (100.0)	1,738 (90.1)	132 (6.8)	59 (3.1)
な し	1,780 (100.0)	1,643 (92.3)	106 (6.0)	31 (1.7)
顔か名前を知っている	104 (100.0)	70 (67.3)	14 (13.5)	20 (19.2)
よく知っている	45 (100.0)	25 (55.6)	12 (26.7)	8 (17.8)

注 () 内は、構成比である。

面識の有無にかかわらず、自分が悪いと感じている者が最も多いが、被害者が顔見知り程度の場合には被害者も悪いとする者が、よく知っている場合には五分五分の責任と感じる者が、これに次いでいる。

なお、犯行の計画性の有無と責任の所在の認知については、計画性のない場合は自分が悪いと感じる比率が計画性のある場合よりもやや高くなっている。

第5 おわりに

最後に、今回の調査結果を踏まえて、最近における非行少年の特質について、若干の考察を加えることとする。

- (1) 昭和63年から平成9年までの10年間における少年鑑別所収容少年について、法務省矯正局の資料と法務総合研究所の特別調査に基づいて、その特質を見ると、まず、少年の教育程度が高くなってきており、家族の状況についても、実父母率が上昇し、保護者の生活程度が中程度以上の者の比率も上昇していることが指摘できる。さらに、現在の家族に問題がない者の比率はわずかであるが上昇し、親の養育態度も普通の比率が上昇し、親への態度についても親和・信頼の比率が上昇するなど、幾分好転してきている。その一方で、家族間の交流不足や家庭の指導力欠如の比率が上昇している。これらは、家庭の経済状態が好転し、また、家庭が依然として少年たちの心のより所となっていることを示す一方で、少年に対する指導監督や家族間の情緒的交流といった家庭の基本的な機能が低下し、非行を防止するという意味での家庭の機能が十分に働いているとは言い難くなってきていることを示すものと思われる。
- (2) また、少年鑑別所に入所する前の問題行動について、し細に見てみると、いくつかの変化が目につく。まず、薬物使用がシンナーから覚せい剤に移行しており、しかも、常習者が増え、この傾向は女子において著しい。また、暴走族に所属する者が増えたことと関連すると思われるが、無免許運転や暴走行為の常習者の増加が見られる。一方、万引きの常習者も増加し、しかも女子の増加程度が著しい。また、いたずら程度の文身をしている者や性経験のある者が増加しており、これらの行為に対する抵抗感が薄れてきていることをうかがわせる。
- (3) さらに、鑑別所収容少年の在宅保護歴・保護施設歴を見ると、在宅保護歴や保護施設歴のない者の比率が上昇し、少年鑑別所への入所回数も初回の者が増えている。近時、非行の一般化傾向の進展や処分歴のない少年による、いわゆる「いきなり型」非行の増加傾向が指摘されているが、この調査結果もこれを裏付けるように見える。もっとも、これらの少年について見ると、多くの者が喫煙、飲酒、性経験、薬物使用などの問題行動歴を有している。その意味では、在宅保護歴や保護施設歴がない者であっても、本件非行に至るまでには、いくつかの問題行動を経験しているのであり、特に、こうした問題行動を重ねた上で非行にはした少年については、その問題行動歴を含め、非行に至った経緯を的確に把握して、適切な処遇を実施することが必要と思われる。

なお、研究に当たって、資料を提供していただいた矯正局、特別調査に当たって多大な御協力をいただいた全国少年鑑別所の職員の方々、さらに、当研究部の職員に改めて感謝申し上げる次第である。

参考資料

凶悪重大事犯少年調査の実施について

法務総合研究所

1 調査目的

殺人及び強盗事犯で少年鑑別所に入所した少年の特質等を明らかにして、「少年法の在り方に関する検討会」（法務省刑事局主催）のための参考資料とし、併せて、平成10年版犯罪白書（少年非行特集）及び当所研究部の研究（少年の審判及び処遇に関する総合的研究）の資料とします。

なお、本調査は、平成8年3月に実施した調査の追加調査であり、調査票は前回と同じものを使用しています。

2 調査対象者

平成8年及び9年に、少年鑑別所を出所（移送による出所は除く。）した者のうち、入所時の非行名が「少年矯正統計符号表の制定について」（通知）によって制定された非行名符号表に基づいて編さんされた「非行名分類表」のうち、次に掲げるものとします。また、それぞれの未遂、教唆及び幫助を含みます。

- ① 符号15 殺人（殺人、殺人予備、自殺関与、同意殺人）
- ② 符号24 強盗（強盗、強盗予備、事後強盗、昏睡強盗、常習特殊強盗、常習累犯強盗、常習特殊事後強盗、常習累犯事後強盗、常習特殊昏睡強盗、常習累犯昏睡強盗）
- ③ 符号25 強盗致死傷（強盗致死傷、常習特殊強盗致死傷）
- ④ 符号26 強盗強姦・同致死（強盗強姦、強盗強姦致死、常習強盗強姦）

注1 鑑別未了、保留等を含みます。

注2 入所時の非行名が①～④に含まれていても、審判時非行事実が認定されず、①から④までの非行以外の非行名で処分等の言渡しがあった場合は、調査票の間5まで記入し、間5の欄外に言渡し時の非行名を記入してください。

3 調査内容

- ① 凶悪重大事犯少年調査票 A 4判用紙両面 1枚（別紙1）
- ② 被害者用補助用紙 A 4判用紙両面 1枚（別紙2）

4 調査方法

- ① 「凶悪重大事犯少年調査票記入要領」（別紙3）を参照し、施設職員が少年簿等に基づいて記入してください。
- ② 調査票には調査対象者の氏名を記入する必要はありませんが、入所者調査票と付き合わせて処理をしますので、入所者調査票番号は記入漏れがないよう、特に注意してください。
なお、貴所の該当する入所者調査票番号の一覧表（別紙4）を添付しますので、その番号が調査対象者でない場合には、「凶悪重大事犯少年調査票」の間1から5までのみを記入してください。
- ③ 間12から29までは、各被害者ごとに記入してください。被害者が2名以上のときは、「被害者用

補助用紙」を使用し、同一少年の「凶悪重大事犯少年調査票」と一緒にして編てつしてください。

- ④ 問25の回答が「1 刃物…」のときは、具体的な使用凶器を欄外に記入してください。

5 調査実施上の留意点

回答欄が複数ある設問で、回答が回答欄に満たない場合は、残りの回答欄は空欄で結構です。

6 調査票の返送

両調査票共に、①「殺人」については、平成10年4月27日までに、②「強盗」については、平成10年5月20日までに、法務総合研究所研究部あてに返送してください。

別 紙 1

凶悪重大犯少年調査票

法務総合研究所

1 施設番号																												
2 入所者調査票番号	以下無回答																											
3 国籍	2 その他 ()																											
4 生年月日	昭和 年 月 日																											
5 本件非行名	99 その他 ()																											
6 事実数	<table><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr><tr><td>殺人 既遂</td><td>殺人 未遂</td><td>強盗 致死</td><td>強殺 未遂</td><td>強盗</td><td>強盗 未遂</td><td>強盗 強姦</td><td>強盗強 姦未遂</td><td>その 他</td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	殺人 既遂	殺人 未遂	強盗 致死	強殺 未遂	強盗	強盗 未遂	強盗 強姦	強盗強 姦未遂	その 他									
1	2	3	4	5	6	7	8	9																				
殺人 既遂	殺人 未遂	強盗 致死	強殺 未遂	強盗	強盗 未遂	強盗 強姦	強盗強 姦未遂	その 他																				
7 非行年月日	A 平成 年 月 日から B 平成 年 月 日までの間																											
8 逮捕歴	歳																											
9 同種事犯																												
10 行動等の特徴	<table><tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr><tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr></table> 10 7 その他 ()	1	2	3	4	5	6	7	8	9																		
1	2	3	4	5	6	7	8	9																				
11 家族の状況																												

以下は、各被害者別に記入すること

12 犯行場所	15 その他 ()
---------	--

13 地域		
14 被害者年齢		
15 被害者性別		
16 被害者国籍		
17 被害者種類		30 上記以外の親族 () 31 その他 ()
18 被害者に対する面識		
19 被害者職業		
20 身体被害		
21 動機		7 その他 ()
22 日ごろの被害者への感情		
23 いじめとの関係		
24 計画性		
25 犯行の方法	☒ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	11 その他 ()
26 凶器の準備		
27 責任の所在の認知		
28 慰謝の措置		7 その他 ()
29 示談		1 示談金額 () 円 4 その他 ()

別 紙 3

凶悪重大事犯少年調査票記入要領

法務総合研究所

本調査の対象とする非行は、「少年矯正統計符号表の制定について」（通知）によって制定された非行名符号表に基づいて編さんされた「非行名分類表」のうち、次に掲げるものに含まれるものとします。また、未遂、教唆、幫助を含みます。詳しくは、「凶悪重大事犯少年調査実施について」の2「調査対象者」を参照してください。

- ① 符号15 殺人
- ② 符号24 強盗
- ③ 符号25 強盗致死傷
- ④ 符号26 強盗強姦・同致死

-
- 1 **施設番号** 少年矯正統計符号表に基づいてください。
 - 2 **入所者調査票番号** 「少年矯正統計調査要領の制定について」に規定する入所者調査票の、4「入所番号」と同一番号を記入してください。施設によっては、これが施設の入所番号と異なる場合がありますので、注意してください。審判時、上記①～④の非行について、その非行事実が認定されなかった場合は、入所者調査票番号の右「以下無回答」欄に○を付けて終了とし、残りの設問には回答しないで結構です。
 - 3 **国籍（地域）** 2その他は、括弧内に国名を記入してください。複数記入可
1 日本 2 その他（ ） 3 なし 9 不詳
 - 4 **生年月日** 1けたの場合は、はじめに0を付けてください 例：07月01日
 - 5 **本件非行名** 調査対象以外の非行については記入の必要はありません。複数記入可
例：殺人（既遂）及び窃盗の場合は、1「殺人（既遂）」としてください。
1 殺人（既遂） 2 殺人未遂 3 強盗致死（強盗殺人） 4 強盗殺人未遂
5 強盗 6 強盗未遂 7 強盗強姦 8 強盗強姦未遂 99 その他（ ）
 - 6 **事実数** 罪となるべき事実の数を記入してください。
例：本件で、殺人（既遂）1件と強盗2件が立件されている場合は、「1殺人（既遂）」に1を、「5強盗」に2を記入してください。
 - 7 **非行年月日** 殺人又は強盗事件の発生年月日をいいます。事件が1件の場合はA欄のみに記入してください。
 - 8 **逮捕歴** 刑法犯・特別法犯を問わず、初めて逮捕された時の年齢とします。本件が逮捕歴としては初めての場合は、「99」と記入してください。
 - 9 **同種事犯** 複数記入可
1 本件以前に、本記入要領の冒頭に掲げた①に含まれる非行のうち、いずれかにより逮捕されたことがある。
2 本件以前に、本記入要領の冒頭に掲げた②～④に含まれる非行のうち、いずれかにより逮捕されたことがある。

3 なし

9 不詳

10 行動等の特徴 過去に経験があるものとします。10は複数記入可 10の7の「その他」は、括弧内に薬物名を記入してください。

1 大酒又は酒乱 (0なし 1あり 9不詳)

2 いじめた経験 (0なし 1あり 9不詳)

3 いじめられた経験 (0なし 1あり 9不詳)

4 家庭内暴力 (0なし 1あり 9不詳)

5 校内暴力 (0なし 1あり 9不詳)

6 自殺未遂 (0なし 1あり 9不詳)

7 家庭内での被虐待 (0なし 1あり 9不詳)

8 動物虐待 (0なし 1あり 9不詳)

9 警察補導の有無にかかわらず、万引きや無免許等の非行
(0なし 1あり 9不詳)

10 薬物濫用経験 (回数にかかわらず)

(0なし 1有機溶剤 2覚せい剤 3 大麻 4コカイン
5 LSD 6モルヒネ・ヘロイン 7その他 ())

11 家族の状況 過去の状況も含みます。本人は除きます。複数記入可

0 以下のような状況なし 1 有罪判決を受けた者あり 2 家庭内不和・父母離婚
3 大酒・酒乱者あり 4 自殺者・同未遂者あり 5 精神障害者あり
6 暴力団構成員・準構成員あり 7 家族なし

12～29の「被害者について」は、各被害者ごとに、記入してください。

12 犯行場所 犯行が主として行われた場所とします。

1 加害者宅 2 被害者宅 3 共犯者宅 4 一般旅館・ホテル
5 モーター・ラブホテル 6 飲食店 7 暴力団事務所 8 会社・事務所
9 駐車場 10 広場・公園 11 道路上 12 ゲームセンター 13 風俗営業店
14 自動車等の乗り物内 15 その他 () 99 不詳

13 地域 加害者の住所と犯行場所の地理的な関係をいいます。加害者が住所不定の場合は5とします。

1 同一町・村・区(東京以外の区)内 2 同一区(東京)・市・郡内
3 同一都道府県内(前記1・2以外) 4 同一都道府県外 5 その他 9 不詳

14 被害者年齢 被害者の年齢をそのまま記入してください。ただし、年齢がはっきりしない場合は、先頭に「9」を付けて、何歳代かを記入してください(例:30歳代の場合は、「930」とします)。不詳は「999」とします。

15 被害者性別

1 男性 2 女性 9 不詳

16 被害者国籍 被害者と加害者の国籍の異同をいいます。

1 同国人 2 他国人 9 不詳

- 17 被害者種類** 29・30については、括弧内に続柄等を記入してください。複数記入可
 1 実父 2 実母 3 義父 4 義母 5 祖父 6 祖母 7 実兄 8 実姉 9 実弟
 10 実妹 11 義兄 12 義姉 13 義弟 14 義妹 15 実子 16 義子 17 妻 18 夫
 19 内縁の夫 20 内縁の妻 21 職場の上司 22 職場の同僚 23 同じ学校の生徒
 24 他の学校の生徒 25 暴力団員（抗争外） 26 暴力団員（抗争相手） 27 遊び仲間
 28 共犯者の知人 29 行きずり 30 上記以外の親族（ ） 31 その他（ ） 99不詳
- 18 被害者に対する面識** 加害者が被害者を知っていたかどうかを記入してください。
 0 なし 1 顔か名前程度を知っているだけ 2 よく知っている 9 不詳
- 19 被害者職業**
 0 無職 1 事務 2 販売 3 農林・漁業 4 運輸・通信
 技能工（5 金属関係 6 建設関係 7 その他） 8 単純作業
 サービス職業（9 調理関係 10 接客関係 11 その他）
 12 その他の職業 13 学生・生徒 14 家事（主婦等） 99 不詳
- 20 身体被害の有無**
 0 なし 1 死亡 2 全治1か月以上 3 全治7日以上～1か月未満 4 全治6日以下
 9 不詳
- 21 動機** 主たる動機を一つ記入してください。
 1 報復又はえん恨 2 憤まん又は激情 3 痴情又は性的動機 4 暴力団抗争
 5 金銭目的 6 犯行隠滅 7 思想的 8 その他（ ） 9 不詳
- 22 日頃の被害者への感情**
 1 恋愛 2 親和 3 両価 4 嫌悪・敵意 5 その他の否定的感情
 6 否定的でも肯定的でもない（ニュートラル） 7 面識がないので全くなし 9 不詳
- 23 いじめとの関係** いじめの定義は、「単独又は複数の特定人に対し、身体に対する物理的攻撃又は言動による脅し、無視等の心理的圧迫を反復継続して加えることにより、苦痛を与えること（ただし、番長グループや暴走族同士による対立抗争事案を除く。）」とします。
 0 いじめとは無関係の事案である
 1 加害者がいじめる側、被害者がいじめられる側であった
 2 被害者がいじめる側、加害者がいじめられる側であった
 9 不詳
- 24 計画性**
 1 計画的 2 計画性なし 9 不詳
- 25 犯行の方法** 主たる方法一つを◎印欄に、その他試みた方法を○欄に記入してください。
 ○印は、複数記入可
 1 刃物で刺す・切る 2 首を絞める 3 手けんで殴打・足げり等する 4 発砲
 5 自動車等でひく 6 毒を飲ます 7 物で殴る 8 凶器による脅迫
 9 言語のみの脅迫 10 その他（ ） 99 不詳
- 26 凶器の準備**
 0 凶器なし 1 今回の犯行のために特に準備 2 現場調達
 3 日常的或いはたまたま持っていた物を使用 9 不詳

27 責任の所在の認知

1 自分の方が悪い 2 相手とは五分五分 3 被害者の方が悪い 9 不詳

28 慰謝等の措置 家族又は本人が、被害者又は遺族に対し行ったものを対象とします。

複数記入可

0 なし 1 出向いて見舞った・謝った 2 見舞金を出した 3 被害弁償をした

4 謝りの手紙を書いた 6 墓参 7 その他() 9 不詳

29 示談 5の「非該当」は、尊属殺のように、一般的には事案の性質上示談が問題となり得ず、実際にも示談がなされなかったものをいいます。

1 成立 2 1部成立 3 不成立 4 未交渉 5 非該当 9 不詳

非行少年の生活意識と価値観

研究官 福田 美喜子
研究官 松田 美智子
研究官 吉田 研一郎
研究官 中野 陽子
研究官 浜井 浩一
研究官 遠藤 隆行
研究官補 橋本 三保子
旭川少年鑑別所長
(前研究官) 中島 富美子
関東地方更生保護委員会
事件管理課長
(前研究官) 田中 一哉
関東地方更生保護委員会
保護観察官
(前研究官補) 古田 康輔

目 次

第1 調査の実施概要	89
1 調査の目的	89
2 調査対象者	89
3 調査実施方法	89
(1) 質問項目	89
(2) 調査票の回収方法	90
4 調査結果の分析方法	90
第2 前回調査との経年比較による分析	91
1 自己適応感	91
(1) 自分の生き方に対する満足度	91
(2) 自己意識	92
2 家庭生活と家族	94
(1) 家庭生活に対する満足度	94
(2) 家族との関係	95
3 交友関係と友達	96
(1) 友達づきあいに対する満足度	96
(2) 友達との関係	97
(3) 大切な友達	98
4 周囲の人々との関係	98
5 社会に対する満足度	100
6 価値観・意見	101
(1) 価値観・意見	101
(2) 人の暮らし方	104
(3) 非行に関する意見	105
7 まとめ	106
第3 非行性の深度による分析	109
1 自己適応感	109
(1) 自分の生き方に対する満足度	109
(2) 自己意識	110
2 家庭生活と家族	113
(1) 家庭生活に対する満足度	113
(2) 家族との関係	114
3 交友関係と友達	116
(1) 友達づきあいに対する満足度	116
(2) 友達との関係	117
(3) 大切な友達	119
4 周囲の人々との関係	120

5	社会に対する満足度	123
6	価値観・意見	124
(1)	価値観・意見	124
(2)	同世代の者に対する見方	126
(3)	非行に関する意見	128
(4)	今後の生活にとって大切なこと	130
7	まとめ	131
第4	参考資料	133
1	実数分布表	133
(1)	経年比較による分析	133
(2)	非行性の深度による分析	172
2	調査表	214

第1 調査の実施概要

1 調査の目的

今回実施した意識調査は、非行少年の家庭・交友・社会等に対する適応感、生活意識、価値観等についての総合的、体系的な調査を全国規模で実施することにより、現代の非行少年がどのような生活意識や価値観を持っているかを把握するとともに、過去における同種調査の結果との相違を明らかにし、また、非行性の深度との関係を考察することを通じて、今日における少年の非行化の原因を探り、もって非行の防止及び非行少年の改善更生に係る諸方策を検討するための基礎資料を得ることを目的としたものである。

法務総合研究所では、同様の調査を平成2年にも実施しており、平成2年版犯罪白書（注1）においてその調査結果の概要を紹介しているほか、法務総合研究所研究部紀要（注2）（注3）において詳しい報告がなされている。それまで、非行少年の意識に関しては、包括的、経年的になされた研究がほとんどなく、平成2年に実施した調査（以下「前回調査」という。）は、広範な領域にわたり、かつ将来の経年比較を想定したものとして、高い評価を受けた。今回の調査に当たっては、前回調査の結果を踏まえて、注目すべき領域を絞り、かつ非行性の深まりに応じたより多様なタイプの非行少年をその調査対象にすることによって、近年の非行少年の意識や価値観の変化に深く迫ることを試みている。

（注1） 法務総合研究所「平成2年版 犯罪白書」, 1990, 291-330

（注2） 茅場薫ほか「非行少年の生活・価値観に関する研究（第1報告）」, 法務総合研究所研究部紀要 34, 1991, 55-111

（注3） 坪内宏介ほか「非行少年の生活・価値観に関する研究（第2報告）」, 法務総合研究所研究部紀要 35, 1992, 187-202

2 調査対象者

本調査の対象者は、①平成9年12月1日から10年1月15日までの間に、全国の少年鑑別所に観護措置により在所した少年（以下「少年鑑別所在所少年」という。）、②平成9年12月1日現在、全国の少年院に在院した少年（以下「少年院在院少年」という。）、③平成9年9月1日から同年11月末日までの間に全国の保護観察所が受理し、同年12月1日現在係属中の短期保護観察少年（以下「短期保護観察少年」という。）である。

最終的な調査対象者数は、①少年鑑別所在所少年 2,274 人（男子 2,011 人、女子 263 人）、②少年院在院少年 3,552 人（男子 3,188 人、女子 364 人）、③短期保護観察少年 795 人（男子 708 人、女子 87 人）である。

3 調査実施方法

（1）質問項目

前回調査後の非行少年の意識の変化が明らかになるよう、一定の質問項目については前回調査と同一のものをを用いることとした。また、最近の非行少年の特質をとらえるため、関係各機関が実施した同種調査の内容、方法等をも参考として、いくつかの新たな質問項目を追加する一方、削除した質問項目もある。

調査票は、①短期保護観察少年用、②少年鑑別所在所少年用、③少年院在院少年用の3種類を作成し

た（末尾資料参照）。内容はほぼ共通であるが、一部相違点がある。

今回新たに加えた質問項目及び対象少年別の設問の相違点は、次のとおりである。

Q12 価値観（ア～タは前回同様であるが、新たにチ・ツ・テの3問を加えた。）

Q14 同年代の者に対するとらえ方（新設）

Q16 犯罪・非行に対する抑制要因（新設）

Q17 処分に対するとらえ方（新設。短期保護観察少年・少年院在院少年のみ）

Q18 社会復帰に必要と思えることがら（新設。短期保護観察少年・少年院在院少年のみ）

（2）調査票の回収方法

少年鑑別所在所少年及び少年院在院少年については、少年鑑別所及び少年院に依頼し、個別方式又は集団一斉方式で実施して回収した。短期保護観察少年については、保護観察所を通じて本人に調査票を交付し、本人が回答を記入した上で法務総合研究所あてに直接郵送する方法により回収した。短期保護観察少年の調査票交付総数 933 人に対する有効回収率は 85.2 % である。

4 調査結果の分析方法

次の二つの視点から分析を行った。

① 前回調査との経年比較（少年鑑別所在所少年）

非行少年の意識の変化を分析するため、少年鑑別所在所少年を対象として、原則として男女別に前回調査の結果との比較を行った。また、必要に応じて年齢層別の分析を行った。

② 非行性の深度による比較（少年院在院少年及び短期保護観察少年）

非行性の深度による生活意識や価値観の相違を見るために、少年院在院少年と、非行性がそれほど進んでおらず、短期間の保護観察によって改善更生が期待できるものが対象とされている短期保護観察少年との比較を行った。

第2 前回調査との経年比較による分析

まず、少年鑑別所在所少年を対象として、前回調査と今回調査との比較を行い、最近7年間で、非行少年の生活意識や価値観にどのような変化が見られるかを分析する。

調査対象者の男女別、年齢層別内訳は表2-1のとおりである。なお、ここでいう年齢層とは、「年少少年」(14歳, 15歳), 「中間少年」(16歳, 17歳), 「年長少年」(18歳, 19歳)である。

年齢層による差に意味が見いだされる場合は、その都度考察を加えることとするが、紙幅の関係から本文中には表を掲げておらず、詳細については文末の参考資料(実数分布表)を参照願いたい。

表2-1 意識調査対象人員(少年鑑別所在所少年)

区 分	総 数		男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回	前 回	今 回
総 計	2,117 (100.0)	2,274 (100.0)	1,689 (100.0)	2,011 (100.0)	428 (100.0)	263 (100.0)
年少少年	361 (17.1)	371 (16.3)	202 (12.0)	294 (14.6)	159 (37.1)	77 (29.3)
中間少年	873 (41.2)	1,004 (44.2)	693 (41.0)	893 (44.4)	180 (42.1)	111 (42.2)
年長少年	883 (41.7)	899 (39.5)	794 (47.0)	824 (41.0)	89 (20.8)	75 (28.5)
平均年齢	17.0	17.0	17.3	17.1	16.1	16.5

注 () 内は、構成比である。

1 自己適応感

(1) 自分の生き方に対する満足度

表2-2は、「今の自分の生き方にどのくらい満足していますか」との質問(Q17)に対し、「満足」、「やや満足」、「どちらともいえない」、「やや不満」、「不満」の中から択一で回答を求めた結果を示したものである。なお、前回からの満足度の変化が統計的に有意であるか否かを明らかにするため、「満足」を5点、「やや満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点と得点化して、男女別に前回と今回の平均の差の検定(t検定)を行うこととする(以下、満足度を問う質問に対する回答形式は同様であり、回答結果についても同様の統計的処理を行うこととする。)

まず、男子については、「満足」、「やや満足」とする者の比率が共に低下し、「やや不満」とする者がかなり上昇している。平均の差の検定を行った結果も5%水準で有意($t=2.255$)であり、今の自分の生き方についての満足度は、前回と比べて低下しているといえる。

女子についても、「やや満足」はかなり低下する一方、「やや不満」が上昇し、「やや不満」と「不満」を合わせた比率(40.4%)が「満足」と「やや満足」を合わせた比率(25.8%)を大きく上回っている。ただ、「満足」とする者の比率が上昇したことなどもあってか、平均値に5%水準で有意差は認められない。

表 2-2 今の自分の生き方に対する満足度

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
総 計	100.0 (1,685)	100.0 (1,978)	100.0 (426)	100.0 (260)
満 足	13.3	12.4	8.5	12.3
や や 満 足	26.6	23.7	21.1	13.5
どちらともいえない	29.0	26.4	39.9	33.8
や や 不 満	17.2	25.5	15.0	25.8
不 満	13.9	12.0	15.5	14.6
平 均 値	3.08	2.99	2.92	2.83

注 1 無回答を除く。

2 () 内は、実数である。

3 「平均値」は、「満足」を 5 点、「やや満足」を 4 点、「どちらともいえない」を 3 点、「やや不満」を 2 点、「不満」を 1 点としたときの、各群の平均値である。

(2) 自己意識

非行少年がどのような自己意識をもっているかを探るために、本調査では 12 項目の質問をしている (Q13)。質問及び回答の形式は、「あなたは、日ごろの生活で、次のような感じになることがありますか」と問い、それぞれの項目について、「よくある」、「ときどきある」、「あまりない」、「まったくない」の中から択一回答を求めるものである。その結果について、選択肢のうち「よくある」と「ときどきある」とを合計したもの（以下、単に「ある」という。）の比率を前回調査と比較したものが、表 2-3 である。なお、ここでも、前回からの変化が統計的に有意であるか否かを明らかにするため、「よくある」を 4 点、「ときどきある」を 3 点、「あまりない」を 2 点、「まったくない」を 1 点として、平均の差の検定を行っている。

質問は大きく、周囲に対する不信感、孤立感、無力感、被害感等の否定的な意識に関するもの(①～⑧)と、充実感、達成感、信頼感等の肯定的な意識に関するもの(⑨～⑫)とに分かれるが、大きな特徴として、男女とも否定的な意識が全般的に薄らいできていることが挙げられる。

まず、男子では、①「世の中には自分しか信じるものがない」、②「世の中は結局金だけが頼りだ」、③「心のあたたまる思いが少ない」、⑤「自分は何をやってもダメな人間だ」、⑥「自分は世の中から取り残されている」、⑦「自分だけが悪く思われている」、⑧「自分は意志が弱い」の各項目で、そう感じるものが「ある」とする者の比率が低下しており、平均の差についての検定の結果も 5%水準で有意となっている(① $t=2.615$, ② $t=5.987$, ③ $t=6.756$, ⑤ $t=4.318$, ⑥ $t=3.732$, ⑦ $t=5.619$, ⑧ $t=4.303$)。ただ、年齢層別に見ると、年長・中間少年では、これらのほぼすべての項目で有意差が認められるのに対し、年少少年では、②及び⑦以外は有意差がなく、年長・中間少年ほど明確な傾向は出ていない。また、否定的な意識に関する項目のうち、④「自分の性格がいやになる」については、有意差は認められない。

女子でも、②「世の中は結局金だけが頼りだ」、③「心のあたたまる思いが少ない」、⑤「自分は何をやってもダメな人間だ」、⑥「自分は世の中から取り残されている」、⑦「自分だけが悪く思われている」の各項目で、そう感じるものが「ある」とする者の比率が低下しており、検定の結果も 5%水準で有意となっている(② $t=3.856$, ③ $t=2.525$, ⑤ $t=2.800$, ⑥ $t=3.370$, ⑦ $t=2.980$)。年齢層別に見ると、中間少年では、これらのほぼすべての項目で有意差が認められるのに対し、年長・年少少年では、明確な傾向は出ていない。

一方、肯定的な意識に関する項目については、特に男子において、⑨「ものごとに打ち込んでいる」、⑪「自分の努力がだんだん実ってきている」の各項目で、「ある」とする者の比率が上昇しており、平均値の差も5%水準で有意となっている(⑨ $t=-3.913$, ⑪ $t=-4.160$)。⑫「世の中の人々は互いに助け合っている」についても、「ある」とする者の比率は上昇しているものの、平均値に5%水準で有意差は認められない。女子については、「ある」とする者の比率が若干上昇している項目もあるものの、男子のように明確な傾向は認められない。また、⑩「自分は頼りにされている」については、男女とも前回と比べてほとんど変化がない。

なお、自己意識については比較的男女差が大きい。④「自分の性格がいやになる」ことが「ある」とするものが、女子では前回・今回ともに約86%の高率になっているのを始めとして、⑤「何をやってもダメな人間だ」、①「自分しか信じるものがない」などの否定的な意識をもつ者の比率は、女子が男子を大きく上回っている。一方、肯定的な意識については、⑩「自分は頼りにされている」を除く3項目で、男子が女子をかなり上回っている。

表2-3 自己意識

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
① 世の中には自分しか信じるものがない	42.2 (2.33)	39.4 (2.25)	51.1 (0.00)	48.3 (2.40)
② 世の中は結局金だけが頼りだ	73.5 (2.92)	64.9 (2.75)	80.3 (3.12)	70.1 (2.87)
③ 心のあたたま思いが少ない	54.4 (2.62)	44.4 (2.44)	59.2 (2.69)	50.2 (2.53)
④ 自分の性格がいやになる	71.2 (2.87)	69.9 (2.82)	86.4 (3.21)	86.2 (3.16)
⑤ 自分は何をやってもダメな人間だ	54.6 (2.58)	50.4 (2.45)	70.5 (2.90)	63.2 (2.72)
⑥ 自分は世の中から取り残されている	40.0 (2.33)	36.4 (2.22)	50.4 (2.51)	37.2 (2.28)
⑦ 自分だけが悪く思われている	67.6 (2.85)	59.9 (2.68)	72.4 (3.00)	63.6 (2.80)
⑧ 自分は意志が弱い	80.9 (3.15)	75.4 (3.02)	80.6 (3.14)	74.7 (3.03)
⑨ 自分がものごとに打ち込んでいるという感じ	63.0 (2.75)	67.9 (2.85)	48.0 (2.52)	51.0 (2.56)
⑩ 自分は頼りにされているという感じ	61.7 (2.70)	60.7 (2.67)	61.7 (2.66)	62.1 (2.61)
⑪ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じ	54.7 (2.59)	61.3 (2.70)	47.4 (2.42)	45.6 (2.40)
⑫ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じ	59.3 (2.72)	62.8 (2.77)	52.9 (2.59)	55.9 (2.69)

注1 数値は、総数に対して「よくある」及び「ときどきある」の占める比率である。

2 無回答を除く。

3 ()内は、「よくある」を4点、「ときどきある」を3点、「あまりない」を2点、「まったくない」を1点としたときの各群の平均値である。

2 家庭生活と家族

(1) 家庭生活に対する満足度

家庭生活に対する満足度を前回調査と比較したものが表 2－4 である (Q1)。「満足」、「やや満足」とする者の比率は、男女共に前回を上回っており、特に女子において、「満足」とする者の比率が 21.5% から 34.2%へと大きく上昇しているのが目立っている。一方、「不満」、「やや不満」とする者の比率も、特に女子で低下している。平均の差の検定を行った結果は、男女とも 5%水準で有意(男子：t＝－2.872，女子：t＝－3.649)であり、前回調査と比較して家庭生活に対する満足度は高くなっているといえる。ただし、年齢層別にみると、全般的に家庭生活に対する満足度が高くなっている中で、男子の年少少年だけは、そうした傾向が見られない。

表 2－4 家庭生活に対する満足度

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
総 計	100.0 (1,679)	100.0 (2,004)	100.0 (424)	100.0 (263)
満 足	38.2	41.1	21.5	34.2
や や 満 足	26.3	27.9	21.0	22.1
どちらともいえない	21.9	19.0	28.5	20.9
や や 不 満	8.9	9.0	18.9	16.3
不 満	4.8	3.0	10.1	6.5
平 均 値	3.84	3.95	3.25	3.61

注 表 2－2 の注に同じ。

表 2－5 は、家庭生活に「不満」又は「やや不満」とした者に対して、その理由を 10 個の選択肢の中から重複選択で回答させた結果を示したものである (Q2)。

男女とも、不満理由の第 1 位と第 2 位は前回と同じであり、④「親が自分を理解してくれない」と②「家庭内に争いごとがある」が挙がっている。選択率の増減を見ると、②「家庭内に争いごとがある」、③「親の愛情が足りない」、④「親が自分を理解してくれない」など、親子間や家庭内の対人関係等を背景とした不満理由はおおむね前回を下回っている一方で、①「家庭の収入が少ない」という経済的な理由を挙げる者の比率が上昇しているものの、 χ^2 検定の結果では、いずれも 5%水準で有意差は認められない。

表 2 - 5 家庭生活に対する不満の理由

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
総 数	100.0 (229)	100.0 (241)	100.0 (123)	100.0 (60)
① 家庭の収入が少ない	24.9	32.0	17.9	28.3
② 家庭内に争いごとがある	43.2	38.2	54.5	43.3
③ 親の愛情が足りない	28.4	25.3	34.1	30.0
④ 親が自分を理解してくれない	47.2	47.3	65.9	60.0
⑤ 病人がいる	10.0	7.1	8.1	6.7
⑥ きょうだいと気が合わない	25.8	19.1	21.1	33.3
⑦ 家の周囲の環境が悪い	18.3	14.9	17.9	15.0
⑧ 家が狭すぎる	30.1	19.9	22.0	21.7
⑨ ただなんとなく	26.6	19.9	35.0	28.3
⑩ その他	33.2	23.7	30.9	26.7

注 1 無回答を除く。

2 () 内は、「不満」又は「やや不満」とした者の実数である。

(2) 家族との関係

本調査では、非行少年が親を中心とした家族との関係をどのように感じているかを知るために、「あなたは、家の中で、次のことをしたり、感じたりしたことがありますか」と問い (Q3)、「よくある」、「ときどきある」、「あまりない」、「まったくない」の中から択一で選択させている。表 2 - 6 は、「ある」とする者の比率を前回調査と比較したものである。ここでも、「自己意識」(1(2)参照)と同様の統計的手法より、平均の差の検定を行っている。

表 2 - 6 家族関係

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
① 家族と話をすること	80.6 (3.26)	84.1 (3.39)	72.1 (3.01)	82.7 (3.31)
② 家では自分の部屋にひとりであること	68.4 (3.01)	71.2 (3.07)	71.2 (3.12)	66.9 (2.99)
③ 自分の将来について、親に話しかけること	54.9 (2.59)	59.7 (2.65)	43.6 (2.33)	56.5 (2.61)
④ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感じること	31.2 (2.15)	28.1 (2.10)	38.4 (2.26)	35.4 (2.18)
⑤ 親がきびしすぎると感じる事	40.9 (2.36)	40.8 (2.35)	58.5 (2.70)	53.8 (2.64)
⑥ 親のいうことは、気まぐれであると感じること	26.7 (2.02)	24.6 (2.00)	47.1 (2.44)	40.4 (2.32)
⑦ 親が自分の言いなりになりすぎると感じる事	13.3 (1.71)	10.0 (1.65)	17.9 (1.82)	15.8 (1.75)

注 表 2 - 3 の注に同じ。

質問は、大きく、家族との交流に関するもの(①～③)と、親の養育態度に関するもの(④～⑦)に分けられる。まず、家族との交流についてみると、男女共に、②「家では部屋にひとりであること」については、明らかな変化が見られないものの、①「家族と話をすること」及び③「自分の将来について話しかけること」については、「ある」とする者の比率がそれぞれ上昇している。①及び③については、平均の差についての検定の結果も5%水準で有意となっており(①男子： $t=-4.572$ ，女子： $t=-4.333$ ，③男子： $t=-2.186$ ，女子： $t=-3.754$)，前回と比べ、家族との交流や心理的な結び付きが強くなっていることがうかがえる。この傾向は特に女子に顕著であり、前回調査では、女子は男子と比較して家族との交流や心理的な結び付きが弱いという傾向が認められたが、今回の調査では男女間の差はかなり小さくなっている。

次に、親の養育態度について見ると、まず、男子では、④「自分が何をしても、親があまり気にしないと感じること」、⑥「親のいうことは、気まぐれであると感じること」、⑦「親が自分の言いなりになりすぎると感じる」の各項目で、「ある」とする者の比率が若干低下しているが、このうち平均値に5%水準で有意な差が認められるのは、⑦のみ($t=2.280$)となっている。女子については、⑤「親が厳しすぎると感じる」を含めた4項目すべてで、そう感じる者がいるとする者の比率が低下しているが、平均の差の検定を行った結果では、5%水準で有意差は認められない。

なお、親の養育態度についての感じ方は、男女間でかなり差があり、⑤「親が厳しすぎる」、⑥「親のいうことは気まぐれ」と感じている者の比率は、前回同様、女子が男子を大きく上回っている。

3 交友関係と友達

(1) 友達づきあいに対する満足度

表2-7は、友達づきあいに対する満足度を前回調査と比較した結果を示したものである(Q4)。男子は、前回と比べて「満足」とする者の比率が高くなっている一方、「やや不満」、「不満」の比率は若干低下している。女子は、「やや不満」、「不満」とする者の比率がわずかに低下しているものの、「満足」、「やや満足」についてはほとんど変化が見られない。平均の差の検定を行った結果は、男子では5%水準で有意($t=-3.619$)であるが、女子では有意差は認められない。

表2-7 友達づきあいに対する満足度

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
総 計	100.0 (1,682)	100.0 (2,006)	100.0 (425)	100.0 (262)
満 足	41.5	46.6	41.4	41.2
や や 満 足	28.8	28.0	28.5	28.6
どちらともいえない	19.4	17.5	19.3	23.3
や や 不 満	6.9	5.8	6.6	5.0
不 満	3.3	2.2	4.2	1.9
平 均 値	3.98	4.11	3.96	4.02

注 表2-2の注に同じ。

今回の調査で友達づきあいに「不満」又は「やや不満」とした者が女子では少数（18人）であったので、男子についてのみ不満理由（重複選択）を見たものが表2-8である（Q5）。今回は、②「お互いに心を打ち明け合うことができない」が最も多く、以下、⑨「つき合っているけど張り合いがなく、自分が向上しない」、⑪「好きでもないのにつき合わなければならない」、①「気の合う友達がいらない」などとなっている。前回と比較して選択率に多少の増減があるものの、 χ^2 検定の結果、5%水準で有意差は認められない。

表2-8 友達づきあいに対する不満の理由

区 分	男 子	
	前 回	今 回
総 数	100.0 (172)	100.0 (160)
① 気の合う友達がいらない	51.7	42.5
② お互いに心を打ち明け合うことができない	51.7	60.6
③ 自分よりもほかの人と仲良くする	25.0	24.4
④ 仲間はずれにされる	19.8	23.8
⑤ 自分のすることに口出ししてくる	26.7	22.5
⑥ グループの中のまとまりが悪い	40.7	39.4
⑦ 自分のことを分かってくれない	32.0	31.3
⑧ 自分のいうことが通らない	25.6	27.5
⑨ つき合っているけど張り合いがなく、自分が向上しない	44.8	44.4
⑩ 自分に冷たい	16.3	18.1
⑪ 好きでもないのにつき合わなければならない	37.2	43.1
⑫ その他	34.3	30.0

注1 無回答を除く。

2 () 内は、「不満」又は「やや不満」とした者の実数である。

(2) 友達との関係

非行少年が友達との関係をどのように認知し、友達に何を期待しているかを知るために、「あなたと友達との関係について、次の中からあてはまるものを、いくつでも選んでください」と問い、友達関係の具体例を記述した11の選択肢の中から重複選択させた結果を示したものが表2-9である（Q6）。

表2-9 友達との関係

区 分	男 子			女 子		
	前 回	今 回	有意差	前 回	今 回	有意差
① 悲しいことがあったら話を聞いてもらう	64.9	74.0	*	88.3	90.1	
② 相手にけっこう気をつかっている	35.6	40.4	*	20.1	28.1	*
③ あまり深刻な相談はしない	28.9	28.1		17.3	14.8	
④ つきあっているのは、何か得るものがあるからだ	18.5	24.2	*	21.7	21.3	
⑤ お互いに張り合う気持ちがある	33.9	37.6	*	25.7	25.1	
⑥ けんかをし合える	29.9	36.6	*	49.5	61.2	*
⑦ 何も言わなくても、分かり合える	36.1	40.7	*	57.5	53.6	
⑧ お互いの性格は裏の裏まで知っている	43.6	42.1		58.6	49.4	*
⑨ 自分のすべてをさらけ出すわけではない	22.4	29.9	*	19.6	24.3	
⑩ お互いに悪いところは悪いと言い合える	54.3	65.0	*	70.1	76.4	
⑪ 一緒にいるときでも、別々のことをしている	17.0	21.5	*	16.8	24.3	*

注 1 各項目を選択した者の、対象人員を100とした構成比である。

2 *は、 χ^2 検定の結果、5%水準で有意差の認められるものを示す。

まず、男子についてみると、前回と同様、選択率が最も高いのは①「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」である。選択率は前回より上昇し、74.0%に上っている。また、選択順位が2位の⑩「お互いに悪いところは悪いと言い合える」を始めとして、⑤「お互いに張り合う気持ちがある」、⑥「けんかをし合える」、④「つきあっているのは、何か得るものがあるからだ」などの項目で選択率が上昇しており、対等な関係の持ち方を重視する傾向が強くなっていることがうかがえる。さらに、⑦「何も言わなくても、分かり合えている」のように情緒的な親密さを示す項目で若干選択率が上昇しているものがあるものの、互いに距離を感じていることを示す、②「相手にけっこう気をつかっている」、⑨「自分のすべてをさらけ出すわけではない」、⑪「一緒にいるときでも、別々のことをしている」などの項目で、いずれも選択率の上昇が見られるのが注目される。

次に、女子についてみると、選択率が最も高いのは、やはり前回同様①「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」であり、約9割に上っている。次いで⑩「お互いに悪いところは悪いと言い合える」であり、これも選択率は上昇しているが、 χ^2 検定の結果、5%水準で有意差は認められない。前回と比べて有意差が認められるのは、⑥「けんかをし合える」、②「相手にけっこう気をつかっている」、⑪「一緒にいるときでも、別々のことをしている」(以上、いずれも、前回より上昇)、⑧「お互いの性格は裏の裏まで知っている」(前回より低下)であり、やはり、情緒的な親密さよりは、友達との間に距離を感じる傾向が強くなっていることがうかがえる。

(3) 大切な友達

次に、「あなたは、どんな友達が大事だと思いますか」と尋ね、6つの友達像の中から一つを選択させた結果を示したものが表2-10である(Q7)。選択された回答の順位は、男女とも前回と変化はない。しかし、男女共に、選択順位1位の「困ったときに助けてくれる人」の比率が上昇している一方で、選択順位2位の「他の人にはいえないことを聞いてくれる人」の比率が低下しており、どちらかという、内面的・精神的な支えより実際の助力をしてくれる関係を重視する傾向が強くなっていることがうかがえる。

表2-10 大切な友達

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
① いつもそばにいて相手になってくれる人	9.1	10.2	13.3	13.5
② 他の人にはいえないことを聞いてくれる人	27.4	24.0	30.7	20.8
③ 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人	18.8	16.3	19.9	17.3
④ いろいろな情報を教えてくれる人	1.8	0.5	0.5	1.2
⑤ 困ったときに助けてくれる人	39.4	43.3	33.3	42.3
⑥ 趣味や興味が似ている人	3.5	5.7	2.3	5.0

注 無回答を除く。

4 周囲の人々との関係

少年たちが日常的に接している家族や友達など周囲の人々をどのように評価し、どのように関わっているか、あるいは、どのような人物を自己の同一視の対象として見ているかなど、身近な人間関係についてのとらえ方を尋ねた結果が表2-11である(Q8)。質問は、「あなたにとって、次の質問に当てはまる人はどんな人ですか」というもので、用意された選択肢の中から重複選択させている。

表 2-11 周囲の人々との関係

区 分	男 子			女 子		
	前 回	今 回	有意差	前 回	今 回	有意差
① 気楽に話ができる人						
父 親	41.7	44.2		19.2	30.4	*
母 親	66.8	72.2	*	55.6	65.8	*
兄 弟 姉 妹	58.1	64.7	*	50.5	55.9	
祖 父 母	23.3	28.2	*	14.0	21.7	*
親 戚 の 人	20.7	20.6		12.6	15.2	
同性の友達・仲間	85.0	88.7	*	91.1	89.4	
異性の友達・恋人	78.2	79.9		88.1	86.3	
先輩	40.6	42.4		46.5	42.6	
先生	13.7	20.3	*	15.4	17.5	
近所の人	7.4	9.2	*	4.4	4.9	
その他	9.9	7.1	*	8.9	2.7	*
誰もいない	1.1	0.3	*	2.1	1.1	
② 悩みを打ち明けられる人						
父 親	23.0	22.0		5.8	7.2	
母 親	39.0	40.8		30.4	34.6	
兄 弟 姉 妹	27.7	28.8		26.4	27.4	
祖 父 母	7.3	6.7		2.8	5.7	
親 戚 の 人	8.0	5.2	*	2.8	6.5	*
同性の友達・仲間	72.5	78.4	*	86.4	82.5	
異性の友達・恋人	65.2	67.6		71.0	66.9	
先輩	25.4	24.9		29.9	29.3	
先生	7.2	9.5	*	8.2	6.8	
近所の人	0.7	1.0		1.4	0.4	
その他	6.7	4.5	*	6.5	1.9	*
誰もいない	3.8	2.8		2.1	2.7	
③ 注意されたら言うことを聞く人						
父 親	48.1	52.0	*	25.2	34.2	*
母 親	47.8	51.6	*	32.9	41.4	*
兄 弟 姉 妹	26.5	28.1		19.4	25.5	
祖 父 母	26.1	28.1		14.7	17.1	
親 戚 の 人	23.7	22.2		10.5	11.4	
同性の友達・仲間	41.6	50.1	*	52.3	63.1	*
異性の友達・恋人	62.5	63.0		79.4	78.3	
先輩	41.4	50.0	*	34.8	33.5	
先生	17.9	23.8	*	12.4	12.2	
近所の人	7.8	8.3		2.6	3.8	
その他	9.8	6.6	*	6.8	3.0	*
誰もいない	4.6	1.7	*	2.6	3.8	
④ 「こんな人になりたい」と思う人						
父 親	42.6	42.2		8.4	13.7	*
母 親	21.3	21.7		32.2	42.2	*
兄 弟 姉 妹	10.5	13.2	*	11.7	13.3	
祖 父 母	9.1	8.3		5.6	7.2	
親 戚 の 人	10.3	8.7		3.7	4.6	
同性の友達・仲間	15.7	17.6		25.7	26.6	
異性の友達・恋人	10.0	8.9		19.4	17.5	
先輩	22.0	25.9	*	30.4	26.2	
先生	11.4	9.7		5.8	4.2	
近所の人	2.6	1.7		1.4	1.1	
その他	18.2	13.7	*	14.3	12.5	
誰もいない	16.2	15.4		18.9	14.4	

注 表 2-9 の注に同じ。

①「あなたが、気楽に話ができる人はどの人ですか」では、どの群でも同性の友達・仲間の選択率が最も高く、次いで異性の友達・恋人、母親、兄弟姉妹の順となっている。選択順位は前回、今回とも同じだが、家族の選択率は前回よりも上昇し、男子では母親、兄弟姉妹、祖父母、女子では父親、母親、祖父母の選択率が上昇している。

②「あなたが、悩みを打ち明けられるのはどの人ですか」でも、選択順位は①とほぼ同様であり、同性・異性の友達等の選択率はいずれも65%を超えている。

③「あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか」については、どの群でも異性の友達・恋人の選択率が最も高い。これに次ぐのは、男子では父親、母親、同性の友達・仲間、女子では同性の友達・仲間、母親、父親の順で、これらはいずれも前回より選択率が上昇している。

④「あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか」については、男子では父親、女子では母親の選択率が高く、特に女子で父親、母親の選択率が上昇している。

全体的に見て、前回と同様、「こんな人になりたい」を除く三つの項目については、男女とも同性の友達・仲間や異性の友達・恋人が上位を占めており、身近な人間関係の中でこれらの者が依然として大きな意味をもっていることが認められる。また、「気楽に話ができる人」と「注意されたら言うことをきく聞く人」では、父親、母親、兄弟姉妹を選択する者の比率が上昇しており、「こんな人になりたい」でも女子で父親や母親を選択する者の比率が上昇していることから、前回調査と比べて家族のもつ意味が大きくなっていることがうかがえる。

5 社会に対する満足度

今の社会に対する満足度について尋ねた結果を前回調査と比較したものが表2-12である（Q9）。

表2-12 社会に対する満足度

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
総 計	100.0 (1,674)	100.0 (1,990)	100.0 (419)	100.0 (261)
満 足	15.1	13.7	4.3	4.6
や や 満 足	23.8	21.2	19.1	13.4
どちらともいえない	39.2	41.8	56.6	50.6
や や 不 満	13.3	15.1	11.0	20.3
不 満	8.6	8.3	9.1	11.1
平 均 値	3.23	3.17	2.99	2.83

注 表2-2の注に同じ。

満足度を5段階に得点化した上で前回と今回との間の平均の差の検定を行った結果、男子では有意差は認められなかったが、女子では5%水準で有意差が認められた($t=2.480$)。女子について見ると、特に「やや不満」の比率が上昇している。

表2-13は、社会について「不満」又は「やや不満」とした者にその理由を尋ねた（Q10）結果を示したものである。男子では、前回最も選択率が高かった「金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる」が低下し、代わって「若者の意見が反映されない」が1位になっている。また、「正しいと思うことが通らない」、「社会の仕組みが決まりきっている」も過半数を超えている。一方、女子では、男子とは逆の変化

が見られ、前回最も選択率が高かった「若者の意見が反映されない」に代わって「金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる」が1位になっている。

表 2-13 社会に対する不満の理由

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
総 数	100.0 (366)	100.0 (466)	100.0 (84)	100.0 (82)
① 社会の仕組みがきまりきっている	49.7	55.2	46.4	35.4
② 若者の意見が反映されない	58.2	64.4	61.9	54.9
③ 正しいと思うことが通らない	48.9	57.3	48.8	47.6
④ 国民の意見がまとまっていない	29.2	35.4	32.1	22.0
⑤ 金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる	69.1	60.7	59.5	59.8
⑥ まじめな者がむくわれない	29.8	33.0	20.2	20.7
⑦ 人々の考え方や行動が乱れている	47.0	43.8	39.3	45.1
⑧ その他	37.4	30.5	39.3	28.0

注 1 無回答を除く。

2 () 内は、「不満」又は「やや不満」とした者の実数である。

6 価値観・意見

(1) 価値観・意見

価値観については、日常生活に関する 19 の意見を取り上げ、「あなたは次の意見に賛成ですか、それとも反対ですか」と問い、「賛成」、「やや賛成」、「どちらとも言えない」、「やや反対」、「反対」の中から択一で回答を求めた (Q12)。

表 2-14 は、各質問項目に対する賛成率（総回答数に対する「賛成」と「やや賛成」の合計数の比率をいう。）、反対率（総回答数に対する「反対」と「やや反対」の合計数の比率をいう。）及び「どちらともいえない」とする比率並びに「賛成」を 5 点、「やや賛成」を 4 点、「どちらともいえない」を 3 点、「やや反対」を 2 点、「反対」を 1 点とした平均値を示したものである（⑭「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」、⑮「自分の命をどうだめにしようとする私の勝手だ」、⑯「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」の 3 項目は、今回の調査で新たに加えたものである。）。

男女共に⑭「義理人情を大切にすべきだ」、⑦「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」の賛成率が大幅に低下し、男子では②「年上や目上の人には従うべきだ」の賛成率も低下しているなど、いわゆる伝統的な価値観に賛成する者の比率の低下が目立っている。これらの項目については、いずれも、平均値の低下に 5 %水準で有意差が認められた（⑭男子：t= 5.958, 女子：t= 4.454, ⑦男子：t= 11.964, 女子：t= 5.051, ②男子：t= 4.489）。ただ、⑭「義理人情を大切にすべきだ」との意見に対する賛成率は、特に男子では、まだ 3 分の 2 を占めている。なお、前回調査で賛成率が男女共に最も高かった⑨「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」は、今回の調査でも 7 割前後の者が肯定しているが、前回調査と比較すると賛成率はかなり低下し、平均値の低下にも 5 %水準で有意差が認められる（男子：t= 5.177, 女子：t= 3.852）。

表 2-14 価値観・意見

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
① ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ	(3.86)	(3.73)	(3.89)	(3.80)
賛 成 ・ や や 賛 成	65.9	60.6	64.3	59.5
ど ち ら と も い え な い	22.9	26.3	28.4	32.8
反 対 ・ や や 反 対	11.2	13.1	7.3	7.6
② 年上や目上の人には従うべきだ	(3.38)	(3.21)	(3.00)	(2.87)
賛 成 ・ や や 賛 成	46.3	42.8	32.4	32.1
ど ち ら と も い え な い	36.7	33.2	38.0	31.3
反 対 ・ や や 反 対	17.0	24.0	29.6	36.6
③ コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい	(3.19)	(3.13)	(3.47)	(3.18)
賛 成 ・ や や 賛 成	39.9	37.6	47.2	36.3
ど ち ら と も い え な い	29.2	31.0	32.6	35.5
反 対 ・ や や 反 対	30.9	31.4	20.2	28.2
④ 自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ	(2.82)	(2.69)	(2.77)	(2.65)
賛 成 ・ や や 賛 成	28.3	23.2	25.8	19.8
ど ち ら と も い え な い	34.1	35.1	35.0	37.4
反 対 ・ や や 反 対	37.6	41.6	39.2	42.7
⑤ 自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ	(2.89)	(2.76)	(3.01)	(2.63)
賛 成 ・ や や 賛 成	27.3	22.4	28.4	18.3
ど ち ら と も い え な い	38.2	38.4	44.1	35.5
反 対 ・ や や 反 対	34.5	39.2	27.5	46.2
⑥ 人のことにはあまり深入りしない方がよい	(3.49)	(3.45)	(3.52)	(3.50)
賛 成 ・ や や 賛 成	46.3	46.5	46.9	45.0
ど ち ら と も い え な い	39.8	38.6	40.4	43.5
反 対 ・ や や 反 対	13.9	14.8	12.7	11.5
⑦ 男は外で働き、女は家庭を守るべきだ	(4.13)	(3.68)	(3.25)	(2.74)
賛 成 ・ や や 賛 成	73.1	56.1	42.3	26.7
ど ち ら と も い え な い	19.3	28.2	30.8	29.8
反 対 ・ や や 反 対	7.6	15.7	27.0	43.5
⑧ 世の中は、なるようにしかならないものだ	(3.03)	(2.92)	(3.30)	(2.96)
賛 成 ・ や や 賛 成	33.1	29.1	40.6	26.7
ど ち ら と も い え な い	37.1	36.2	36.4	42.7
反 対 ・ や や 反 対	29.8	34.7	23.0	30.5
⑨ まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ	(4.25)	(4.09)	(4.36)	(4.07)
賛 成 ・ や や 賛 成	78.9	72.2	80.8	68.3
ど ち ら と も い え な い	17.3	22.1	15.5	27.1
反 対 ・ や や 反 対	3.9	5.7	3.8	4.6
⑩ まわりから何か言われないうに、目立たないようにする方がよい	(2.68)	(2.54)	(2.59)	(2.33)
賛 成 ・ や や 賛 成	19.4	18.0	17.8	10.0
ど ち ら と も い え な い	41.0	33.4	38.7	36.8
反 対 ・ や や 反 対	39.7	48.5	43.4	53.3
⑪ 悪い者をやっつけるためなら、場合によっては腕力に訴えてもよい	(3.83)	(3.36)	(3.53)	(3.00)
賛 成 ・ や や 賛 成	63.5	47.1	49.1	31.7
ど ち ら と も い え な い	25.5	30.7	37.1	40.1
反 対 ・ や や 反 対	10.9	22.2	13.8	28.2

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
⑫ 世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい	(2.94)	(3.08)	(3.05)	(3.04)
賛 成 ・ や や 賛 成	30.4	37.1	30.9	32.8
ど ち ら と も い え な い	34.3	31.2	37.9	36.3
反 対 ・ や や 反 対	35.3	31.7	31.1	30.9
⑬ 自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ	(2.28)	(2.30)	(2.54)	(2.30)
賛 成 ・ や や 賛 成	15.2	16.6	19.7	14.9
ど ち ら と も い え な い	24.6	24.1	29.5	28.6
反 対 ・ や や 反 対	60.2	59.3	50.8	56.5
⑭ 義理人情を大切にすべきだ	(4.20)	(4.02)	(3.96)	(3.63)
賛 成 ・ や や 賛 成	76.4	67.7	63.6	46.5
ど ち ら と も い え な い	20.4	28.7	32.6	49.6
反 対 ・ や や 反 対	3.2	3.6	3.8	3.9
⑮ 努力するよりも、要領よくふるまう方がよい	(2.82)	(2.83)	(3.02)	(2.82)
賛 成 ・ や や 賛 成	26.4	23.6	30.0	20.2
ど ち ら と も い え な い	36.6	40.7	42.9	47.3
反 対 ・ や や 反 対	37.0	35.7	27.2	32.4
⑯ リーダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が気楽でいい	(2.55)	(2.47)	(2.57)	(2.44)
賛 成 ・ や や 賛 成	18.2	17.4	15.5	16.4
ど ち ら と も い え な い	36.2	31.3	40.3	30.9
反 対 ・ や や 反 対	45.6	51.3	44.3	52.7
⑰ 将来のために現在の楽しみをがまんするのはばか けている	—	(2.95)	—	(3.05)
賛 成 ・ や や 賛 成	—	31.3	—	34.0
ど ち ら と も い え な い	—	33.8	—	30.9
反 対 ・ や や 反 対	—	34.8	—	35.1
⑱ 自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ	—	(2.11)	—	(2.30)
賛 成 ・ や や 賛 成	—	16.0	—	20.6
ど ち ら と も い え な い	—	16.7	—	17.2
反 対 ・ や や 反 対	—	67.2	—	62.2
⑲ ボランティア活動などを通じて、世の中のため になることが必要だ	—	(4.07)	—	(4.20)
賛 成 ・ や や 賛 成	—	73.6	—	79.8
ど ち ら と も い え な い	—	21.8	—	16.8
反 対 ・ や や 反 対	—	4.6	—	3.4

注 1 無回答を除く。

2 () 内は、「賛成」を5点、「やや賛成」を4点、「どちらともいえない」を3点、やや反対」を2点「反対」を1点としたときの、各群の平均値である。

また、③「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」、⑮「努力するよりも、要領よくふるまう方がよい」の賛成率がいずれも前回より低下しており、気軽さや要領よさより地道な努力を評価する傾向が強くなっていることがうかがえる。その傾向は、特に女子で目立っており、平均値の低下にも5%水準で有意差が認められる（③女子： $t=3.179$ ，⑮女子： $t=2.372$ ）。

さらに、④「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」、⑧「世の中は、なるようにしかならないものだ」、⑩「まわりから何か言われないうに、目立たないようにする方がよい」のように、あえて自己主張せず、周囲の大勢や成り行きにまかせようとする意見に賛成する者の比率はいずれも低

下し、平均値の低下にも5%水準で有意差が認められる(④男子： $t=3.317$ ，⑧男子： $t=2.661$ ，女子： $t=3.601$ ，⑩男子： $t=3.831$ ，女子： $t=3.008$)。その一方で，⑫「世の中全体のことを考えるよりも，自分のしたいことをするほうがよい」の賛成率は上昇し，男子で平均値の上昇に5%水準で有意差が認められ($t=-3.595$)，自分の意見等を重視し，自己主張していこうとする傾向が強くなっていることがうかがえる。

このほか，⑤「自然を守ることも大切だが，生活を便利にする方がもっと大事だ」と⑪「悪い者をやっつけるためなら，場合によっては腕力に訴えてもよい」なども，賛成する者の比率がかなり低下しており，平均値の低下に男女とも5%水準で有意差が認められた(⑤男子： $t=3.418$ ，女子： $t=4.331$ ，⑪男子： $t=12.121$ ，女子： $t=5.892$)。

前回調査においては，非行少年の特徴の一つとして「男女の役割について伝統的，保守的意見をもっている」，「努力よりもその日の生活を楽しく過ごしたがる」，「あえて自己主張はしたがらない」，「自然保護より生活の利便性を肯定しやすい」などの傾向が指摘されたが，このような傾向は薄らいできているといえよう。

また，今回新たに設けた質問に関しては，昨今のボランティア活動に対する関心の高まりを反映してか，⑬「ボランティア活動などを通じて，世の中のためになることが必要だ」とする意見に対する賛成率の高さが目立っている。

(2) 人の暮らし方

「人の暮らし方について，いろいろな考え方がありますが，次の考え方の中で，あなたはどれを選びますか」と問い，五つの選択肢の中から択一で回答を求めた結果を前回調査と比較したものが表2-15である(Q11)。

選択された比率の順位はおおむね前回調査と変わっていないが，男女共に，1位の「金や名誉を考えずに，自分の趣味に合った暮らし方をする」とする者の比率は前回調査より更に上昇し，2位の「いっしょうけんめい働き，節約して金持ちになる」とする者の比率が低下している。

表2-15 人の暮らし方

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
総 計	100.0 (1,687)	100.0 (1,982)	100.0 (424)	100.0 (256)
① いっしょうけんめい働き，節約して金持ちになる	38.6	32.8	24.1	16.0
② まじめに勉強して名をあげる	1.2	1.7	1.2	2.0
③ 金や名誉を考えずに，自分の趣味に合った暮らし方をする	41.6	48.3	51.9	55.1
④ その日その日をのんきに，くよくよしないで暮らす	10.4	10.2	15.6	16.4
⑤ 世の中の正しくないことを押しのけて，どこまでも清く正しく暮らす	8.2	7.0	7.3	10.5

注 1 無回答を除く。

2 () 内は，実数である。

(3) 非行に関する意見

表2-16は、「少年が非行に走るのは、どこに主な原因があると思うか」を尋ねた結果を前回調査と比較したものである（Q15ア）。

まず、男子では、選択された比率の順位に変化はなく、1位が「少年自身」であり、以下、「友達・仲間」、「家庭（親）」の順となっている。選択率では、「友達・仲間」が前回の30.5％から35.0％へと上昇し、「家庭（親）」が12.2％から9.7％へと低下している。女子では、1位が「少年自身」であることは変わらないが、選択率は前回の50.7％から43.5％へと低下したほか、前回2位であった「家庭（親）」（28.5％）が3位（22.3％）に後退し、代わって、前回3位（16.3％）であった「友達・仲間」が2位（27.3％）になっている。このように、男女共に、非行の原因を友達や仲間に求める傾向が強くなっていることが認められる。また、女子で非行の原因を「家庭（親）」に求める者の比率は低下しているものの、男子と比較すると依然として高い。

年齢層別に見てみると、男子では、年齢層が高くなるに従い「少年自身」とする者の比率が高く、「友達・仲間」とする者の比率が低くなっている。

表2-16 少年が非行に走る原因

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
総 計	100.0 (1,683)	100.0 (1,976)	100.0 (424)	100.0 (260)
① 少 年 自 身	52.0	51.3	50.7	43.5
② 家 庭（ 親 ）	12.2	9.7	28.5	22.3
③ 友 達 ・ 仲 間	30.5	35.0	16.3	27.3
④ そ の 他	5.3	3.9	4.5	6.9

注 1 無回答を除く。

2 () 内は、実数である。

次に、「非行少年の扱いについて、厳しく罰するか、あたたかく指導するか、どちらの意見に賛成か」を尋ねた（Q15イ）結果を前回調査と比較すると（表2-17）、「厳しく罰する」とした者は、男子が前回13.6％、今回14.1％、女子が前回12.1％、今回14.8％であり、大きな変化は認められない。

表2-17 非行少年の扱い

区 分	男 子		女 子	
	前 回	今 回	前 回	今 回
総 計	100.0 (1,680)	100.0 (1,973)	100.0 (420)	100.0 (256)
厳 し く 罰 す る	13.6	14.1	12.1	14.8
あ た た か く 指 導 す る	86.4	85.9	87.9	85.2

注 1 無回答を除く。

2 () 内は、実数である。

7 まとめ

これまで見てきたとおり、非行少年の自己意識、家族や友達との関係をめぐる意識、価値観等には、この7年間で、ある程度の変化が認められる。この間に、少年刑法犯の検挙人員は減少から増加へと転じており、非行の中身についても、最近の特徴として強盗を中心とする凶悪事犯の増加、処分歴のない少年による非行の増加、共犯率の上昇等、さまざまな傾向が指摘されている。本研究は、非行少年の意識に関する包括的な調査であり、こうした少年非行の動向との関連を明らかにすることを直接の目的とするものではないが、最近の少年非行の状況を考える上で、いくつかの示唆を与えてくれるものと思われる。

ここでは、本編のまとめとして、今回の調査結果に現れた特徴的な点を取り上げ、若干の考察を加えることとしたい。

(1) 不信感、孤立感、無力感、被害感など、前回調査で指摘された非行少年の強い不適応感が、今回の調査ではやや軽減されてきているのは、興味深い点の一つであると思われる。

こうした変化が出てきた背景として、まず、家族に関する質問項目に対する回答結果からうかがわれるように、家庭内での対立・反発・葛藤等が少なくなっていると思われることや、少年鑑別所収容少年の教育程度が高くなってきていること（注4）などから、家庭や学校での孤立感や無力感が薄らいできていることが考えられる。また、非行自体が、強い不適応感を背景にしたものというよりは、「遊び」、「遊興費欲しさ」、「誘われて」などの安易な動機からのものが多くなってきており（注5）、非行を行ったことやその結果についても、内面的な葛藤や精神的な落ち込みがさほど大きくないのではないかととも考えられる。この点は、見方を変え、罪障感の希薄さをうかがわせるものといえるようにも思われる。

(2) 上記のとおり否定的な自己意識は薄らいできているが、今の自分の生き方に対する満足度は、特に男子では、前回よりむしろ低下している（女子も、今の自分の生き方に対する不満の度合いが高いが、前回と比較すると有意差はない。）。

これは、見方を変え、否定的な自己意識をもってはいないが、今の自分の生き方には満足できない」という者が増加しているということであろうと思われる。試みに、自己意識を「良好」・「不良」に分けた上、今の自分の生き方についての「満足」・「不満」とにより、非行少年を4つの群に分けてみると、表2-18に見られるとおり、前回と比較して、「自己意識は不良であるが、今の自分の生き方には満足」という群（以下「自己意識不良・生き方満足群」という。）の比率が低下し、「自己意識は良好であるが、今の自分の生き方には満足できない」という群（以下「自己意識良好・生き方不満群」という。）の比率が上昇している。

表 2-18 自己意識及び生き方満足度による非行少年の類型

群	前 回	今 回
自己意識良好・生き方満足	462 (31.8)	545 (33.8)
自己意識不良・生き方満足	334 (23.0)	226 (14.0)
自己意識良好・生き方不満	195 (13.4)	326 (20.2)
自己意識不良・生き方不満	460 (31.7)	514 (31.9)
合 計	1,451 (100.0)	1,611 (100.0)

- 注 1 自己意識については、自己意識に関する質問に対する回答について、「よくある」を1点、「ときどきある」を2点、「あまりない」を3点、「まったくない」を4点(ただし、肯定的な意識に関する質問については、-1点から-4点)として得点化し、その合計点が、全体の平均点(9.44)より高い者を「自己意識良好」、低い者を「自己意識不良」とした。
- 2 生き方の満足度については、「満足」及び「やや満足」を「満足」、「不満」及び「やや不満」を「不満」とし、「どちらともいえない」は分析対象から除外している。
- 3 () 内は、構成比である。

自己意識良好・生き方不満群の特徴の一つは、価値観・意見についての回答に現れている。表 2-19 は、価値観・意見に対する回答について、前述のように「賛成」を5点、「やや賛成」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや反対」を2点、「反対」を1点として得点化した上で、4つの群による一元配置分散分析を行った結果、この群と他の3つの群との間で5%水準で有意差が認められた項目について、各群の平均値を示したものである。このうち、③「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」、⑰「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」については、他の3群すべてとの間に有意差が認められ、他の5つの項目については、「自己意識は良好で、今の生き方にも満足」とする群との間に有意差はないが、他の2群との間には有意差が認められる。

表 2-19 自己意識及び生き方満足度による非行少年の類型と価値観・意見(今回)

区 分	自己意識良好 ・ 生き方満足	自己意識不良 ・ 生き方満足	自己意識良好 ・ 生き方不満	自己意識不良 ・ 生き方不満
③ コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい	3.08	3.47	2.90	3.18
⑧ 世の中は、なるようにしかならないものだ	2.79	3.19	2.70	3.09
⑫ 世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい	3.05	3.34	2.89	3.15
⑬ 自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破ることもしかたがない	2.18	2.60	2.06	2.36
⑯ リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でいい。	2.26	2.72	2.34	2.56
⑰ 将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている	2.95	3.17	2.70	3.01
⑱ 自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ	1.92	2.34	1.80	2.38

注 数値は、「賛成」を5点、「やや賛成」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや反対」を2点、「反対」を1点としたときの、各群の平均値である。

これをみると、自己意識良好・生き方不満群は、いわば健全な価値観を有しており、自分に対する要求水準も比較的高いことがうかがえる。特に、毎日の生活を気楽に過ごすのではなく、努力に価値を置く傾向が強い。逆に、自己意識不良・生き方満足群は、地道な努力よりはその場を気楽に過ごそうとする傾向が強いといえる。こうしたことから、最近の傾向として、自分自身に対してはある程度の評価はしており、意識の上では努力の必要性を感じているものの、周囲の人々から評価されたり、努力の成果が認められたりといったことは少なく、自分の生き方に肯定感をもてない非行少年が増えていることがうかがえるように思われる。

(3) 家族についての受け止め方が好転し、非行少年を取り巻く身近な人間関係における家族のもつ意味が大きくなっていることがうかがえるのは、非行と家庭環境の関連を考える上で興味深い。

非行の一般化が言われて久しいが、外見的に両親がそろい、経済的に問題がなくても、家庭内の人間関係をめぐる葛藤や反発と関連づけて非行を理解しようとする傾向は根強い。また、実際、そのような理解が可能なケースが少なくないことも事実であろう。ただ、一方で、少なくとも非行少年自身の意識（受け止め方）の中では、親との交流はそこそこにあり、特段、家庭に対する不満を持たないケースが増加していることも無視できないとすれば、従来の非行と家庭環境に関する知見とはやや異なった視点からの理解が求められるように思われる。

(4) 身近な人間関係の中で、友達・恋人等が依然として大きな意味をもっていることは変わらないが、友達等との関係の持ち方や友達に対する意識が変化してきていることがうかがえる。

一つの傾向としては、本文でも触れたように、友達との関係において、距離を感じる、あるいは距離を置こうとする傾向が強まっているように思われる。一緒にはいるが、それほど親密さを感じているわけではないともいえよう。また、少年が非行に走る主な原因として、「友達・仲間」を挙げる者の比率が、男女とも前回より上昇していることも示唆的である。

このような友達等との関係の持ち方や友達に対する意識の変化は、集団非行の在り方にも影響を与えていると思われる。推測の域を出ないが、かつての暴走族のように凝集性の高い集団ではなく、さほど親密な関係にはない者同士の、機会的な（「群れ」のような）集団によるものが多くなっているのではなかろうか。こうした点を明らかにしていくためには、今後、意識面の変化についての調査と合わせて、友達・仲間との実際の関係の持ち方が、例えば携帯電話の普及等によってどのように変化しているかといったことや、集団で行われる非行の形態等についての調査が必要となると思われる。

(注4) 福田美喜子ほか「少年鑑別所収容少年の特質」第4の1(3)によれば、少年鑑別所収容少年の教育程度を昭和63年と平成9年とで比較すると、男子では、中学卒業(51.1%→35.0%)が減少し、高校中退(27.8%→35.4%)、高校在学(5.7%→13.3%)、高校卒業(4.2%→5.7%)がそれぞれ増加しており、女子でも、中学卒業(39.3%→30.3%)が減少し、高校中退(24.6%→32.4%)、高校在学(4.6%→13.1%)、高校卒業(1.9%→5.5%)がそれぞれ増加している(本報告書10ページ)。

(注5) 長島裕ほか「犯罪少年の実態調査——検察の少年調査票に基づく調査分析結果」, 法務総合研究所研究部報告3, 1999 参照。

第3 非行性の深度による比較

ここでは、少年の非行性の深度により、非行少年の生活意識や価値観にどのような相違があるかを検討することを通して、現在の非行少年の特質を分析する。

調査対象は、短期保護観察少年（短期保護観察群）及び少年院在院少年（少年院群）であり、後者を入院回数により今回の入院が初回の者（初入群）と今回の入院が2回目以上である者（再入群）の2群に分けたが、非行性の深度は、短期保護観察群、初入群、再入群の順に進んでいるものと考えられる。

対象者群の男女別、年齢層別内訳は表3-1のとおりであり、平均年齢は、短期保護観察群16.8歳（男子16.8歳、女子16.5歳）、初入群17.4歳（同17.4歳、17.2歳）及び再入群18.4歳（同18.4歳、18.2歳）である。

なお、年齢層別の比較は、いずれの群においてもわずかな差異が断片的に見られたのみで、各群の年齢層の特徴を把握するに至らなかったため、以下の分析では触れていない。また、女子再入群の人員が少なく、以下の分析の中で女子について3群間に有意差が認められなかったものも、対象数の制約により差が出なかった可能性が考えられることを、あらかじめお断りしたい。

表3-1 意識調査対象人員

区 分	総 数			男 子			女 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総 計	795 (100.0)	2852 (100.0)	654 (100.0)	708 (100.0)	2532 (100.0)	613 (100.0)	87 (100.0)	320 (100.0)	41 (100.0)
年少少年	181 (22.8)	352 (12.3)	5 (0.8)	154 (21.8)	299 (11.8)	5 (0.8)	27 (31.0)	53 (16.6)	0 (-)
中間少年	375 (47.2)	1118 (39.2)	153 (23.4)	336 (47.5)	996 (39.3)	137 (22.3)	39 (44.8)	122 (38.1)	16 (39.0)
年長少年	239 (30.1)	1382 (48.5)	496 (75.8)	218 (30.8)	1237 (48.9)	471 (76.8)	21 (24.1)	145 (45.3)	25 (61.0)

注 1 年齢層の区分は、年少少年（14歳以上16歳未満）、中間少年（16歳以上18歳未満）及び年長少年（18歳以上22歳未満）とする。

2 () 内は構成比である。

1 自己適応感

(1) 自分の生き方に対する満足度

表3-2は、今の自分の生き方に対する満足度を尋ねた質問(Q19)への回答結果を示したものである。

ここで、「満足」を5点、「やや満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点と得点化し、非行性の深度の異なる3つの群について満足度の相違を見るために、一元配置分散分析を行うと、男女共に5%水準で有意である（男子：F=82.4, df=2, 3842, 女子：F=5.2, df=2, 443）。群間の差を見るために多重比較をすると、男子についてはどの群間にも有意差が認められ、女子については短期保護観察群と初入群、再入群それぞれとの間に有意差が認められる（以下、満足度を問う質問に対する回答形式は同様であり、回答結果についても同様の統計的処理を行うこととする。）。

各群の平均値からして、男子については、短期保護観察群、初入群、再入群と非行性の深度が進むに従い、自分の生き方に対する満足度が低下し、女子についても、初入群と再入群には有意差が認められないものの、非行性が進んでいる少年院群の方が短期保護観察群より満足度が低いといえる。

表 3 - 2 今の自分の生き方に対する満足度

区 分	男 子			女 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総 計	100.0 (702)	100.0 (2531)	100.0 (612)	100.0 (85)	100.0 (320)	100.0 (41)
満 足	18.4	13.1	9.6	14.1	11.9	2.4
や や 満 足	31.5	18.9	14.4	28.2	19.4	19.5
どちらともいえない	31.8	27.5	28.8	34.1	30.9	39.0
や や 不 満	12.5	20.8	21.4	18.8	20.3	17.1
不 満	5.8	19.6	25.8	4.7	17.5	22.0
平 均 値	3.44	2.85	2.61	3.28	2.88	2.63

注 1 年齢層の区分は、年少少年（14 歳以上 16 歳未満）、中間少年（16 歳以上 18 歳未満）及び年長少年（18 歳以上 22 歳未満）とする。

2 () 内は構成比である。

(2) 自己意識

自己意識に関連する質問 (Q13) への回答について、「よくある」を 4 点、「ときどきある」を 3 点、「あまりない」を 2 点、「まったくない」を 1 点として、一元配置分散分析を行ない、非行性の深度による自己意識の違いを見ると、12 問中、⑨「自分がものごとに打ち込んでいる」及び⑩「自分の努力がだんだん実ってきている」については、男女共に有意でなく、非行性の深度による違いは見られないが、残りの 10 問については、次のとおり、男女あるいは男子のみについて 5 %水準で有意である。なお、各群の平均値は表 3 - 3 のとおりである。

①「世の中には自分しか信じるものがない」については、男女共に有意である（男子：F= 28.7, df= 2, 3827, 女子：F= 4.4, df= 2, 443）。群間の差を見るために多重比較をすると、男子では 3 群間相互に、女子では短期保護観察群と再入群の間に有意差が認められ、平均値からして、男子では非行性が進むに従い、女子では短期保護観察群より非行性の進んでいる再入群において、自分しか信じるものがないと感じることが多くなるといえる。

②「世の中は結局金だけが頼りだ」については、男子で有意である（F= 21.6, df= 2, 3829）。群間の差も 3 群間相互に有意差があり、平均値からして、非行性が進むに従い、金だけが頼りだという感じるが多くなる傾向にあるといえる。

③「心の温まる思いが少ない」については、男女共に有意である（男子：F= 42.5, df= 2, 3828, 女子：F= 4.0, df= 2, 442）。多重比較をすると、男子では 3 群相互に、女子では短期保護観察群と再入群との間にそれぞれ有意差が認められ、平均値からして、男子については非行性が進むに従い、女子については短期保護観察群より再入群において、心の温まる思いが少ないと感じることが多くなるといえる。

④「自分の性格がいやになる」については、男子のみ有意である（F= 30.5, df= 2, 3830）。群間を比べると、短期保護観察群と初入群、再入群それぞれとの間で有意差が認められ、いずれの場合も非行性

の進んでいる少年院群において、自分の性格がいやになると感じる事が多くなるといえる。

⑤「自分は何をやってもダメな人間だ」についても、男子で有意であり ($F=35.9$, $df=2$, 3829), 群間では短期保護観察群と初入群, 再入群それぞれとの間で有意差が認められ, 平均値からして, 短期保護観察群に比べ, 少年院群において, 自分は何をやってもダメだと感じる事が多くなる傾向にあるといえる。

⑥「自分は世の中から取り残されている」については, 男女共に有意である (男子: $F=37.5$, $df=2$, 3828, 女子: $F=5.5$, $df=2$, 442)。多重比較をすると, 男子では3群間相互に有意差が認められ, 平均値からして, 非行性が進むに従い, 世の中から取り残されていると感じる事が多くなっているといえる。一方, 女子については, 少年院群間の有意差は認められないが, 短期保護観察群と初入群との間で有意差が認められ, 平均値からして, 短期保護観察群に比べて初入群において, 世の中から取り残されていると感じている事が多くなっているといえる。

⑦「自分だけが悪く思われている」についても, 男女共に有意であり (男子: $F=58.9$, $df=2$, 3828, 女子: $F=3.2$, $df=2$, 443), 男子では, 短期保護観察群と初入群, 再入群それぞれとの間で有意差が認められ, 平均値からして, 短期保護観察群に比べて少年院群において, 自分だけが悪く思われていると感じる事が多くなっているといえる。また, 女子では, 少年院群間の有意差は認められないが, 短期保護観察群と初入群との間で有意差が認められ, 平均値からして, 短期保護観察群に比べて初入群において, 自分だけが悪く思われていると感じる事が多くなっているといえる。

⑧「自分は意志が弱い」については, 男女共に有意である (男子: $F=113.6$, $df=2$, 3829, 女子: $F=9.5$, $df=2$, 443)。群間を比べてみると, 男女とも短期保護観察群と初入群, 再入群それぞれとの間で有意差が認められ, いずれの場合も短期保護観察群に比べて非行性の進んでいる少年院群において, 自分の意志が弱いと感じる事が多くなっているといえる。

⑩「自分は頼りにされている」については, 男女共に有意であり (男子: $F=19.2$, $df=2$, 3828, 女子: $F=6.5$, $df=2$, 443), 男女とも短期保護観察群と初入群, 再入群それぞれとの間で有意差が認められ, いずれの場合にも, 少年院群よりも短期保護観察群において, 自分が頼られていると感じる事が多くなっている。

⑫「世の中の人々は互いに助け合っている」については, 男子で有意であり ($F=6.5$, $df=2$, 3829), 短期保護観察群と初入群, 再入群それぞれとの間で有意差が認められ, 少年院群に比べて短期保護観察群において, 世の中の人々は互いに助け合っていると感じる事が多くなっている。

ところで, 自己意識に関する質問は, 大別して, 周囲に対する不信感, 孤立感, 無力感, 被害感等の否定的な意識に関するもの (①~⑧) と, 充実感, 達成感等の肯定的な意識に関するもの (⑨~⑫) に分けることができるが, このうち, 5%水準で有意であった10の質問に対する男子の回答を見ると, 非行性の深度と自己意識に関する質問については次の3つのパターンに分けられる。

ア 非行性の深度が進むにつれて, そう感じる事が多くなっているもの (①, ②, ③, ⑥)

イ 短期保護観察群より少年院群でそう感じる事が多くなっているが, 少年院群間では有意差がないもの (④, ⑤, ⑦, ⑧)

ウ 少年院群より短期保護観察群でそう感じる事が多くなっているが, 少年院群間では有意差がないもの (⑩, ⑫)

これは, 短期保護観察群に比べ少年院群では, 無力感, 被害感, 不信感, 孤立感などを抱くことが多いが, 加えて, 再入群は初入群に比べて, 世の中には自分しか信じるものがない, 自分は世の中から取り残されているなどの気持ちを抱くことが多いことを示すものと思われる。

表 3 - 3 自己意識

区 分			男 子	女 子
①	世の中には自分しか信じるものがないという感じ			
	短期保護観察群		2.30	2.53
	初入群		2.52	2.72
	再入群		2.68	3.02
②	世の中は結局金だけが頼りだという感じ			
	短期保護観察群		2.87	3.04
	初入群		3.07	3.11
	再入群		3.17	3.12
③	心のあたたま思いが少ないという感じ			
	短期保護観察群		2.43	2.52
	初入群		2.68	2.73
	再入群		2.87	2.95
④	自分の性格がいやになるという感じ			
	短期保護観察群		2.65	3.08
	初入群		2.95	3.29
	再入群		2.99	3.39
⑤	自分は何をやってもダメな人間だという感じ			
	短期保護観察群		2.27	2.75
	初入群		2.60	2.87
	再入群		2.62	3.02
⑥	自分は世の中から取り残されているという感じ			
	短期保護観察群		2.04	2.11
	初入群		2.32	2.49
	再入群		2.50	2.39
⑦	自分だけが悪く思われているという感じ			
	短期保護観察群		2.52	2.75
	初入群		2.94	3.02
	再入群		2.97	2.95
⑧	自分は意志が弱いという感じ			
	短期保護観察群		2.71	2.84
	初入群		3.25	3.28
	再入群		3.34	3.39
⑨	自分がものごとに打ち込んでいるという感じ			
	短期保護観察群		2.84	2.40
	初入群		2.77	2.59
	再入群		2.82	2.40
⑩	自分は頼りにされているという感じ			
	短期保護観察群		2.63	2.67
	初入群		2.41	2.35
	再入群		2.41	2.22
⑪	自分の努力がだんだん実ってきているという感じ			
	短期保護観察群		2.68	2.41
	初入群		2.65	2.63
	再入群		2.64	2.44
⑫	世の中の人々は互いに助け合っているという感じ			
	短期保護観察群		2.57	2.53
	初入群		2.43	2.47
	再入群		2.44	2.51

注 平均値は、個々の回答を「よくある」を4点、「ときどきある」を3点、「あまりない」を2点、「まったくない」1点とし、合計した上で回答人員の実数で割ったものである。

2 家庭生活と家族

(1) 家庭生活に対する満足度

表3-4は、家庭生活についての満足度を尋ねた質問(Q1)への回答結果を示したものである。

一元配置分散分析を行ってみると、男女とも5%水準で有意である(男子:F=50.2, df=2, 3846, 女子:F=8.1, df=2, 442)。群間の差を見ると、男子では3群相互に、女子では短期保護観察群と初入群、再入群それぞれとの間で有意差が認められる。平均値からして、男子では短期保護観察群、初入群、再入群と非行性が進むに従い、家庭生活に対する満足度が低下しているといえる。また、女子では短期保護観察群に比べ、少年院群の満足度が低く、少年院在院少年に家庭生活に何らかの問題を抱える者の多さを感じさせる。

表3-4 家庭生活に対する満足度

区 分	男 子			女 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総 計	100.0 (707)	100.0 (2530)	100.0 (612)	100.0 (87)	100.0 (317)	100.0 (41)
満 足	34.7	28.0	20.8	31.0	22.4	19.5
やや 満 足	27.2	26.9	20.4	27.6	24.0	14.6
どちらともいえない	30.6	25.7	30.2	31.0	23.7	17.1
やや 不 満	6.4	14.0	18.3	6.9	18.9	29.3
不 満	1.3	5.4	10.3	3.4	11.0	19.5
平 均 値	3.88	3.58	3.23	3.76	3.28	2.85

- 注 1 無回答を除く。
 2 () 内は実数である。
 3 表3-2の注3に同じ。

次に、家庭生活家庭生活に「不満」又は「やや不満」とした者に対し、その理由を尋ねた質問(Q2)への回答結果を見ることとするが、女子については、初入群以外該当者が極めて少ないので、男子についてその回答結果をまとめたものが表3-5である。

選択順位を見ると、いずれの群においても、④「親が自分を理解してくれない」が最も高く、次いで②「家庭内に争いごとがある」である。その他に高いものとして、短期保護観察群と初入群では①「家庭の収入が少ない」、⑧「家が狭すぎる」など、再入群では③「親の愛情が足りない」、⑧「家が狭すぎる」などである。

3群間の有意差を見るために χ^2 検定をすると、③「親の愛情が足りない」を除き、3群で有意差の認められる不満理由はなかったが、③「親の愛情が足りない」を選択した者の比率は、短期保護観察群、初入群、再入群の順で上昇しており、非行性の深度が進むに従い親の愛情不足を感じている者が増加していることがうかがえる。また、少年院群では⑩「その他」を選択した者の比率が高く、選択率だけ見ればいずれの群でも3番目に高い数値である。少年院在院少年には他の9つの選択肢では表現しきれないさまざまな不満を抱えている者が多いことが推察され、家庭問題の複雑さがうかがわれる。

ちなみに、女子初入群について不満理由を見てみると、④「親が自分を理解してくれない」(58.9%)、②「家庭内に争いがある」(46.0%)、③「親の愛情が足りない」(35.5%)などが高く、家庭内の人間関係に関するものが上位を占めている。

表 3 - 5 家庭生活に対する不満の理由

区 分	男 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総計	100.0 (54)	100.0 (490)	100.0 (175)
① 家庭の収入が少ない	29.6	28.8	30.3
② 家庭内に争いがある	33.3	43.1	44.0
③ 親の愛情が足りない	20.4	28.2	36.6
④ 親が自分を理解してくれない	55.6	52.0	55.4
⑤ 病人がいる	16.7	10.8	12.0
⑥ きょうだいと気が合わない	16.7	19.8	16.6
⑦ 家の周囲の環境が悪い	24.1	23.3	29.1
⑧ 家が狭すぎる	25.9	31.6	34.3
⑨ ただなんとなく	22.2	26.9	26.3
⑩ その他	18.5	37.6	37.1

注 1 無回答を除く。

2 () 内は実数である。

3 家庭生活に、「不満」又は「やや不満」と答えた者を 100 とした構成比である。

(2) 家族との関係

少年と家族との関係につき、家族との交流（①から③）及び親の養育態度（④から⑦）の観点から尋ねた質問（Q3）に対する回答について、「よくある」を 4 点、「ときどきある」を 3 点、「あまりない」を 2 点、「まったくない」を 1 点として 4 段階に得点化し、一元配置分散分析を行った。なお、各群の平均値は表 3 - 6 のとおりである。

ア 家族との交流

家族との交流について見ると、①「家族と話をすること」については、男女共に 5 %水準で有意である（男子：F= 49.8, df= 2, 3755, 女子：F= 10.4, df= 2, 439）。各群間の差を見てみると、男子では 3 群相互に有意差が認められ、平均値からして、非行性が進むに従い、家族の会話が少なくなっているといえる。また、女子についても、短期保護観察群と初入群、再入群それぞれとの間で有意差が認められ、平均値からして、短期保護観察群に比べて少年院群において家族との会話の乏しい傾向が認められる。

②「家では自分の部屋にひとりであること」については、男子で有意であり（F= 15.3, df= 2, 3748）、短期保護観察群と初入群、再入群それぞれとの間で有意差が認められ、平均値からして、少年院群に比べて短期保護観察群において、部屋にひとりであることが多くなっている。

③「自分の将来について親に話しかけること」については、男女共に 5 %水準で有意である（男子：F= 35.1, df= 2, 3754, 女子：F= 6.4, df= 2, 439）。各群間の差を見てみると、男女とも①と同様に、男子では 3 群相互に有意差が認められ、女子では短期保護観察群と初入群、再入群それぞれとの間で有意差が認められる。平均値からして、男子では非行性が進むに従い、また、女子では短期保護観察群に比べて少年院群において、それぞれ自分の将来について親に話しかけることが少なくなっている。

これらの結果から、男女とも、非行性が進んでいる少年院群の方が、親を中心とした家族との交流が乏しいといえる。

イ 親の養育態度

次に、親の養育態度を見ると、⑤「親がきびしすぎると感じる」と及び⑥「親の言うことは、気ま

表 3 - 6 家族関係

区 分		男 子	女 子
① 家族と話をすること	短期保護観察群	3.40	3.54
	初入群	3.13	3.09
	再入群	2.94	2.90
② 家では自分の部屋にひとりでいること	短期保護観察群	3.27	2.99
	初入群	3.03	3.15
	再入群	3.01	3.00
③ 自分の将来について、親に話しかけること	短期保護観察群	2.48	2.72
	初入群	2.27	2.32
	再入群	2.05	2.18
④ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感じること	短期保護観察群	2.16	1.97
	初入群	2.26	2.40
	再入群	2.26	2.38
⑤ 親がきびしすぎると感じる事	短期保護観察群	2.31	2.54
	初入群	2.23	2.48
	再入群	2.31	2.54
⑥ 親のいうことは、気まぐれであると感じること	短期保護観察群	2.24	2.32
	初入群	2.16	2.55
	再入群	2.22	2.56
⑦ 親が自分の言いなりになりすぎると感じる事	短期保護観察群	1.76	1.74
	初入群	1.85	2.04
	再入群	1.88	2.18

注 表 3 - 3 の注に同じ。

ぐれであると感じること」については、男女共に有意でない。

これに対し、④「自分が何をしても、親があまり気にしないと感じること」については、男女共に有意であり（男子： $F=3.4$, $df=2$, 3754, 女子： $F=6.6$, $df=2$, 439），群間の差を見ると、男女とも短期保護観察群と初入群の間に有意差が認められる。平均値からして、男女共に短期保護観察群に比べて初入群において、自分が何をしても、親があまり気にしないと感じることが多くなっている。

⑦「親が自分の言いなりになりすぎると感じる事」についても、男女共に有意であり（男子： $F=4.3$, $df=2$, 3752, 女子： $F=5.1$, $df=2$, 438），群間の差を見ると、男女とも短期保護観察群と初入群、再入群それぞれとの間に有意差が認められる。平均値からして、男女共に短期保護観察群に比べて少年院群において、親が自分の言いなりになりすぎると感じるが多くなっている。

これらの結果からして、男女とも、短期保護観察群に比べて少年院群において親の自分に対する関心の希薄さなどに不満を感じている者が多いといえる。非行少年の親子関係の問題は、個々の具体的な事情が背景にあり、類型化して論じることは難しいが、この調査結果で見える限り、少年院在院少年は、親の厳しい規制や首尾一貫しない言動よりは、無関心や手応えのなさについて、短期保護観察少年より強い不満を示しているといえ、その意味では、彼らの親子関係の希薄さに一つの問題点があると考えることができる。

3 交友関係と友達

(1) 友達づきあいに対する満足度

表3-7は、友達づきあいに対する満足度を尋ねた質問(Q4)への回答結果を、群別に示したものである。

一元配置分散分析を行ってみると、男女とも5%水準で有意であり(男子:F=71.4, df=2, 3842, 女子:F=13.7, df=2, 445), 各群間の差を見ると、男子では3群相互に、女子では短期保護観察群と初入群、再入群それぞれとの間に有意差が認められ、平均値からして、男子では非行性が進むに従い友達づきあいに対する満足度が低下し、女子でも非行性の進んだ少年院群の方が満足度が低いといえる。

表3-7 友達づきあいに対する満足度

区 分	男 子			女 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総 計	100.0 (707)	100.0 (2528)	100.0 (610)	100.0 (87)	100.0 (320)	100.0 (41)
満 足	49.2	32.3	29.7	47.1	29.1	14.6
や や 満 足	30.3	27.9	25.6	28.7	22.2	24.4
どちらともいえない	17.1	23.6	25.1	16.1	24.7	26.8
や や 不 満	2.0	11.6	12.3	8.0	16.3	24.4
不 満	1.4	4.5	7.4	0.0	7.8	9.8
平 均 値	4.24	3.72	3.58	4.15	3.48	3.10

注 1 無回答を除く。

2 () 内は実数である。

3 表3-2の注3に同じ。

次に、友達づきあいに「不満」又は「やや不満」とした者に対して、その理由を尋ねた質問(Q5)への回答結果を見ることとするが、第3の2の(1)の家庭生活に対する不満理由の場合と同様、女子については初入群以外該当者が極めて少ないので、男子についてまとめたものが表3-8である。

χ^2 検定の結果、3群で有意差の認められる不満理由はなかったもので、選択順位のみ見ることとする、短期保護観察群では、①「気の合う友達がいらない」、⑥「グループの中のまとまりが悪い」、⑨「付き合っても張り合いがなく、自分が向上しない」、②「お互いに心を打ち明け合うことができない」などが、初入群では、②「お互いに心を打ち明け合うことができない」、⑥「グループの中のまとまりが悪い」、⑪「好きでもないのにつき合わなければならない」、⑨「付き合っても張り合いがなく、自分が向上しない」、①「気の合う友達がいらない」などが、再入群では、②「お互いに心を打ち明け合うことができない」、⑨「付き合っても張り合いがなく、自分が向上しない」、⑥「グループの中のまとまりが悪い」、①「気の合う友達がいらない」などが、それぞれ高くなっている。

ちなみに、女子の初入群について不満理由を見てみると、②「お互いに心を打ち明け合うことができない」(62.3%)、⑨「付き合っても張り合いがなく、自分が向上しない」(45.5%)、①「気の合う友達がいらない」(44.2%)、⑪「好きでもないのにつき合わなければならない」(41.6%)などが高くなっている。

表 3 - 8 友達づきあいに対する不満の理由

区 分	男 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総 数	100.0 (24)	100.0 (409)	100.0 (120)
① 気の合う友達がいらない	45.8	41.6	44.2
② お互いに心を打ち明け合うことができない	41.7	54.5	62.5
③ 自分よりもほかの人と仲良くする	20.8	32.3	25.0
④ 仲間はずれにされる	12.5	22.7	17.5
⑤ 自分のすることに口出ししてくる	16.7	25.4	20.0
⑥ グループの中のまとまりが悪い	45.8	49.4	47.5
⑦ 自分のことを分かってくれない	29.2	34.7	36.7
⑧ 自分のいうことが通らない	20.8	26.9	16.7
⑨ つき合っても張り合いがなく、自分が向上しない	45.8	42.8	48.3
⑩ 自分に冷たい	16.7	18.3	13.3
⑪ 好きでもないのにつき合わなければならない	29.2	43.8	31.7
⑫ その他	12.5	33.9	45.8

注 1 無回答を除く。

2 () 内は実数である。

3 友達づきあいに、「不満」又は「やや不満」と答えた者を 100 とした構成比である。

(2) 友達との関係

非行少年が友達をどのような存在と位置づけているのかを見るために、具体的な友達関係の例の中から、該当するものを選択させる質問 (Q6) への回答結果をまとめたものが表 3 - 9 である。

男子について選択順位を見ると、短期保護観察群では、⑩「お互いに悪いところは悪いと言い合える」、①「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」、⑧「お互いの性格は裏の裏まで知っている」などの順、初入群では、①「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」、⑩「お互いに悪いところは悪いと言い合える」、⑧「お互いの性格は裏の裏まで知っている」などの順、再入群では①「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」、②「相手にけっこう気を使っている」、⑥「けんかをし合える」、⑨「自分のすべてをさらけ出すわけではない」などの順となっている。

一方、女子を見ると、いずれの群においても、①「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」、⑩「お互いに悪いことは悪いと言い合える」、⑥「けんかをし合える」などの選択率が高く、いずれについても、3群とも男子のそれを 10 ないし 30 ポイント近く上回っている。

各選択肢について、 χ^2 検定により群間の有意差を見てみると、男子では、①「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」、⑤「お互いに張り合う気持ちがある」、⑥「けんかをし合える」及び⑪「一緒にいるときでも、別々のことをしている」を除き、有意差が認められる。女子では、①「悲しいことがあったら話を聞いてもらう」、③「あまり深刻な相談はしない」、⑩「お互いに悪いことは悪いと言い合える」及び⑪「一緒にいるときでも、別々のことをしている」について有意差が認められる。

これら 11 の選択肢のうち、やや距離のある友達関係を示す②、③、⑨及び⑪について 3 群間の選択率を見ると、男子で有意差の認められた②、③及び⑨については、短期保護観察群、初入群、再入群と一定方向で選択率が上昇しており、非行性が進むに従い、少年たちの友達関係は心理的にやや隔たりのあるものになる傾向がうかがえる。女子では、有意差の認められた選択肢が③及び⑪のみであるので、明確なことはいい難いが、③及び⑪においては、短期保護観察群、初入群、再入群と一定方向に選択率が上昇しており、男子と同様の状況にあるのではないかと推察することができる。

表 3 - 9 友達との関係

区 分	男 子				女 子			
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	有意差	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	有意差
① 悲しいことがあったら話を聞いてもらう	62.0	60.7	57.4		95.4	80.6	82.9	*
② 相手にけっこう気をつかっている	31.6	40.0	44.5	*	25.3	34.7	31.7	
③ あまり深刻な相談はしない	28.1	34.4	36.9	*	16.1	27.5	34.1	*
④ つきあっているのは、何か得るものがあるからだ	25.3	28.3	33.9	*	29.9	26.3	26.8	
⑤ お互いに張り合う気持ちがある	35.0	37.5	39.5		28.7	32.2	48.8	
⑥ けんかをし合える	33.9	35.7	40.1		52.9	54.4	58.5	
⑦ 何も言わなくても、分かり合える	32.9	38.9	36.7	*	46.0	48.8	39.0	
⑧ お互いの性格は裏の裏まで知っている	37.4	40.3	33.9	*	46.0	37.5	41.5	
⑨ 自分のすべてをさらけ出すわけではない	27.3	34.2	40.1	*	33.3	42.8	43.9	
⑩ お互いに悪いところは悪いと言い合える	65.3	44.9	39.0	*	78.2	55.9	56.1	*
⑪ 一緒にいるときでも、別々のことをしている	21.3	24.6	25.8		24.1	34.7	46.3	*

注 1 各項目を選択した者の、対象人員を 100 とした構成比である。

2 「有意差」の*は、カイ二乗検定の結果、5%水準で有意差の認められるものを示す。

ここで、友達関係の満足度と友達関係を見るために、友達関係の例を示したQ6の各選択肢について、選択した者（該当グループ）と選択しなかった者（非該当グループ）ごとに、Q4で尋ねた友達づきあいに対する満足度の差を見てみる。なお、1の(1)と同様に得点化して求めた各群・各グループの平均値は表3-10のとおりである。

このうち男子については、短期保護観察群の⑪「一緒にいるときでも、別々のことをしている」以外は、3群ともt検定の結果5%水準で、該当・非該当の両グループ間の満足度に有意差が認められる。そこで、各項目の平均値を見ると、いずれの群においても、やや距離のある関係を示す②、③、⑨及び⑪については、先に述べた短期保護観察群の⑪を除き、該当グループの満足度が低くなっているのに対し、対等なライバル関係や情緒的に親密な関係を示すものについては、該当グループの満足度が高くなっている。このことは、心理的にやや隔たりのある友達関係を持っている者は、友達づきあいの満足度が低く、対等なライバル関係や、情緒的に親密な関係をもっている者は、満足度が高くなっていることを示すものといえよう。

女子については、④、⑤及び⑪を除いた選択肢について有意差が認められる初入群を見る限り、男子とほぼ同様の傾向が認められ、かつ、男子に比べ各項目の該当・非該当グループの満足度の開きが大きくなっている。しかし、他の2群の一部にこれとは異なる傾向も見受けられ、女子全体については更に検討の余地があるといえる。

表 3-10 友達づきあいに対する満足度と友達関係

区 分		男 子			女 子		
		短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
① 悲しいことがあったら話を聞いてもらう	該 当	4.35	3.99	3.94	4.19	3.70	3.18
	非該当	4.06	3.30	3.09	3.25	2.58	2.71
② 相手にけっこう気をつかっている	該 当	4.00	3.53	3.44	3.59	2.98	2.62
	非該当	4.36	3.84	3.69	4.43	3.75	3.32
③ あまり深刻な相談はしない	該 当	4.12	3.43	3.16	3.71	2.92	3.14
	非該当	4.29	3.87	3.82	4.23	3.70	3.07
④ つきあっているのは、何か得るものがあるからだ	該 当	4.39	3.90	3.78	4.42	3.70	2.55
	非該当	4.19	3.65	3.48	4.03	3.41	3.30
⑤ お互いに張り合う気持ちがある	該 当	4.40	3.87	3.85	4.24	3.62	3.25
	非該当	4.15	3.63	3.40	4.11	3.42	2.95
⑥ けんかをし合える	該 当	4.37	3.94	3.93	4.50	3.85	3.17
	非該当	4.17	3.59	3.34	3.76	3.05	3.00
⑦ 何も言わなくても、分かり合える	該 当	4.49	4.14	4.14	4.33	3.92	3.25
	非該当	4.11	3.45	3.26	4.00	3.07	3.00
⑧ お互いの性格は裏の裏まで知っている	該 当	4.48	4.09	4.04	4.20	4.00	3.59
	非該当	4.09	3.47	3.34	4.11	3.18	2.75
⑨ 自分のすべてをさらけ出すわけではない	該 当	4.09	3.43	3.33	3.86	3.17	2.89
	非該当	4.30	3.87	3.74	4.29	3.72	3.26
⑩ お互いに悪いところは悪いと言ひ合える	該 当	4.38	4.06	4.03	4.25	3.97	3.26
	非該当	3.98	3.44	3.29	3.79	2.87	2.89
⑪ 一緒にいるときでも、別々のことをしている	該 当	4.20	3.48	3.26	4.33	3.33	3.16
	非該当	4.25	3.79	3.69	4.09	3.56	3.05

注 表 3-2 の注 3 に同じ。

一般に、現代の少年は傷つくことを避け、本音を出さないまま友達関係をもつ傾向があるといわれているが、この結果から見る限り、非行少年にとってそのような心理的にやや距離のある友達関係は、満足度の低いものであると推察される。

(3) 大切な友達

非行少年が大切だと思う友達について尋ねた質問 (Q7) への回答結果を示したものが、表 3-11 である。

χ^2 検定の結果、大切な友達についての意識には、男女とも非行性の深度による有意差は認められない。

選択順位を見ると、男子ではいずれの群も、⑤「困ったときに助けてくれる人」とした者が最も多く、次いで、②「他の人にはいえないことを聞いてくれる人」となっている。女子については、④「いろいろな情報を教えてくれる人」と⑥「趣味や興味が似ている人」が低いことは、各群共通であるが、最も

大切だと思う友達については、短期保護観察群が②「他の人にはいえないことを聞いてくれる人」、初入群が⑤「困ったときに助けてくれる人」、再入群が①「いつも側にいて相手になってくれる人」として、それぞれ異なっている。

表 3-11 大切な友達

区 分	男 子			女 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
① いつもそばにいて相手になってくれる人	12.1	14.2	14.6	16.1	18.9	35.0
② 他の人にはいえないことを聞いてくれる人	22.6	21.5	22.1	39.1	18.3	20.0
③ 競争相手となって自分を伸ばしてくれる人	13.5	12.8	12.5	12.6	14.8	5.0
④ いろいろな情報を教えてくれる人	2.3	2.7	2.5	—	0.9	2.5
⑤ 困ったときに助けてくれる人	38.7	38.5	38.7	28.7	39.7	32.5
⑥ 趣味や興味が似ている人	10.7	10.3	9.7	3.4	7.3	5.0

注 表 3-9 の注 1 に同じ。

4 周囲の人々との関係

非行少年が、家族や友達など、日常生活で接する身近な周囲の人々を、自分にとってどのような存在と評価し、位置づけているかを尋ねた質問（Q8）への回答結果を示したものが、表 3-12 である。

①「あなたが気楽に話ができる人はどの人ですか」では、男子で最も選択率の高いのは、いずれの群においても同性の友達・仲間であり、次いで、異性の友人・恋人、母親、兄弟姉妹の順で、選択順位は 3 群ともほぼ同じである。また、女子で最も選択率が高いのは、短期保護観察群と初入群では同性の友達・仲間であるが、再入群においては異性の友達・恋人であり、その他に選択順位の高いものとしては、3 群とも、母親、兄弟姉妹である。

男女ともいずれの群においても、両親、兄弟姉妹といった親族より、同性・異性の友達の方が気楽に話せる相手と位置づけている。とりわけ、少年院群においては、異性の友達・恋人や先輩の選択率が高くなっている。これは、短期保護観察群、少年院群とも、気のおけない話し相手として友達の存在が大きいが、非行性の進んでいる者の方が、異性の友達や先輩の位置づけが高くなっていることを示すものと思われる。

また、男子については、少年院群の方が、短期保護観察群に比べて選択率の高い項目が多く、周囲の人々に対し「気楽に話ができる」という感じをより多く抱いているものと推察される。

②「あなたが悩みを打ち明けられるのはどの人ですか」についても同様の傾向にあり、男子で選択率の高いのは、3 群とも同性の友達・仲間、異性の友達・恋人である。これに次ぐものとしては、短期保護観察群では母親、先輩、初入群では兄弟姉妹、母親、再入群では先輩、兄弟姉妹などであるが、それらの選択率は、いずれも同性・異性の友達等と比べ、半分以上にとどまり、悩みを打ち明ける相手として、友達や先輩の存在の大きさが感じられる。また、女子については、いずれの群においても、同性の友達・仲間、異性の友達・恋人、母親、兄弟姉妹の選択率が高い。

表 3-12 周囲の人々との関係

区 分	男 子				女 子			
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	有意差	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	有意差
① 気楽に話ができる人								
父 親	30.2	32.0	22.8	*	20.7	22.2	29.3	
母 親	55.1	58.2	51.7	*	62.1	57.5	58.5	
兄 弟 姉 妹	44.5	55.6	54.2	*	50.6	57.2	58.5	
祖 父 母	15.5	20.2	17.1	*	14.9	23.1	9.8	
親 戚 の 人	11.0	17.0	14.0	*	13.8	18.1	12.2	
同 性 の 友 達 ・ 仲 間	85.6	86.5	81.9	*	90.8	85.0	85.4	
異 性 の 友 達 ・ 恋 人	60.9	80.1	81.1	*	72.4	80.9	90.2	*
先 輩	29.5	40.4	40.3	*	29.9	43.1	43.9	
先 生	11.0	17.5	11.6	*	11.5	16.3	12.2	
近 所 の 人	4.0	6.9	6.0	*	2.3	5.6	9.8	
そ の 他	5.9	9.7	12.2	*	3.4	8.8	7.3	
誰 も い な い	1.3	1.5	3.3	*	1.1	1.9	—	
② 悩みを打ち明けられる人								
父 親	13.0	13.6	10.3		5.7	9.7	4.9	
母 親	25.6	25.9	23.7		35.6	34.7	22.0	
兄 弟 姉 妹	16.5	26.0	25.3	*	32.2	34.4	29.3	
祖 父 母	3.2	6.8	5.2	*	8.0	7.8	2.4	
親 戚 の 人	3.0	5.7	5.9	*	5.7	10.0	4.9	
同 性 の 友 達 ・ 仲 間	77.8	71.1	65.6	*	94.3	75.3	73.2	*
異 性 の 友 達 ・ 恋 人	50.7	64.2	65.9	*	67.8	69.7	58.5	
先 輩	18.8	25.0	26.3	*	24.1	32.5	14.6	*
先 生	2.4	11.8	9.1	*	3.4	13.1	12.2	*
近 所 の 人	0.1	1.4	1.8	*	—	1.9	4.9	
そ の 他	3.8	6.0	9.1	*	3.4	7.5	4.9	
誰 も い な い	4.9	7.3	9.6	*	—	4.7	7.3	
③ 注意されたら言うことを聞く人								
父 親	43.5	28.4	19.1	*	27.6	27.2	14.6	
母 親	39.0	25.7	20.6	*	34.5	35.3	19.5	
兄 弟 姉 妹	17.8	21.0	19.2		19.5	29.4	24.4	
祖 父 母	19.5	16.8	13.7	*	20.7	18.8	4.9	
親 戚 の 人	14.5	12.5	10.6		6.9	12.5	—	*
同 性 の 友 達 ・ 仲 間	45.5	37.8	33.4	*	58.6	49.1	46.3	
異 性 の 友 達 ・ 恋 人	43.2	57.0	59.1	*	66.7	66.9	73.2	
先 輩	33.5	36.8	35.6		23.0	35.3	41.5	
先 生	14.0	16.5	6.9	*	6.9	17.8	9.8	*
近 所 の 人	5.4	4.9	3.9		1.1	2.8	4.9	
そ の 他	6.4	7.9	12.6	*	2.3	9.1	2.4	*
誰 も い な い	7.5	9.7	12.7	*	6.9	8.4	7.3	
④ 「こんな人になりたい」と思う人								
父 親	22.9	35.9	26.8	*	12.6	15.9	12.2	
母 親	7.5	16.2	13.7	*	27.6	39.1	26.8	
兄 弟 姉 妹	4.9	13.9	12.6	*	6.9	18.8	24.4	*
祖 父 母	3.7	7.1	6.7	*	4.6	7.5	2.4	
親 戚 の 人	3.5	7.5	6.2	*	5.7	6.9	2.4	
同 性 の 友 達 ・ 仲 間	12.9	20.1	16.3	*	19.5	32.8	34.1	*
異 性 の 友 達 ・ 恋 人	4.4	8.7	8.8	*	14.9	19.1	34.1	*
先 輩	19.4	23.6	24.8	*	21.8	30.3	31.7	
先 生	2.8	11.3	6.7	*	2.3	8.4	14.6	*
近 所 の 人	0.4	2.5	2.6	*	—	1.3	2.4	
そ の 他	17.5	20.5	23.8	*	10.3	14.7	14.6	
誰 も い な い	28.0	19.4	23.0	*	28.7	14.4	14.6	*

注 表 3-9 の注に同じ。

さらに、①と同様、悩みを打ち明けられる相手として、親族は友達よりはるかに評価が低い傾向は、男女とも3群に共通して見られ、中でも父親の選択率はいずれの群においても低く、女子では親戚の人とほぼ同率である。また、友達についても、男子では、非行性の深度が進むに従い同性の友達の評価は低下し、代わって、異性の友達や先輩の位置づけが大きくなっている。一方、女子については、3群に有意差の認められた選択肢が少ないので、明確なことはいい難いが、近所の人、先生及びその他を除くすべての選択肢において、再入群の選択率が他の2つの群を下回っており、女子再入群の周囲に対する信頼感の減退がうかがわれる。

③「あなたが、この人から注意をされたら言うことを聞くと思うのはどの人ですか」については、①及び②に比べ、短期保護観察群と少年院群で選択順位にややばらつきが見られる。男子は短期保護観察群で、同性の友達・仲間、父親、異性の友達・恋人の選択率が高く、①及び②において低かった父親の選択率が高い点が特徴的である。また、少年院群では、異性の友達・恋人、同性の友達・仲間、先輩の選択率が高い。一方、女子について選択率の最も高いのは、いずれの群においても異性の友達・恋人であり、次いで、同性の友達・仲間となっている。その他に高いのは、短期保護観察群では母親、父親などであるが、少年院群では母親、先輩などとなっている。

この質問は、周囲の人々に対する従順さを尋ねることが意図されており、各群の選択順位に若干の差はあるが、男女とも全体としては、親族に対するよりは友達に対して従順である傾向が認められる。中でも、非行性の進んでいる者については、父親、母親等の親族と同性・異性の友達や先輩の選択率にかなりの開きが見られ、友達や先輩の中でも特に異性の友達・恋人に対して従順である傾向が強く、非行性の進んだ者ほど、特定の者に対してのみ従順である傾向にあることがうかがえる。特に、女子については、選択率に有意差が認められないので明確なことはいい難いが、再入群の選択率などを見ると、男子以上にこの傾向が強いことがうかがわれ、女子少年の処遇の難しさに通じるものを感じさせる。

④「あなたが「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか」については、男子では3群とも最も選択率の高いのは父親、次いで、先輩、同性の友達・仲間である一方、女子では、選択率の高いのは、短期保護観察群及び初入群では母親、同性の友達・仲間、先輩であるのに対し、再入群では同性の友達・仲間と異性の友達・恋人が同率で最も高く、次いで先輩となっている。また、「誰もいない」とする者の比率は、他の3つの設問に比べて男女いずれの群ともかなり高く、同一視の対象を特に持たない傾向が全体を通して感じられる。

「こんな人になりたい」と思う人として、同性の親、同性の友達及び先輩を挙げているのは、女子再入群を除き男女とも各群共通であり、同一視の対象としては同性の親の存在が大きいことが認められる。非行性の深度との関係で見ると、男子では、短期保護観察群の選択率が全項目とも少年院群より低くなっている半面、「誰もいない」とする者の比率が逆に高くなっている。また、再入群女子は家庭外に同一視の対象を持つ傾向が見られ、少年と家庭との心理的な距離を感じさせる。

全体的に見て、親、兄弟姉妹、同性・異性の友達等、少年を取り巻く人間関係の焦点は、非行性の深度が進むに従い、親、兄弟姉妹から同性・異性の友達、先輩へ、あるいは同性の友達・仲間から異性の友達・恋人、先輩へと移動していく傾向が見られ、非行性が進むに従い心理的に家庭から離反していく様子がうかがえる。

5 社会に対する満足度

表3-13は、今の社会に対する満足度を尋ねた質問(Q9)への回答結果を各群ごとに示したものである。

表3-13 今の社会に対する満足度

区 分	男 子			女 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総 計	100.0 (697)	100.0 (2506)	100.0 (605)	100.0 (85)	100.0 (318)	100.0 (41)
満 足	8.2	6.9	5.0	2.4	6.6	2.4
や や 満 足	12.3	14.6	8.6	12.9	10.7	2.4
どちらともいえない	50.6	39.5	43.1	57.6	44.7	41.5
や や 不 満	14.5	20.6	22.8	15.3	18.9	29.3
不 満	14.3	18.4	20.5	11.8	19.2	24.4
平 均 値	2.86	2.71	2.55	2.79	2.67	2.29

- 注 1 無回答を除く。
 2 () 内は実数である。
 3 表3-2の注3に同じ。

一元配置分散分析を行ってみると、男女とも5%水準で有意であり(男子:F=12.5, df=2, 3805, 女子:F=3.1, df=2, 441), 群間の差を見ると、男子では3群間相互に、女子では短期保護観察群と再入群間に有意差があり、平均値からして、男子では非行性の深度に従い、社会に対する満足度が低くなっており、女子でも短期保護観察群に比べ再入群において満足度が低くなっている。また、男女いずれの群においても、「どちらともいえない」とする者の比率が最も高く、自分の生き方や家庭生活等に対する満足度を尋ねた4つの質問の回答結果のうちで最も高い数値となっている。

次に、今の社会に「不満」又は「やや不満」とした者に、その理由を尋ねた質問(Q10)に対する男子の回答結果を示したものが表3-14である。④「国民の意見がまとまっていない」、⑥「まじめな者がむくわれない」及び⑦「人々の考え方や行動が乱れている」を除き、各群とも選択率はおおむね50ないし60%で、いずれについても χ^2 検定の結果、3群に有意差は認められない。

表 3-14 今の社会に対する不満の理由

区 分	男 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総 数	100.0 (201)	100.0 (977)	100.0 (262)
① 社会の仕組みがきまりきっている	52.7	55.8	52.7
② 若者の意見が反映されない	54.2	53.0	48.1
③ 正しいと思うことが通らない	57.2	55.1	53.1
④ 国民の意見がまとまっていない	31.3	31.5	30.5
⑤ 金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる	55.2	61.2	60.3
⑥ まじめな者がむくわれない	26.4	29.4	29.8
⑦ 人々の考え方や行動が乱れている	43.8	44.7	46.2
⑧ その他	28.9	43.8	49.2

注 1 無回答を除く。

2 () 内は、「不満」又は「やや不満」とした者の実数である。

6 価値観・意見

(1) 価値観・意見

様々な価値観や意見を述べた 19 の設問について賛否の程度を尋ねた質問 (Q12) への回答に対して、「賛成」を 5 点、「やや賛成」を 4 点、「どちらともいえない」を 3 点、「やや反対」を 2 点、「反対」を 1 点として得点化して一元配置分散分析を行ない、非行性の深度による価値観等の違いを見ることとするが、女子については、分散分析の結果、全項目で有意でなかったもので、男子について述べることとする。各群の平均値は、表 3-15 のとおりである。

男子においても、①「一つのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ」④「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」、⑤「自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ」、⑧「世の中は、なるようにしかならないものだ」、⑨「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」、⑪「悪者をやっつけるためなら、場合によっては腕力に訴えてもよい」、⑫「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」及び⑲「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」の 8 項目については有意でなく、残り 11 項目について、5%水準で有意であった。

②「年上や目上の人には従うべきだ」($F=20.8$, $df=2$, 3820) については、多重比較をすると、短期保護観察群と初入群、再入群との間にそれぞれ有意差が認められ、平均値からして、短期保護観察群に比べて少年院群の方が、年上や目上の人に従うべきと考える者が少なくなっており、非行性が進んだ者の方が年上や目上の者に対する恭順さに乏しい傾向が認められる。

③「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」($F=20.6$, $df=2$, 3819) についても、短期保護観察群と初入群、再入群それぞれとの間に有意差が認められ、平均値からして、少年院群に比べて短期保護観察群の方が、地道な努力より目先の楽しさを求める傾向にあることがうかがえる。

⑥「人のことにはあまり深入りしない方がよい」($F=14.3$, $df=2$, 3839) について群間を比べると、3 群相互間に有意差が認められ、平均値からして、非行性が進むに従い、表面的な人間関係を選択する者が多くなるといえる。

⑦「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」($F=14.9$, $df=2$, 3838) についても、短期保護観察群と初

表 3-15 価値観・意見

区 分		男 子	区 分		男 子
①	ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやってみるべきだ		⑪	悪者をやっつけるためなら、場合によっては腕力に訴えてもよい	
	短期保護観察群	3.80		短期保護観察群	3.47
	初 入 群	3.81		初 入 群	3.56
	再 入 群	3.87		再 入 群	3.59
②	年上や目上の人には従うべきだ		⑫	世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい	
	短期保護観察群	3.08		短期保護観察群	3.38
	初 入 群	2.75		初 入 群	3.27
	再 入 群	2.72		再 入 群	3.24
③	コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい		⑬	自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破ることもしかたがない	
	短期保護観察群	3.50		短期保護観察群	2.70
	初 入 群	3.16		初 入 群	2.53
	再 入 群	3.14		再 入 群	2.51
④	自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ		⑭	義理人情を大切にすべきだ	
	短期保護観察群	2.64		短期保護観察群	3.90
	初 入 群	2.59		初 入 群	3.97
	再 入 群	2.68		再 入 群	4.05
⑤	自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ		⑮	努力するよりも、要領よくふるまう方がよい	
	短期保護観察群	2.94		短期保護観察群	3.12
	初 入 群	2.82		初 入 群	2.90
	再 入 群	2.82		再 入 群	2.92
⑥	人のことにはあまり深入りしない方がよい		⑯	リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でいい	
	短期保護観察群	3.43		短期保護観察群	2.49
	初 入 群	3.61		初 入 群	2.29
	再 入 群	3.73		再 入 群	2.22
⑦	男は外で働き、女は家庭を守るべきだ		⑰	将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている	
	短期保護観察群	3.34		短期保護観察群	3.18
	初 入 群	3.63		初 入 群	2.92
	再 入 群	3.66		再 入 群	2.94
⑧	世の中は、なるようにしかならないものだ		⑱	自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ	
	短期保護観察群	3.01		短期保護観察群	2.60
	初 入 群	3.06		初 入 群	2.34
	再 入 群	3.14		再 入 群	2.45
⑨	まじめな人より、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ		⑲	ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ	
	短期保護観察群	4.17		短期保護観察群	3.74
	初 入 群	4.13		初 入 群	3.83
	再 入 群	4.05		再 入 群	3.75
⑩	まわりから何か言われないように、目立たないようにする方がよい				
	短期保護観察群	2.55			
	初 入 群	2.34			
	再 入 群	2.42			

注 平均値は、個々の回答を「賛成」を5点、「やや賛成」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや反対」を2点、「反対」1点とし、合計した上で回答人員の実数で割ったものである。

入群，再入群との間にそれぞれ有意差が認められ，平均値からして，短期保護観察群より少年院群に伝統的な家庭観を肯定する構えがより強く認められるといえる。

⑩「まわりから何か言われないうに，目立たないようにする方がよい」($F=8.9$, $df=2$, 3839)については，短期保護観察群と初入群の間で有意差があり，平均値からして，非行性の進んでいる後者の方にこの考えに反対の者が多いといえる。

⑬「自分のやりたいことをやりぬくためには，ルールを破ることもしかたがない」($F=5.3$, $df=2$, 3838)について多重比較をすると，短期保護観察群と初入群，再入群それぞれとの間に有意差が認められ，平均値からして，少年院群において自己の欲求充足のためにルールを破ることに反対する傾向がより強く認められる。

⑭「義理人情を大切にすべきだ」($F=3.2$, $df=2$, 3830)について群間を比べると，短期保護観察群と再入群で有意差があり，平均値からして，後者の方に義理人情といった伝統的な価値観を肯定する姿勢がより強く認められる。

⑮「努力するよりも，要領よくふるまう方がよい」($F=9.3$, $df=2$, 3838)についても，短期保護観察群と初入群，再入群との間にそれぞれ有意差が認められ，平均値からして，努力もせず要領よくふるまう方がよいと考える者は，少年院群の方に少ない傾向にあるといえる。

⑯「リーダーになって苦労するよりは，人に従っていた方が気楽でいい」($F=9.8$, $df=2$, 3838)についても，短期保護観察群と初入群，再入群それぞれとの間に有意差が認められ，平均値からして，短期保護観察群に比べ少年院群の方が，人の先に立つよりは追従することを選択する者が少ない傾向にある。

⑰「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」($F=11.5$, $df=2$, 3838)についても，短期保護観察群と初入群，再入群それぞれとの間に有意差が認められ，平均値からして，少年院群よりも非行性が進んでいない短期保護観察群の方に耐性の乏しさが感じられる結果となっている。

⑱「自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ」($F=9.6$, $df=2$, 3839)について多重比較をすると，短期保護観察群と初入群との間に有意差が認められ，平均値からして，初入群よりも短期保護観察群の方に，生命を軽視する構えがより強く感じられる結果になっている。

男子については，3群間に有意差が認められた11問について，1問を除き，短期保護観察群と初入群，再入群それぞれとの間には有意差が認められたが，少年院群間には認められなかった。これらを見ると，少年院在院少年には，短期保護観察少年と比べて，人に追従し無難に目立ず過ごすことをよしとしない自己顕示的な傾向や，伝統的な家庭観や義理人情による人間関係を受け入れる姿勢が認められる一方で，自分の欲求充足のためにきまりを破ることや，目先の欲求充足を求めて要領よく行動することに対しては否定的な傾向が認められる。また，欲求不満耐性の乏しさや生命軽視の考え方が短期保護観察少年ほどは見られない。

(2) 同世代の者に対する見方

非行少年が同世代の者をどのように見ているかを探るために，「あなたと同じくらいの年の人について，どう思いますか」として，どちらかといえば否定的な人物評価の例を9つ挙げ，それぞれについて，「多い」，「やや多い」，「どちらともいえない」，「やや少ない」，「少ない」の中から択一で回答を求め(Q14)，その回答に対して，「多い」を5点，「やや多い」を4点，「どちらともいえない」を3点，「やや少ない」を2点，「少ない」を1点として一元配置分散分析を行ない，非行性の深度による違いを見ることとする。なお，各群の平均値は，表3-16のとおりである。

男子では，⑨「超能力や占いなどを信じている人」を除き，すべて5%水準で有意である。多重比較をすると，③「いやなことがあっても，すぐ忘れようとする人」は，短期保護観察群と初入群の間で有

表 3-16 同世代の者に対する見方

区 分		男 子	女 子
①	今、この場が楽しければそれでよいと思っている人は		
	短期保護観察群	3.95	4.09
	初入群	4.31	4.34
	再入群	4.30	4.41
②	気に入れないことがあると、カッとしたり、落ち込んだりしやすい人は		
	短期保護観察群	3.62	4.05
	初入群	4.17	4.30
	再入群	4.20	4.39
③	いやなことがあっても、すぐ忘れようとする人は		
	短期保護観察群	3.52	3.34
	初入群	3.27	3.35
	再入群	3.36	3.51
④	ほかの人にどう思われているか、気になる人は		
	短期保護観察群	3.44	3.59
	初入群	3.78	3.89
	再入群	3.83	3.83
⑤	大切なことであっても、まじめに考えずにごまかしてしまう人は		
	短期保護観察群	3.22	3.21
	初入群	3.72	3.88
	再入群	3.72	3.95
⑥	自分がよければ、少しくらい人に迷惑をかけてもかまわないと思っている人は		
	短期保護観察群	3.35	3.52
	初入群	4.13	4.14
	再入群	4.12	4.22
⑦	いつもだれかと一緒にいたいと思っている人は		
	短期保護観察群	3.97	4.24
	初入群	4.30	4.52
	再入群	4.35	4.39
⑧	悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人は		
	短期保護観察群	3.65	3.87
	初入群	4.39	4.49
	再入群	4.35	4.46
⑨	超能力や占いなどを信じている人は		
	短期保護観察群	2.41	2.71
	初入群	2.46	2.89
	再入群	2.46	2.76

注 平均値は、個々の回答を「多い」を5点、「やや多い」を4点、「どちらともいえない」を3点、「やや少ない」を2点、「少ない」を1点とし、合計した上で回答人員の実数で割ったものである。

意差が認められ、それ以外の質問については、短期保護観察群と初入群、再入群のそれぞれとの間で有意差が認められる。平均値からして、短期保護観察群に比べ少年院群の方に、「多い」あるいは「やや多い」とする者が多くなっている。

女子では、⑤「大切なことでも、まじめに考えずにごまかしてしまう人」、⑥「自分がよければ、少しくらい人に迷惑をかけてもかまわないと思っている人」、⑦「いつも誰かと一緒にいたいと思っている人」及び⑧「悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人」については有意であり、さらに、多重比較をすると、⑦について短期保護観察群と初入群の間に有意差が認められたほかは、⑤、⑥及び⑧のいずれにおいても、短期保護観察群と初入群、再入群のそれぞれとの間で有意差が認められ、平均値を見ると、4項目とも少年院群において、「多い」あるいは「やや多い」とする者が多くなっているといえる。

これは、同世代の者に対する見方については、男女ともおおむね、初入群と再入群とで差はほとんど見られず、短期保護観察群と少年院群の間でかなりの違いがあり、後者の方が同世代の者に対する見方が厳しくなっていることを示すものと思われる。

(3) 非行に関する意見

少年が非行に走る原因を尋ねた質問（Q15のア）への回答結果を示したのが表3-17である。

χ^2 検定の結果、男子では有意差が認められ、さらにその選択率を見ると①「少年自身」を選択する者の比率が非行性の深度が進むに従い上昇する一方、③「友達・仲間」は低下しており、非行性の深度が進むに従い自省的な傾向が強まっていると考えられる。なお、②「家庭（親）」とする者の比率は3群とも低い。

女子では有意差は認められず、非行原因として①「少年自身」を選択する者の比率が高くなっている。

表3-17 少年が非行に走る原因

区 分	男 子			女 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総 計	100.0 (694)	100.0 (2497)	100.0 (605)	100.0 (85)	100.0 (317)	100.0 (41)
① 少 年 自 身	43.1	52.7	57.9	41.2	47.9	58.5
② 家 庭（ 親 ）	15.9	12.3	16.9	28.2	26.2	22.0
③ 友 達・ 仲 間	32.0	29.1	19.5	29.4	20.8	14.6
④ そ の 他	9.1	5.8	5.8	1.2	5.0	4.9

注 1 無回答を除く。

2 () 内は実数である。

次に、少年にとって何が非行の抑止要因となっているかを見るため、「あなたが、法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思った時、それを思いとどまらせる心のブレーキとなるのは次のどれですか」として、「特に心のブレーキとなるものはない」を含めた9つの選択肢の中から択一回答を求めた（Q16）回答結果を示したものが、表3-18である。

表 3-18 心のブレーキ

区 分	男 子			女 子		
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	短期保護 観 察 群	初入群	再入群
総 計	100.0 (695)	100.0 (2492)	100.0 (605)	100.0 (84)	100.0 (317)	100.0 (41)
① 父母のこと	16.8	16.2	11.7	21.4	11.7	7.3
② 兄弟を含めた家族全体のこと	26.9	30.9	26.3	15.5	31.9	24.4
③ 友達から仲間はずれになること	7.8	4.5	4.0	8.3	5.7	7.3
④ 学校や職場に対する迷惑のこと	4.2	1.4	1.3	2.4	1.3	—
⑤ 社会からしろい目で見られること	2.3	1.6	3.0	—	1.6	—
⑥ 警察につかまること	16.5	16.9	16.2	22.6	20.8	31.7
⑦ 自分で自分がいやになるから	9.2	6.3	6.9	19.0	6.9	7.3
⑧ その他	9.8	13.5	19.0	6.0	7.6	12.2
⑨ 特に心のブレーキになるものはない	6.5	8.7	11.6	4.8	12.6	9.8

注 1 無回答を除く。

2 () 内は実数である。

「心のブレーキ」として選択した者の比率が高い順に見ると、男子では3群とも②「兄弟を含めた家族全体のこと」が最も高く、次いで、短期保護観察群では、①「父母のこと」、⑥「警察につかまること」、⑦「自分で自分がいやになるから」などの順、初入群では、⑥「警察につかまること」、①「父母のこと」、⑨「特に心のブレーキはない」などの順となっている。これに対し、再入群では、2番目に高いのは⑥「警察につかまること」であり、次いで、①「父母のこと」と並んで⑨「特に心のブレーキはない」とする者の比率が高い。

女子は、短期保護観察群では⑥「警察につかまること」、①「父母のこと」、⑦「自分で自分がいやになるから」、初入群では②「兄弟を含む家族全体のこと」、⑥「警察につかまること」、⑨「特に心のブレーキはない」、再入群では⑥「警察につかまること」、②「兄弟を含む家族全体のこと」の選択率が高くなっている。

これら以外の選択肢については、「その他」を除き、選択率がかなり低く、特に少年院群においては、家族以外の人間関係がブレーキとなることを示す③「友達から仲間はずれになること」、④「学校や職場に対する迷惑のこと」などの選択率が、短期保護観察群に比べて低い。

χ^2 検定の結果、男子のみ3群に有意差が認められ、また、その選択率を見ると、①「父母のこと」は非行性の深度が進むに従い選択率が低下傾向にあり、さらに、①「父母のこと」及び②「兄弟を含む家族全体のこと」を選択した者を、家族を非行の抑止要因とする者と考えると、その比率は、3群の中では再入群が最も低くなっている。他方、⑨「特に心のブレーキとなるものはない」を選択した者の比率は、非行性の深度が進むに従い上昇する傾向にあり、再入群では短期保護観察群の2倍近い選択率になっており、非行性の進んだ者の歯止めのなさを感じさせる。

(4) 今後の生活にとって大切なこと

「これからの生活で、あなたにとって大切と思えるもの三つを選んでください」として、用意した14の選択肢の中から3つを選ばせる質問（Q18）への回答結果を示したものが、表3-19である。

表3-19 これからの生活で大切なこと

区 分	男 子				女 子			
	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	有意差	短期保護 観 察 群	初入群	再入群	有意差
① 規則正しい生活を送る	50.1	44.7	39.6	*	55.2	42.2	48.8	
② お金のむだ使いをしない	32.9	21.4	24.6	*	25.3	14.1	9.8	*
③ 健全な趣味や遊びをする	22.5	22.0	31.5	*	17.2	20.9	31.7	
④ 学校や仕事を休まずに続ける	56.9	53.7	58.7	*	49.4	46.6	63.4	
⑤ 資格や技術を身につける	33.3	20.3	22.8	*	13.8	15.0	12.2	
⑥ 知識を身につけ心を豊かにする	19.2	16.7	17.3		17.2	18.8	14.6	
⑦ 親の言うことをきく	11.9	15.1	9.6	*	14.9	13.1	12.2	
⑧ 家族の人と仲良くやっていく	17.5	35.7	33.9	*	39.1	55.6	39.0	*
⑨ 悪い友達や先輩とは付き合わない	25.0	31.0	25.6	*	29.9	31.9	26.8	
⑩ 被害者のために何かお詫びをする	1.8	9.0	2.9	*	1.1	4.4	—	
⑪ 地元の人たちの役に立つことをする	1.7	2.1	1.3	*	3.4	0.3	2.4	*
⑫ 保護観察官、保護司とよく相談する	9.9	13.9	13.4	*	8.0	18.4	17.1	
⑬ もう少し要領よくふるまう	7.6	7.3	8.3	*	9.2	9.7	9.8	
⑭ その他	5.9	6.5	9.1	*	5.7	7.8	12.2	

注 表3-9の注に同じ。

選択率の高い順に見ると、男子では3群共に、④「学校や仕事を休まずに続ける」が最も高く、次いで、①「規則正しい生活をする」となっており、このほか選択率が高いものは、短期保護観察群では、②「お金のむだ使いをしない」、⑤「資格や技術を身につける」など、初入群では、⑧「家族の人と仲良くやっていく」、⑨「悪い友達や先輩とは付き合わない」など、再入群では、⑧「家族の人と仲良くやっていく」、③「健全な趣味や遊びをする」などである。

女子では、順位に多少異同はあるが、3群とも①「規則正しい生活をする」、④「学校や仕事を休まずに続ける」、⑧「家族の人と仲良くやっていく」の選択率が高い。

逆に選択率の低いものを見ると、男子初入群を除き、男女いずれの群でも、⑩「被害者のために何かお詫びをする」、⑪「地元の人たちの役に立つことをする」であり、男子初入群では、⑪「地元の人たちの役に立つことをする」、⑬「もう少し要領よくふるまう」である。

このうち、⑩「被害者のために何かお詫びをする」については、自己申告により本件非行を尋ねた回答結果によれば、傷害・暴行、恐喝、強盗等被害者のいる非行を本件非行と答えている者の比率が、短期保護観察群で約80%、少年院群で60%台を占めていることを考えると、被害者に対する謝罪の気持ちの希薄さが感じられる結果となっている。また、⑪「地元の人たちの役に立つことをする」について

も、(1)の⑳でボランティア活動に意義を見出す回答が多かったこととを思うと、低い選択率である。

χ^2 検定により3群の有意差みると、女子では②、⑧及び⑩を除き、有意差が認められなかったが、男子では⑥「知識を身につけ心を豊かにする」を除き有意差が認められたので、以下男子について述べる。

①「規則正しい生活をする」については、選択順位は3群共に高いが、選択率は非行性の深度が進むに従い低下傾向にあり、再入群は短期保護観察群より10ポイント以上低い数値となっている。その他にも短期保護観察群は、②「お金のむだ使いをしない」、⑤「資格や技術を身につける」などの項目において、少年院群より高い選択率である。これに対して、初入群では、⑦「親の言うことを聞く」、⑧「家族の人と仲良くやっていく」、⑨「悪い友達や先輩とは付き合わない」などの対人関係に関する事項で、他に比べ選択率が高くなっており、⑩「被害者のために何かお詫びをする」も、3群の中では最も高い選択率となっている。

⑤「資格や技術を身につける」については、実際に職業補導等で資格取得の指導を受けている者の多い少年院群の方が、短期保護観察群に比べ選択率が低くなっている一方で、⑫「保護観察官、保護司とよく相談する」については、現在保護観察官等の指導を直接受けている短期保護観察群の方が、少年院群より選択率が低くなっている。これらの事項は、少年の今後の生活に重要であるとして、指導に努めているものであるが、少年自身がその意義を十分に理解しているとはいえないことをうかがわせる。

7 まとめ

本編においては、短期保護観察少年及び少年院在院少年を対象として、アンケート方式による意識調査の結果を比較し、非行性の深度により家庭生活、交友関係等における生活意識や価値観にどのような違いが見られるかについて考察した。

女子については、冒頭でも述べたとおり、対象数に制約があり、非行性による比較が十分できなかった面もあるので、以下では全部の質問項目について考察することができた男子について、若干の考察を加えることとしたい。

(1) 少年の主な生活領域である家庭、友達づきあいにおける満足度は、非行性の深度が進むに従い低下しているが、その背景の一つとして非行性の進んだ少年における「人間関係の希薄さ」を挙げることができると思われる。すなわち、少年院群は家族との交流が少なく、親の自分に対する関心のなさや、親としての関わりの乏しさを短期保護観察少年より強く感じているなど、親子関係における関わりの薄さを感じられるほか、友達関係においても、率直な自己表現や自己開示を避け、お互い傷つかぬよう気を遣い、距離を置いた交際をしている様子が見られる。こうした少年院群に家庭生活や友達関係に不満を感じている者が多いことを考え合わせると、家族や友達との関係の希薄さが、それらの人々との関係に満足できない一つの理由になっていると考えられると思われる。

さらに、「悪い」と分かっていることをしようとする自分自身を止めるものとして、父母を挙げる者が非行性の深度が進むとともに減少し、抑止要因はないとする者が増加するなど、人間関係の希薄さは、非行行動に対する少年院群の歯止めのなさとなって現れていると考えられる。もっとも、少年院群においても、同一視の対象としてあるいは今後の生活にとって大切な存在として、親を始めとした家族を想定する者が少なくないことから、家族関係の修復の足がかりは十分にあるものと思われる。

(2) 非行性の深度による比較においては、一般的に望ましいとされる回答は非行性の比較的進んでいない短期保護観察群に多く、非行性が進むに従い少なくなるであろうと予測されたところであるが、実際、今回調査の結果もほぼそのとおりとなっている。もっとも、価値観・意見のいくつかの質問や非行原因については、少年院群の方に望ましいとされる回答が多く出ることもあり、そこには、「よい答え」

を選択しようとする少年自身の意識が影響しているともいえるが、すべてにわたって望ましい答えが選択されたわけではないことを考えると、ある程度は指導の効果が現れたものということもできるように思われる。特に、Q12の③、⑮、⑰という将来に備えた地道で継続的な努力を良しとする観点からの質問に対しては、一貫して少年院群の方に肯定的な傾向が認められるのは、このような価値観を重視する少年院における指導が、少年たちに受け入れられていることを示しているのではないかと思われる。

これに関連して、自己意識の調査結果を見ると、肯定的な自己意識のうち、課題に対する取組姿勢や達成感、成就感について肯定する者は、短期保護観察群、初入群、再入群ともほぼ同様となっており、少年院における課題の達成に向けた指導も相応の成果を上げていると思われる。

なお、同様に肯定的な自己意識を尋ねた質問のうち、周囲からの信頼の有無を問う質問に対しては、少年院群で肯定する者が少ない。その一事からだけでは断定的なことはいえないが、非行性の深度が進むに従い不信感や孤立感などが強まる傾向にあることや、上記(1)で考察したことと併せ考えると、一人で物事に地道に取り組むこととはまた異なり、少年院における指導上、身近な人々の信頼、協力、賞賛など人間関係上の喜びや満足の得られるような体験をなし得るよう、更に工夫する余地があるように思われる。

第 4 参考資料

1 実数分布表

(1) 経年比較による分析

F1 あなたの性別は：

	男 子			女 子		
	前回	今回	合計	前回	今回	合計
年少	202	294	496	159	77	236
中間	693	893	1586	180	111	291
年長	794	824	1618	89	75	164
合計	1689	2011	3700	428	263	691

F2 あなたのいまの年齢は：

	男 子			女 子		
	前回	今回	合計	前回	今回	合計
14 歳	76	95	171	73	34	107
15 歳	126	199	325	86	43	129
16 歳	276	416	692	93	63	156
17 歳	417	477	894	87	48	135
18 歳	405	414	819	58	38	96
19 歳	389	410	799	31	37	68
合計	1689	2011	3700	428	263	691

F3 あなたのこれまでの学校歴は（前回調査では「あなたがいまいる学校は」）：

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
中学在学	178	5	2	185	220	1	2	223
中学卒業					36	340	238	614
高校在学	1	64	43	108	21	172	70	263
高校中退					12	355	384	751
高校卒業							84	84
大学在学		1	8	9			7	7
専門在学					1	12	18	31
専門卒業						4	9	13
その他	23	622	741	1386	3	9	12	24
合計	202	692	794	1688	293	893	824	2010

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
中学在学	130			130	64			64
中学卒業					3	35	22	60
高校在学	2	21	3	26	1	15	6	22
高校中退					8	61	31	100
高校卒業							7	7
大学在学							4	4
専門卒業							2	2
その他	27	159	86	272	1		3	4
合計	159	180	89	428	77	111	75	263

Q1 あなたは、家庭生活に、どのくらい満足していますか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	85	266	290	641	104	375	345	824
やや満足	54	166	221	441	94	242	223	559
どちらともいえない	38	156	174	368	54	167	159	380
やや不満	19	68	62	149	36	83	61	180
不満	6	31	43	80	6	24	31	61
合計	202	687	790	1679	294	891	819	2004

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	26	45	20	91	23	41	26	90
やや満足	37	33	19	89	21	21	16	58
どちらともいえない	45	50	26	121	16	23	16	55
やや不満	33	30	17	80	12	20	11	43
不満	16	21	6	43	5	6	6	17
合計	157	179	88	424	77	111	75	263

Q2 「やや不満」,「不満」とのことですが,それは,どういう理由からですか。

次の理由の中で,あてはまるものを,いくつでも選んでください。(各項目を選択した者の数)

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
家庭の収入が少ない	8	22	27	57	12	38	27	77
家庭内に争いごとがある	13	39	47	99	21	41	30	92
親の愛情が足りない	6	26	33	65	16	24	21	61
親が自分を理解してくれない	10	48	50	108	19	50	45	114
病人がいる	2	10	11	23	4	6	7	17
きょうだいと気が合わない	8	31	20	59	5	24	17	46
家の周囲の環境が悪い	5	16	21	42	3	21	12	36
家が狭すぎる	7	34	28	69	10	22	16	48
ただなんとなく	9	33	19	61	8	21	19	48
その他	6	25	45	76	7	22	28	57
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
家庭の収入が少ない	13	5	4	22	4	9	4	17
家庭内に争いごとがある	26	28	13	67	8	11	7	26
親の愛情が足りない	19	17	6	42	5	8	5	18
親が自分を理解してくれない	32	33	16	81	12	15	9	36
病人がいる	6	4		10	1	1	2	4
きょうだいと気が合わない	10	10	6	26	4	9	7	20
家の周囲の環境が悪い	10	6	6	22	2	5	2	9
家が狭すぎる	13	8	6	27	2	9	2	13
ただなんとなく	17	21	5	43	4	9	4	17
その他	14	15	9	38	4	6	6	16

Q3 あなたは、家の中で、次（ア～キ）のことをしたり、感じたりしたことがありますか。

ア 家族と話をすることが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	107	340	376	823	167	493	466	1126
ときどきある	69	211	252	532	78	268	209	555
あまりない	23	121	126	270	45	109	131	285
まったくない	3	17	36	56	3	17	14	34
合計	202	689	790	1681	293	887	820	2000
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	53	64	36	153	33	60	38	131
ときどきある	57	67	31	155	26	34	24	84
あまりない	37	35	19	91	17	13	10	40
まったくない	12	13	3	28	1	1	3	5
合計	159	179	89	427	77	108	75	260

イ 家では自分の部屋にひとりでいることが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	93	293	336	722	119	388	371	878
ときどきある	49	177	201	427	87	242	214	543
あまりない	39	147	175	361	50	192	181	423
まったくない	20	74	75	169	36	64	53	153
合計	201	691	787	1679	292	886	819	1997
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	84	97	40	221	31	47	35	113
ときどきある	30	33	20	83	20	23	18	61
あまりない	31	29	17	77	16	27	14	57
まったくない	14	20	12	46	10	11	8	29
合計	159	179	89	427	77	108	75	260

ウ 自分の将来について、親に話しかけることが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	41	104	146	291	61	137	129	327
ときどきある	80	262	288	630	112	367	387	866
あまりない	65	221	244	530	89	282	216	587
まったくない	16	103	109	228	31	100	87	218
合計	202	690	787	1679	293	886	819	1998
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	17	19	13	49	12	17	15	44
ときどきある	50	55	32	137	30	36	37	103
あまりない	59	60	29	148	26	41	13	80
まったくない	33	45	15	93	9	14	10	33
合計	159	179	89	427	77	108	75	260

エ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感ずることが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	11	40	54	105	4	44	37	85
ときどきある	49	163	205	417	73	216	187	476
あまりない	88	321	359	768	131	437	425	993
まったくない	54	164	165	383	85	189	169	443
合計	202	688	783	1673	293	886	818	1997
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	13	13	9	35	4	10	3	17
ときどきある	43	60	26	129	29	25	21	75
あまりない	68	66	39	173	27	47	32	106
まったくない	35	40	15	90	17	26	19	62
合計	159	179	89	427	77	108	75	260

オ 親がきびしすぎると感じる事が

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	24	62	58	144	32	73	47	152
ときどきある	71	217	255	543	103	303	257	663
あまりない	84	319	367	770	122	401	399	922
まったくない	23	92	108	223	36	110	116	262
合計	202	690	788	1680	293	887	819	1999
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	40	43	11	94	20	14	16	50
ときどきある	54	69	32	155	24	42	24	90
あまりない	49	51	34	134	23	42	31	96
まったくない	16	15	12	43	10	10	4	24
合計	159	178	89	426	77	108	75	260

カ 親のいうことは、気まぐれであると感じる事が

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	9	30	42	81	11	36	32	79
ときどきある	52	151	164	367	65	183	164	412
あまりない	75	303	363	741	139	400	390	929
まったくない	65	205	218	488	78	268	233	579
合計	201	689	787	1677	293	887	819	1999
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	27	26	11	64	8	11	8	27
ときどきある	55	54	27	136	24	29	25	78
あまりない	56	58	35	149	32	42	32	106
まったくない	21	39	16	76	13	26	10	49
合計	159	177	89	425	77	108	75	260

キ 親が自分のいいなりになりすぎると感じる事が

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	7	11	12	30	3	14	7	24
ときどきある	26	81	86	193	25	71	80	176
あまりない	81	300	327	708	122	394	362	878
まったくない	88	296	361	745	141	408	369	918
合計	202	688	786	1676	291	887	818	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	6	7	3	16	2	2		4
ときどきある	26	13	21	60	8	20	9	37
あまりない	66	84	31	181	36	34	40	110
まったくない	61	73	34	168	31	52	26	109
合計	159	177	89	425	77	108	75	260

Q4 あなたは、友達づきあいに、どのくらい満足していますか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	107	283	308	698	145	430	359	934
やや満足	49	202	234	485	83	227	251	561
どちらともいえない	28	135	164	327	43	163	145	351
やや不満	12	46	58	116	18	50	48	116
不満	6	24	26	56	5	18	21	44
合計	202	690	790	1682	294	888	824	2006
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	66	81	29	176	41	44	23	108
やや満足	46	42	33	121	20	33	22	75
どちらともいえない	31	30	21	82	11	26	24	61
やや不満	9	15	4	28	4	5	4	13
不満	6	10	2	18	1	2	2	5
合計	158	178	89	425	77	110	75	262

Q5 「やや不満」, 「不満」とのことですが, それは, どういう理由からですか。

次の理由の中で, あてはまるものを, いくつでも選んでください。

(各項目を選択した者の数)

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
気の合う友達がいらない	6	35	48	89	8	25	35	68
お互いに心を打ち明け合うことができない	9	38	42	89	13	37	47	97
自分よりもほかの人と仲良くする	7	17	19	43	4	17	18	39
仲間はずれにされる	3	17	14	34	7	16	15	38
自分のすることに口出ししてくる	5	21	20	46	6	15	15	36
グループの中のまとまりが悪い	8	31	31	70	13	31	19	63
自分のことを分かってくれない	4	23	28	55	9	18	23	50
自分のいうことが通らない	6	17	21	44	6	19	19	44
つき合っても張り合いがなく, 自分が向上しない	7	34	36	77	10	27	34	71
自分に冷たい	1	15	12	28	5	13	11	29
好きでもないのにつき合わなければならない	5	29	30	64	8	29	32	69
その他	5	24	30	59	7	20	21	48
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
気の合う友達がいらない	5	11	3	19		4	5	9
お互いに心を打ち明け合うことができない	4	13	3	20	2	4	3	9
自分よりもほかの人と仲良くする	5	3	1	9	3	3	2	8
仲間はずれにされる	2	2		4	3	1		4
自分のすることに口出ししてくる	3	6	1	10	2	1	1	4
グループの中のまとまりが悪い	7	7		14	3	3	1	7
自分のことを分かってくれない	3	3		6	2	6	3	11
自分のいうことが通らない	1	3	1	5	1	2	2	5
つき合っても張り合いがなく, 自分が向上しない	5	9	4	18	4	5	2	11
自分に冷たい	2	1		3	2	1	1	4
好きでもないのにつき合わなければならない	6	7	3	16	2	3	3	8
その他	5	14	2	21	1	1	1	3

Q6 あなたと、友達との関係について、次の中からあてはまるものを、いくつでも選んでください。
(各項目を選択した者の数)

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
悲しいことがあったら話を聞いてもらう	122	449	526	1097	206	670	612	1488
相手にけっこう気をつかっている	56	237	308	601	110	343	359	812
あまり深刻な相談はしない	74	213	201	488	100	236	229	565
つきあっているのは、何か得るものがあるからだ	23	102	188	313	42	200	245	487
お互いに張り合う気持ちがある	70	208	295	573	84	326	346	756
けんかをし合える	45	212	248	505	90	293	353	736
何も言わなくても、分かり合えている	87	235	288	610	118	367	333	818
お互いの性格は裏の裏まで知っている	104	275	357	736	128	379	339	846
自分のすべてをさらけ出すわけではない	40	144	195	379	72	254	275	601
お互いに悪いところは悪いと言い合える	100	362	455	917	185	582	541	1308
一緒にいるときでも、別々のことをしている	34	133	120	287	66	181	185	432
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
悲しいことがあったら話を聞いてもらう	139	162	77	378	73	101	63	237
相手にけっこう気をつかっている	32	32	22	86	15	32	27	74
あまり深刻な相談はしない	26	29	19	74	10	19	10	39
つきあっているのは、何か得るものがあるからだ	22	41	30	93	11	26	19	56
お互いに張り合う気持ちがある	32	54	24	110	17	28	21	66
けんかをし合える	71	94	47	212	48	70	43	161
何も言わなくても、分かり合えている	85	112	49	246	49	57	35	141
お互いの性格は裏の裏まで知っている	93	110	48	251	44	51	35	130
自分のすべてをさらけ出すわけではない	31	36	17	84	14	30	20	64
お互いに悪いところは悪いと言い合える	113	125	62	300	62	85	54	201
一緒にいるときでも、別々のことをしている	26	27	19	72	13	27	24	64

Q7 あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。次の中から一番大事だと思う
友達のタイプをひとつだけ選んでください。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
いつもそばにいて相手になってくれる人	25	64	64	153	40	96	69	205
他の人にはいえないことを聞いてくれる人	51	197	212	460	63	207	210	480
競争相手となって自分を伸ばしてくれる人	24	119	173	316	44	130	152	326
いろいろな情報を教えてくれる人	2	13	15	30	3	5	2	10
困ったときに助けてくれる人	88	271	303	662	131	393	342	866
興味や趣味が似ている人	9	23	27	59	12	58	45	115
合計	199	687	794	1680	293	889	820	2002
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
いつもそばにいて相手になってくれる人	24	25	8	57	14	14	7	35
他の人にはいえないことを聞いてくれる人	48	52	31	131	20	19	15	54
競争相手となって自分を伸ばしてくれる人	26	38	21	85	6	25	14	45
いろいろな情報を教えてくれる人		2		2			3	3
困ったときに助けてくれる人	57	60	25	142	34	48	28	110
興味や趣味が似ている人	4	2	4	10	3	3	7	13
合計	159	179	89	427	77	109	74	260

Q8 あなたにとって、次の質問（ア～エ）にあてはまる人はどんな人ですか。
あてはまる人を、何人でも選んでください。（各項目を選んだ者の数）

ア あなたが、気楽に話ができる人はどの人ですか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	82	288	335	705	121	392	376	889
母親	136	469	524	1129	223	650	579	1452
兄弟姉妹	120	403	459	982	195	580	527	1302
祖父母	60	160	174	394	83	255	229	567
親戚の人	45	146	159	350	70	189	155	414
同性の友達・仲間	174	587	675	1436	260	805	718	1783
異性の友達・恋人	140	528	653	1321	216	726	665	1607
先輩	95	266	325	686	126	388	339	853
先生	64	92	76	232	109	181	119	409
近所の人	14	39	72	125	27	88	70	185
その他	11	58	99	168	14	64	65	143
誰もいない	1	8	9	18	2	5	5	7

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	17	41	24	82	18	33	29	80
母親	83	104	51	238	52	73	48	173
兄弟姉妹	76	95	45	216	49	54	44	147
祖父母	23	25	12	60	20	18	19	57
親戚の人	21	23	10	54	14	15	11	40
同性の友達・仲間	149	160	81	390	73	103	59	235
異性の友達・恋人	136	163	78	377	62	98	67	227
先輩	85	79	35	199	40	47	25	112
先生	37	20	9	66	23	10	13	46
近所の人	7	7	5	19	4	2	7	13
その他	10	19	9	38	2	4	1	7
誰もいない	5	2	2	9	2	2	1	3

イ あなたが、悩みを打ち明けられるのはどの人ですか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	53	157	179	389	63	198	181	442
母親	78	282	299	659	132	367	321	820
兄弟姉妹	52	199	217	468	88	246	246	580
祖父母	22	52	50	124	20	68	46	134
親戚の人	21	54	60	135	16	48	40	104
同性の友達・仲間	156	501	568	1225	225	721	630	1576
異性の友達・恋人	108	453	541	1102	171	614	574	1359
先輩	55	158	216	429	79	211	211	501
先生	33	51	37	121	50	87	54	191
近所の人	2	3	7	12	3	10	8	21
その他	8	42	63	113	8	40	42	90
誰もいない	6	29	30	65	7	23	26	56

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	4	15	6	25	2	7	10	19
母親	40	61	29	130	23	40	28	91
兄弟姉妹	33	54	26	113	21	23	28	72
祖父母	3	5	4	12	4	3	8	15
親戚の人	3	4	5	12	6	7	4	17
同性の友達・仲間	139	156	75	370	66	93	58	217
異性の友達・恋人	112	136	56	304	52	70	54	176
先輩	52	55	21	128	28	32	17	77
先生	20	9	6	35	9	4	5	18
近所の人	3	3		6	1			1
その他	10	12	6	28	1	4		5
誰もいない	2	4	3	9		5	2	7

ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」
と思うのはどの人ですか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	94	336	382	812	143	462	440	1045
母親	84	324	399	807	156	447	435	1038
兄弟姉妹	52	178	217	447	80	237	248	565
祖父母	56	179	206	441	80	263	222	565
親戚の人	55	158	187	400	63	205	178	446
同性の友達・仲間	81	267	355	703	138	444	426	1008
異性の友達・恋人	110	408	537	1055	168	561	537	1266
先輩	108	278	313	699	160	448	397	1005
先生	47	127	128	302	90	211	178	479
近所の人	15	46	71	132	27	73	66	166
その他	11	57	98	166	10	55	67	132
誰もいない	8	26	43	77	11	10	13	34

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	24	55	29	108	20	37	33	90
母親	42	65	34	141	33	45	31	109
兄弟姉妹	26	43	14	83	18	24	25	67
祖父母	19	29	15	63	11	16	18	45
親戚の人	11	21	13	45	9	15	6	30
同性の友達・仲間	88	102	34	224	53	68	45	166
異性の友達・恋人	130	147	63	340	60	93	53	206
先輩	63	61	25	149	34	37	17	88
先生	16	23	14	53	8	13	11	32
近所の人	5	4	2	11	5	2	3	10
その他	11	11	7	29	2	3	3	8
誰もいない	3	3	5	11	2	4	4	10

エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	84	281	354	719	112	363	373	848
母親	42	150	168	360	66	197	174	437
兄弟姉妹	30	63	84	177	42	118	105	265
祖父母	27	58	69	154	22	80	64	166
親戚の人	23	76	75	174	24	79	71	174
同性の友達・仲間	34	99	132	265	50	173	131	354
異性の友達・恋人	23	63	83	169	36	77	66	179
先輩	48	154	170	372	93	225	202	520
先生	31	76	86	193	40	96	60	196
近所の人	6	12	26	44	9	14	11	34
その他	23	122	163	308	34	125	117	276
誰もいない	40	120	113	273	49	142	118	309

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	7	19	10	36	6	14	16	36
母親	48	62	28	138	30	46	35	111
兄弟姉妹	15	29	6	50	9	13	13	35
祖父母	7	15	2	24	5	2	12	19
親戚の人	4	9	3	16	2	6	4	12
同性の友達・仲間	37	52	21	110	19	24	27	70
異性の友達・恋人	28	39	16	83	12	17	17	46
先輩	61	49	20	130	28	24	17	69
先生	7	15	3	25	3	4	4	11
近所の人	1	4	1	6	2	1		3
その他	24	19	18	61	2	20	11	33
誰もいない	34	30	17	81	15	17	6	38

Q9 あなたは、今の社会について、どのくらい満足していますか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	29	110	113	252	27	136	109	272
やや満足	41	172	186	399	55	179	187	421
どちらともいえない	90	275	292	657	138	375	318	831
やや不満	25	87	110	222	41	125	135	301
不満	12	46	86	144	27	72	66	165
合計	197	690	787	1674	288	887	815	1990
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	6	7	5	18	5	4	3	12
やや満足	29	31	20	80	14	16	5	35
どちらともいえない	91	102	44	237	39	51	42	132
やや不満	15	22	9	46	9	24	20	53
不満	13	15	10	38	8	16	5	29
合計	154	177	88	419	75	111	75	261

Q10 「やや不満」、「不満」とのことですが、それは、どういう理由からですか。次の理由の中で、あてはまるものを、いくつでも選んでください。(各項目を選択した者の数)

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
社会のしくみがきまりきっている	22	68	92	182	36	121	100	257
若者の意見が反映されない	22	74	117	213	52	129	119	300
正しいと思うことが通らない	23	58	98	179	36	115	116	267
国民の意見がまとまっていない	13	35	59	107	25	67	73	165
金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる	28	94	131	253	45	120	118	283
まじめな者がむくわれない	7	36	66	109	17	60	77	154
人々の考え方や行動が乱れている	18	56	98	172	28	91	85	204
その他	12	43	82	137	18	58	66	142
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
社会のしくみがきまりきっている	13	17	9	39	6	15	8	29
若者の意見が反映されない	18	24	10	52	10	24	11	45
正しいと思うことが通らない	13	17	11	41	8	23	8	39
国民の意見がまとまっていない	7	15	5	27	4	6	8	18
金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる	14	21	15	50	12	23	14	49
まじめな者がむくわれない	6	8	3	17	2	8	7	17
人々の考え方や行動が乱れている	12	12	9	33	3	18	16	37
その他	9	16	8	33	3	11	9	23

Q11 人の暮らし方について、いろいろな考え方がありますが、次の考え方の中で、あなたはどれを選びますか。一番よいと思うものをひとつだけ選んでください。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
いっしょうけんめい働き、節約して金持ちになる	73	267	312	652	89	286	275	650
まじめに勉強して名をあげる	5	8	7	20	6	12	16	34
金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする	80	286	335	701	137	430	390	957
その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす	25	83	68	176	34	98	70	202
世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しく暮らす	18	49	71	138	24	53	62	139
合計	201	693	793	1687	290	879	813	1982
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
いっしょうけんめい働き、節約して金持ちになる	34	47	21	102	11	21	9	41
まじめに勉強して名をあげる	2	2	1	5	3	2		5
金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする	86	84	50	220	41	51	49	141
その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす	25	28	13	66	13	20	9	42
世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しく暮らす	10	17	4	31	8	13	6	27
合計	157	178	89	424	76	107	73	256

Q12 あなたは、次の意見（ア～テ）に、賛成ですか。それとも反対ですか。

ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやるべきだ」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	96	255	265	616	102	284	222	608
やや賛成	54	196	246	496	77	268	262	607
どちらともいえない	29	166	191	386	71	227	230	528
やや反対	8	44	54	106	28	72	72	172
反対	14	32	37	83	16	39	35	90
合計	201	693	793	1687	294	890	821	2005

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	49	61	34	144	27	33	20	80
やや賛成	48	57	25	130	22	33	21	76
どちらともいえない	51	46	24	121	21	36	29	86
やや反対	7	10	5	22	4	5	5	14
反対	3	5	1	9	2	4		6
合計	158	179	89	426	76	111	75	262

イ 「年上や目上の人には従うべきだ」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	43	109	110	262	40	112	109	261
やや賛成	61	199	260	520	85	242	270	597
どちらともいえない	66	259	294	619	88	309	268	665
やや反対	17	70	82	169	46	131	96	273
反対	14	56	48	118	35	96	78	209
合計	201	693	794	1688	294	890	821	2005

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	17	17	8	42	7	8	3	18
やや賛成	28	44	24	96	19	24	23	66
どちらともいえない	55	70	37	162	22	39	21	82
やや反対	30	27	15	72	14	25	16	55
反対	28	21	5	54	14	15	12	41
合計	158	179	89	426	76	111	75	262

ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやった方がよい」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	65	163	125	353	67	161	116	344
やや賛成	39	142	139	320	66	173	170	409
どちらともいえない	53	181	259	493	78	292	251	621
やや反対	32	127	178	337	60	179	185	424
反対	12	80	93	185	23	84	98	205
合計	201	693	794	1688	294	889	820	2003
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	48	48	17	113	18	20	10	48
やや賛成	35	34	19	88	15	22	10	47
どちらともいえない	50	51	38	139	27	33	33	93
やや反対	17	33	10	60	12	23	16	51
反対	8	13	5	26	4	13	6	23
合計	158	179	89	426	76	111	75	262

エ 「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	28	63	65	156	34	55	42	131
やや賛成	49	127	145	321	46	147	142	335
どちらともいえない	59	259	257	575	107	324	273	704
やや反対	24	126	186	336	64	196	198	458
反対	41	118	140	299	43	168	166	377
合計	201	693	793	1687	294	890	821	2005
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	13	14	4	31	5	5	2	12
やや賛成	32	33	14	79	19	12	9	40
どちらともいえない	50	67	32	149	28	47	23	98
やや反対	35	41	21	97	16	25	27	68
反対	28	24	18	70	8	22	14	44
合計	158	179	89	426	76	111	75	262

オ 「自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	38	88	68	194	25	73	60	158
やや賛成	39	128	99	266	48	124	118	290
どちらともいえない	62	263	319	644	115	353	298	766
やや反対	26	125	169	320	63	204	208	475
反対	36	88	137	261	40	131	136	307
合計	201	692	792	1685	291	885	820	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	14	21	12	47	10	5	3	18
やや賛成	25	33	16	74	10	14	6	30
どちらともいえない	75	76	37	188	30	41	22	93
やや反対	29	30	10	69	18	36	26	80
反対	15	19	14	48	8	15	18	41
合計	158	179	89	426	76	111	75	262

カ 「人のことにはあまり深入りしない方がよい」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	48	154	139	341	40	148	136	324
やや賛成	46	187	208	441	84	258	262	604
どちらともいえない	77	264	331	672	112	342	317	771
やや反対	22	61	87	170	45	103	84	232
反対	8	27	29	64	10	34	20	64
合計	201	693	794	1688	291	885	819	1995
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	27	37	20	84	10	26	13	49
やや賛成	38	53	25	116	21	28	20	69
どちらともいえない	66	72	34	172	36	49	29	114
やや反対	24	12	9	45	7	7	10	24
反対	3	5	1	9	2	1	3	6
合計	158	179	89	426	76	111	75	262

キ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	112	348	388	848	99	294	284	677
やや賛成	35	163	188	386	71	177	194	442
どちらともいえない	38	133	154	325	77	265	220	562
やや反対	8	31	38	77	27	75	78	180
反対	8	18	26	52	17	73	44	134
合計	201	693	794	1688	291	884	820	1995
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	38	33	25	96	8	9	11	28
やや賛成	27	43	14	84	13	15	14	42
どちらともいえない	53	56	22	131	27	34	17	78
やや反対	20	26	13	59	17	22	22	61
反対	20	21	15	56	11	31	11	53
合計	158	179	89	426	76	111	75	262

ク 「世の中は、なるようにしかならないものだ」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	25	118	134	277	32	119	123	274
やや賛成	29	123	129	281	34	150	122	306
どちらともいえない	78	256	292	626	140	318	264	722
やや反対	23	81	117	221	46	148	175	369
反対	45	115	122	282	39	149	135	323
合計	200	693	794	1687	291	884	819	1994
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	30	42	18	90	9	16	9	34
やや賛成	33	30	20	83	8	17	11	36
どちらともいえない	66	60	29	155	39	45	28	112
やや反対	17	27	15	59	9	17	20	46
反対	12	20	7	39	11	16	7	34
合計	158	179	89	426	76	111	75	262

ケ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	134	380	367	881	116	412	361	889
やや賛成	43	172	235	450	78	237	237	552
どちらともいえない	20	107	165	292	74	184	183	441
やや反対	1	18	13	32	12	27	25	64
反対	3	16	14	33	11	25	14	50
合計	201	693	794	1688	291	885	820	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	108	102	46	256	36	55	27	118
やや賛成	26	37	25	88	15	23	23	61
どちらともいえない	20	33	13	66	22	28	21	71
やや反対	2	5	3	10	1	4	2	7
反対	2	2	2	6	2	1	2	5
合計	158	179	89	426	76	111	75	262

コ 「まわりから何か言われないように、目立たないようにする方がよい」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	24	54	52	130	23	56	52	131
やや賛成	24	93	80	197	45	96	88	229
どちらともいえない	82	285	324	691	112	314	241	667
やや反対	25	144	174	343	56	227	238	521
反対	46	117	163	326	55	192	201	448
合計	201	693	793	1687	291	885	820	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	15	11	6	32	1	6	2	9
やや賛成	17	17	10	44	10	4	3	17
どちらともいえない	57	77	31	165	31	36	29	96
やや反対	30	36	22	88	11	35	21	67
反対	39	38	20	97	23	29	20	72
合計	158	179	89	426	76	110	75	261

サ 「悪い者をやっつけるためなら、場合によっては腕力に訴えてもよい」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	67	247	279	593	50	190	185	425
やや賛成	53	186	240	479	69	218	228	515
どちらともいえない	56	187	188	431	97	280	236	613
やや反対	13	42	51	106	48	111	86	245
反対	13	31	34	78	26	86	85	197
合計	202	693	792	1687	290	885	820	1995
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	34	43	23	100	7	18	6	31
やや賛成	44	39	26	109	13	23	16	52
どちらともいえない	62	70	26	158	38	41	26	105
やや反対	11	14	9	34	9	13	12	34
反対	8	12	5	25	9	16	15	40
合計	159	178	89	426	76	111	75	262

シ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	38	100	81	219	34	144	108	286
やや賛成	31	139	124	294	74	190	190	454
どちらともいえない	78	219	281	578	93	289	241	623
やや反対	25	139	192	356	59	170	175	404
反対	30	96	114	240	31	92	106	229
合計	202	693	792	1687	291	885	820	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	24	27	10	61	7	17	7	31
やや賛成	22	31	18	71	20	20	15	55
どちらともいえない	63	64	35	162	28	38	29	95
やや反対	37	42	16	95	14	25	17	56
反対	13	15	10	38	7	11	7	25
合計	159	179	89	427	76	111	75	262

ス 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	22	61	37	120	18	59	42	119
やや賛成	18	59	59	136	34	91	87	212
どちらともいえない	45	170	200	415	76	221	184	481
やや反対	47	181	208	436	80	244	205	529
反対	70	222	289	581	83	270	302	655
合計	202	693	793	1688	291	885	820	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	15	12	6	33	7	5	2	14
やや賛成	20	24	7	51	9	13	3	25
どちらともいえない	53	49	24	126	29	26	20	75
やや反対	46	48	28	122	13	22	25	60
反対	25	46	24	95	18	45	25	88
合計	159	179	89	427	76	111	75	262

セ 「義理人情を大切にすべきだ」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	108	318	376	802	82	317	374	773
やや賛成	50	196	241	487	82	256	239	577
どちらともいえない	38	157	149	344	116	282	174	572
やや反対	5	12	20	37	5	18	22	45
反対	1	9	7	17	5	11	11	27
合計	202	692	793	1687	290	884	820	1994
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	52	68	37	157	10	26	20	56
やや賛成	41	50	23	114	13	28	23	64
どちらともいえない	58	57	24	139	48	51	29	128
やや反対	4	3	4	11	2	3	1	6
反対	3	1	1	5	2	2	2	4
合計	158	179	89	426	73	110	75	258

ソ 「努力するよりも、要領よくふるまう方がよい」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	23	67	55	145	12	74	49	135
やや賛成	36	134	131	301	52	153	132	337
どちらともいえない	83	258	276	617	128	355	329	812
やや反対	32	129	201	362	68	197	203	468
反対	28	105	130	263	31	106	107	244
合計	202	693	793	1688	291	885	820	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	16	19	9	44	6	7	1	14
やや賛成	31	34	19	84	10	15	14	39
どちらともいえない	68	80	35	183	41	46	37	124
やや反対	28	22	18	68	13	29	14	56
反対	16	24	8	48	6	14	9	29
合計	159	179	89	427	76	111	75	262

タ 「リーダーになって苦勞するよりは、人に従っていた方が気楽でいい」

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	11	52	40	103	14	60	45	119
やや賛成	23	89	92	204	24	106	99	229
どちらともいえない	76	249	286	611	90	311	224	625
やや反対	41	137	181	359	83	203	236	522
反対	49	166	194	409	80	205	216	501
合計	200	693	793	1686	291	885	820	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	6	15	4	25	3	6	3	12
やや賛成	14	13	14	41	8	12	11	31
どちらともいえない	68	72	32	172	28	29	24	81
やや反対	42	43	17	102	23	32	20	75
反対	29	36	22	87	14	32	17	63
合計	159	179	89	427	76	111	75	262

チ 「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」(今回新設)

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成					30	138	89	257
やや賛成					56	159	153	368
どちらともいえない					114	301	260	675
やや反対					57	174	186	417
反対					34	112	132	278
合計					291	884	820	1995
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成					12	29	6	47
やや賛成					16	14	12	42
どちらともいえない					27	28	26	81
やや反対					14	27	19	60
反対					7	13	12	32
合計					76	111	75	262

ツ 「自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ」(今回新設)

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成					21	78	58	157
やや賛成					25	71	67	163
どちらともいえない					56	151	127	334
やや反対					65	190	174	429
反対					124	394	394	912
合計					291	884	820	1995
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成					14	16	3	33
やや賛成					7	8	6	21
どちらともいえない					12	19	14	45
やや反対					21	21	13	55
反対					22	47	39	108
合計					76	111	75	262

テ 「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」
(今回新設)

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成					120	347	329	796
やや賛成					97	312	264	673
どちらともいえない					60	193	183	436
やや反対					8	19	26	53
反対					6	14	18	38
合計					291	885	820	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成					27	56	34	117
やや賛成					30	37	25	92
どちらともいえない					17	15	12	44
やや反対					1	1	4	6
反対					1	2		3
合計					76	111	75	262

Q13 あなたは、日ごろの生活で、次（ア～シ）のような感じになることがありますか。
ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	17	64	86	167	28	61	73	162
ときどきある	38	236	271	545	77	266	283	626
あまりない	91	259	296	646	119	331	306	756
まったくない	56	134	140	330	67	228	160	455
合計	202	693	793	1688	291	886	822	1999
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	28	18	16	62	8	12	5	25
ときどきある	53	70	33	156	23	44	34	101
あまりない	57	67	30	154	30	31	28	89
まったくない	21	24	10	55	15	23	8	46
合計	159	179	89	427	76	110	75	261

イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	51	185	208	444	51	167	165	383
ときどきある	92	318	386	796	110	397	408	915
あまりない	42	132	143	317	95	227	193	515
まったくない	17	58	56	131	34	96	56	186
合計	202	693	793	1688	290	887	822	1999

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	51	64	36	151	19	23	17	59
ときどきある	75	80	37	192	31	51	42	124
あまりない	27	27	14	68	19	31	14	64
まったくない	6	8	2	16	7	5	2	14
合計	159	179	89	427	76	110	75	261

ウ 心のあたたまる思いが少ないという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	22	90	111	223	28	76	88	192
ときどきある	80	280	334	694	100	305	291	696
あまりない	86	276	306	668	135	403	369	907
まったくない	14	47	41	102	28	103	74	205
合計	202	693	792	1687	291	887	822	2000

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	20	30	15	65	4	13	9	26
ときどきある	73	72	42	187	35	42	28	105
あまりない	57	65	27	149	30	46	35	111
まったくない	9	12	4	25	7	9	3	19
合計	159	179	88	426	76	110	75	261

エ 自分の性格がいやになるという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	53	162	168	383	54	191	164	409
ときどきある	83	331	405	819	135	430	423	988
あまりない	48	146	180	374	76	190	164	430
まったくない	18	54	40	112	26	76	69	171
合計	202	693	793	1688	291	887	820	1998

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	60	72	35	167	27	36	26	89
ときどきある	78	83	42	203	37	58	41	136
あまりない	12	18	8	38	9	11	6	26
まったくない	9	7	4	20	3	5	2	10
合計	159	180	89	428	76	110	75	261

オ 自分は何をやってもダメな人間だという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	29	116	98	243	33	100	63	196
ときどきある	74	270	335	679	123	351	338	812
あまりない	74	230	270	574	92	300	300	692
まったくない	25	77	90	192	43	136	120	299
合計	202	693	793	1688	291	887	821	1999

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	39	44	22	105	12	20	11	43
ときどきある	61	90	45	196	38	47	37	122
あまりない	48	37	19	104	18	33	24	75
まったくない	11	8	3	22	8	10	3	21
合計	159	179	89	427	76	110	75	261

カ 自分は世の中から取り残されているという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	28	74	89	191	27	69	61	157
ときどきある	63	180	241	484	86	261	224	571
あまりない	72	314	317	703	113	357	353	823
まったくない	39	125	146	310	65	200	182	447
合計	202	693	793	1688	291	887	820	1998

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	20	28	9	57	7	7	13	27
ときどきある	51	71	36	158	21	32	17	70
あまりない	62	62	34	158	34	47	31	112
まったくない	26	18	10	54	14	24	14	52
合計	159	179	89	427	76	110	75	261

キ 自分だけが悪く思われているという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	78	172	165	415	75	174	125	374
ときどきある	82	313	330	725	113	372	339	824
あまりない	33	160	229	422	76	252	267	595
まったくない	9	47	69	125	27	89	90	206
合計	202	692	793	1687	291	887	821	1999

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	58	55	19	132	17	26	19	62
ときどきある	66	72	39	177	35	45	24	104
あまりない	26	50	28	104	20	29	26	75
まったくない	9	2	3	14	4	10	6	20
合計	159	179	89	427	76	110	75	261

ク 自分は意志が弱いという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	81	293	290	664	92	316	294	702
ときどきある	62	282	358	702	124	353	327	804
あまりない	35	85	114	234	53	140	138	331
まったくない	24	33	31	88	21	78	62	161
合計	202	693	793	1688	290	887	821	1998

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	53	76	39	168	22	43	24	89
ときどきある	67	72	37	176	25	44	37	106
あまりない	27	22	9	58	24	17	11	52
まったくない	12	9	4	25	5	6	3	14
合計	159	179	89	427	76	110	75	261

ケ 自分がものごとに打ち込んでいるという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	26	114	135	275	50	183	177	410
ときどきある	87	305	396	788	128	417	401	946
あまりない	75	249	234	558	104	256	218	578
まったくない	14	25	28	67	8	31	24	63
合計	202	693	793	1688	290	887	820	1997

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	14	17	7	38	7	19	6	32
ときどきある	62	69	36	167	30	37	34	101
あまりない	73	83	43	199	32	49	28	109
まったくない	10	10	3	23	7	5	7	19
合計	159	179	89	427	76	110	75	261

コ 自分は頼りにされているという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	23	88	125	236	30	98	104	232
ときどきある	80	322	402	804	120	423	438	981
あまりない	84	235	224	543	123	310	241	674
まったくない	14	47	42	103	18	56	38	112
合計	201	692	793	1686	291	887	821	1999

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	18	22	10	50	5	15	7	27
ときどきある	76	88	49	213	38	53	44	135
あまりない	50	56	24	130	19	31	19	69
まったくない	14	13	6	33	14	11	5	30
合計	158	179	89	426	76	110	75	261

サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	30	74	82	186	49	118	120	287
ときどきある	82	297	358	737	118	412	409	939
あまりない	72	267	308	647	103	303	246	652
まったくない	17	54	45	116	21	54	46	121
合計	201	692	793	1686	291	887	821	1999

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	14	6	6	26	3	12	4	19
ときどきある	60	79	37	176	34	37	29	100
あまりない	66	73	34	173	24	49	36	109
まったくない	18	21	12	51	15	12	6	33
合計	158	179	89	426	76	110	75	261

シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じが

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	47	130	151	328	60	210	174	444
ときどきある	75	278	318	671	127	351	333	811
あまりない	66	231	272	569	76	261	250	587
まったくない	13	53	50	116	27	64	64	155
合計	201	692	791	1684	290	886	821	1997
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	26	28	9	63	19	22	16	57
ときどきある	58	68	36	162	26	40	23	89
あまりない	54	71	38	163	25	35	31	91
まったくない	20	12	5	37	6	13	5	24
合計	158	179	88	425	76	110	75	261

Q14 あなたは、あなたと同じくらいの年の人について、どう思いますか。(今回新設)

ア 今、この場が楽しければそれでよいと思っている人は

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					65	305	296	666
やや多い					113	370	345	828
どちらともいえない					70	131	131	332
やや少ない					30	53	26	109
少ない					13	27	21	61
合計					291	886	819	1996
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					30	56	25	111
やや多い					27	37	31	95
どちらともいえない					16	12	13	41
やや少ない					3	3	3	9
少ない						2	3	5
合計					76	110	75	261

イ 気に入らないことがあると、カッとしたり、落ち込んだりしやすい人は

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					48	206	226	480
やや多い					121	374	348	843
どちらともいえない					69	150	142	361
やや少ない					36	109	63	208
少ない					17	47	40	104
合計					291	886	819	1996

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					20	45	14	79
やや多い					29	38	23	90
どちらともいえない					18	18	25	61
やや少ない					6	5	9	20
少ない					3	3	4	10
合計					76	109	75	260

ウ いやなことがあっても、すぐ忘れようとする人は

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					54	184	127	365
やや多い					94	290	268	652
どちらともいえない					78	234	232	544
やや少ない					53	135	155	343
少ない					11	35	27	73
合計					290	878	809	1977

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					13	19	10	42
やや多い					23	34	29	86
どちらともいえない					22	25	23	70
やや少ない					15	28	9	52
少ない					3	4	3	10
合計					76	110	74	260

エ ほかにの人にどう思われているか、気になる人は

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					50	217	179	446
やや多い					125	308	277	710
どちらともいえない					64	194	194	452
やや少ない					33	118	110	261
少ない					18	41	49	108
合計					290	878	809	1977
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					22	28	19	69
やや多い					26	31	21	78
どちらともいえない					11	30	19	60
やや少ない					13	13	12	38
少ない					4	8	3	15
合計					76	110	74	260

オ 大切なことであっても、まじめに考えずにごまかしてしまう人は

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					28	105	128	261
やや多い					91	307	277	675
どちらともいえない					86	223	189	498
やや少ない					58	162	134	354
少ない					27	81	81	189
合計					290	878	809	1977
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					10	20	8	38
やや多い					27	41	25	93
どちらともいえない					19	22	23	64
やや少ない					15	18	9	42
少ない					5	9	9	23
合計					76	110	74	260

カ 自分がよければ、少しくらい人に迷惑をかけてもかまわないと思っている人は

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					41	181	173	395
やや多い					87	313	294	694
どちらともいえない					75	167	152	394
やや少ない					50	119	107	276
少ない					37	98	83	218
合計					290	878	809	1977
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					17	29	13	59
やや多い					20	36	33	89
どちらともいえない					19	17	11	47
やや少ない					12	15	12	39
少ない					8	13	5	26
合計					76	110	74	260

キ いつもだれかと一緒にいたいと思っている人は

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					104	380	339	823
やや多い					119	299	301	719
どちらともいえない					50	142	123	315
やや少ない					11	43	37	91
少ない					5	14	9	28
合計					289	878	809	1976
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					49	65	41	155
やや多い					18	28	18	64
どちらともいえない					7	14	13	34
やや少ない					2	3	1	6
少ない							1	1
合計					76	110	74	260

ク 悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人は

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					85	317	292	694
やや多い					130	333	287	750
どちらともいえない					34	121	122	277
やや少ない					26	68	62	156
少ない					15	39	46	100
合計					290	878	809	1977

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					37	58	22	117
やや多い					20	29	26	75
どちらともいえない					10	10	15	35
やや少ない					7	8	2	17
少ない					2	5	9	16
合計					76	110	74	260

ケ 超能力や占いなどを信じている人は

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					16	64	55	135
やや多い					35	110	102	247
どちらともいえない					85	267	260	612
やや少ない					55	162	156	373
少ない					98	275	236	609
合計					289	878	809	1976

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い					5	15	14	34
やや多い					12	15	14	41
どちらともいえない					29	36	20	85
やや少ない					18	13	10	41
少ない					12	31	16	59
合計					76	110	74	260

Q15 非行あるいは非行少年について、お聞きします。

ア あなたは、少年が非行に走るのは、どこに主な原因があると思いますか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
少年自身	93	355	427	875	119	447	448	1014
家族(親)	21	89	95	205	39	75	78	192
友達・仲間	78	212	224	514	112	320	260	692
その他	9	35	45	89	20	34	24	78
合計	201	691	791	1683	290	876	810	1976
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
少年自身	71	93	51	215	27	53	33	113
家族(親)	54	48	19	121	23	14	21	58
友達・仲間	26	30	13	69	18	36	17	71
その他	7	7	5	19	8	7	3	18
合計	158	178	88	424	76	110	74	260

イ あなたは、非行少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
厳しく罰する	31	103	94	228	31	121	126	278
あたたかく指導する	169	586	697	1452	258	755	682	1695
合計	200	689	791	1680	289	876	808	1973
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
厳しく罰する	17	25	9	51	8	19	11	38
あたたかく指導する	137	152	80	369	66	89	63	218
合計	154	177	89	420	74	108	74	256

Q16 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思った時、あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。(今回新設)

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父母のこと					65	195	174	434
兄弟を含めた家族全体のこと					126	345	309	780
友達から仲間外れになること					21	47	27	95
学校や職場に対する迷惑のこと					3	36	32	71
社会からしろい目で見られること					1	14	19	34
警察につかまること					35	110	112	257
自分で自分がいやになるから					13	36	54	103
その他					20	73	65	158
特に心のブレーキになることはない					6	21	14	41
合計					290	877	806	1973

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父母のこと					15	19	7	41
兄弟を含めた家族全体のこと					17	32	27	76
友達から仲間外れになること					5	5	3	13
学校や職場に対する迷惑のこと						2	3	5
社会からしろい目で見られること					1	2	2	5
警察につかまること					11	25	15	51
自分で自分がいやになるから					11	8	10	29
その他					11	11	3	25
特に心のブレーキになることはない					4	4	4	12
合計					75	108	74	257

Q17 あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	42	92	90	224	32	110	103	245
やや満足	40	174	234	448	68	205	195	468
どちらともいえない	68	203	217	488	82	239	202	523
やや不満	25	128	137	290	71	224	210	505
不満	26	95	114	235	37	100	100	237
合計	201	692	792	1685	290	878	810	1978

	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	17	13	6	36	9	15	8	32
やや満足	30	39	21	90	12	15	8	35
どちらともいえない	70	65	35	170	26	36	26	88
やや不満	21	30	13	64	20	26	21	67
不満	20	32	14	66	9	18	11	38
合計	158	179	89	426	76	110	74	260

F4 あなたは、今回おもにどんな事件で（各項目を選択した者の数）

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
窃盗	62	249	271	582	98	246	214	558
傷害・暴行	53	75	98	226	87	154	185	426
恐喝	10	51	47	108	24	95	67	186
強盗	2	22	17	41	18	70	51	139
強姦・強制わいせつ	4	16	22	42	8	18	39	65
毒劇物	20	76	61	157	6	34	30	70
覚せい剤		5	37	42	2	19	51	72
道路交通法	5	129	149	283	14	198	135	347
ぐ犯	27	10	17	54	13	11		24
その他	10	39	51	100	22	43	52	117
わからない	3	3	5	11	1	5		6
合計	196	675	775	1646	293	893	824	2010
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
窃盗	15	33	16	64	7	13	10	30
傷害・暴行	5	12	10	27	8	30	9	47
恐喝	2	4	2	8	11	12	5	28
強盗	2	1		3	2	2	2	6
強姦・強制わいせつ		2		2		1		1
毒劇物	38	42	11	91	10	7	2	19
覚せい剤	5	15	21	41	7	20	38	65
道路交通法	1	2	3	6	1	1	2	4
ぐ犯	63	55	12	130	22	17	2	41
その他	21	9	12	42	6	7	5	18
わからない		2		2	3	1		4
合計	152	177	87	416	77	111	75	263

F5 あなたは、今度の事件を起こした頃（今回新設）：

	男 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
仕事をしていた					46	382	457	885
仕事をしたり，しなかったりだった					28	167	134	329
仕事をしていなかった					206	334	231	771
合計					280	883	822	1985
	女 子							
	前 回				今 回			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
仕事をしていた					5	18	28	51
仕事をしたり，しなかったりだった					10	26	9	45
仕事をしていなかった					58	67	38	163
合計					73	111	75	259

(2) 非行性の深度による分析

F1 あなたの性別は：

	男 子				女 子			
	短期保護観察群	少年院初入群	少年院再入群	合計	短期保護観察群	少年院初入群	少年院再入群	合計
年少	154	299	5	458	27	53		80
中間	336	996	137	1469	39	122	16	177
年長	218	1237	471	1926	21	145	25	191
合計	708	2532	613	3853	87	320	41	448

F2 あなたのいまの年齢は：

	男 子				女 子			
	短期保護観察群	少年院初入群	少年院再入群	合計	短期保護観察群	少年院初入群	少年院再入群	合計
14 歳	16	59	1	76	1	11		12
15 歳	138	240	4	382	26	42		68
16 歳	164	423	43	630	22	70	7	99
17 歳	172	573	94	839	17	52	9	78
18 歳	105	576	172	853	12	74	7	93
19 歳	79	469	177	725	6	51	8	65
20 歳	34	192	121	347	3	20	9	32
21 歳			1	1			1	1
合計	708	2532	613	3853	87	320	41	448

F3 あなたのこれまでの学校歴は：

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
中学在学	97	1		98	213	1	2	216	3		4	7
中学卒業	15	86	37	138	62	485	457	1004	1	107	291	399
高校在学	17	116	28	161	6	73	42	121	1	3	7	11
高校中退	20	126	80	226	15	405	619	1039		24	154	178
高校卒業			51	51		1	68	69			6	6
大学在学			10	10			2	2				
専門在学	3	4	6	13		8	7	15				
専門卒業		1	2	3		2	18	20			1	1
その他	2	2	4	8	3	20	21	44		3	8	11
合計	154	336	218	708	299	995	1236	2530	5	137	471	613

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
中学在学	20			20	36		1	37				
中学卒業	3	13	1	17	12	63	46	121		11	17	28
高校在学	4	9	4	17		6	4	10		1		1
高校中退		14	8	22	4	49	79	132		4	7	11
高校卒業			7	7			9	9				
大学在学			1	1	1			1				
専門卒業		1		1		1	2	3				
その他		2		2		3	4	7			1	1
合計	27	39	21	87	53	122	145	320		16	25	41

Q1 あなたは、家庭生活に、どのくらい満足していますか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	44	116	85	245	92	282	335	709	1	29	97	127
やや満足	40	84	68	192	68	275	337	680	2	29	94	125
どちらともいえない	54	111	51	216	75	255	321	651	1	34	150	185
やや不満	12	20	13	45	47	130	176	353	1	34	77	112
不満	4	4	1	9	17	54	66	137		11	52	63
合計	154	335	218	707	299	996	1235	2530	5	137	470	612

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	11	8	8	27	9	17	45	71		4	4	8
やや満足	8	10	6	24	13	36	27	76		2	4	6
どちらともいえない	5	15	7	27	16	26	33	75		4	3	7
やや不満	1	5		6	10	27	23	60		3	9	12
不満	2	1		3	5	15	15	35		3	5	8
合計	27	39	21	87	53	121	143	317		16	25	41

Q2 「やや不満」、「不満」とのことですが、それは、どういう理由からですか。
次の理由の中で、あてはまるものを、いくつでも選んでください。(各項目を選択した者の数)

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
家庭の収入が少ない	4	7	5	16	21	45	75	141		12	41	53
家庭内に争いごとがある	5	7	6	18	34	84	93	211	1	19	57	77
親の愛情が足りない	5	2	4	11	20	49	69	138		16	48	64
親が自分を理解してくれない	8	12	10	30	31	97	127	255		30	67	97
病人がいる	4	3	2	9	9	11	33	53		5	16	21
きょうだいと気が合わない	2	6	1	9	10	36	51	97		10	19	29
家の周囲の環境が悪い	4	8	1	13	14	45	55	114		16	35	51
家が狭すぎる	6	6	2	14	20	53	82	155		12	48	60
ただなんとなく	6	5	1	12	13	48	71	132		16	30	46
その他	3	6	1	10	23	59	102	184		13	52	65

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
家庭の収入が少ない	2	2		4	2	15	13	30		1	6	7
家庭内に争いごとがある	1	4		5	7	22	18	47		2	3	5
親の愛情が足りない		1		1	3	19	14	36		3	4	7
親が自分を理解してくれない	3	3		6	8	23	25	56		4	7	11
病人がいる					2	2	6	10		1	2	3
きょうだいと気が合わない	1	1		2	3	13	10	26			3	3
家の周囲の環境が悪い	1			1		11	14	25		2	4	6
家が狭すぎる	1	1		2		13	6	19		2	6	8
ただなんとなく	3	1		4	5	12	6	23		1	5	6
その他	1	1		2	5	17	15	37		4	4	8

Q3 あなたは、家の中で、次（ア～キ）のことをしたり、感じたりしたことがありますか。
ア 家族と話をすることが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	78	173	124	375	128	386	504	1018	2	50	146	198
ときどきある	58	119	64	241	99	346	399	844	3	43	161	207
あまりない	17	35	25	77	54	198	241	493		33	120	153
まったくない	1	6	1	8	15	40	47	102		9	33	42
合計	154	333	214	701	296	970	1191	2457	5	135	460	600

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	21	23	13	57	17	50	67	134		6	8	14
ときどきある	3	10	8	21	23	35	36	94		4	6	10
あまりない	2	6		8	11	28	30	69		5	7	12
まったくない	1			1	1	9	9	19		1	2	3
合計	27	39	21	87	52	122	142	316		16	23	39

イ 家では自分の部屋にひとりでいることが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	84	167	113	364	113	450	537	1100	1	66	216	283
ときどきある	36	97	59	192	78	217	298	593	2	23	90	115
あまりない	27	52	31	110	68	199	237	504	1	35	89	125
まったくない	7	16	11	34	34	104	118	256	1	11	63	75
合計	154	332	214	700	293	970	1190	2453	5	135	458	598
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	11	13	8	32	25	55	72	152		10	9	19
ときどきある	7	15	9	31	13	27	39	79		2	3	5
あまりない	4	8	1	13	10	25	22	57		3	8	11
まったくない	4	3	3	10	4	13	7	24		1	3	4
合計	26	39	21	86	52	120	140	312		16	23	39

ウ 自分の将来について、親に話しかけることが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	10	35	30	75	41	81	137	259		8	34	42
ときどきある	66	129	89	284	89	294	362	745	1	33	107	141
あまりない	52	123	67	242	96	349	418	863	3	47	169	219
まったくない	26	46	28	100	70	246	273	589	1	47	150	198
合計	154	333	214	701	296	970	1190	2456	5	135	460	600
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	9	9	5	23	11	18	13	42		4	1	5
ときどきある	10	11	9	30	12	37	52	101		2	8	10
あまりない	4	11	6	21	9	31	48	88		6	5	11
まったくない	4	8	1	13	20	36	29	85		4	9	13
合計	27	39	21	87	52	122	142	316		16	23	39

エ 自分が何をしても、親があまり気にしないと感じることが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	15	23	15	53	33	100	112	245		16	59	75
ときどきある	35	66	36	137	91	253	321	665		33	116	149
あまりない	75	186	118	379	107	407	510	1024	3	48	180	231
まったくない	29	57	45	131	65	209	247	521	2	38	105	145
合計	154	332	214	700	296	969	1190	2455	5	135	460	600

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある		4	1	5	10	20	24	54		1	2	3
ときどきある	3	6	1	10	18	29	47	94		9	10	19
あまりない	19	20	10	49	11	40	40	91		3	4	7
まったくない	5	9	9	23	13	33	31	77		3	7	10
合計	27	39	21	87	52	122	142	316		16	23	39

オ 親がきびしすぎると感じる事が

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	18	37	9	64	45	104	104	253		23	66	89
ときどきある	38	97	66	201	78	260	295	633	3	25	117	145
あまりない	71	146	104	321	103	393	508	1004	1	54	176	231
まったくない	27	53	35	115	69	212	283	564	1	33	101	135
合計	154	333	214	701	295	969	1190	2454	5	135	460	600

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	3	9	4	16	13	27	25	65		2	5	7
ときどきある	7	12	8	27	9	39	41	89		7	5	12
あまりない	13	11	8	32	17	35	40	92		4	11	15
まったくない	4	7	1	12	13	21	35	69		3	2	5
合計	27	39	21	87	52	122	141	315		16	23	39

カ 親のいうことは、気まぐれであると感じることが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	15	25	15	55	29	80	84	193		14	53	67
ときどきある	46	96	46	188	70	242	309	621	2	37	103	142
あまりない	63	156	110	329	121	418	493	1032	2	47	200	249
まったくない	30	54	43	127	75	229	304	608	1	37	104	142
合計	154	331	214	699	295	969	1190	2454	5	135	460	600
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	2	7		9	8	26	20	54		4	5	9
ときどきある	5	14	6	25	18	44	53	115		3	8	11
あまりない	14	13	11	38	17	35	45	97		5	7	12
まったくない	6	5	4	15	9	17	24	50		4	3	7
合計	27	39	21	87	52	122	142	316		16	23	39

キ 親が自分のいいなりになりすぎると感じることは

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	3	9	3	15	10	31	47	88		7	22	29
ときどきある	23	37	20	80	45	171	229	445		32	75	107
あまりない	67	155	106	328	111	362	465	938	5	48	176	229
まったくない	61	132	85	278	130	406	449	985		48	187	235
合計	154	333	214	701	296	970	1190	2456	5	135	460	600
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある					2	9	12	23		1	3	4
ときどきある	1	4	3	8	17	27	28	72		3	9	12
あまりない	14	23	11	48	18	47	51	116		7	3	10
まったくない	12	12	7	31	15	39	50	104		5	8	13
合計	27	39	21	87	52	122	141	315		16	23	39

Q4 あなたは、友達づきあいに、どのくらい満足していますか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	82	168	98	348	120	322	374	816	2	47	132	181
やや満足	46	101	67	214	77	281	348	706	2	40	114	156
どちらともいえない	22	54	45	121	58	231	308	597		30	123	153
やや不満	3	6	5	14	34	118	142	294	1	12	62	75
不満	1	7	2	10	10	42	63	115		8	37	45
合計	154	336	217	707	299	994	1235	2528	5	137	468	610
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	18	20	3	41	28	31	34	93		3	3	6
やや満足	5	12	8	25	7	31	33	71		3	7	10
どちらともいえない	2	4	8	14	7	23	49	79		4	7	11
やや不満	2	3	2	7	6	27	19	52		4	6	10
不満					5	10	10	25		2	2	4
合計	27	39	21	87	53	122	145	320		16	25	41

Q5 「やや不満」、「不満」とのことですが、それは、どういう理由からですか。

次の理由の中で、あてはまるものを、いくつでも選んでください。(各項目を選択した者の数)

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
気の合う友達がいらない	2	5	4	11	18	61	91	170		7	46	53
お互いに心を打ち明け合うことができない	1	5	4	10	27	84	112	223		14	61	75
自分よりもほかの人と仲良くする	1		4	5	21	47	64	132		5	25	30
仲間はずれにされる			3	3	11	36	46	93		4	17	21
自分のすることに口出ししてくる	1	1	2	4	14	45	45	104		6	18	24
グループの中のまとまりが悪い	1	4	6	11	24	74	104	202		9	48	57
自分のことを分かってくれない	2	2	3	7	15	50	77	142	1	10	33	44
自分のいうことが通らない	1	1	3	5	13	50	47	110	1	5	14	20
つき合っても張り合いがなく、自分が向上しない	3	3	5	11	22	65	88	175		13	45	58
自分に冷たい	2		2	4	12	29	34	75	1	4	11	16
好きでもないのにつき合わなければならない	1	4	2	7	13	83	83	179		7	31	38
その他	1	2		3	20	58	81	159		10	45	55
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
気の合う友達がいらない		1	1	2	4	17	13	34		2	4	6
お互いに心を打ち明け合うことができない	1	1	2	4	8	24	16	48		5	2	7
自分よりもほかの人と仲良くする		1	1	2	4	11	8	23		2	4	6
仲間はずれにされる		1		1	3	6	9	18		1	1	2
自分のすることに口出ししてくる		2	1	3	5	6	10	21		1	2	3
グループの中のまとまりが悪い	2	3		5	5	12	14	31		2	2	4
自分のことを分かってくれない	2	1	2	5	3	14	11	28		2	2	4
自分のいうことが通らない	1		1	2	4	8	6	18		1		1
つき合っても張り合いがなく、自分が向上しない					4	17	14	35		2	6	8
自分に冷たい		1		1	1	4	6	11				
好きでもないのにつき合わなければならない		1		1	7	14	11	32		2	2	4
その他	1		1	2	5	13	9	27		1	3	4

**Q6 あなたと、友達との関係について、次の中からあてはまるものを、
いくつでも選んでください。(各項目を選択した者の数)**

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
悲しいことがあったら話を聞いてもらう	79	213	147	439	153	606	779	1538	4	80	268	352
相手にけっこう気をつかっている	46	105	73	224	123	382	507	1012	3	58	212	273
あまり深刻な相談はしない	55	93	51	199	118	344	410	872	1	51	174	226
つきあっているのは、何か得るものがあるからだ	26	89	64	179	67	269	380	716	4	47	157	208
お互いに張り合う気持ちがある	48	124	76	248	100	358	491	949	1	59	182	242
けんかをし合える	57	111	72	240	95	337	473	905	3	58	185	246
何も言わなくても、分かり合えている	50	120	63	233	117	390	477	984	2	61	162	225
お互いの性格は裏の裏まで知っている	64	120	81	265	122	408	490	1020	2	52	154	208
自分のすべてをさらけ出すわけではない	43	91	59	193	103	330	432	865	2	53	191	246
お互いに悪いところは悪いと言い合える	103	217	142	462	128	413	596	1137	5	47	187	239
一緒にいるときでも、別々のことをしている	50	74	27	151	68	230	325	623	2	31	125	158
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
悲しいことがあったら話を聞いてもらう	26	38	19	83	44	99	115	258		13	21	34
相手にけっこう気をつかっている	8	7	7	22	11	42	58	111		3	10	13
あまり深刻な相談はしない	4	4	6	14	16	34	38	88		5	9	14
つきあっているのは、何か得るものがあるからだ	6	16	4	26	14	32	38	84		3	8	11
お互いに張り合う気持ちがある	4	15	6	25	18	41	44	103		3	17	20
けんかをし合える	15	22	9	46	29	71	74	174		9	15	24
何も言わなくても、分かり合えている	19	14	7	40	28	55	73	156		5	11	16
お互いの性格は裏の裏まで知っている	15	17	8	40	20	47	53	120		5	12	17
自分のすべてをさらけ出すわけではない	9	10	10	29	21	53	63	137		6	12	18
お互いに悪いところは悪いと言い合える	20	31	17	68	30	68	81	179		9	14	23
一緒にいるときでも、別々のことをしている	8	8	5	21	17	39	55	111		6	13	19

Q7 あなたは、どんな友達が大事だと思いますか。次の中から一番大事だと思う友達のタイプをひとつだけ選んでください。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
いつもそばにいて相手になってくれる人	26	33	26	85	44	156	159	359	1	27	61	89
他の人にはいえないことを聞いてくれる人	27	81	51	159	42	211	289	542	1	25	109	135
競争相手となって自分を伸ばしてくれる人	19	49	27	95	36	122	166	324		14	62	76
いろいろな情報を教えてくれる人	3	7	6	16	9	32	28	69		4	11	15
困ったときに助けてくれる人	59	122	91	272	130	379	462	971	3	54	179	236
興味や趣味が似ている人	19	41	15	75	36	93	131	260		13	46	59
合計	153	333	216	702	297	993	1235	2525	5	137	468	610
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
いつもそばにいて相手になってくれる人	7	3	4	14	13	24	23	60		8	6	14
他の人にはいえないことを聞いてくれる人	11	17	6	34	8	23	27	58		2	6	8
競争相手となって自分を伸ばしてくれる人	2	5	4	11	3	22	22	47			2	2
いろいろな情報を教えてくれる人						1	2	3			1	1
困ったときに助けてくれる人	7	13	5	25	24	43	59	126		6	7	13
興味や趣味が似ている人		1	2	3	3	9	11	23			2	2
合計	27	39	21	87	51	122	144	317		16	24	40

Q8 あなたにとって、次の質問（ア～エ）にあてはまる人はどんな人ですか。
あてはまる人を、何人でも選んでください。（各項目を選択した者の数）

ア あなたが、気楽に話ができる人はどの人ですか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	37	109	68	214	103	305	402	810	2	34	104	140
母親	82	187	121	390	169	574	730	1473	4	75	238	317
兄弟姉妹	73	151	91	315	177	536	694	1407	4	70	258	332
祖父母	27	58	25	110	70	209	233	512	1	30	74	105
親戚の人	19	38	21	78	62	180	188	430	1	24	61	86
同性の友達・仲間	134	285	187	606	261	867	1062	2190	5	117	380	502
異性の友達・恋人	78	202	151	431	214	809	1004	2027	5	115	377	497
先輩	47	97	65	209	131	381	512	1024	2	65	180	247
先生	23	37	18	78	96	163	184	443	1	26	44	71
近所の人	6	12	10	28	26	67	82	175	1	15	21	37
その他	11	20	11	42	27	83	135	245	1	20	54	75
誰もいない	4	3	2	9	5	12	22	39	1	3	16	20

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	2	12	4	18	9	25	37	71		5	7	12
母親	19	24	11	54	26	74	84	184		9	15	24
兄弟姉妹	9	21	14	44	28	72	83	183		12	12	24
祖父母	4	7	2	13	9	31	34	74		3	1	4
親戚の人	5	6	1	12	10	26	22	58		2	3	5
同性の友達・仲間	26	37	16	79	47	107	118	272		13	22	35
異性の友達・恋人	21	29	13	63	48	94	117	259		16	21	37
先輩	13	9	4	26	33	48	57	138		7	11	18
先生	7	2	1	10	11	18	23	52		2	3	5
近所の人	2			2	2	5	11	18		2	2	4
その他		3		3	5	12	11	28		1	2	3
誰もいない	1			1		2	4	6				

イ あなたが、悩みを打ち明けられるのはどの人ですか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	13	48	31	92	47	129	169	345	1	10	52	63
母親	30	92	59	181	88	257	311	656	2	31	112	145
兄弟姉妹	21	59	37	117	84	248	327	659	3	33	119	155
祖父母	5	11	7	23	33	62	76	171	1	12	19	32
親戚の人	5	7	9	21	19	56	69	144	1	5	30	36
同性の友達・仲間	120	260	171	551	199	702	898	1799	5	96	301	402
異性の友達・恋人	59	163	137	359	161	643	822	1626	4	90	310	404
先輩	24	66	43	133	73	237	323	633	2	40	119	161
先生	6	8	3	17	52	115	131	298	1	14	41	56
近所の人			1	1	8	12	15	35	1	3	7	11
その他	7	12	8	27	14	48	89	151	1	13	42	56
誰もいない	9	18	8	35	32	66	87	185	1	15	43	59
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親		3	2	5	5	10	16	31		1	1	2
母親	11	13	7	31	21	38	52	111		4	5	9
兄弟姉妹	7	14	7	28	19	38	53	110		4	8	12
祖父母	2	2	3	7	6	4	15	25			1	1
親戚の人	1	3	1	5	7	14	11	32		1	1	2
同性の友達・仲間	26	38	18	82	44	89	108	241		12	18	30
異性の友達・恋人	21	26	12	59	38	81	104	223		10	14	24
先輩	10	9	2	21	24	34	46	104		3	3	6
先生	2		1	3	8	15	19	42		1	4	5
近所の人					1	1	4	6		1	1	2
その他	1	2		3	4	9	11	24			2	2
誰もいない					2	6	7	15			3	3

ウ あなたが、「この人から注意されたら言うことを聞く」と思うのはどの人ですか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	51	158	99	308	91	250	379	720	3	22	92	117
母親	50	138	88	276	86	239	326	651	3	26	97	126
兄弟姉妹	28	62	36	126	76	181	274	531	3	20	95	118
祖父母	32	65	41	138	56	162	208	426	1	16	67	84
親戚の人	24	49	30	103	41	118	157	316	1	10	54	65
同性の友達・仲間	67	154	101	322	112	369	476	957	4	45	156	205
異性の友達・恋人	59	145	102	306	150	597	697	1444	2	84	276	362
先輩	56	112	69	237	110	382	441	933	2	57	159	218
先生	26	48	25	99	51	151	217	419	1	16	62	79
近所の人	10	20	8	38	21	42	62	125	1	5	18	24
その他	11	20	14	45	20	64	115	199	1	16	60	77
誰もいない	9	20	24	53	31	87	127	245	2	15	61	78
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	6	10	8	24	6	32	49	87		4	2	6
母親	12	11	7	30	13	42	58	113		2	6	8
兄弟姉妹	5	9	3	17	12	35	47	94		5	5	10
祖父母	1	12	5	18	4	23	33	60		2		2
親戚の人	1	5		6	4	19	17	40				
同性の友達・仲間	20	22	9	51	30	61	66	157		8	11	19
異性の友達・恋人	18	25	15	58	39	76	99	214		14	16	30
先輩	10	9	1	20	26	38	49	113		7	10	17
先生	4	2		6	5	19	33	57		1	3	4
近所の人		1		1	1	5	3	9		1	1	2
その他		2		2	4	13	12	29			1	1
誰もいない	2	3	1	6	7	9	11	27			3	3

エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのはどんな人物ですか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	23	72	67	162	100	342	467	909	3	31	130	164
母親	4	27	22	53	36	151	222	409	2	20	62	84
兄弟姉妹	8	17	10	35	51	124	177	352	2	12	63	77
祖父母	8	11	7	26	20	65	94	179	1	11	29	41
親戚の人	5	14	6	25	21	68	100	189	1	9	28	38
同性の友達・仲間	20	40	31	91	61	178	269	508	3	25	72	100
異性の友達・恋人	5	12	14	31	26	60	135	221	2	12	40	54
先輩	34	71	32	137	76	209	312	597	2	38	112	152
先生	5	10	5	20	32	123	130	285	1	8	32	41
近所の人	1	1	1	3	11	19	34	64	1	4	11	16
その他	28	52	44	124	49	194	275	518	3	35	108	146
誰もいない	47	95	56	198	70	198	222	490	1	38	102	141

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父親	2	6	3	11	6	16	29	51		4	1	5
母親	9	12	3	24	18	43	64	125		3	8	11
兄弟姉妹	1	3	2	6	9	22	29	60		7	3	10
祖父母		1	3	4	3	6	15	24			1	1
親戚の人	2	1	2	5	3	10	9	22		1		1
同性の友達・仲間	5	11	1	17	22	43	40	105		4	10	14
異性の友達・恋人	2	9	2	13	12	25	24	61		5	9	14
先輩	8	10	1	19	24	42	31	97		7	6	13
先生	1	1		2	3	9	15	27		2	4	6
近所の人						1	3	4			1	1
その他	1	4	4	9	8	19	20	47		1	5	6
誰もいない	8	10	7	25	6	18	22	46		2	4	6

Q9 あなたは、今の社会について、どのくらい満足していますか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	12	25	20	57	24	65	83	172		2	28	30
やや満足	14	42	30	86	38	139	189	366		14	38	52
どちらともいえない	77	172	104	353	124	385	482	991		50	211	261
やや不満	26	44	31	101	53	208	255	516	2	40	96	138
不満	24	47	29	100	57	191	213	461	3	27	94	124
合計	153	330	214	697	296	988	1222	2506	5	133	467	605
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	1		1	2	5	8	8	21		1		1
やや満足	4	6	1	11	7	12	15	34		1		1
どちらともいえない	17	19	13	49	20	51	71	142		7	10	17
やや不満	2	8	3	13	14	26	20	60		4	8	12
不満	3	4	3	10	7	24	30	61		3	7	10
合計	27	37	21	85	53	121	144	318		16	25	41

Q10 「やや不満」、「不満」とのことですが、それは、どういう理由からですか。次の理由の中で、あてはまるものを、いくつでも選んでください。(各項目を選択した者の数)

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
社会のしくみがきまりきっている	28	50	28	106	66	240	239	545	2	41	95	138
若者の意見が反映されない	34	46	29	109	59	222	237	518	5	39	82	126
正しいと思うことが通らない	25	52	38	115	66	212	260	538	3	33	103	139
国民の意見がまとまっていない	16	27	20	63	31	117	160	308	2	23	55	80
金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる	29	51	31	111	73	244	281	598	3	43	112	158
まじめな者がむくわれない	13	19	21	53	25	102	160	287		21	57	78
人々の考え方や行動が乱れている	16	41	31	88	37	170	230	437	1	31	89	121
その他	14	25	19	58	57	162	209	428	2	34	93	129
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
社会のしくみがきまりきっている	3	5	4	12	14	21	31	66		2	7	9
若者の意見が反映されない	4	7	5	16	12	26	26	64		3	9	12
正しいと思うことが通らない	4	6	3	13	11	18	25	54		2	5	7
国民の意見がまとまっていない	5	4	2	11	4	7	20	31		2	6	8
金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる	4	5	1	10	6	27	29	62		5	11	16
まじめな者がむくわれない	1	3	1	5	2	12	11	25			4	4
人々の考え方や行動が乱れている	3	5	2	10	8	19	28	55		3	6	9
その他	1	2	2	5	7	24	18	49		4	5	9

Q11 人の暮らし方について、いろいろな考え方がありますが、次の考え方の中で、あなたはどれを選びますか。一番よいと思うものをひとつだけ選んでください。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
いっしょうけんめい働き、倏約して金持ちになる	48	83	51	182	87	256	361	704	3	37	133	173
まじめに勉強して名をあげる	1	4	4	9	8	12	24	44		2	9	11
金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする	66	179	111	356	130	477	589	1196	1	58	224	283
その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす	28	50	35	113	42	145	127	314	1	25	54	80
世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しく暮らす	7	9	11	27	24	46	58	128		5	21	26
合計	150	325	212	687	291	936	1159	2386	5	127	441	573
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
いっしょうけんめい働き、倏約して金持ちになる	2	6	4	12	13	19	23	55		2	4	6
まじめに勉強して名をあげる							2	2				
金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする	19	21	14	54	27	70	83	180		8	17	25
その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす	4	9		13	9	29	24	62		2	3	5
世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しく暮らす	2	1	2	5	2	3	7	12		3		3
合計	27	37	20	84	51	121	139	311		15	24	39

Q12 あなたは、次の意見（ア～テ）に、賛成ですか。それとも反対ですか。

ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやるべきだ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	63	112	64	239	124	318	435	877	2	35	173	210
やや賛成	29	90	68	187	71	297	351	719	2	46	141	189
どちらともいえない	45	88	64	197	65	240	300	605	1	39	108	148
やや反対	11	25	13	49	16	78	89	183		9	31	40
反対	5	16	6	27	20	55	56	131		6	15	21
合計	153	331	215	699	296	988	1231	2515	5	135	468	608

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	10	16	6	32	20	37	59	116		6	13	19
やや賛成	2	12	7	21	14	37	43	94		5	5	10
どちらともいえない	10	6	7	23	14	40	33	87		4	2	6
やや反対	1	2		3	4	3	4	11		1	4	5
反対	4	2	1	7	1	4	5	10			1	1
合計	27	38	21	86	53	121	144	318		16	25	41

イ 「年上や目上の人には従うべきだ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	14	34	29	77	25	88	112	225		6	41	47
やや賛成	34	86	59	179	50	192	255	497	1	28	91	120
どちらともいえない	53	126	78	257	80	282	434	796		44	155	199
やや反対	22	54	20	96	51	185	189	425	2	24	74	100
反対	31	31	29	91	90	241	241	572	2	33	107	142
合計	154	331	215	700	296	988	1231	2515	5	135	468	608

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	2	4		6	2	6	13	21		1	1	2
やや賛成	5	6	8	19	3	26	21	50		2	4	6
どちらともいえない	11	13	7	31	20	41	56	117		2	10	12
やや反対	5	11	3	19	14	23	22	59		5	5	10
反対	4	4	3	11	14	25	32	71		6	5	11
合計	27	38	21	86	53	121	144	318		16	25	41

ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しくやったほうがよい」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	54	84	50	188	81	223	242	546	1	36	86	123
やや賛成	26	62	49	137	52	158	237	447	1	26	81	108
どちらともいえない	55	121	77	253	81	279	325	685	2	39	140	181
やや反対	13	44	25	82	57	210	277	544	1	19	104	124
反対	6	20	14	40	24	118	150	292		15	57	72
合計	154	331	215	700	295	988	1231	2514	5	135	468	608
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	7	9	3	19	17	32	26	75		2	4	6
やや賛成	5	10	4	19	11	17	23	51		2	6	8
どちらともいえない	10	16	9	35	13	40	59	112		8	11	19
やや反対	4	1	4	9	9	24	27	60		1	3	4
反対	1	2	1	4	3	8	9	20		3	1	4
合計	27	38	21	86	53	121	144	318		16	25	41

エ 「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	6	23	17	46	26	60	76	162		6	28	34
やや賛成	32	43	30	105	49	160	179	388		30	76	106
どちらともいえない	47	127	75	249	93	305	436	834	2	47	170	219
やや反対	36	62	53	151	58	212	246	516		29	97	126
反対	33	76	40	149	70	251	294	615	3	23	96	122
合計	154	331	215	700	296	988	1231	2515	5	135	467	607
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	2	2	1	5	1	4	10	15		1	2	3
やや賛成	2	3	3	8	5	19	13	37			2	2
どちらともいえない	9	18	9	36	24	46	64	134		4	10	14
やや反対	6	8	7	21	12	28	23	63		7	5	12
反対	8	7	1	16	11	24	34	69		4	6	10
合計	27	38	21	86	53	121	144	318		16	25	41

オ 「自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	19	33	20	72	40	139	140	319	1	24	55	80
やや賛成	29	51	31	111	63	153	172	388		19	64	83
どちらともいえない	62	152	95	309	97	300	412	809	1	40	162	203
やや反対	25	59	40	124	50	210	279	539	2	30	105	137
反対	17	39	32	88	47	190	234	471	1	24	84	109
合計	152	334	218	704	297	992	1237	2526	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成		3		3	6	14	17	37		2	4	6
やや賛成	5	3	3	11	9	20	22	51		2	4	6
どちらともいえない	12	22	13	47	25	47	47	119		5	12	17
やや反対	6	7	4	17	8	22	32	62		6	2	8
反対	4	4	1	9	5	19	25	49		1	3	4
合計	27	39	21	87	53	122	143	318		16	25	41

カ 「人のことにはあまり深入りしないほうがよい」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	29	44	37	110	73	236	291	600	1	36	128	165
やや賛成	45	89	56	190	62	290	401	753		44	149	193
どちらともいえない	65	154	100	319	105	342	406	853	2	36	154	192
やや反対	10	34	20	64	39	98	96	233	1	16	30	47
反対	3	13	5	21	18	26	43	87	1	5	9	15
合計	152	334	218	704	297	992	1237	2526	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	4	8	4	16	16	33	41	90		5	7	12
やや賛成	10	8	7	25	13	39	48	100		4	10	14
どちらともいえない	10	17	9	36	19	39	43	101		6	7	13
やや反対	2	6		8	4	9	8	21		1	1	2
反対	1		1	2	1	2	4	7				
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

キ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	36	65	54	155	97	382	478	957	2	50	165	217
やや賛成	23	59	39	121	56	179	201	436		28	97	125
どちらともいえない	68	144	90	302	87	246	305	638	2	44	127	173
やや反対	11	30	21	62	27	88	117	232	1	4	35	40
反対	14	36	14	64	30	97	135	262		11	46	57
合計	152	334	218	704	297	992	1236	2525	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	5	5	2	12	9	18	28	55		2	3	5
やや賛成	3	5	2	10	7	23	24	54		2	9	11
どちらともいえない	6	12	7	25	11	27	38	76		3	4	7
やや反対	5	8	5	18	12	22	23	57		2	4	6
反対	8	9	5	22	14	32	31	77		7	5	12
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

ク 「世の中は、なるようにしかならないものだ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	24	52	40	116	58	200	291	549		27	118	145
やや賛成	22	51	29	102	25	130	182	337		15	77	92
どちらともいえない	66	125	84	275	113	337	330	780	3	53	133	189
やや反対	15	45	30	90	46	173	203	422		16	57	73
反対	24	61	35	120	52	150	230	432	2	26	85	113
合計	151	334	218	703	294	990	1236	2520	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	4	12	4	20	11	24	34	69		1	6	7
やや賛成	6	6	5	17	8	27	24	59		5	3	8
どちらともいえない	13	14	9	36	24	44	61	129		4	9	13
やや反対	3	5	3	11	4	15	14	33		3	4	7
反対	1	2		3	6	12	11	29		3	3	6
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

ケ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	83	164	104	351	128	516	612	1256	4	70	217	291
やや賛成	24	86	57	167	67	233	289	589	1	25	102	128
どちらともいえない	38	70	46	154	74	188	248	510		32	114	146
やや反対	5	9	5	19	13	32	47	92		5	19	24
反対	2	5	6	13	15	22	41	78		5	18	23
合計	152	334	218	704	297	991	1237	2525	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	20	24	10	54	35	59	71	165		7	14	21
やや賛成	2	7	5	14	9	31	31	71		1	7	8
どちらともいえない	5	7	6	18	7	25	31	63		5	3	8
やや反対					1	4	6	11		2		2
反対		1		1	1	3	5	9		1	1	2
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

コ 「まわりから何か言われないように、目立たないようにする方がよい」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	13	25	11	49	21	64	74	159	1	8	31	40
やや賛成	15	31	31	77	30	93	104	227	1	16	43	60
どちらともいえない	49	115	82	246	88	269	363	720	1	45	157	203
やや反対	34	88	47	169	53	263	301	617		29	96	125
反対	41	75	47	163	105	303	395	803	2	39	143	184
合計	152	334	218	704	297	992	1237	2526	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	1	2		3	4	4	11	19		1	3	4
やや賛成	1	2	1	4	5	8	13	26		2	1	3
どちらともいえない	5	9	11	25	12	40	57	109		3	8	11
やや反対	8	13	5	26	13	32	26	71		4	4	8
反対	12	13	4	29	19	38	37	94		6	9	15
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

サ 「悪い者をやっつけるためなら、場合によっては腕力に訴えてもよい」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	53	80	48	181	94	326	438	858	3	46	159	208
やや賛成	30	71	45	146	56	202	261	519	1	28	98	127
どちらともいえない	51	123	83	257	89	239	285	613		35	127	162
やや反対	7	34	25	66	25	120	114	259	1	15	35	51
反対	11	26	17	54	33	105	139	277		13	51	64
合計	152	334	218	704	297	992	1237	2526	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	3	7	2	12	18	28	28	74		1	6	7
やや賛成	5	6	4	15	9	24	28	61		5	4	9
どちらともいえない	11	17	7	35	15	40	46	101		6	9	15
やや反対	3	6	3	12	7	15	16	38			1	1
反対	5	3	5	13	4	15	26	45		4	5	9
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

シ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	37	71	38	146	71	232	278	581	1	42	105	148
やや賛成	34	83	49	166	68	207	230	505		23	79	102
どちらともいえない	54	117	78	249	76	290	355	721	1	35	143	179
やや反対	20	44	30	94	54	165	218	437	2	22	87	111
反対	7	19	23	49	28	97	155	280	1	15	55	71
合計	152	334	218	704	297	991	1236	2524	5	137	469	611
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	4	9	3	16	18	34	34	86		5	5	10
やや賛成	7	7	3	17	12	27	32	71		2	9	11
どちらともいえない	14	18	9	41	16	32	39	87		3	7	10
やや反対		4	4	8	4	22	26	52		5	4	9
反対	2	1	2	5	3	7	13	23		1		1
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

ス 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	22	27	17	66	40	111	144	295	2	24	56	82
やや賛成	27	43	28	98	38	116	138	292		16	39	55
どちらともいえない	47	118	69	234	76	232	283	591	2	32	114	148
やや反対	34	80	56	170	72	248	295	615		30	108	138
反対	21	66	48	135	71	285	377	733	1	35	153	189
合計	151	334	218	703	297	992	1237	2526	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	5	5	1	11	10	20	16	46		2	5	7
やや賛成	6	4	1	11	11	18	17	46		3	3	6
どちらともいえない	4	17	8	29	13	38	36	87		4	7	11
やや反対	6	8	7	21	7	20	27	54		3	6	9
反対	6	5	4	15	12	26	48	86		4	4	8
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

セ 「義理人情を大切にすべきだ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	49	99	93	241	82	353	566	1001	3	53	210	266
やや賛成	36	91	66	193	77	269	319	665	1	39	128	168
どちらともいえない	59	126	53	238	116	301	292	709		32	108	140
やや反対	2	8	3	13	10	38	31	79		5	11	16
反対	5	8	2	15	11	28	28	67	1	8	13	22
合計	151	332	217	700	296	989	1236	2521	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	5	12	4	21	18	31	60	109		3	10	13
やや賛成	4	11	3	18	15	31	38	84		3	9	12
どちらともいえない	14	14	13	41	17	46	37	100		8	5	13
やや反対	1			1	1	7	3	11			1	1
反対	2	2		4	2	4	5	11		1		1
合計	26	39	20	85	53	119	143	315		15	25	40

ソ 「努力するよりも、要領よくふるまう方がよい」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	25	39	20	84	37	132	148	317	2	28	68	98
やや賛成	36	66	40	142	53	169	202	424		23	57	80
どちらともいえない	61	151	97	309	116	314	403	833	3	42	158	203
やや反対	18	48	43	109	65	223	293	581		31	108	139
反対	12	30	18	60	25	154	191	370		13	79	92
合計	152	334	218	704	296	992	1237	2525	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	7	6	4	17	9	14	14	37		1	3	4
やや賛成	1	5	3	9	11	28	23	62		2	7	9
どちらともいえない	13	15	5	33	21	39	49	109		6	7	13
やや反対	3	11	7	21	5	24	36	65		3	7	10
反対	2	2	2	6	7	17	21	45		4	1	5
合計	26	39	21	86	53	122	143	318		16	25	41

タ 「リーダーになって苦労するよりは、人に従っていた方が気楽でいい」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	12	17	14	43	25	75	86	186	1	9	42	52
やや賛成	13	21	30	64	30	88	130	248		7	46	53
どちらともいえない	58	127	70	255	85	238	257	580	1	38	88	127
やや反対	40	87	49	176	58	247	293	598	1	23	100	124
反対	29	82	55	166	99	343	471	913	2	60	194	256
合計	152	334	218	704	297	991	1237	2525	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	1	3		4		9	7	16			1	1
やや賛成			3	3	3	16	15	34		1	4	5
どちらともいえない	6	14	12	32	21	23	43	87		6	9	15
やや反対	8	11	2	21	12	34	40	86		3	4	7
反対	12	11	4	27	17	40	39	96		5	7	12
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		15	25	40

チ 「将来のために現在の楽しみをがまんするのはばかげている」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	30	57	37	124	52	183	204	439	1	28	76	105
やや賛成	30	72	46	148	38	139	164	341	1	23	66	90
どちらともいえない	62	112	67	241	93	277	388	758	2	43	140	185
やや反対	16	51	46	113	59	223	262	544	1	26	101	128
反対	14	42	22	78	54	170	219	443		17	87	104
合計	152	334	218	704	296	992	1237	2525	5	137	470	612

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	7	12	5	24	14	33	24	71		4	4	8
やや賛成	4	6	7	17	11	16	28	55			11	11
どちらともいえない	11	13	7	31	18	37	45	100		8	7	15
やや反対	2	6	1	9	4	23	24	51		3	2	5
反対	3	2	1	6	6	13	23	42		1	1	2
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

ツ 「自分の命をどうだめにしようと私の勝手だ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	26	48	24	98	52	154	170	376	1	26	74	101
やや賛成	24	39	14	77	22	86	99	207		20	30	50
どちらともいえない	41	94	51	186	45	168	183	396		22	85	107
やや反対	25	52	56	133	67	169	225	461	1	26	95	122
反対	36	101	73	210	111	415	560	1086	3	43	186	232
合計	152	334	218	704	297	992	1237	2526	5	137	470	612

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	1	4	2	7	10	25	13	48		4	4	8
やや賛成	2	8	2	12	8	16	12	36		2	4	6
どちらともいえない	7	7	8	22	9	22	37	68		4	5	9
やや反対	8	8	2	18	10	18	23	51		2	4	6
反対	9	12	7	28	16	41	59	116		4	8	12
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

テ 「ボランティア活動などを通じて、世の中のためになることが必要だ」

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	41	100	59	200	114	331	434	879	1	38	158	197
やや賛成	48	95	73	216	76	296	361	733	2	38	126	166
どちらともいえない	47	105	73	225	74	263	340	677		41	146	187
やや反対	6	20	5	31	15	32	37	84	1	11	13	25
反対	9	14	8	31	18	70	64	152	1	9	27	37
合計	151	334	218	703	297	992	1236	2525	5	137	470	612

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
賛成	13	15	5	33	16	48	66	130		5	10	15
やや賛成	4	13	7	24	19	35	37	91		4	9	13
どちらともいえない	10	10	7	27	9	27	34	70		7	3	10
やや反対		1		1	3	8	3	14			1	1
反対			2	2	6	4	4	14			2	2
合計	27	39	21	87	53	122	144	319		16	25	41

Q13 あなたは、日ごろの生活で、次（ア～シ）のような感じになることがありますか。

ア 世の中には自分しか信じるものがないという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	19	25	23	67	49	148	187	384		26	104	130
ときどきある	31	104	73	208	94	368	490	952	1	54	173	228
あまりない	71	136	87	294	100	305	378	783	2	34	146	182
まったくない	30	68	33	131	53	170	177	400	2	22	47	71
合計	151	333	216	700	296	991	1232	2519	5	136	470	611

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	3	3	1	7	7	24	27	58		6	9	15
ときどきある	11	22	10	43	22	61	66	149		6	9	15
あまりない	10	8	5	23	15	25	39	79		3	5	8
まったくない	3	5	4	12	9	12	13	34		1	2	3
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

イ 世の中は結局金だけが頼りだという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	38	87	46	171	109	361	443	913	4	52	190	246
ときどきある	61	142	111	314	108	392	528	1028		59	190	249
あまりない	41	81	46	168	61	176	186	423	1	20	71	92
まったくない	11	23	13	47	19	63	74	156		6	19	25
合計	151	333	216	700	297	992	1231	2520	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	10	14	4	28	21	50	50	121		4	14	18
ときどきある	9	18	9	36	23	51	60	134		8	6	14
あまりない	7	3	7	17	5	14	24	43		2	3	5
まったくない	1	3		4	4	7	11	22		2	2	4
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

ウ 心のあたたまる思いが少ないという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	18	33	19	70	64	171	245	480	1	30	124	155
ときどきある	47	116	70	233	102	394	472	968	4	61	187	252
あまりない	72	151	101	324	112	346	395	853		32	142	174
まったくない	12	33	26	71	19	81	120	220		14	17	31
合計	149	333	216	698	297	992	1232	2521	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	2	7		9	9	20	33	62		6	6	12
ときどきある	9	17	9	35	23	45	64	132		8	7	15
あまりない	11	13	8	32	18	44	41	103		2	12	14
まったくない	5	1	3	9	3	13	6	22				
合計	27	38	20	85	53	122	144	319		16	25	41

エ 自分の性格がいやになるという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	26	60	34	120	82	319	391	792	2	43	164	209
ときどきある	54	147	103	304	126	400	525	1051	1	52	198	251
あまりない	45	86	57	188	57	167	203	427	1	27	60	88
まったくない	26	40	22	88	32	106	113	251	1	15	48	64
合計	151	333	216	700	297	992	1232	2521	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	10	15	7	32	18	59	72	149		9	12	21
ときどきある	11	15	7	33	25	50	56	131		5	11	16
あまりない	5	4	6	15	6	8	11	25		2	1	3
まったくない	1	4		5	4	5	6	15			1	1
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

オ 自分は何をやってもダメな人間だという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	12	30	14	56	69	192	215	476	1	27	97	125
ときどきある	50	108	66	224	102	378	490	970		47	175	222
あまりない	57	129	88	274	81	284	310	675	3	41	131	175
まったくない	32	66	48	146	45	138	216	399	1	22	67	90
合計	151	333	216	700	297	992	1231	2520	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	5	5	6	16	7	38	41	86		5	8	13
ときどきある	13	16	6	35	30	46	54	130		7	11	18
あまりない	9	14	8	31	13	29	37	79		4	4	8
まったくない		3		3	3	9	13	25			2	2
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

カ 自分は世の中から取り残されているという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	10	23	13	46	43	145	167	355		29	87	116
ときどきある	34	58	49	141	81	264	348	693	1	40	146	187
あまりない	67	149	95	311	113	343	412	868	2	39	154	195
まったくない	40	103	59	202	59	239	305	603	2	29	83	114
合計	151	333	216	700	296	991	1232	2519	5	137	470	612

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	3	3	1	7	4	21	27	52		3	5	8
ときどきある	8	4	4	16	19	38	52	109		3	6	9
あまりない	9	22	10	41	17	38	47	102		8	7	15
まったくない	7	9	5	21	13	25	18	56		2	7	9
合計	27	38	20	85	53	122	144	319		16	25	41

キ 自分だけが悪く思われているという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	39	42	23	104	106	340	355	801	3	56	147	206
ときどきある	56	124	75	255	116	380	495	991	2	44	181	227
あまりない	38	125	79	242	50	185	258	493		29	102	131
まったくない	18	42	39	99	25	87	123	235		8	39	47
合計	151	333	216	700	297	992	1231	2520	5	137	469	611

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	6	10	4	20	16	42	51	109		5	4	9
ときどきある	12	12	6	30	21	50	57	128		7	16	23
あまりない	7	13	9	29	13	22	29	64		3	4	7
まったくない	2	3	1	6	3	8	8	19		1	1	2
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

ク 自分は意志が弱いという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	33	74	48	155	140	488	598	1226	1	70	256	327
ときどきある	58	137	96	291	90	347	438	875	1	43	150	194
あまりない	36	71	42	149	40	96	119	255	1	12	49	62
まったくない	24	51	29	104	27	61	77	165	2	12	15	29
合計	151	333	215	699	297	992	1232	2521	5	137	470	612

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	4	13	5	22	18	65	79	162		8	15	23
ときどきある	11	15	11	37	20	36	48	104		4	8	12
あまりない	6	6	4	16	11	16	9	36		4	1	5
まったくない	6	4		10	4	5	9	18			1	1
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

ケ 自分がものごとくに打ち込んでいるという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	36	70	65	171	47	171	248	466	1	26	98	125
ときどきある	50	140	85	275	123	463	569	1155	3	65	223	291
あまりない	57	103	62	222	100	289	354	743		35	119	154
まったくない	8	20	4	32	27	69	60	156	1	11	30	42
合計	151	333	216	700	297	992	1231	2520	5	137	470	612

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	2	4	2	8	7	20	24	51		1	1	2
ときどきある	9	10	7	26	16	44	59	119		3	12	15
あまりない	14	20	9	43	26	43	48	117		9	11	20
まったくない	2	4	2	8	4	15	13	32		2	1	3
合計	27	38	20	85	53	122	144	319		15	25	40

コ 自分は頼りにされているという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	13	27	28	68	28	108	128	264		14	48	62
ときどきある	69	167	119	355	84	346	469	899	2	54	169	225
あまりない	57	112	58	227	125	373	472	970	1	48	176	225
まったくない	11	27	11	49	60	166	162	388	2	21	76	99
合計	150	333	216	699	297	993	1231	2521	5	137	469	611
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	5	3		8	3	7	14	24			2	2
ときどきある	13	19	14	46	15	47	49	111		4	8	12
あまりない	9	12	5	26	26	52	61	139		8	12	20
まったくない		4	1	5	9	16	21	46		4	3	7
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	23	55	43	121	52	142	171	365		18	67	85
ときどきある	56	137	86	279	122	457	604	1183		59	228	287
あまりない	56	121	74	251	91	284	336	711	4	46	122	172
まったくない	14	20	13	47	32	110	121	263	1	14	53	68
合計	149	333	216	698	297	993	1232	2522	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	2	4	2	8	8	17	23	48		1		1
ときどきある	8	12	8	28	22	55	69	146		7	15	22
あまりない	13	17	10	40	12	35	39	86		4	8	12
まったくない	4	5		9	11	15	14	40		4	2	6
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じが

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	23	48	37	108	43	132	184	359		15	74	89
ときどきある	51	125	86	262	83	313	404	800	1	40	148	189
あまりない	59	119	71	249	110	359	454	923	2	60	173	235
まったくない	18	40	22	80	61	189	189	439	2	22	75	99
合計	151	332	216	699	297	993	1231	2521	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
よくある	6	5	2	13	5	19	24	48		4	4	8
ときどきある	8	11	9	28	18	37	46	101		3	7	10
あまりない	9	18	8	35	21	45	58	124		6	12	18
まったくない	4	4	1	9	9	21	17	47		3	2	5
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

Q14 あなたは、あなたと同じくらいの年の人について、どう思いますか。

ア 今、この場が楽しければそれでよいと思っている人は

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	49	110	82	241	144	551	682	1377	1	74	254	329
やや多い	55	118	86	259	85	294	368	747	2	39	136	177
どちらともいえない	34	74	35	143	39	96	124	259	2	16	58	76
やや少ない	7	15	11	33	15	29	39	83		6	12	18
少ない	6	15	2	23	14	23	18	55		2	10	12
合計	151	332	216	699	297	993	1231	2521	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	13	17	5	35	25	77	84	186		8	16	24
やや多い	8	12	8	28	14	28	38	80		6	6	12
どちらともいえない	4	7	6	17	6	16	18	40		1	2	3
やや少ない	2	2	1	5	4		2	6		1	1	2
少ない					4	1	3	8				
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

イ 気に入わないことがあると、カッとしたり、落ち込んだりしやすい人は

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	37	70	54	161	126	435	570	1131	1	61	220	282
やや多い	51	131	82	264	93	363	440	896	4	50	166	220
どちらともいえない	30	81	50	161	53	133	147	333		15	56	71
やや少ない	21	29	24	74	19	43	48	110		9	19	28
少ない	12	21	6	39	6	19	26	51		2	9	11
合計	151	332	216	699	297	993	1231	2521	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	5	15	3	23	25	68	84	177		8	17	25
やや多い	16	19	14	49	13	34	40	87		5	4	9
どちらともいえない	3	4	1	8	10	14	17	41		2	4	6
やや少ない	3		1	4	4	1	1	6				
少ない			1	1	1	5	3	9		1		1
合計	27	38	20	85	53	122	145	320		16	25	41

ウ いやなことがあっても、すぐ忘れようとする人は

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	33	63	37	133	49	177	258	484		28	112	140
やや多い	38	108	73	219	67	265	277	609	2	32	107	141
どちらともいえない	55	112	75	242	79	279	368	726		49	119	168
やや少ない	17	35	24	76	58	192	213	463	2	17	90	109
少ない	7	9	9	25	41	72	102	215	1	10	36	47
合計	150	327	218	695	294	985	1218	2497	5	136	464	605
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	5	9	4	18	8	27	36	71		4	5	9
やや多い	9	9	2	20	13	30	33	76		5	8	13
どちらともいえない	8	9	8	25	16	33	44	93		6	5	11
やや少ない	2	9	6	17	12	22	15	49		1	5	6
少ない	2	2	1	5	4	10	15	29			2	2
合計	26	38	21	85	53	122	143	318		16	25	41

エ ほかに人にどう思われているか、気になる人は

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	23	57	38	118	103	334	394	831	1	38	168	207
やや多い	58	110	79	247	89	298	418	805	2	56	143	201
どちらともいえない	43	96	60	199	61	203	216	480		26	94	120
やや少ない	14	44	28	86	25	94	120	239	1	9	29	39
少ない	12	20	13	45	15	56	70	141	1	7	30	38
合計	150	327	218	695	293	985	1218	2496	5	136	464	605

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	6	7	6	19	20	46	66	132		3	9	12
やや多い	10	15	7	32	12	39	36	87		7	12	19
どちらともいえない	6	12	2	20	12	17	22	51		4	1	5
やや少ない	2	3	3	8	5	12	10	27			1	1
少ない	2	1	3	6	4	8	9	21		2	2	4
合計	26	38	21	85	53	122	143	318		16	25	41

オ 大切なことであっても、まじめに考えずにごまかしてしまう人は

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	17	32	42	91	77	273	332	682	2	33	127	162
やや多い	39	88	64	191	104	362	457	923	1	47	164	212
どちらともいえない	57	127	61	245	74	204	245	523		39	114	153
やや少ない	25	49	38	112	23	98	122	243	2	11	40	53
少ない	12	30	13	55	16	47	62	125		6	19	25
合計	150	326	218	694	294	984	1218	2496	5	136	464	605

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	3	9	1	13	16	39	51	106		4	10	14
やや多い	6	13	7	26	20	52	43	115		8	5	13
どちらともいえない	7	8	9	24	10	21	33	64		3	9	12
やや少ない	4	3	3	10	4	7	9	20		1	1	2
少ない	6	5	1	12	3	3	7	13				
合計	26	38	21	85	53	122	143	318		16	25	41

カ 自分がよければ、少しくらい人に迷惑をかけてもかまわないと思っている人は

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	29	54	48	131	123	472	568	1163	2	60	211	273
やや多い	42	103	72	217	89	328	402	819	1	42	153	196
どちらともいえない	42	90	57	189	45	96	147	288	1	22	62	85
やや少ない	20	40	23	83	25	52	59	136	1	9	28	38
少ない	17	40	18	75	12	37	42	91		3	10	13
合計	150	327	218	695	294	985	1218	2497	5	136	464	605
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	7	8	3	18	23	56	61	140		8	15	23
やや多い	5	21	8	34	16	49	51	116		4	5	9
どちらともいえない	6	7	5	18	5	10	22	37		3	3	6
やや少ない	2		2	4	8	5	2	15			1	1
少ない	6	2	3	11	1	2	7	10		1	1	2
合計	26	38	21	85	53	122	143	318		16	25	41

キ いつもだれかと一緒にいたいと思っている人は

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	49	105	81	235	153	501	652	1306	3	77	256	336
やや多い	61	112	77	250	92	305	366	763	2	35	135	172
どちらともいえない	33	89	52	174	34	144	152	330		18	61	79
やや少ない	6	12	4	22	8	23	28	59		4	7	11
少ない	1	9	3	13	7	12	20	39		2	5	7
合計	150	327	217	694	294	985	1218	2497	5	136	464	605
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	15	16	9	40	31	84	94	209		10	15	25
やや多い	6	14	8	28	14	27	32	73		3	5	8
どちらともいえない	4	8	3	15	6	10	14	30		3	4	7
やや少ない			1	1	1	1	1	3			1	1
少ない	1			1	1		2	3				
合計	26	38	21	85	53	122	143	318		16	25	41

ク 悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人は

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	51	93	55	199	168	608	747	1523	2	82	263	347
やや多い	44	101	76	221	71	251	299	621	3	39	130	172
どちらともいえない	32	80	51	163	31	78	96	205		7	50	57
やや少ない	12	29	18	59	19	25	45	89		4	6	10
少ない	11	24	18	53	5	23	30	58		4	15	19
合計	150	327	218	695	294	985	1217	2496	5	136	464	605
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	11	14	7	32	38	85	88	211		12	16	28
やや多い	7	15	2	24	10	25	33	68		2	4	6
どちらともいえない	4	7	8	19	3	8	17	28		2	3	5
やや少ない	2	1	3	6	1	2	3	6			2	2
少ない	2	1	1	4	1	2	2	5				
合計	26	38	21	85	53	122	143	318		16	25	41

ケ 超能力や占いなどを信じている人は

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	10	25	14	49	18	65	105	188		5	37	42
やや多い	21	45	30	96	39	125	167	331	1	12	63	76
どちらともいえない	37	95	65	197	81	297	380	758	1	46	147	194
やや少ない	20	56	25	101	36	155	179	370		23	76	99
少ない	62	106	84	252	119	343	386	848	3	49	141	193
合計	150	327	218	695	293	985	1217	2495	5	135	464	604
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
多い	1	5		6	6	13	24	43			4	4
やや多い	6	7	4	17	7	24	37	68		3	3	6
どちらともいえない	8	13	8	29	12	40	37	89		6	11	17
やや少ない	5	4	3	12	12	15	19	46		3	1	4
少ない	6	9	6	21	16	30	26	72		4	6	10
合計	26	38	21	85	53	122	143	318		16	25	41

Q15 非行あるいは非行少年について、お聞きます。

ア あなたは、少年が非行に走るのは、どこに主な原因があると思いますか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
少年自身	63	136	100	299	134	523	660	1317	2	77	271	350
家族(親)	25	53	32	110	45	112	151	308	2	24	76	102
友達・仲間	50	110	62	222	94	295	337	726		31	87	118
その他	12	28	23	63	21	55	70	146	1	4	30	35
合計	150	327	217	694	294	985	1218	2497	5	136	464	605
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
少年自身	10	16	9	35	29	54	69	152		8	16	24
家族(親)	3	12	9	24	11	27	45	83		5	4	9
友達・仲間	12	10	3	25	11	32	23	66		3	3	6
その他	1			1	2	8	6	16			2	2
合計	26	38	21	85	53	121	143	317		16	25	41

イ あなたは、非行少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
厳しく罰する	27	54	45	126	72	255	310	637		35	110	145
あたたかく指導する	120	270	169	559	221	729	904	1854	5	101	350	456
合計	147	324	214	685	293	984	1214	2491	5	136	460	601
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
厳しく罰する	4	4	2	10	9	22	23	54		3	3	6
あたたかく指導する	22	34	19	75	43	99	117	259		13	22	35
合計	26	38	21	85	52	121	140	313		16	25	41

Q16 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと思った時、
あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父母のこと	24	55	38	117	50	159	195	404		20	51	71
兄弟を含めた家族全体のこと	31	91	65	187	95	295	379	769	3	35	121	159
友達から仲間外れになること	11	25	18	54	21	43	48	112		6	18	24
学校や職場に対する迷惑のこと	4	17	8	29	2	12	20	34		3	5	8
社会からしろい目で見られること	6	5	5	16	2	13	25	40		7	11	18
警察につかまること	30	56	29	115	44	170	206	420	1	21	76	98
自分で自分がいやになるから	12	28	24	64	11	64	83	158		4	38	42
その他	14	30	24	68	42	135	160	337	1	25	89	115
特に心のブレーキになることはない	18	20	7	45	27	92	99	218		15	55	70
合計	150	327	218	695	294	983	1215	2492	5	136	464	605
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
父母のこと	7	6	5	18	5	8	24	37		1	2	3
兄弟を含めた家族全体のこと	3	8	2	13	14	35	52	101		4	6	10
友達から仲間外れになること	3	3	1	7	1	11	6	18		2	1	3
学校や職場に対する迷惑のこと			2	2		1	3	4				
社会からしろい目で見られること					1		4	5				
警察につかまること	5	9	5	19	9	28	29	66		4	9	13
自分で自分がいやになるから	6	6	4	16	4	11	7	22		1	2	3
その他	1	3	1	5	5	8	11	24		3	2	5
特に心のブレーキになることはない	1	3		4	14	19	7	40		1	3	4
合計	26	38	20	84	53	121	143	317		16	25	41

Q17 今回の処分についてどう思っていますか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
重い	23	46	27	96	100	299	343	742	2	39	137	178
やや重い	28	57	37	122	66	197	226	489		28	68	96
重くも軽くもない	59	150	97	306	78	286	406	770	2	48	165	215
やや軽い	27	46	36	109	24	106	121	251		12	54	66
軽い	13	27	21	61	26	96	121	243	1	9	38	48
合計	150	326	218	694	294	984	1217	2495	5	136	462	603
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
重い	4	6	1	11	21	47	48	116		8	8	16
やや重い	3	8	3	14	12	24	30	66		4	3	7
重くも軽くもない	14	18	15	47	14	41	45	100		4	12	16
やや軽い	2	3	1	6	3	6	9	18			1	1
軽い	2	3	1	6	3	4	9	16			1	1
合計	25	38	21	84	53	122	141	316		16	25	41

Q18 これからの生活で、あなたにとって大切と思えるもの三つを選んでください。
(各項目を選択した者の数)

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
規則正しい生活を送る	85	156	114	355	146	448	538	1132		54	189	243
お金のむだ使いをしない	52	112	69	233	59	190	294	543		33	118	151
健全な趣味や遊びをする	37	70	52	159	50	208	298	556	3	31	159	193
学校や仕事を休まずに続ける	91	196	116	403	143	593	624	1360	2	78	280	360
資格や技術を身につける	42	116	78	236	59	182	274	515	3	34	103	140
知識を身につけ心を豊かにする	20	64	52	136	46	139	237	422	1	19	86	106
親の言うことをきく	23	41	20	84	59	151	173	383		13	46	59
家族の人と仲良くやっていく	18	59	47	124	104	361	439	904	2	44	162	208
悪い友達や先輩とは付き合わない	43	88	46	177	100	354	330	784	1	46	110	157
被害者のために何かお詫びをする	1	5	7	13	31	82	115	228		6	12	18
地元の人たちの役に立つことをする	2	7	3	12	5	25	22	52		1	7	8
保護観察官、保護司とよく相談する	22	29	19	70	52	136	164	352	1	24	57	82
もう少し要領よくふるまう	13	27	14	54	22	62	101	185	2	13	36	51
その他	12	17	13	42	21	51	92	164		15	41	56
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
規則正しい生活を送る	14	21	13	48	17	50	68	135		8	12	20
お金のむだ使いをしない	5	11	6	22	11	19	15	45		2	2	4
健全な趣味や遊びをする	7	5	3	15	7	27	33	67		4	9	13
学校や仕事を休まずに続ける	12	20	11	43	24	59	66	149		10	16	26
資格や技術を身につける	6	4	2	12	10	16	22	48		2	3	5
知識を身につけ心を豊かにする	7	6	2	15	12	22	26	60		3	3	6
親の言うことをきく	2	7	4	13	6	14	22	42		2	3	5
家族の人と仲良くやっていく	10	13	11	34	29	66	83	178		8	8	16
悪い友達や先輩とは付き合わない	5	14	7	26	16	38	48	102		3	8	11
被害者のために何かお詫びをする			1	1	2	6	6	14				
地元の人たちの役に立つことをする	1	2		3			1	1			1	1
保護観察官、保護司とよく相談する	5	1	1	7	8	25	26	59		2	5	7
もう少し要領よくふるまう	1	5	2	8	8	13	10	31		2	2	4
その他	4	1		5	6	11	8	25		2	3	5

Q19 あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	32	64	33	129	41	134	157	332	1	10	48	59
やや満足	48	106	67	221	51	181	247	479		24	64	88
どちらともいえない	48	101	74	223	91	294	312	697	1	30	145	176
やや不満	19	39	30	88	58	192	277	527	2	31	98	131
不満	7	20	14	41	58	195	243	496	1	42	115	158
合計	154	330	218	702	299	996	1236	2531	5	137	470	612
	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
満足	5	6	1	12	9	14	15	38			1	1
やや満足	8	7	9	24	12	28	22	62		3	5	8
どちらともいえない	9	12	8	29	15	36	48	99		4	12	16
やや不満	5	8	3	16	8	21	36	65		4	3	7
不満		4		4	9	23	24	56		5	4	9
合計	27	37	21	85	53	122	145	320		16	25	41

F4 あなたは、今回おもにどんな事件で（各項目を選択した者の数）

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
窃盗	69	135	75	279	82	205	251	538	2	44	145	191
傷害・暴行	37	89	56	182	69	236	209	514		28	69	97
恐喝	18	43	26	87	22	67	66	155		9	33	42
強盗	1	11	8	20	40	137	91	268	2	12	26	40
強姦・強制わいせつ	1	2	5	8	18	50	133	201		4	17	21
毒劇物	4	16	20	40	3	30	64	97		4	27	31
覚せい剤			2	2	4	34	168	206		4	67	71
道路交通法	6	17	6	29	15	148	165	328		22	61	83
ぐ犯	5		2	7	18	17	15	50		4	6	10
その他	11	13	17	41	22	61	69	152		4	16	20
わからない	2	3		5	5	7	5	17	1	1	2	4
合計	154	329	217	700	298	992	1236	2526	5	136	469	610

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
窃盗	8	9	7	24	5	5	13	23		3	4	7
傷害・暴行	6	10	1	17	14	31	10	55		1	3	4
恐喝	5	3		8			2	2			1	1
強盗	1	1		2	5	3	1	9		1		1
強姦・強制わいせつ						1		1			1	1
毒劇物	2	6	2	10	4	13	9	26		1	2	3
覚せい剤	1	1	6	8	8	45	93	146		8	12	20
道路交通法			1	1	1		2	3				
ぐ犯	3	5	2	10	11	17	5	33		2	1	3
その他	1	2	2	5	3	4	9	16			1	1
わからない					1	3	1	5				
合計	27	37	21	85	52	122	145	319		16	25	41

F5 あなたは、今度の事件を起こした頃：

	男 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
仕事をしていた	11	84	96	191	41	298	484	823	2	46	165	213
仕事をしたり、しなかったりだった	8	43	33	84	44	265	307	616	2	37	129	168
仕事をしていなかった	122	193	84	399	205	429	444	1078	1	54	175	230
合計	141	320	213	674	290	992	1235	2517	5	137	469	611

	女 子											
	短期保護観察群				少年院初入群				少年院再入群			
	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計	年少	中間	年長	合計
仕事をしていた	1	4	7	12	6	22	36	64		2	7	9
仕事をしたり、しなかったりだった	2	11	6	19	10	33	37	80		8	7	15
仕事をしていなかった	22	22	6	50	37	67	72	176		6	11	17
合計	25	37	19	81	53	122	145	320		16	25	41

2 調査票

青少年の生活と価値観に関する調査

この調査は、みなさんがどんな生活をしてきたか、また、どんなことを思ったり、感じたりしているかなどについて、おたずねするものです。結果は、全体をとりまとめてあつかりますので、名前を記入する必要はありません。どうぞ、ありのままを答えてください。

※まずはじめに、あなたご自身のことについてお聞きします。

答えは、右側の回答欄に番号を記入してください。

F 1 あなたの性別は：

1 男 2 女

F 1 番号をひとつ記入

F 2 あなたのいまの年齢は：

F 2 数字を記入

 歳

F 3 あなたのこれまでの学校歴は：

1 中学校に在学中 2 中学校卒業 3 高校に在学中
4 高校中退 5 高校卒業 6 大学(短大)に在学中
7 専門学校に在学中 8 専門学校卒業 9 その他

F 3 番号をひとつ記入

※次に、家庭や友達、ものごとの考え方や感じ方などについて、お聞きします。

答えの書き方は、右側の回答欄に、番号を記入するか、または、回答欄に○をつけるかのどちらかです。まちがわないように注意してください。

Q 1 あなたは、家庭生活に、どのくらい満足していますか。

1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満 5 不満

Q 1 番号をひとつ記入

※ 4 または 5 の答えの人は、次の Q 2 の質問に答えてください。

1, 2, 3 の答えの人は、Q 3 へ進んでください。

→ Q 2 「やや不満」、「不満」とのことですが、それは、どういう理由からですか。

次の理由の中で、あてはまるものを、いくつでも選んでください。

次のページに続く

- 1 家庭の収 入が^{か てい しゅうにゅう すく}少ない
- 2 家庭内に^{ない あらそ}争いごとがある
- 3 親の愛 情が^{おや あいじょう た}足りない
- 4 親が^{じぶん り かい}自分を理解してくれない
- 5 病 人^{びょうにん}がいる
- 6 きょうだいと^{き あ}気が合わない
- 7 家の^{いえ しゅうい かんきょう わる}周囲の環境が悪い
- 8 家が^{せま}狭すぎる
- 9 ただ^{ただ}なんとなく
- 10 その他

Q 2 あてはまる^{ばんごう らん}番号の欄に
いくつでも○をつける。

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

Q 3 あなたは、^{いえ}家の中で、次（ア～キ）の^{つぎ}ことをしたり、^{かん}感じたりしたことがありますか。

ア ^{か ぞく はなし}家族と話をすることが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

イ ^{いえ}家では自分の^{じぶん}部屋にひとり^{へ や}でいることが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ウ ^{じぶん しょうらい}自分の将来について、^{おや はな}親に話しかけることが

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

エ ^{じぶん なに}自分が何を^{おや}していても、^き親があまり^{かん}気にしないと^{かん}感じる

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

オ ^{おや}親が^{かん}きびしすぎると^{かん}感じる

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

カ ^{おや}親の^きいうことは、^{かん}気まぐれであると^{かん}感じる

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

キ ^{おや じぶん}親が自分の^{かん}いいなりになりすぎると^{かん}感じる

- 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

Q 3 ^{ばんごう きにゅう}番号をひとつ記入

ア

イ

ウ

エ

オ

カ

キ

^{つぎ}次のページに^{つづ}続く

Q 4 あなたは、友達^{ともだち}づきあいに、どのくらい満足^{まんぞく}していますか。

1 満足^{まんぞく} 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満^{ふまん} 5 不満

Q 4 番号^{ばんごう}をひとつ記入^{きにゅう}

--

※ 4 または 5 の答えの人は、次の Q 5 の質問^{しつもん}に答えてください。

1, 2, 3 の答えの人は、Q 6 へ進^{すす}んでください。

→ Q 5 「やや不満^{ふまん}」, 「不満^{ふまん}」とのことですが、それは、どういう理由^{りゆう}からですか。

次の理由^{りゆう}の中で、あてはまるものを、いくつでも選んでください。

- 1 気の合う友達^{ともだち}がいない
- 2 お互^{たが}いに心^{こころ}を打ち明^あけ合^あうことができない
- 3 自分^{じぶん}よりもほかの人^{ひと}と仲良^{なかよ}くする
- 4 仲間^{なかま}はずれにされる
- 5 自分^{じぶん}のすることに口出^{くちだ}ししてくる
- 6 グループの中^{なか}のまとまりが悪^{わる}い
- 7 自分^{じぶん}のことを分か^わってくれない
- 8 自分^{じぶん}のいうことが通^{とお}らない
- 9 つき合^あっていても張り合^はいがなく、自分^{じぶん}が向^{こう}上^{じょう}しない
- 10 自分^{じぶん}に冷^{つめ}たい
- 11 好き^すきでもないのにつき合^あわなければならない
- 12 その他^た

Q 5 あてはまる番号^{ばんごう}の欄^{らん}にいくつでも○をつける。

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

Q 6 あなたと、友達^{ともだち}との関係^{かんけい}について、次^{つぎ}の中^{なか}からあてはまるものを、いくつでも選^{えら}んでください。

- 1 悲^{かな}しいことがあつたら話^{はなし}を聞^きいてもらう
- 2 相手^{あいて}にけっこう気^きをつかっている
- 3 あまり深刻^{しんこく}な相談^{そうだん}はしない
- 4 つきあっているのは、何^{なに}か得^えるものがあるからだ
- 5 お互^{たが}いに張り合^はう気持^{きもち}ちがある
- 6 けんかをし合^あえる
- 7 何も言^いわなくても、分^わかり合^あえている
- 8 お互^{たが}いの性格^{せいかく}は裏^{うら}の裏^{うら}まで知^しっている
- 9 自分^{じぶん}のすべてをさらけ出^だすわけではない
- 10 お互^{たが}いに悪^{わる}いところ^{ところ}は悪^{わる}いと言^いい合^あえる
- 11 一^{いっしょ}緒^{しょ}にいるときでも、別^{べつ}々^{べつ}のことをしている

Q 6 あてはまる番号^{ばんごう}の欄^{らん}にいくつでも○をつける。

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	

つぎ つづ
次のページに続く

Q 7 あなたは、どんな友達^{ともだち}が大事^{だいじ}だと思いますか。次^{つぎ}の中から一番大事^{なかに}だと思う友達^{いちばん}のタイプをひとつだけ選^{えら}んでください。

- 1 いつもそばにいて相手^{あいて}になってくれる人^{ひと}
- 2 他^{ほか}の人にはいえ^きないことを聞^きいてくれる人
- 3 競争^{きょうそう}相手^{あいて}となって自分^{じぶん}を伸ば^のばしてくれる人
- 4 いろいろな情^{じょう}報^{ほう}を教^{おし}えてくれる人
- 5 困^{こま}ったとき^{たす}に助^{たす}けてくれる人
- 6 興味^{きょうみ}や趣味^{しゆみ}が似^にている人

Q 7 番号^{ばんごう}をひとつ記^{きに}入^{ゆう}

--

Q 8 あなたにとって、次^{つぎ}の質^{しつもん}問^{もん}（ア～エ）にあてはまる人^{ひと}はどんな人^{ひと}ですか。あてはまる人^{ひと}を何人^{なんにん}でも選^{えら}んでください。

Q 8 あてはまる番号^{ばんごう}の欄^{らん}にいくつでも○をつける。

ア あなたが、気^{きらく}楽^{はなし}に話^わができる人^{ひと}はどの人^{ひと}ですか。

- 1 父^{ちち}親^{おや} 2 母^{はは}親^{おや} 3 兄^{きょう}弟^{だい}姉^し妹^{まい}
- 4 祖^そ父^ふ母^ぼ（おじいさん・おばあさん）
- 5 親^{しん}戚^{せき}の人^{ひと} 6 同^{どう}姓^{せい}の友^{とも}達^{だち}・仲^{なか}間^ま
- 7 異^い性^{せい}の友^{とも}達^{だち}・恋^{こい}人^{びと} 8 先^{せん}輩^{ばい} 9 先^{せん}生^{せい}
- 10 近^{きん}所^{じょ}の人^{ひと} 11 そ^た他^た 12 誰^{だれ}もい^{ない}

ア

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	

イ あなたが、悩^{なや}み^うを打^{うち}ち明^あけられるのはどの人^{ひと}ですか。

- 1 父^{ちち}親^{おや} 2 母^{はは}親^{おや} 3 兄^{きょう}弟^{だい}姉^し妹^{まい}
- 4 祖^そ父^ふ母^ぼ（おじいさん・おばあさん）
- 5 親^{しん}戚^{せき}の人^{ひと} 6 同^{どう}姓^{せい}の友^{とも}達^{だち}・仲^{なか}間^ま
- 7 異^い性^{せい}の友^{とも}達^{だち}・恋^{こい}人^{びと} 8 先^{せん}輩^{ばい} 9 先^{せん}生^{せい}
- 10 近^{きん}所^{じょ}の人^{ひと} 11 そ^た他^た 12 誰^{だれ}もい^{ない}

イ

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	

ウ あなたが、「この人^{ひと}から注^{ちゅう}意^{いうい}されたら言^いうこと^きを聞^きく」

と思^{おも}うのはどの人^{ひと}ですか。

- 1 父^{ちち}親^{おや} 2 母^{はは}親^{おや} 3 兄^{きょう}弟^{だい}姉^し妹^{まい}
- 4 祖^そ父^ふ母^ぼ（おじいさん・おばあさん）
- 5 親^{しん}戚^{せき}の人^{ひと} 6 同^{どう}姓^{せい}の友^{とも}達^{だち}・仲^{なか}間^ま
- 7 異^い性^{せい}の友^{とも}達^{だち}・恋^{こい}人^{びと} 8 先^{せん}輩^{ばい} 9 先^{せん}生^{せい}
- 10 近^{きん}所^{じょ}の人^{ひと} 11 そ^た他^た 12 誰^{だれ}もい^{ない}

ウ

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	

つぎのページ^{つぎ}に続^{つづ}く

エ あなたが、「こんな人になりたい」と思うのは
どんな人物ですか。

- 1 父親 2 母親 3 兄弟姉妹
4 祖父母 (おじいさん・おばあさん)
5 親戚の人 6 同姓の友達・仲間
7 異性の友達・恋人 8 先輩 9 先生
10 近所の人 11 その他 12 誰もいない

エ

1		2		3	
4		5		6	
7		8		9	
10		11		12	

Q 9 あなたは今の社会について、どのくらい満足していますか。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満 5 不満

Q 9 番号をひとつ記入

※ 4 または 5 の答えの人は、次の Q10 の質問に答えてください。

1, 2, 3 の答えの人は、Q11 へ進んでください。

▶ Q10 「やや不満」、「不満」とのことですが、それは、どういう理由からですか。

次の理由の中で、あてはまるものを、いくつでも選んでください。

- 1 社会のしくみがきまりきっている
2 若者の意見が反映されない
3 正しいと思うことが通らない
4 国民の意見がまとまっていない
5 金持ちと貧乏な人との差が大きすぎる
6 まじめな者がむくわれない
7 人々の考え方や行動が乱れている
8 その他

Q10 あてはまる番号の欄に
いくつでも○をつける。

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

Q11 人の暮らし方について、いろいろな考え方がありますが、次の考え方の中で、
あなたはどれを選びますか。一番よいと思うものをひとつだけ選んでください。

- 1 いっしょうけんめい働き、倹約して金持ちになる
2 まじめに勉強して名をあげる
3 金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする
4 その日その日をのんきに、くよくよしないで暮らす
5 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しく暮らす

Q11 番号を
ひとつ記入

次のページに続く

Q12 あなたは、次の意見（ア～テ）に、賛成ですか。それとも反対ですか。

Q12 番号を
ひとつ記入

ア 「ひとつのことに熱中するよりも、いろいろなことをやるべきだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ア

イ 「年上や目上の人には従うべきだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

イ

ウ 「コツコツ努力するよりは、毎日の生活を楽しむ方がよい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ウ

エ 「自分の意見とちがっていても多数の意見には従うべきだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

エ

オ 「自然を守ることも大切だが、生活を便利にする方がもっと大事だ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

オ

カ 「人のことはあまり深入りしない方がよい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

カ

キ 「男は外で働き、女は家庭を守るべきだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

キ

ク 「世の中は、なるようにしかならないものだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ク

ケ 「まじめな人よりも、ひょうきんにふるまう人の方が好きだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ケ

コ 「まわりから何か言われないように、目立たないようにする方がよい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

コ

サ 「悪い者をやっつけるためなら、場合によっては腕力に訴えてもよい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

サ

シ 「世の中全体のことを考えるよりも、自分のしたいことをする方がよい」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

シ

ス 「自分のやりたいことをやりぬくためには、ルールを破るのも仕方がないことだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

ス

セ 「義理人情を大切にすべきだ」

1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対

セ

つぎ
次のページに続く

- ソ 「努力^{どりよく}するよりも、要領^{ようりょう}よくふるまう方がよい」
 1 賛成^{さんせい} 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対^{はんたい} 5 反対
- タ 「リーダーになって苦労^{くろう}するよりは、人^{ひと}に従^{したが}っていた方が気楽^{きらく}でいい」
 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対 5 反対
- チ 「将来^{しょうらい}のために現在^{げんざい}の楽しみ^{たの}みがまんするのはばかげている」
 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対^{はんたい} 5 反対
- ツ 「自分^{じぶん}の命^{いのち}をどうだめにしよう^{わたし}と私^{わたし}の勝手^{かって}だ」
 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対^{はんたい} 5 反対
- テ 「ボランティア活動^{かつどう}などを通^{つう}じて、世^よの中^{なか}のためになることが必要^{ひつよう}だ」
 1 賛成 2 やや賛成 3 どちらともいえない 4 やや反対^{はんたい} 5 反対

ソ ☐タ ☐チ ☐ツ ☐テ ☐

Q13 あなたは、日ごろ^ひの生活^{せいかつ}で、次^{つぎ}（ア～シ）のような感じ^{かん}になることが
 あります。

Q13 番号^{ばんごう}を
 ひとつ記入^{きにゅう}

ア 世^よの中^{なか}には自分^{じぶん}しか信^{しん}じるものがないという感じ^{かん}が
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ア ☐

イ 世^よの中^{なか}は結局^{けっきよく}金^{かね}だけが頼^{たよ}りだという感じが
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

イ ☐

ウ 心^{こころ}のあたたま^{おも}る思い^{おも}いが少^{すく}ないという感じが
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ウ ☐

エ 自分^{じぶん}の性格^{せいかく}がいやになるという感じが
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

エ ☐

オ 自分^なは何^{なに}をやってもダメ^{だめ}な人間^{にんげん}だという感じが
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

オ ☐

カ 自分^よは世^よの中^{なか}から取^とり残^{のこ}されているという感じが
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

カ ☐

キ 自分^わだけが悪^{わる}く思^{おも}われているという感じが
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

キ ☐

ク 自分^いは意^い志^しが弱^{よわ}いという感じが
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ク ☐

ケ 自分^うがものごと^こに打^{うち}込^こんでいるという感じが
 1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

ケ ☐

つぎ
 次のページに続く

コ 自分は頼りにされているという感じが
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

コ

サ 自分の努力がだんだん実ってきているという感じが
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

サ

シ 世の中の人々は互いに助け合っているという感じが
1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 まったくない

シ

Q14 あなたは、あなたと同じくらいのおとなの年の人について、どう思いますか。 Q14 番号をひとつ記入

ア 今、この場が楽しければそれでよいと思っている人は
1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

ア

イ 気に入らないことがあると、カッとしたり、落ち込んだりしやすい人は
1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

イ

ウ いやなことがあっても、すぐ忘れようとする人は
1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

ウ

エ ほかに人にもどう思われているか、気になる人は
1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

エ

オ 大切なことであっても、まじめに考えずにごまかしてしまう人は
1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

オ

カ 自分がよければ、少しくらい人に迷惑をかけてもかまわないと思っている人は
1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

カ

キ いつもだれかと一緒にいたいと思っている人は
1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

キ

ク 悪いことだと思っても、仲間と一緒にになるとやってしまう人は
1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

ク

ケ 超能力や占いなどを信じている人は
1 多い 2 やや多い 3 どちらともいえない 4 やや少ない 5 少ない

ケ

つぎ
次のページに続く

Q15 ひこう しょうねん 非行あるいは非行少年について、お聞きます。

Q15 ばんごう 番号をひとつ記入

ア あなたは、少年が非行に走るの、どこに主な原因があると思いますか。

つぎ 次の中からひとつだけ選んでください。

- 1 少年自身 2 家庭（親） 3 友達・仲間 4 その他

イ あなたは、非行少年の扱いについて、次のどちらの意見に賛成ですか。

- 1 厳しく罰する 2 あたたく指導する

Q16 もし、あなたが法律で禁じられているような「悪い」ことをしようと
おもった時、あなたを思いとどまらせる心のブレーキになるのは次のどれですか。

つぎ 次の中から、ひとつだけ選んでください。

- 1 父母のこと 2 兄弟を含めた家族全体のこと
3 友達から仲間はずれることになること 4 学校や職場に対する迷惑のこと
5 社会からしろい目で見られること 6 警察につかまること
7 自分で自分がいやになるから 8 その他
9 特に心のブレーキになるものはない

Q16 ばんごう 番号を
ひとつ記入

Q17 こんかい しょうぶん 今回の処分についてどう思っていますか。（少年鑑別所少年を除く。）

- 1 重い 2 やや重い 3 重くも軽くもない 4 やや軽い 5 かなり軽い

Q17 ばんごう 番号をひとつ記入

Q18 これからの生活で、あなたにとって大切なもの

三つを選んでください。（Q17に同じ。）

- 1 規則正しい生活を送る 2 お金のむだ使いをしない
3 健全な趣味や遊びをする 4 学校や仕事を休まずに続ける
5 資格や技術を身につける 6 知識を身につけ心を豊かにする
7 親の言うことをきく 8 家族の人と仲良くやっていく
9 悪い友達や先輩とは付き合わない 10 被害者のために何かお詫びをする
11 地元の人たちの役に立つことをする 12 保護観察官、保護司とよく相談する
13 もう少し要領よくふるまう 14 その他

Q18 ばんごう 番号を三つ記入

--	--	--

Q19 あなたは、今の自分の生き方に、どのくらい満足していますか。

- 1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満 5 不満

Q19 ばんごう 番号をひとつ記入

--

つぎ 次ページに続く

最後に、もう一度、あなた自身のことについてお聞きします。(少年院在院少年)

F 4 あなたは、今回おもにどんな事件でここに来たのですか：

- 1 窃盗 2 傷害・暴行 3 恐喝 4 強盗 5 強姦・強制わいせつ
6 毒劇物(シンナー) 7 覚せい剤 8 道路交通法 9 ぐ犯 10 その他

F 4 番号をひとつ記入

F 5 あなたは、今度の事件を起こした頃：

- 1 仕事をしていた 2 仕事をしたり、しなかったりだった
3 仕事をしていなかった

F 5 番号をひとつ記入

F 6 あなたは、今までに少年鑑別所に何回入りましたか。

- 1 1回 2 2回 3 3回 4 4回以上

F 6 番号をひとつ記入

F 7 あなたは、今までに少年院に何回入りましたか。

- 1 はじめて 2 2回 3 3回以上

F 7 番号をひとつ記入

F 8 あなたは、これと同じアンケートを前にやったことがありますか。

- 1 ない 2 ある

F 8 番号をひとつ記入

御協力ありがとうございました。

最後に、もう一度、あなた自身のことについてお聞きします。(少年鑑別所在少年)

F 4 あなたは、今回おもにどんな事件でここに来たのですか：

- 1 窃盗 2 傷害・暴行 3 恐喝 4 強盗 5 強姦・強制わいせつ
6 毒劇物(シンナー) 7 覚せい剤 8 道路交通法 9 ぐ犯 10 その他
11 わからない

F 4 番号をひとつ記入

次のページに続く

F 5 あなたは、^{こんど}今度の^{じけん}事件を^お起こした^{ころ}頃：

- 1 ^{しごと}仕事をしていた 2 仕事をしたり、しなかったりだった
3 仕事をしていなかった

F 5 ^{ばんごう}番号をひとつ^{きにゆう}記入

F 6 あなたは、^{いま}今までに^{しょうねんかんべつしょ}少年鑑別所に^{なんかいはい}何回入りましたか。

- 1 はじめて 2 ^{かい}2回 3 3回 4 4回以上

F 6 ^{ばんごう}番号をひとつ^{きにゆう}記入

F 7 あなたは、^{しょうねんいん}今までに少年院に何回入りましたか。

- 0 ない 1 1回 2 2回 3 3回以上

F 7 ^{ばんごう}番号をひとつ^{きにゆう}記入

F 8 あなたは、これと同じ^{おな}アンケートを^{まえ}前にやっただけありますか。

- 1 ない 2 ある

F 8 ^{ばんごう}番号をひとつ^{きにゆう}記入

^{ごきょうりよく}御協力ありがとうございました。

^{さいご}最後に、もう一度、あなた^{いちど}自身の^{じしん}ことについてお聞きします。(短期保護観察少年)

F 4 あなたは、^{こんかい}今回おもに^{じけん}どんな事件で^{ほごかんさつ}保護観察になったのですか：

- 1 ^{せつとう}窃盗 2 ^{しょうがい}傷害・^{ぼうこう}暴行 3 ^{きょうかつ}恐喝 4 ^{ごうとう}強盗 5 ^{ごうかん}強姦・^{きょうせい}強制わいせつ
6 ^{どくげきぶつ}毒劇物 (シンナー) 7 ^{かくざい}覚せい剤 8 ^{どうろこうつうほう}道路交通法 9 ^{はん}ぐ犯 10 その他
11 わからない

F 4 ^{ばんごう}番号をひとつ^{きにゆう}記入

F 5 あなたは、^{ほごかんさつ}保護観察になる^{じけん}事件を^お起こした^{ころ}頃：

- 1 ^{しごと}仕事をしていた 2 仕事をしたり、しなかったりだった
3 仕事をしていなかった

F 5 ^{ばんごう}番号をひとつ^{きにゆう}記入

^{つぎ}次のページに^{つづ}続く

F 6 あなたは、少年鑑別所^{しょうねんかんべつしょ}に入^{はい}ったことがありますか。

0 ない 1 ある

F 6 番号^{ばんごう}をひとつ記入^{きにゅう}

→ F 7 あなたは、少年鑑別所^{しょうねんかんべつしょ}の中^{なか}でこのアンケートをやったことがありますか。

1 ない 2 ある

F 7 番号^{ばんごう}をひとつ記入^{きにゅう}

ごきょうりょく
御協力ありがとうございました。

平成 11 年 3 月 印 刷

平成 11 年 3 月 発 行

東京都千代田区霞が関 1-1-1

編集兼 法 務 総 合 研 究 所
発行人

印刷所 ヨシダ印刷両国工場
